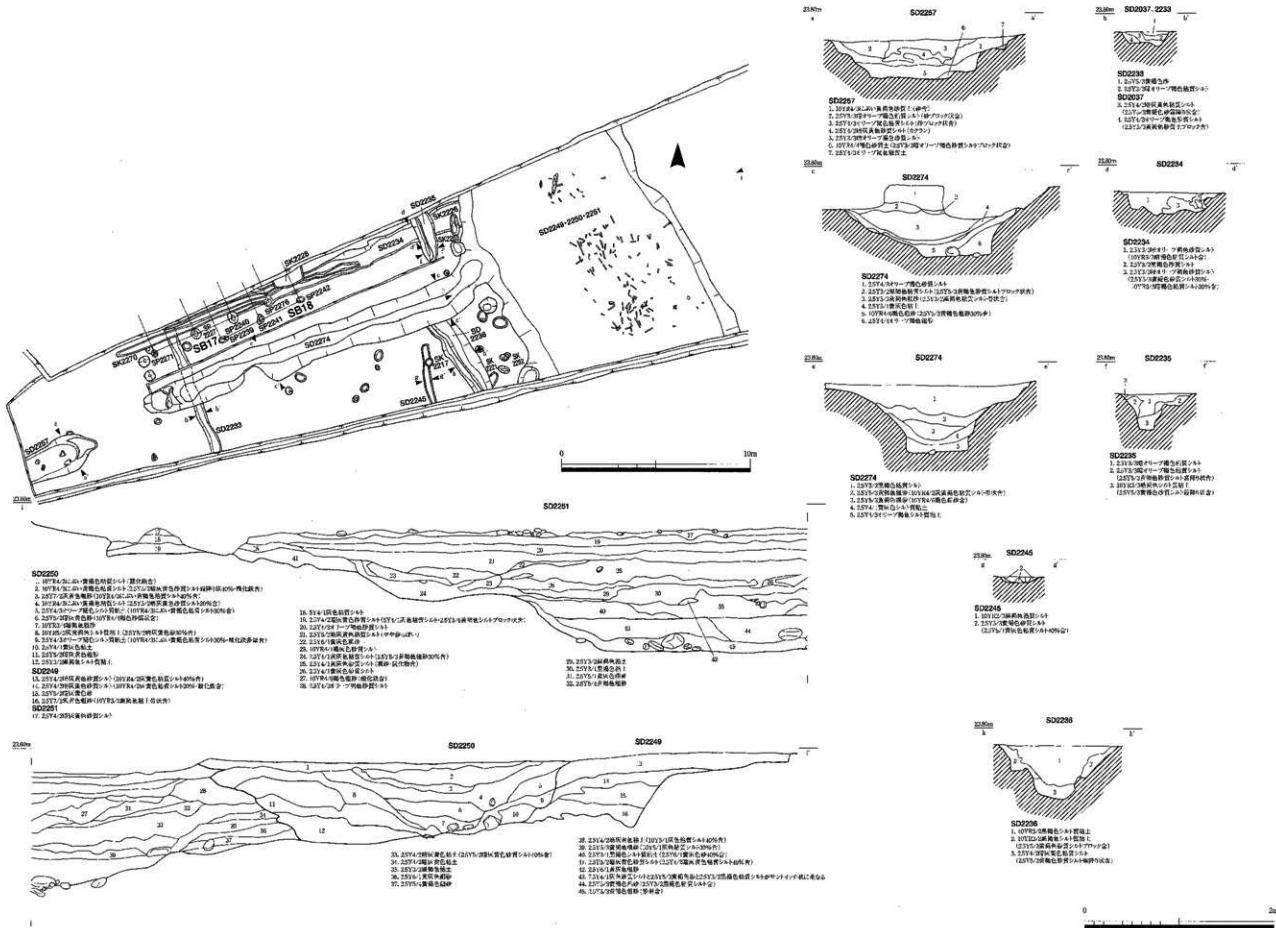


第96図 清掃室測図

SD1274 SD1268 SD1267 SD1160 SD1159 SD1158 SD1101 SK1119 SK1118 SD1001
SD1301 SD1327 SD1328 SD1329 SD1306 SD1330 SD1324



第97図 遺構実測図

SD2257 SD2233 SD2274 SD2234 SD2235 SD2245 SD2236 SD2251 SD2249 SD2250

混入する土である。

1324号溝（S D1324、第96図）

E 1 地区中央に位置する。北から東へ屈曲する溝で、北は S D1159に切られ、東は調査区外へ延びる。切り合いから S D1159・S P1100・1148（S B12）・S P1114（S B13）・S P1098（S B14）・S K1113・1147より古い。幅50cm、深さ28cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。

2257号溝（S D2257、第97図）

F 1 地区西に位置する。西側は調査区外へ延びている。幅200cm、深さ57cm。埋土はにぶい黄褐色土や暗オリーブ褐色、オリーブ褐色など7層に分けられる。

2233号溝（S D2233、第97図）

F 1 地区内に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いから S D2234・2274より古い。北側、南側とも調査区外へ延びている。中世後期には同じ場所に S D2037が流れている。幅60cm、深さ17cm。埋土は上層の暗灰黄色粘質シルトに黄褐色砂が混入する土と、下層のオリーブ褐色砂質シルトに黄褐色砂質土が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2274号溝（S D2274、第97図）

F 1 地区中央に位置する。東西方向の溝で、東側の S D2249・2250・2251に流れ込んでいる。中世後期には同じ場所に S D2237が流れているため上層の南側は削られている。幅216cm、深さ56cm。埋土はオリーブ褐色や黄褐色の土で、6層に分けられる。切り合いから S D2233・2236より新しい。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2234号溝（S D2234、第97図）

F 1 地区中央に位置する。東西方向に流れる溝で、切り合いから S D2235・S K2226・2228より古く、S P2240（S B17）、S D2233より新しい。幅170cm、深さ25cm。埋土は暗オリーブ褐色砂質シルトに暗褐色粘質シルトが混入する土や黒褐色砂質シルトなど3層に分かれれる。

2235号溝（S D2235、第97図）

F 1 地区中央に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いから S D2234より新しい。幅120cm、深さ27cm。埋土は基本的に上層の暗オリーブ褐色粘質シルトと下層の暗褐色シルト質粘土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

2245号溝（S D2245、第97図）

F 1 地区中央に位置する。南北に走る溝。南側は調査区外へ延びている。切り合いから S K2217よりも古い。幅41cm、深さ13cm。埋土は上層の黒褐色粘質シルトと下層の黄褐色砂質シルトに黄灰色粘質シルトが混入する土とに分けられる。

2236号溝（S D2236、第97図）

F 1 地区中央に位置する。南北方向に流れる溝で、北は S D2274に切られ、南は調査区外へ延びている。切り合いから S D2274より古く、S K2221より新しい。幅182cm、深さ61cm。埋土は基本的に上層の黒褐色シルト質粘土と下層の暗灰黄色粘質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2251号溝（S D2251、第97図、図版52・53）

F 1 地区東に位置する。南北方向の溝で、西から S D2251・2250・2249が一条となって検出された。切り合いから S D2250より古い。幅1010cm、深さ111cm。埋土は黄灰色土や黒褐色土で29層に分けられた。

れる。遺物は土師器、中世土師器・珠洲・白磁・越中瀬戸・白磁・伊万里、砥石・舟形木製品・棒状・箸などの木製品、クリ・モモ・トチノキなどの種子が出土している。舟形木製品や箸は身の穢れを乗せて運ぶもの、簀串の代用として祭祀に使われたのではないかという例があることから、SD 2251で祭祀が行われた可能性が考えられる。

2250号溝（SD 2250、第97図、図版52・53）

F1地区東に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからSD 2249・2251より新しい。幅380cm、深さ101cm。埋土はにぶい黄褐色土や暗灰黄色土で13層に分けられる。遺物は土師器、中世土師器・珠洲・八尾・越中瀬戸が出土している。

2249号溝（SD 2249、第97図、図版52・53）

F1地区東に位置する。南北方向に流れる溝で、切り合いからSD 2250より古い。幅233cm、深さ75cm。埋土は基本的に暗灰黄色砂で4層に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

土坑

418号土坑（SK 418、第98図）

SB02の南側に位置する。切り合いからSD 411より新しい。楕円形で長径82cm、短径43cm、深さは27cmである。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトににぶい黄色シルトと炭が混入する土である。

401号土坑（SK 401、第98図）

SD 411南側に位置する。楕円形を呈し、長径55cm、短径36cm、深さは15cmである。埋土は上層は黄灰色粘土質シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトが混入する土で、下層は黒褐色シルトににぶい黄色シルトと褐色粒が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

406号土坑（SK 406、第98図）

SD 411南側に位置する。円形を呈し直徑60cm、深さ22cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトと炭が混入する土で2層に分かれれる。

404号土坑（SK 404、第98図）

SD 411南側に位置する。楕円形を呈し、長径76cm、短径51cm、深さ18cmである。埋土は上層は黄灰色粘土質シルトに暗褐色粒が混入する土で、下層は上層よりやや明るい黄灰色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土である。

405号土坑（SK 405、第98図）

SD 411南側に位置する。楕円形を呈し長径53cm、短径42cm、深さ10cmである。埋土は単層で黄灰色砂質シルトに暗褐色粒と黄灰色ブロックと炭が混入する土である。

396号土坑（SK 396、第98図）

SD 411南側に位置する。円形を呈し、直徑60cm、深さ30cmである。埋土は黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土と黄灰色粘土質シルトに褐色粒が混入する土である。

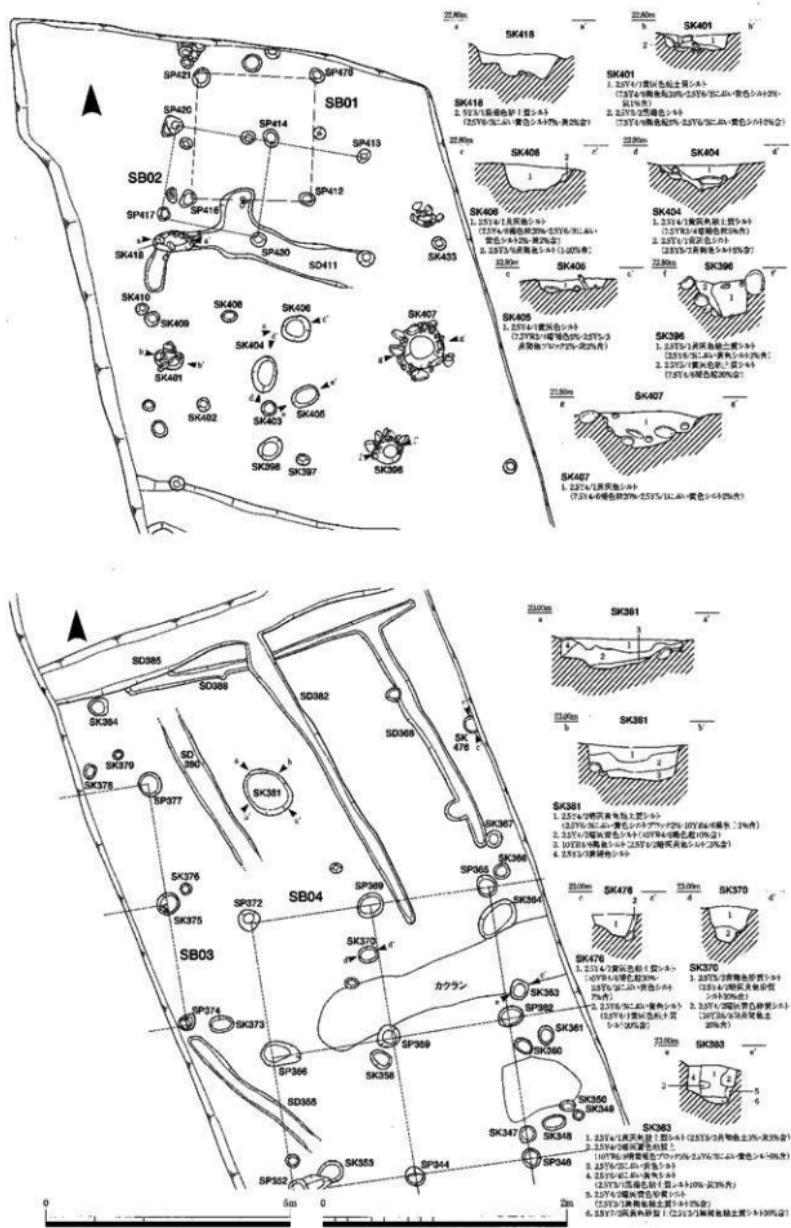
407号土坑（SK 407、第98図）

SD 411南側に位置する。円形を呈し、直徑91cm、深さ29cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに褐色粒とにぶい黄色シルトが混入する土である。

381号土坑（SK 381、第98図）

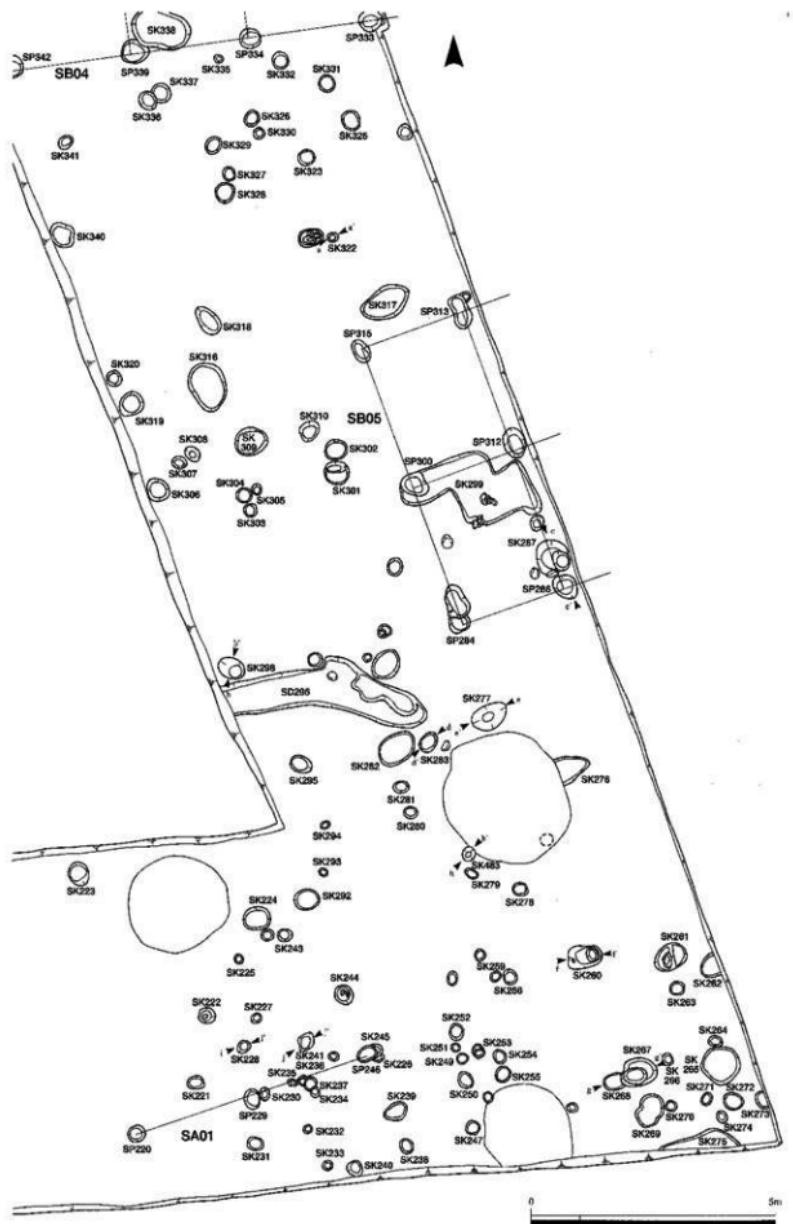
SD 380とSD 382の間に位置する。円形を呈し、直徑105cm、深さ29cmである。埋土は基本的に上層は暗灰黄色シルトで下層が褐色シルトである。

476号土坑（SK 476、第98図）



第98図 遺構実測図

SK418 SK401 SK406 SK404 SK405 SK396 SK407 SK381 SK426 SK320 SK363



第99図 遺構実測図

S D368の東に位置し、東半分が調査区壁にかかっている。直径37cm、深さ23cmである。埋土は黄灰色粘土質シルトに褐色粒と/or黃色シルトが混入する土と、/or黃色シルトに黄灰色粘土質シルトが混入する土の2層に分かれ。遺物は白磁が出上している。

370号土坑（S K370、第98図）

S B04内に位置する。円形を呈し、直径40cm、深さは36cmである。埋土は上層は黄褐色砂質シルトに暗灰黄色砂質シルトが混入した土で、下層は暗灰黄色砂質シルトに明黄褐色土が混入した土である。

363号土坑（S K363、第98図）

S B04内に位置する。円形を呈し、直径42cm、深さ51cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトに黄褐色土が混入した土で、暗灰黄色土や/or黃色シルトなど6層に分かれ。

322号土坑（S K322、第99・100図）

S B05北に位置する。円形を呈し、直径19cm、深さ15cmである。埋土は黄灰色シルトに灰黃色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出上している。

298号土坑（S K298、第99・100図）

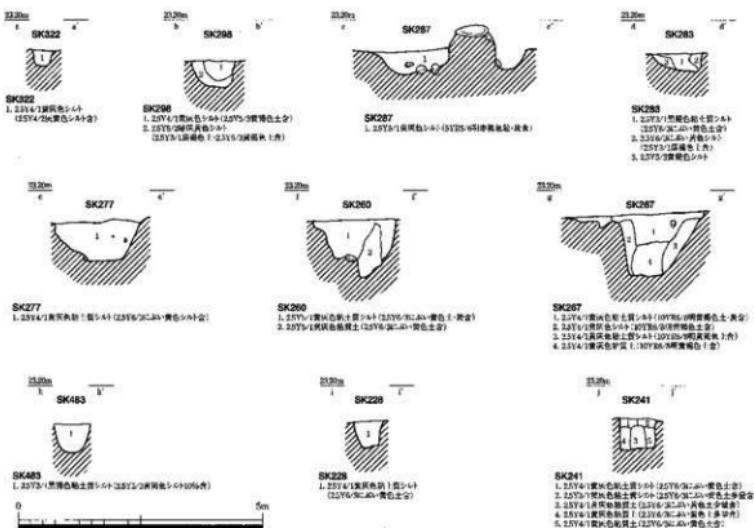
S D296の北に位置する。楕円形を呈し、長径55cm、短径35cm、深さ25cmである。埋土は上層が黄灰色シルトに黄褐色土が混入する土で下層が暗灰黄色シルトに黒褐色土と黄灰色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出上している。

287号土坑（S K287、第99・100図）

S B05内に位置する。円形を呈し、直径64cm、深さ26cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに明赤褐色粒と炭が混入する上である。遺物は中世土師器が出上している。

283号土坑（S K283、第99・100図）

S D296の南に位置する。楕円形を呈し、長径40cm、短径31cm、深さ13cmである。埋土は黒褐色粘



第100図 遺構実測図

SK322 SK298 SK287 SK283 SK277 SK260 SK268 SK267 SK483 SK228 SK241

土質シルトににぶい黄色土が混入した土とにぶい黄色シルト黒褐色土が混入した土と黄褐色シルトの3層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

277号土坑（S K277、第99・100図）

S D296東に位置する。楕円形を呈し、長径71cm、短径51cm、深さ59cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土である。

260号土坑（S K260、第99・100図）

S A01東に位置する。不整形を呈し、長径68cm、短径47cm、深さ49cmである。埋土は2層に分かれ、真ん中に黄灰色粘土質土ににぶい黄色土が混入した土、その周りに黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土と炭が混入した土があり、真ん中の部分には柱状のものがあったと推測できる。

267号土坑（S K267、第99・100図）

S A01東に位置する。楕円形を呈し、長径76cm、短径58cm、深さ49cmである。切り合からS K268より新しい。埋土は基本的に上層の黄灰色粘土質シルトに明黄褐色土と炭が混入する土と下層の黄灰色粘土質土に明黄褐色土が混入する土で、4層に分けられる。

483号土坑（S K483、第99・100図）

S D296南に位置する。東側は中世後期のS E23に切られる。円形を呈し、直径29cm、深さ23cmである。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

228号土坑（S K228、第99・100図）

S A01北に位置する。円形を呈し、直径28cm、深さ31cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

241号土坑（S K241、第99・100図）

S A01北に位置する。不整形を呈し、直径34cm、深さ34cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトににぶい黄色土が混入する土と、黄灰色粘土質土ににぶい黄色土が混入する土で、5層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

449号土坑（S K449、第101図）

S B06南に位置する。円形を呈し、直径30cm、深さ9cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトと炭が混入する土で2層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

441号土坑（S K441、第101図）

S B06東に位置する。不整形を呈し、長径133cm、短径55cm、深さ29cmである。埋土は基本的に上層の黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土と下層の黒褐色粘土質土ににぶい黄色シルトが混入する土で3層に分かれる。遺物は中世土師器が出土している。

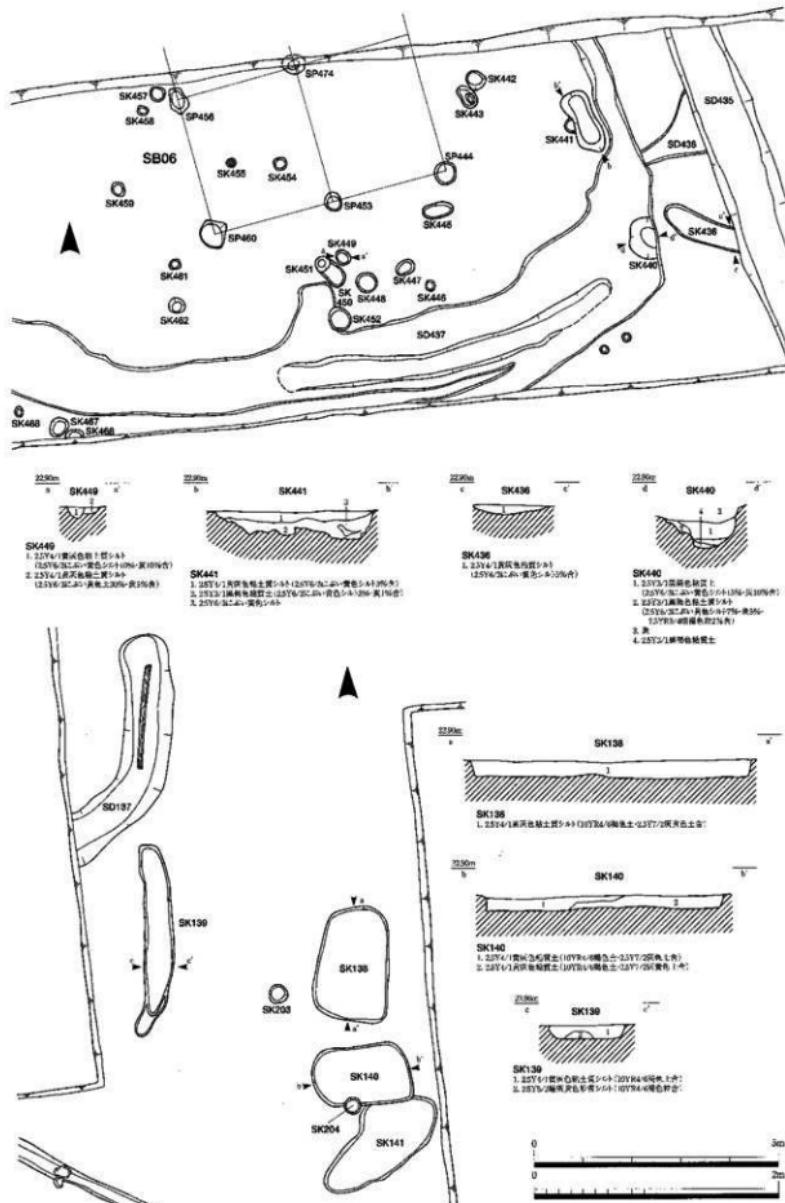
436号土坑（S K436、第101図）

S D437とS D435の間に位置する。切り合からS D435より古い。楕円形を呈し、長さはS D435に切られているためわからないが、幅は58cm、深さは8cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトににぶい黄色シルトが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

440号土坑（S K440、第101図）

S D437内に位置する。楕円形を呈し、長径は86cm、深さ27cmである。埋土は基本的に黒褐色粘土質土ににぶい黄色シルトと炭が混入する土で、4層に分かれる。遺物は鉄滓と種子が出土している。

138号土坑（S K138、第101図）



第101図 遺構実測図

SK449 SK441 SK436 SK440 SK138 SK140 SK139

S D137東に位置する。不整形を呈し、長径240cm、短径155cm、深さ17cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルトに褐色土と灰黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

140号土坑（S K140、第101図）

S K138南に位置する。切り合いからS K204より古く、S K141より新しい。楕円形を呈し、長径203cm、短径124cm、深さ13cmである。埋土は黄灰色粘土質土に褐色土と灰黄色土が混入する土で、2層に分けられる。

139号土坑（S K139、第101図）

S D137南に位置する。楕円形を呈し、長径392cm、短径62cm、深さ14cmである。埋土は上層の黄灰色粘土質シルトに褐色土が混入する土と下層の暗灰黄色砂質シルトに褐色粒が混入する土に分けられる。

194号土坑（S K194、第102図）

S B08西に位置する。西側は調査区壁にかかっている。直径104cm、深さ33cmである。埋土は上層の黒褐色砂質土に炭が混入する土と下層の黒褐色砂質土に暗灰黄色土と炭が混入する土との2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

183号土坑（S K183、第102図）

S B08西に位置する。切り合いからS K481より新しい。西側は調査区壁にかかっている。直径175cm、深さ109cmである。埋土は黒褐色シルトと暗灰黄色シルト、黄灰色シルトの3層に分かれれる。遺物は中世土師器と砥石が出土している。

481号土坑（S K481、第102図）

S B08西に位置する。切り合いからS K183より古い。西側は調査区壁にかかっている。調査区内で確認できる範囲で長さ625cm、深さ60cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトに褐色土と炭が混入する土と黒褐色粘土に褐色粒と炭が混入する土と黒褐色粘土質シルトに黄褐色シルトが混入する土の3層に分けられる。

184号土坑（S K184、第102図）

S B08内に位置する。円形を呈し、直径50cm、深さ39cmである。埋土は基本的に黄灰色粘土質シルトで5層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

202号土坑（S K202、第102図）

S B08西に位置する。円形を呈し、直径45cm、深さ27cmである。埋土は上層の黒褐色シルトに黄色土が混入した土と下層の黄灰色シルトに褐色土と黒褐色土が混入した土に分けられる。遺物は砥石が出土している。

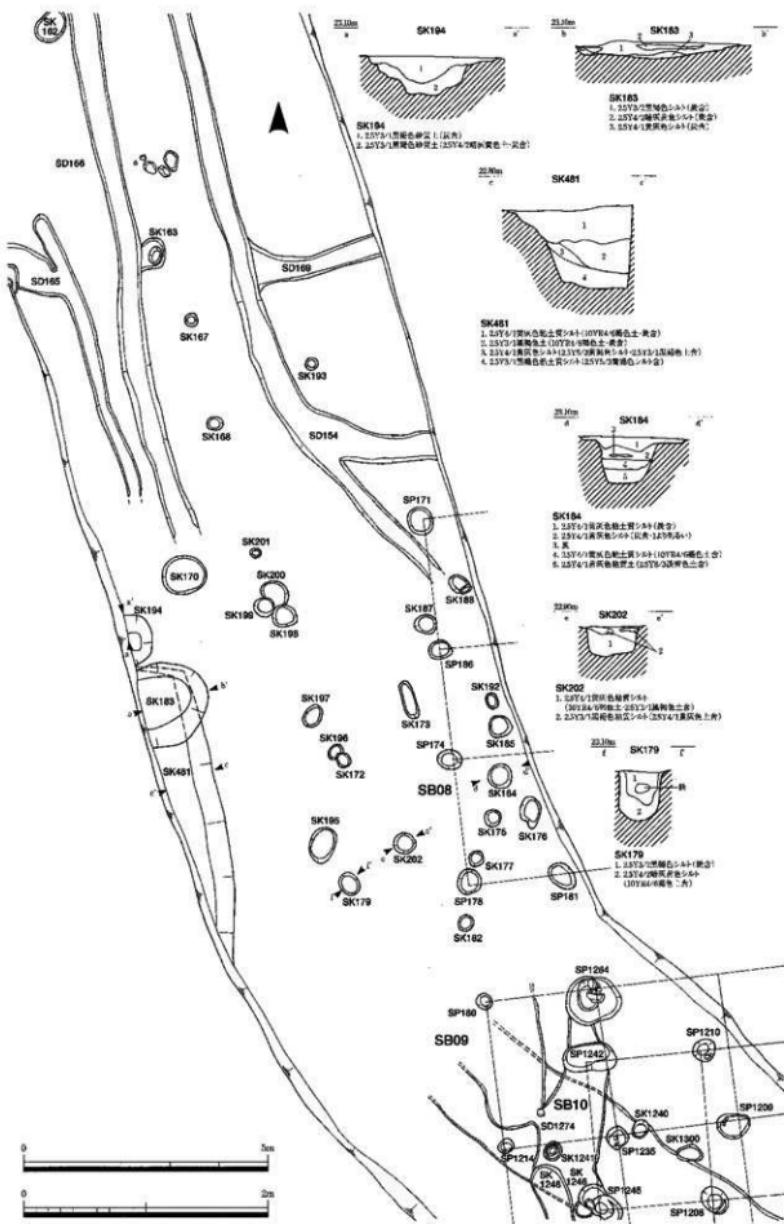
179号土坑（S K179、第102図）

S B08西に位置する。円形を呈し、直径47cm、深さ49cmである。埋土は上層の黒褐色シルトに炭が多量に混入する土と下層の暗灰黄色シルトに褐色土が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓が出土している。

1247号土坑（S K1247、第103図）

S D1301内に位置する。切り合いからS K1246より古く、S D1301より新しい。直径40cm、深さ8cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトにぶい黄色土が混入する土である。遺物は鉄滓が出土している。

1211号土坑（S K1211、第103図）



第102図 遺構実測図

SK194 SK183 SK481 SK184 SK202 SK179

S B09・10内に位置する。切り合いから S D1301より新しい。楕円形を呈し、長径86cm、短径70cm、深さ29cmである。埋土は上層の暗オリーブ褐色シルトに炭化物が混入した土と下層の暗灰黄色シルトに酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1254号土坑（SK1254、第103図）

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1255（S B09）、S D1301より新しい。不整形を呈し、短径85cm、深さ14cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と焼土が混入する土と下層の暗灰黄色粘質シルトに焼土が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と炉壁が出土している。

1220号土坑（SK1220、第103図）

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1219（S B10）より古く、S K1302より新しい。円形を呈し、直径59cm、深さ7cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。

1221号土坑（SK1221、第103図）

S B09・10内に位置する。円形を呈し、直径33cm、深さ22cm。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1305号土坑（SK1305、第103図）

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1233（S B10）より古い。埋土は基本的に黄灰色シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1201号土坑（SK1201、第103図）

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1213（S B10）より新しい。西側は調査区壁にかかっている。確認できる範囲で長径は131cm、深さ14cmである。埋土は単層で黒褐色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は白磁が出土している。

1236号土坑（SK1236、第103図）

S D267北に位置する。切り合いから S P1237（S B10）より新しい。楕円形を呈し、長径65cm、短径60cm、深さ12cmである。埋土は暗灰黄色シルトに酸化鉄が混入した土と黒褐色粘質シルトに分けられる。遺物は中世土師器と鉄滓と羽口が出土している。

1259号土坑（SK1259、第103図）

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1258（S B10）より古い。深さは17cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1263号土坑（SK1263、第103図）

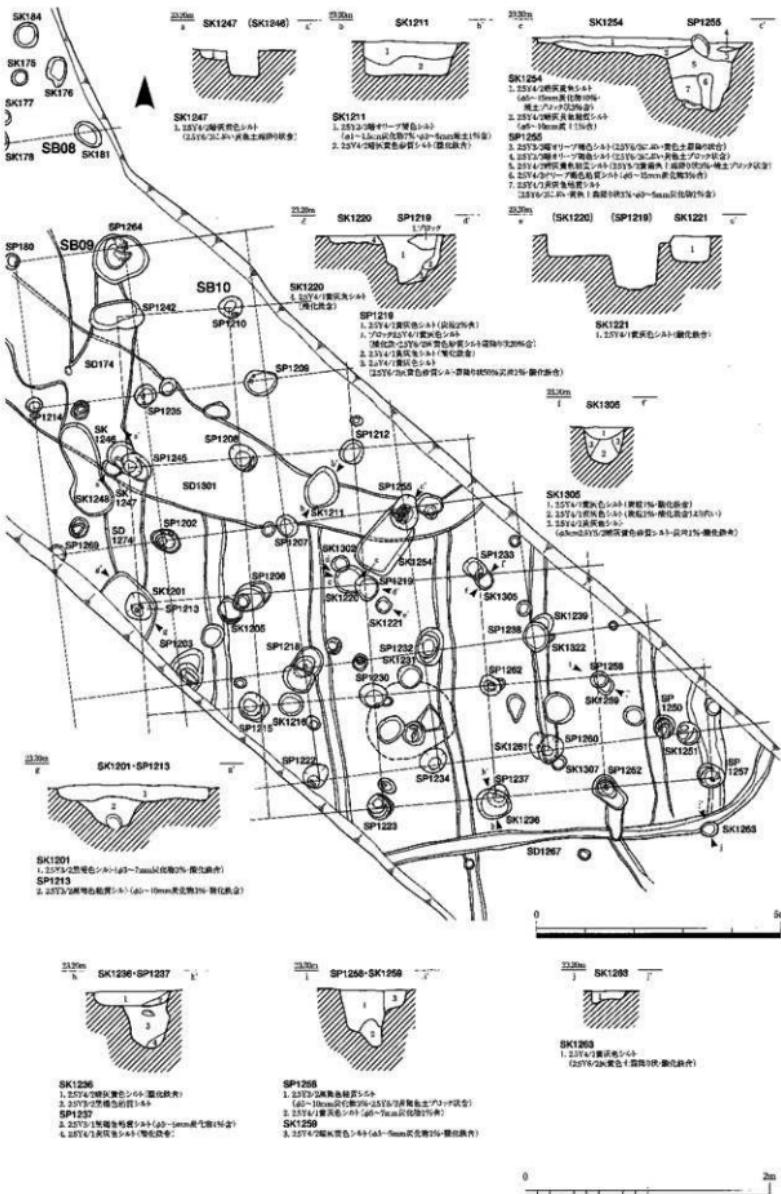
S B09・10南に位置する。切り合いから S D1267より新しい。円形を呈し、直径36cm、深さ10cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに灰黄色土と酸化鉄が混入する土である。遺物は珠洲が出土している。

1080号土坑（SK1080、第104図）

S D1158南に位置する。切り合いから S K1079より新しい。楕円形を呈し、長径34cm、短径27cm、深さ25cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1074号土坑（SK1074、第104図）

S D1158南に位置する。切り合いから S D1158より新しい。楕円形を呈し、長径53cm、短径31cm、深さ16cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに炭と酸化鉄が混入する土である。遺物は土鍤が出土している。



第103図 造構実測図

SK1247 SK1211 SK1254 SP1255 SK1220 SP1219 SK1221 SK1201 SP1213
SK1236 SP1237 SP1258 SK1259 SK1263

1073号土坑（S K 1073、第104図）

S D 1158南に位置する。切り合ひから S D 1158より新しい。楕円形を呈し、長径45cm、短径35cm、深さ15cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1070号土坑（S K 1070、第104図）

S D 1158南に位置する。切り合ひから S D 1158より新しく、S K 1069より古い。楕円形を呈し、長径58cm、短径36cm、深さ24cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトで2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1054号土坑（S K 1054、第104図）

S B 15内に位置する。楕円形を呈し、長径47cm、短径31cm、深さ23cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1053号土坑（S K 1053、第104図）

S B 15内に位置する。楕円形を呈し、長径39cm、短径28cm、深さ9cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1061号土坑（S K 1061、第104図）

S D 1101南に位置する。切り合ひから S K 1121より新しい。楕円形を呈し、長径49cm、短径42cm、深さ14cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲と鉄滓が出土している。

1059号土坑（S K 1059、第104図）

S D 1101南に位置する。楕円形を呈し、長径40cm、短径32cm、深さ28cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1043号土坑（S K 1043、第104図）

S B 15とS B 16の間に位置する。楕円形を呈し、長径50cm、短径45cm、深さ19cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1028号土坑（S K 1028、第104図）

S B 16内に位置する。円形を呈し、直径31cm、深さ27cmである。埋土は基本的に黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土で上下2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

1128号土坑（S K 1128、第104図）

S B 16内に位置する。楕円形を呈し、長径46cm、短径41cm、深さ25cmである。埋土は単層でオーリープ褐色シルトに酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1039号土坑（S K 1039、第104図）

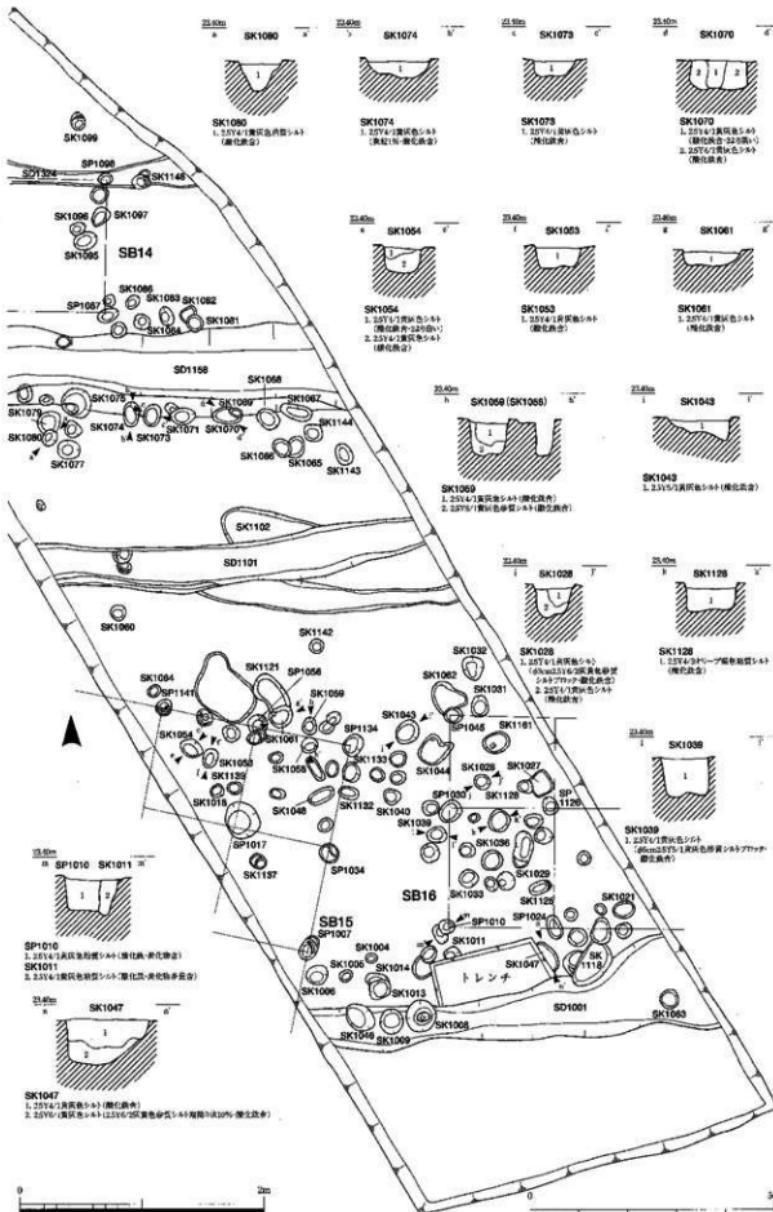
S B 16西に位置する。円形を呈し、直径40cm、深さ33cmである。埋土は単層で黄灰色シルトに黄灰色砂質シルトと酸化鉄が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1011号土坑（S K 1011、第104図）

S D 1011北に位置する。切り合ひから S P 1010（S B 16）より古い。楕円形を呈し、長径40cm、短径22cm、深さ30cmである。埋土は単層で黄灰色粘質シルトに酸化鉄と炭化物が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

1047号土坑（S K 1047、第104図）

S D 1011北に位置する。西側をトレンチに削られている。確認できる範囲での長径は67cm、深さ37



第104図 造構実測図

SK1080 SK1074 SK1073 SK1070 SK1054 SK1053 SK1061 SK1059 SK1043 SK1028
SK1128 SK1039 SP1010 SK1011 SK1047

cmである。埋土は上層の黄灰色シルトに酸化鉄が混入する土と下層の黄灰色シルトに灰黄色砂質シルトと酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と珠球が出土している。

2253号土坑（S K2253、第105図）

S D2249西に位置する。切り合からS D2249より新しい。円形を呈し、直径68cm、深さ29cmである。埋土は上層の黒褐色粘土質シルトと下層の黄褐色粘土質シルトに黄灰色砂が混入する土に分けられる。

2256号土坑（S K2256、第105図）

S D2249西に位置する。切り合からS K2255より新しい。不整形を呈し、長径61cm、短径47cm、深さ13cmである。埋土は基本的に暗オリーブ褐色粘土質シルトで2層に分けられる。

2252号土坑（S K2252、第105図）

S D2236東に位置する。切り合からS D2249より古い。南側は調査区壁にかかっている。確認で



第105図 遺構実測図

SK2253 SK2256 SK2252

きる範囲での長径は105cm、深さ29cmである。埋土は単層で暗オリーブ褐色粘質シルトである。

鍛冶関連遺構

1002-①号鍛冶関連遺構 (S X1002-①、第106図、図版51)

S D1160内に位置する。切り合いから S D1160より新しい。楕円形を呈し、長径48cm、短径40cm、深さ12cmである。埋土は上層は黄灰色シルトに黒褐色シルトと焼土と酸化鉄が混入する土で、下層は黄灰色シルトに炭と焼土が混入する土である。遺物は中世土師器、叩き石、鉄滓・砂鉄が出土している。

1002-②号鍛冶関連遺構 (S X1002-②、第106図、図版51)

S D1160内に位置する。切り合いから S D1160より新しい。円形を呈し、直径30cm、深さ10cmである。埋土は上層の黒色シルトに炭が混入する土と中層の黒色砂質シルトに焼土が混入する土と下層の黒色砂質シルトに焼土と酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓と砂鉄が出土している。S X1002-①と S X1002-②はセットで鉄滓や砂鉄、炭化物、焼土などがみられ、製鉄関連の遺構と考えられる。

1273-①号鍛冶関連遺構 (S X1273-①、第106図、図版52)

S B09・10内に位置する。不整形を呈し、長径53cm、深さ5cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄滓、鍛造剥片、砂鉄が出土している。

1273-②号鍛冶関連遺構 (S X1273-②、第106図、図版52)

S B09・10内に位置する。楕円形を呈し、長径60cm、短径46cm、深さ8cmである。埋土は単層で暗灰黄色シルトに炭化物と鉄滓と焼土が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄滓、鍛造剥片、砂鉄が出土している。

1273-③号鍛冶関連遺構 (S X1273-③、第106図、図版52)

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1230 (S B10) より古い。直径18cm、深さ5cmである。埋土は黒色シルトに炭化物と鉄滓が混入する土と暗灰黄色砂質シルトに炭化物が混入する土とに分けられる。

1272-①号鍛冶関連遺構 (S X1272-①、第106図、図版51)

S B09・10内に位置する。円形を呈し、直径62cm、深さ17cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土と中層の黒色粘質シルトに炭化物と焼土と暗灰黄色土が混入する土と下層の黄灰色シルトに炭化物が混入する土とに分けられる。

1272-②号鍛冶関連遺構 (S X1272-②、第106図、図版51)

S B09・10内に位置する。不整形を呈し、長径57cm、短径39cm、深さ9cmである。埋土は上層の暗灰黄色シルトに炭化物と鉄滓が混入する土と下層の黄灰色粘質シルトに炭化物と酸化鉄が混入する土とに分けられる。遺物は鉄滓が出土している。

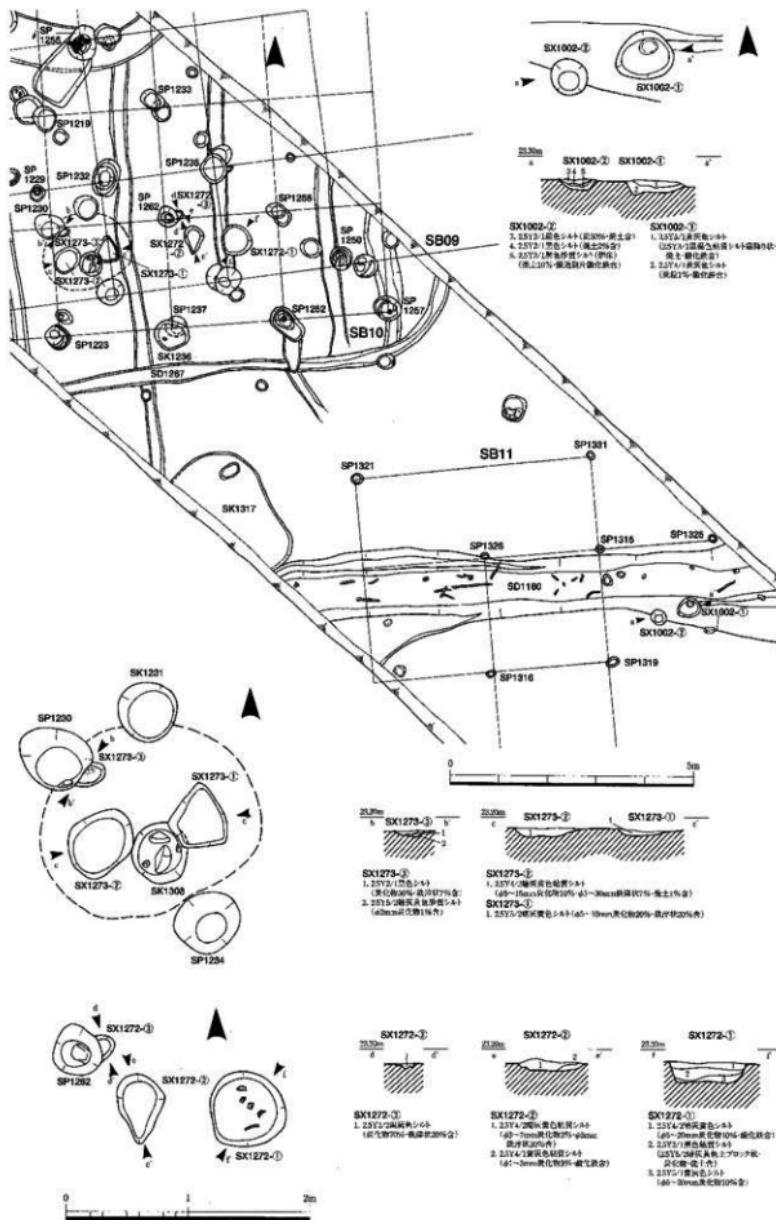
1272-③号鍛冶関連遺構 (S X1272-③、第106図、図版51)

S B09・10内に位置する。切り合いから S P1262 (S B10) より古い。直径19cm、深さ4cmである。埋土は単層で黒褐色シルトに炭化物が混入する土である。遺物は鉄滓と砂鉄が出土している。

C 中世後期

中世後期の遺構はE 2・F 1地区で掘立柱建物6棟、溝、井戸4基、土坑、石列が検出され、E 1地区では遺構は確認できなかった。

掘立柱建物



第106図 遺構実測図

SX1002-① SX1002-② SX1273-① SX1273-② SX1273-③ SX1272-① SX1272-② SX1272-③

19号掘立柱建物（S B19、第107図）

E 2 地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北3間、7.8mで柱間は北から2.6m、2.6m、2.6mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはN-28°-W。遺物は中世土師器（S P70）が出土している。

20号掘立柱建物（S B20、第107図）

E 2 地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間、4.6mで柱間は北から2.3m、2.3mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはN-24°-W。

21号掘立柱建物（S B21、第108図）

E 2 地区北に位置する。調査区内で確認できる範囲で南北2間、7.2mで柱間は北から3.6m、3.6mである。東へ調査区外へ延びると思われる。建物の向きはN-23°-W。遺物は中世土師器（S P57・71）が出土している。

22号掘立柱建物（S B22、第108図）

E 2 地区中央に位置する。南北2間、東西1間、南北3.2mで柱間は北から1.6m、1.6m、東西は3mである。S K100・101などをはさんで西側に延びる可能性がある。建物の向きはN-8°-W。遺物は中世土師器（S P14・17・20・22・104）、鉄製品（S P14）が出土している。

23号掘立柱建物（S B23、第109図）

F 1 地区西に位置する。南北2間、東西2間、南北4.9mで柱間は北から2.6m、2.3m、東西4.3mで柱間は西から2.1m、2.2mである。真ん中のS P2012に対応する柱穴は北側・南側ではみられない。面積は21.1m²である。南の2基の柱穴は平成6年度に幡中町教育委員会によって調査された範囲である。建物の向きはN-18°-W。遺物は珠洲（S P2144）が出土している。建物の内にS K2153が検出されているが、S K2153と重なるS P2012の底部がS K2135の底部より高い位置にあるため、S K2153はS B23より古い遺構であり、建物に伴うものではない。

24号掘立柱建物（S B24、第110図、図版57）

F 1 地区中央に位置する。東西3間、南北2間、東西は6.9mで柱間は西から2.4m、2.4m、2.1m、南北は4.8mで柱間は北から2.4m、2.4mである。建物の東端は間に柱穴がみられず、1間である。面積は33.1m²である。建物の向きはN-20°-W。遺物は中世土師器（S P2205）、珠洲（S P2264）が出土している。S B24に重なるS D2229・2230・2231・2232は検出面がS B24より高く、S B24より新しい遺構である。

溝

123号溝（S D123、第111図）

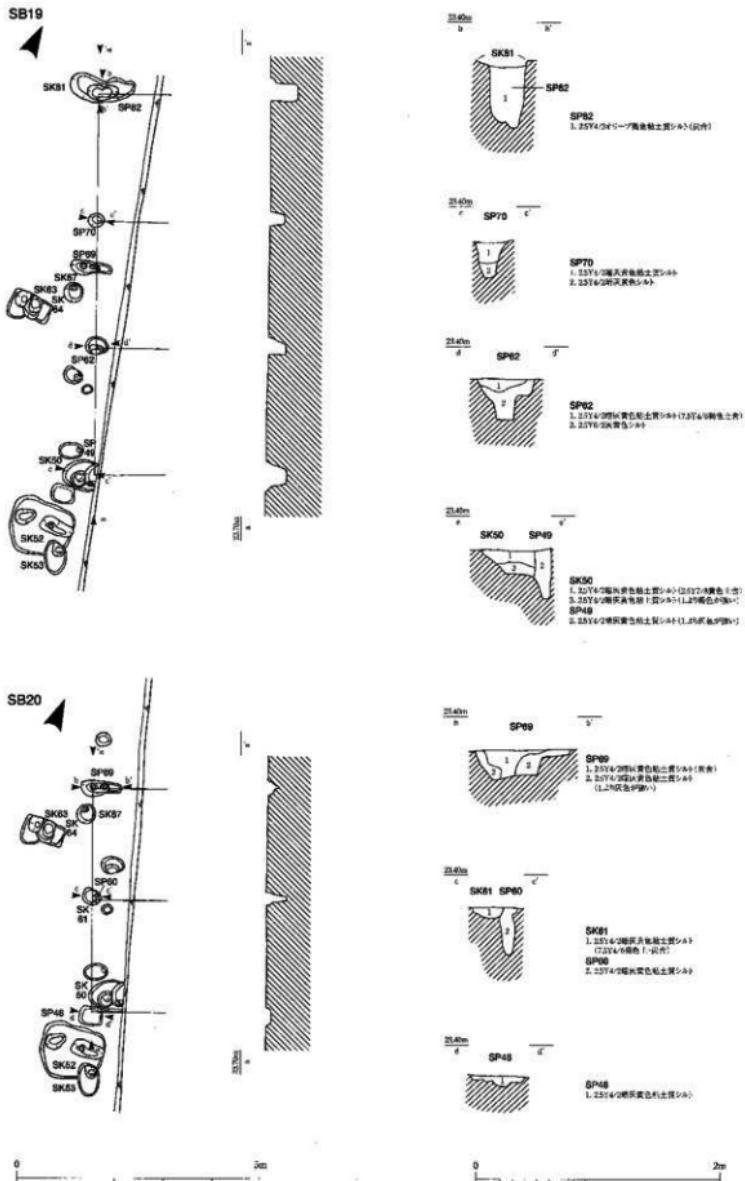
E 2 地区北に位置する。南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅35cm、深さ8cm。埋土は単層で暗灰黄色粘質土に褐色土と黒褐色土が混入する土である。

121号溝（S D121、第111図）

E 2 地区北に位置する。S D123とは並行に南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅102cm、深さ13cm。埋土は単層で黒褐色粘質土に暗灰色土が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

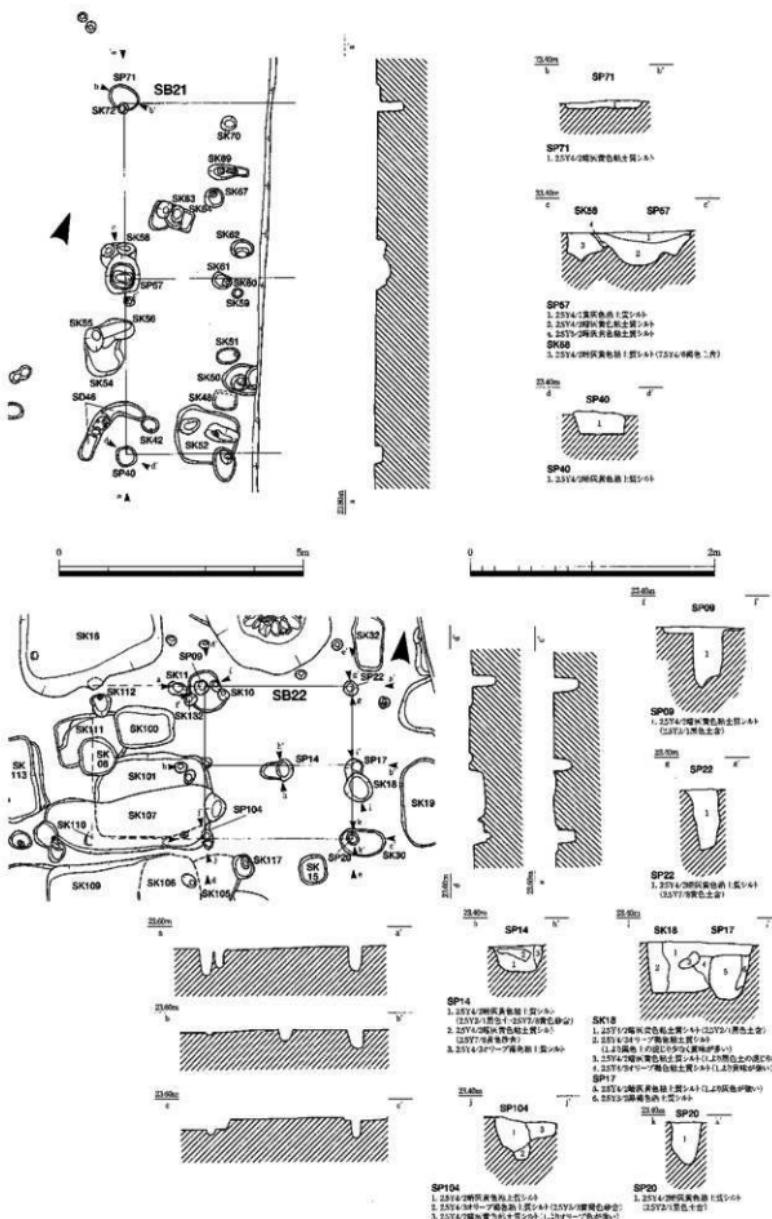
120号溝（S D120、第111図）

E 2 地区北に位置する。東西方向に走る溝で、切り合ひからS D99より古い。幅32cm、深さ19cm。埋土は単層で黒褐色粘質土に暗灰黄色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。



第107図 遺構実測図

SB19 SB20



第108図 遺構実測図

SB21 SB22

99号溝 (S D99、第111図)

E 2 地区北に位置する。北から南へ延び、東側へ屈曲する溝で、北側と東側は調査区外へ延びる。幅66cm、深さ10cm。埋土は暗灰黄色シルト、灰黄色シルト、褐灰色シルトなど4層に分けられる。遺物は中世土器と珠洲が出土している。

125号溝 (S D125、第111図)

E 2 地区北に位置する。東西方向に走る溝で、南側はS D98に切られる。切り合いからS D98より古い。幅31cm、深さ5cm。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトに黄灰色砂と炭が混入する土と下層の褐灰色粘土質土に暗灰黄色粘土質土と炭が混入する土とに分けられる。

126号溝 (S D126、第111図)

E 2 地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側は調査区外へ延びている。幅は27cm、深さ3cm。埋土は単層で黒褐色粘土質シルトに暗灰黄色シルトと炭が混入する土である。

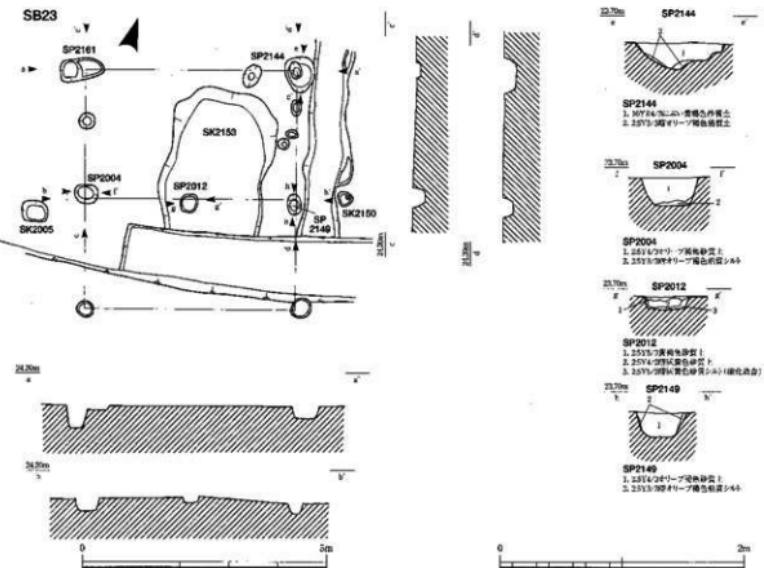
98号溝 (S D98、第111図)

E 2 地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。切り合いからS D125より新しい。幅52cm、深さ9cm。埋土は上層の黒褐色粘土質シルトと下層のオリーブ褐色粘土質シルトに灰白色砂が混入する土とに分けられる。

124号溝 (S D124、第111図)

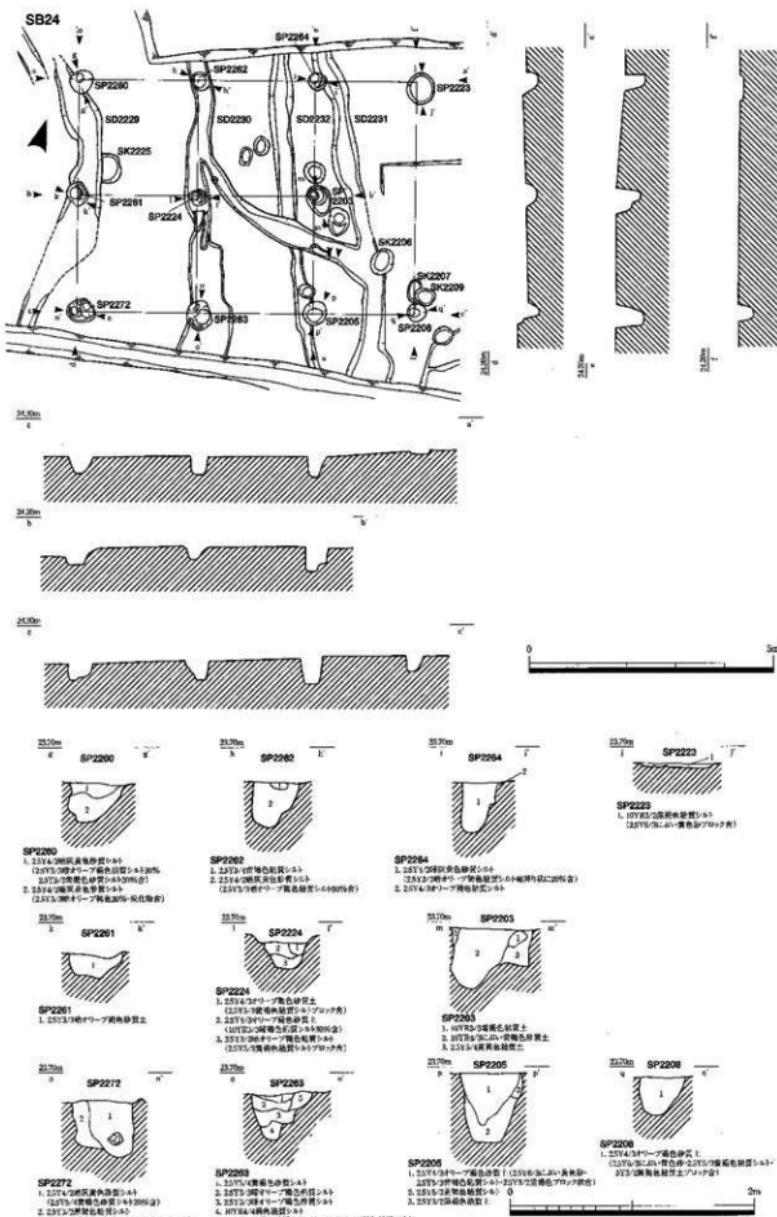
E 2 地区北に位置する。東西方向に走る溝で、幅30cm、深さ3cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトに橙色土と炭が混入する土である。

96号溝 (S D96、第111図)



第109図 遺構実測図

SB23



第110図 遺構実測図

SB24

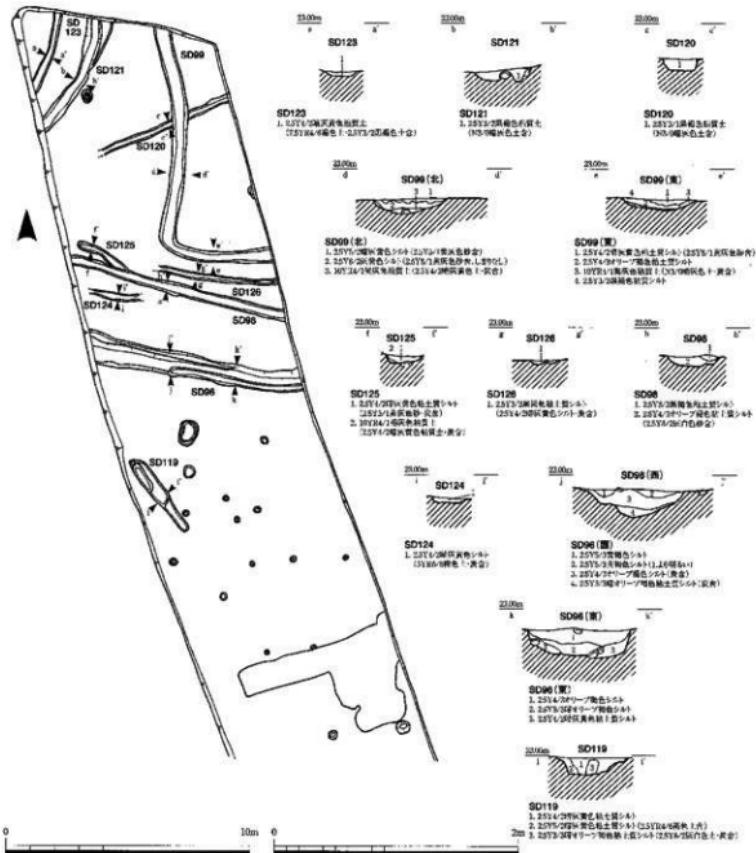
E2地区北に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びる。幅90cm、深さ27cm。埋土は黄褐色シルト、オリーブ褐色シルト、暗オリーブ褐色粘土質シルトで4層に分けられる。遺物は須恵器、中世土師器が出土している。

119号溝（S D119、第111図）

E2地区北に位置する。南北方向に走る溝。幅60cm、深さ13cmである。埋土は基本的に暗灰黄色粘土質シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

03号溝（S D03、第112図）

E2地区中央に位置する。南北方向に走る溝で、北側、南側とも調査区外へ延びる。幅340cm、深さ81cm。埋土は暗灰黄色シルトや黄灰色シルトで9層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸美濃・白磁・青磁・唐津、石製品が出土している。遺物からみて中世から近世まで流れていた溝と思われる。溝を埋めるために直径20~30cm程度の石が多数投げ込まれていた。



第111図 造構実測図

SD123 SD121 SD120 SD99 SD125 SD126 SD98 SD124 SD96 SD119

136号溝 (S D136、第112図、図版55)

E 2 地区中央に位置する。東西方向に走る溝で、西側は調査区外へ延びる。切り合いから S D135 より古い。幅81cm、深さ14cm。埋土は黄灰色粘質土や黒褐色粘土で何層かに分けられる。遺物は上師器、中世土師器・珠洲が出土している。中世前期から中世後期にわたって流れていた溝と思われる。

135号溝 (S D135、第112図)

E 2 地区中央に位置する。南北方向に走る溝で、北側は調査区外へ延びる。南側は石列 (S X65) とぶつかる。幅53cm、深さ5cm。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。

134号溝 (S D134、第112図)

E 2 地区中央に位置する。東西方向に走る溝で、東側、西側とも調査区外へ延びている。幅50cm、深さ11cm。埋土は単層で暗灰黄色シルトである。遺物は須恵器と中世土師器が出土している。北側の石列 (S X65) は S D134に沿っていることから S D134に伴う遺構と考えられる。

2140号溝 (S D2140、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。切り合いから S K2152より古く、S K2143より新しい。幅86cm、深さ20cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色シルトである。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2154号溝 (S D2154、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ188cm、幅21cm、深さ2cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘質シルトに分けられる。

2155号溝 (S D2155、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ253cm、幅31cm、深さ7cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

2156号溝 (S D2156、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ184cm、幅22cm、深さ4cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトである。

2139号溝 (S D2139、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。南側は S K2135に切られている。切り合いから S K2135より古い。幅100cm、深さ17cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトと明黄褐色砂とオリーブ褐色粘質シルトの3層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

2157号溝 (S D2157、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。平行に走る S D2158・2159・2160とともに畑の可能性がある。長さ157cm、幅25cm、深さ4cmである。埋土は上層のにぶい黄褐色砂質土と下層の暗灰黄色粘質土に酸化鉄が混入する土とに分けられる。

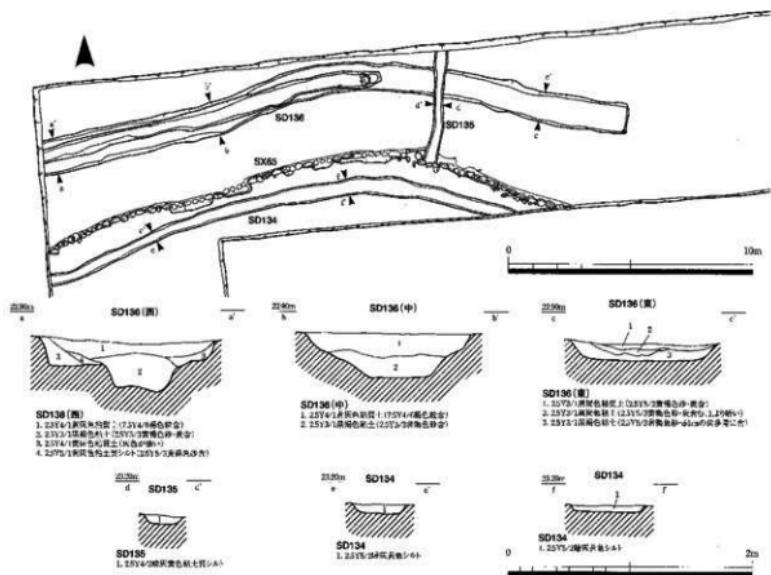
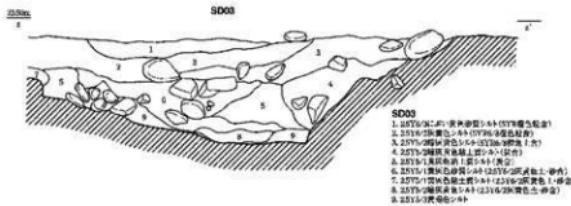
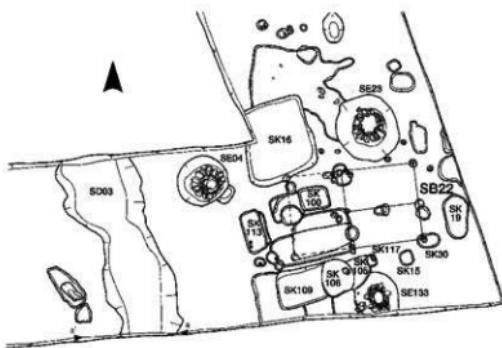
2158号溝 (S D2158、第113図)

F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ114cm、幅25cm、深さ5cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

2159号溝 (S D2159、第113図)

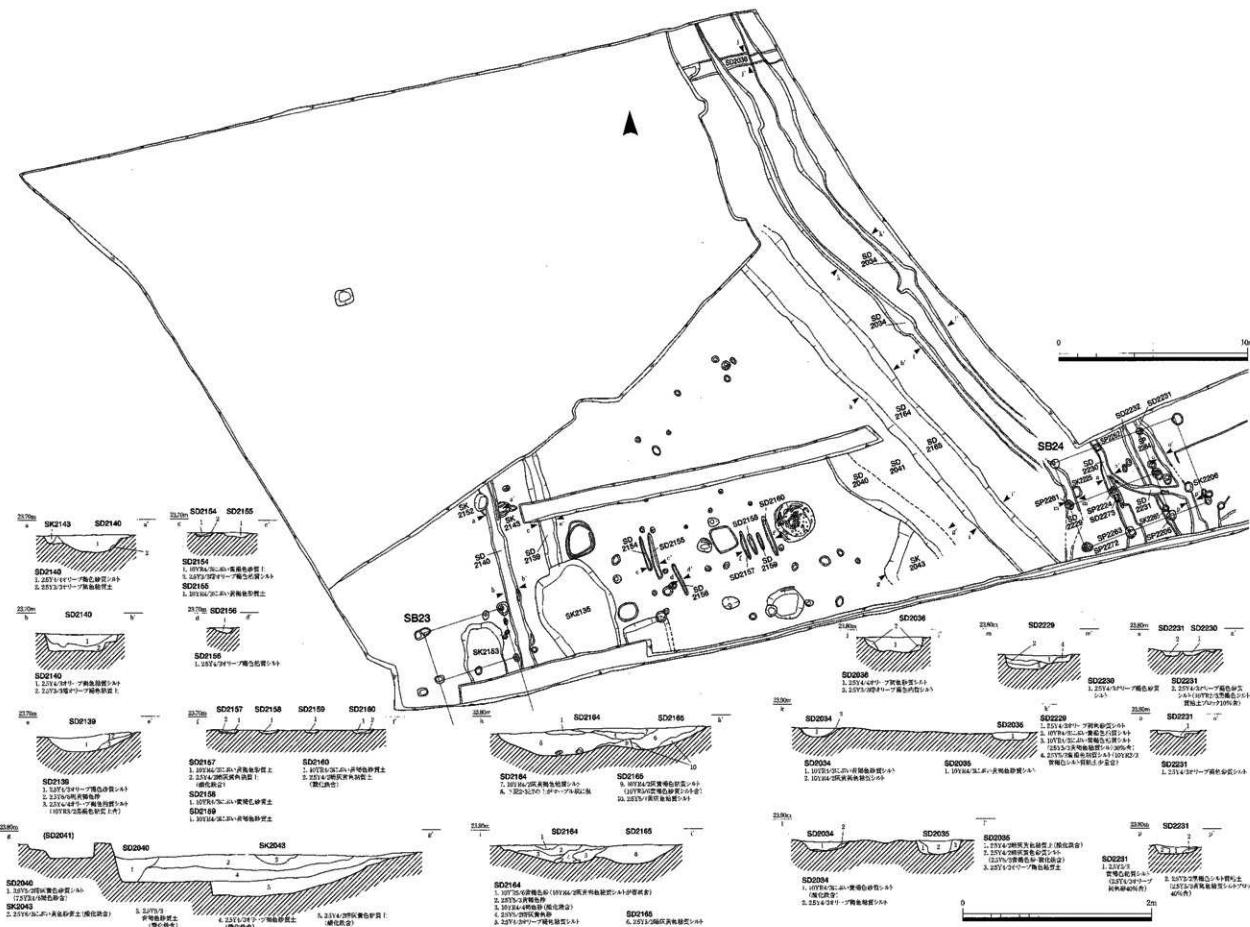
F 1 地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ97cm、幅17cm、深さ4cmである。埋土は単層でにぶい黄褐色砂質土である。

2160号溝 (S D2160、第113図)



第112図 遺構実測図

SD03 SD136 SD135 SD134 SX65



第113図 遺構実測図

SD2140 SD2141 SD2155 SD2156 SD2157 SD2158 SD2159 SD2160 SD2040
SK2043 SD2164 SD2165 SD2036 SD2229 SD2231 SD2230 SD2034 SD2035 SD2232

F1地区西に位置する。南北方向に走る溝。長さ220cm、幅25cm、深さ3cmである。埋土は上層にぶい黄褐色砂質土と下層の暗灰黄色粘質土に酸化鉄が混入する土とに分けられる。

2040号溝（S D2040、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成6年度の婦中町教育委員会による調査のSD104につながる。東側はSD2041に切られる。切り合いからSD2041より古く、SK2043よりも新しい。深さは21cm。埋土は単層で、暗灰黄色砂質シルトに褐色砂が混入する土である。

2164号溝（S D2164、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成6年度の婦中町教育委員会によって行われた調査でのSD106につながる。SD2165と重なり、切り合いからSD2165よりも新しい。深さ21cm。埋土は黄褐色や褐色の砂やシルトなどで7層に分けられる。

遺物は須恵器、中世土師器・珠洲・青磁、越中瀬戸が出土している。

2165号溝（S D2165、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向に走る溝。南は平成6年度の婦中町教育委員会による調査のSD106につながる。SD2164と重なり、切り合いからSD2164よりも古い。深さ25cm。埋土は基本的に暗灰黄色粘質シルトで3層に分けられる。遺物は須恵器、中世土師器・珠洲が出土している。

2036号溝（S D2036、第113図）

F1地区北に位置する。東西方向に走る溝。切り合いからSD2034・2035よりも古い。幅70cm、深さ17cmである。埋土は上層のオリーブ褐色砂質シルトと下層の暗オリーブ褐色粘質シルトに分けられる。遺物は珠洲が出土している。

2034号溝（S D2034、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向に走る溝で北は調査区外へ延びる。切り合いからSD2036よりも新しい。幅104cm、深さ18cm。埋土は基本的にぶい黄褐色砂質シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、唐津・伊万里、硯が出土している。

2035号溝（S D2035、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向に走る溝で北は調査区外へ延びる。切り合いからSD2036よりも新しい。幅145cm、深さ30cm。埋土はぶい黄褐色砂質シルトや暗灰黄色砂質シルトで4層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、磁器が出土している。

2229号溝（S D2229、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向の溝で切り合いからSP2260・2261（SB24）、SK2225よりも新しい。幅77cm、深さ15cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトやぶい黄褐色粘質シルトで4層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2231号溝（S D2231、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向の溝で、北側は2条に分かれ。切り合いからSK2206よりも古く、SP2264（SB24）、SD2232よりも新しい。幅90cm、深さ9cm。埋土はオリーブ褐色砂質シルトや黄褐色粘質シルトで3層に分けられる。

2230号溝（S D2230、第113図）

F1地区中央に位置する。南北方向の溝。SP2224・2262・2263（SB24）、SD2273よりも新しい。埋土は単層でオリーブ褐色砂質シルトに黒褐色シルト質粘土ブロックが混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

2237号溝（S D2237、第114図）

F 1 地区中央に位置する。東西方向の溝。東側は S D2249・2250・2251に合流し、西側は南に屈曲し、平成 6 年度の福中町教育委員会によって行われた調査での S D108につながる。同じ場所に流れる中世前期の S D2274を切っている。幅106cm、深さ50cm。埋土は暗灰黄色やオリーブ褐色のシルトで何層かに分けられる。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

2247号溝（S D2247、第114図）

F 1 地区東に位置する。南北方向の溝。北側は調査区外へ延びる。幅96cm、深さ17cm。埋土は上層の黄灰色粘質シルトと下層のオリーブ褐色砂質シルトに分けられる。

2246号溝（S D2246、第114図）

F 1 地区東に位置する。南北方向の溝。北側、南側とも調査区外へ延び、東側も調査区壁にかかっているため幅は不明。深さ16cm。埋土は上層の暗灰黄色砂質シルトに黄褐色砂質シルトが混入する土と中層のオリーブ褐色砂質シルトと下層のオリーブ褐色砂質シルトに黄褐色砂質シルト粒が混入する土とに分けられる。

井戸

04号井戸（S E04、第115図）

E 2 地区中央に位置する。石組で、水溜に曲物を使用している。掘形の平面形はほぼ円形で径は約200cmである。深さは123cmで礫層まで掘り込んでいる。礫層の上はシルトだが、裏込めに小石などを用いず、直径30~50cm程度の石を側として積み上げ、掘った土で間を埋めている。東南に S K115があるが、水を汲みやすくするため、一段下がった場所を作った可能性も考えられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

133号井戸（S E133、第115図）

E 2 地区中央に位置する。切り合いから S K105より古く、S K108より新しい。南壁に近いところで検出しており、掘形の南部分は調査区外になっていたが断ち割りの際に南側も確認した。掘形の平面形はほぼ円形で直径は約180cm。深さは107cmで礫層まで掘り込んでいる。側は石組で直径20~40cm程度の石を使っている。裏込めには10~25cm程度の石を使っている。埋土は基本的に上層の褐灰色粘質土と下層の黒褐色粘土で3層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

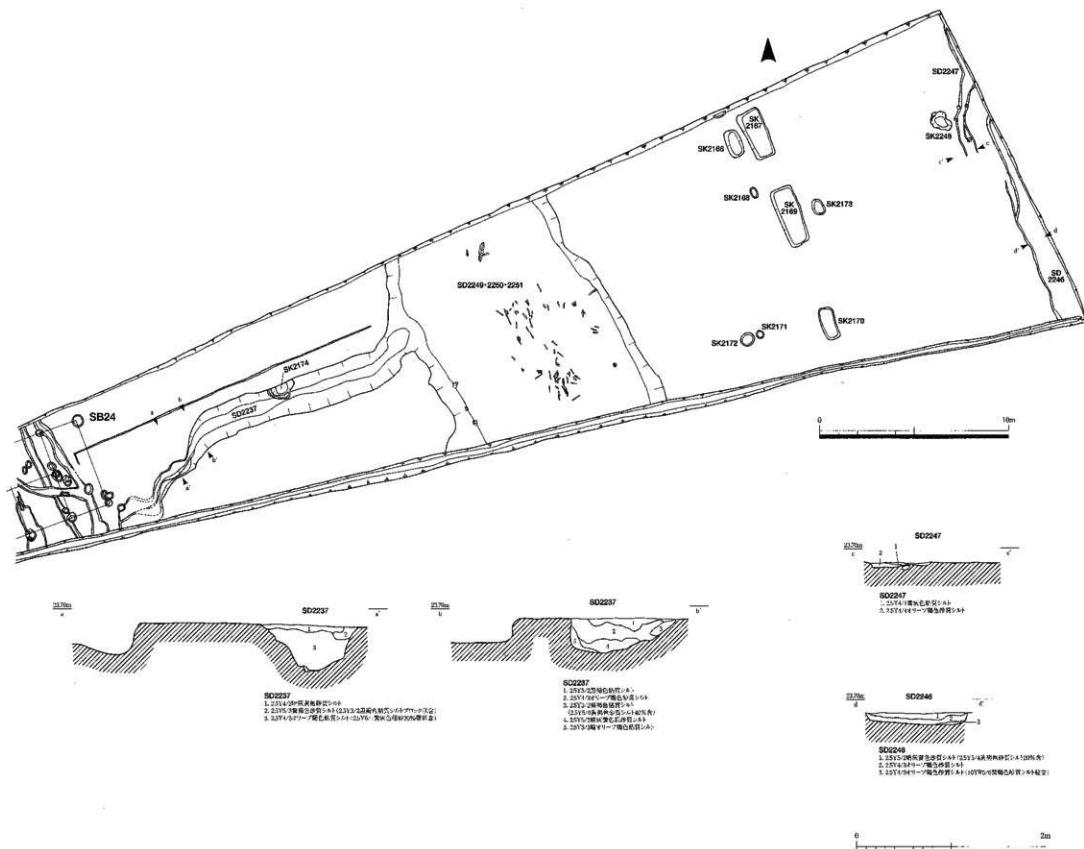
23号井戸（S E23、第116図、図版57）

E 2 地区中央に位置する。掘形の平面形はほぼ円形で直径約270cmである。深さは121cmで礫層まで掘り込んでいる。側は石組みであるが東側の残りが悪く、西側も検出面まで石が残っていないことから井戸が廃棄された際に抜き取られた可能性がある。埋土は基本的に上層の暗灰黄色粘土質シルトと中層の暗灰黄色粘質土、下層の黒褐色粘質土で5層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲・木製品が出土している。

2100号井戸（S E2100、第116図、図版57）

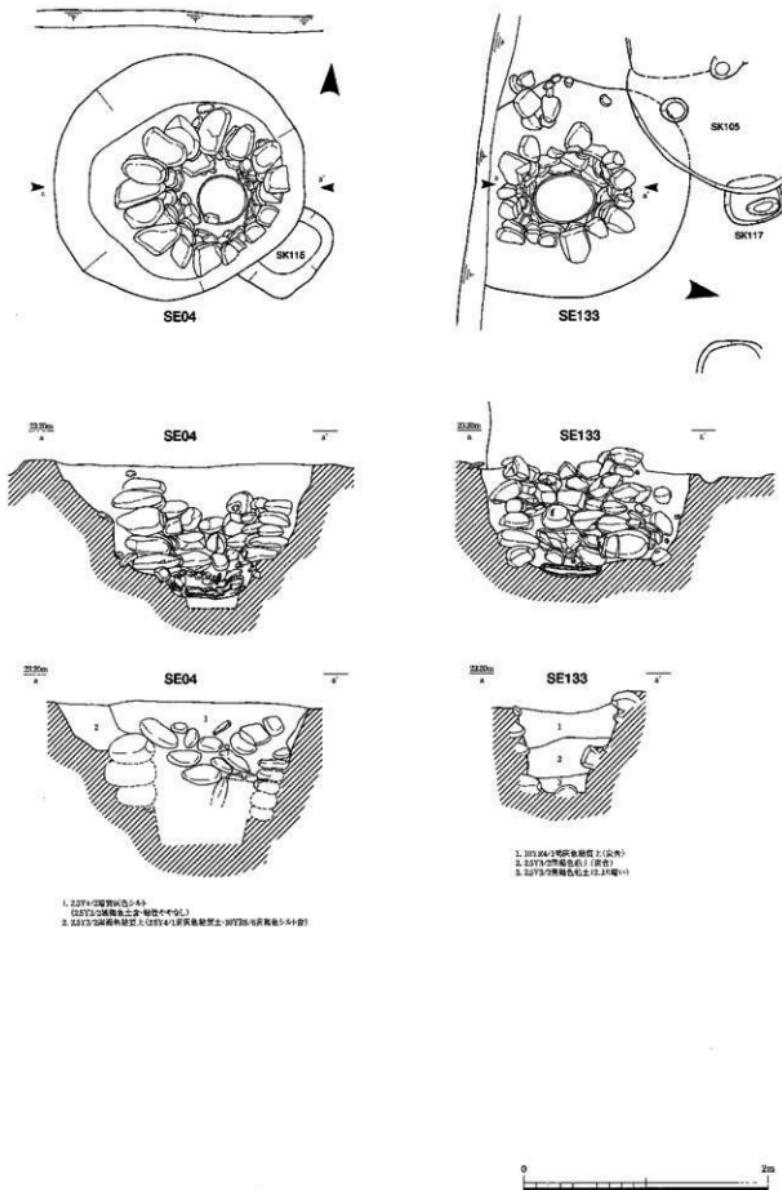
F 1 地区中央に位置する。掘形の平面形はほぼ円形で直径約220cmである。深さは140cm。水溜に曲物を使用している。側は石組で、廃棄される際石は抜き取られたと思われる。埋土は基本的に上層のにぶい黄褐色砂質土、中層のオリーブ褐色砂質土、下層の暗灰黄色砂質シルトで、5層に分けられる。裏込めは西側でみられ、オリーブ褐色や明褐色、暗灰黄色の砂とともに直径3~5cmの小石が使われている。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

土坑



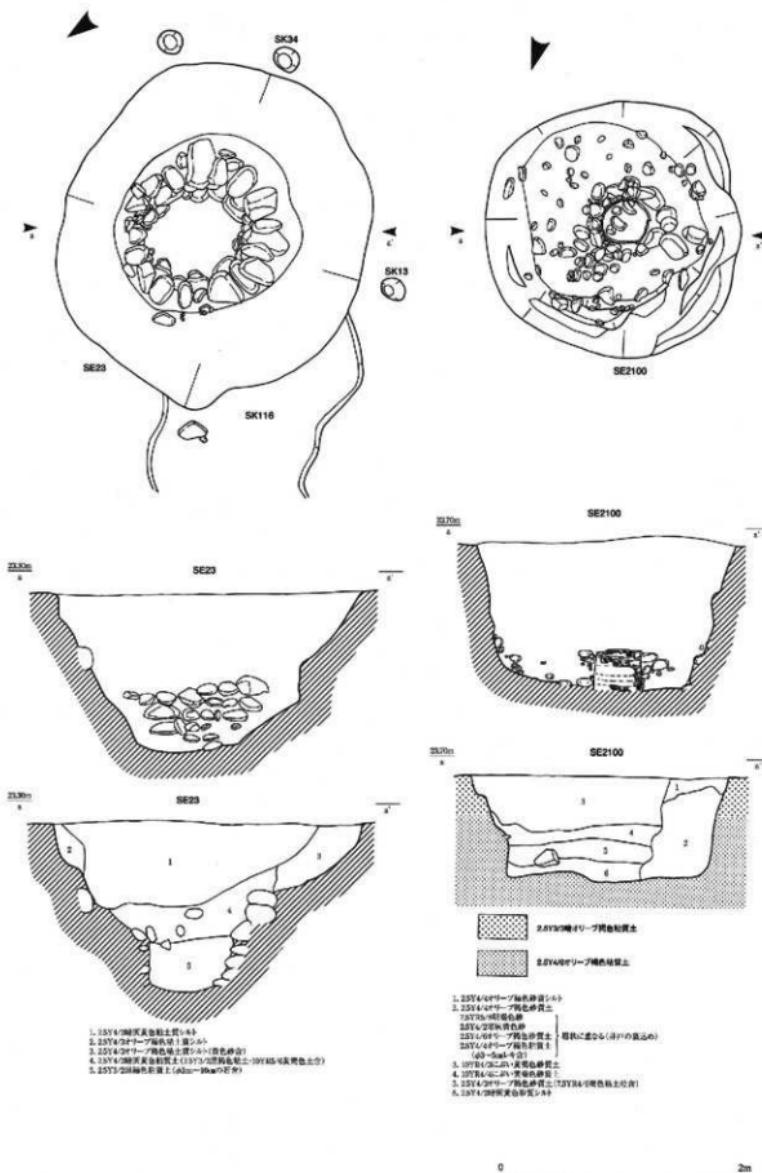
第114図 遺構実測図

SD2237 SD2247 SD2246



第115図 遺構実測図

SE04 SE133



第116図 造構実測図

SE23 SE2100

72号土坑（S K72、第117・118図）

E 2 地区北に位置する。切り合いかから S P71 (S B21) より新しい。円形を呈し、直径21cm、深さ68cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

58号土坑（S K58、第117・118図）

E 2 地区北に位置する。切り合いかから S P57より古い。直径70cm、深さ25cm。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

54号土坑（S K54、第117・118図）

S B21西に位置する。切り合いかから S K55・56より古い。直径75cm、深さ13cm。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトと下層のオリーブ褐色粘土質シルトに炭が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

42号土坑（S K42、第117・118図）

S B21内に位置する。円形を呈し、直径36cm、深さ18cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

52号土坑（S K52、第117・118図）

S B21内に位置する。切り合いかから S K53より古い。隅丸方形を呈し、長径131cm、短径108cm、深さ46cmである。埋土はオリーブ褐色粘土質シルトで2層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

26号土坑（S K26、第117・118図）

S B21南に位置する。楕円形を呈し、長径124cm、短径84cm、深さ31cmである。埋土は上層の灰黄色粘土質シルトと中層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土、下層の暗オリーブ褐色粘土質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

118号土坑（S K118、第117・118図）

E 2 地区中央 S K116内に位置する。隅丸方形を呈し、長径72cm、短径66cm、深さ17cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器と鉄製品が出土している。

25号土坑（S K25、第117・118図）

S E23北に位置する。円形を呈し、直径50cm、深さ14cmである。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトと下層の黒褐色粘土質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

45号土坑（S K45、第117・118図）

S B22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。切り合いかから S K44より新しい。確認できる範囲での直径は31cm、深さ27cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。

44号土坑（S K44、第117・118図）

S B22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。切り合いかから S K45よりも古い。確認できる範囲での直径は79cm、深さ19cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘土質シルトである。

43号土坑（S K43、第117・118図）

S B22東に位置する。東側は調査区壁にかかっている。確認できる範囲での直径は145cm、深さ18cmである。埋土は単層で黄灰色粘土質シルト。遺物は中世土師器が出土している。

19号土坑（S K19、第117・118図）

S B22東に位置する。楕円形を呈し、長径180cm、短径105cm、深さ14cmである。埋土は暗灰黄色粘質シルト、灰黒色粘質シルト、オリーブ褐色粘質シルトなどで、4層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

116号土坑（SK116、第117・118図）

S B22西に位置する。切り合いかからS E23・SK16より古い。不整形を呈し、長径403cm、深さ29cmである。埋土は暗灰黄色粘土質シルトである。遺物は中世土師器が出土している。

16号土坑（SK16、第117・118図）

S B22北に位置する。切り合いかからSK116より新しい。方形を呈し、長径291cm、短径215cm、深さ16cmである。埋土は基本的に上層の暗灰黄色シルトと下層の暗灰黄色粘土質シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

100号土坑（SK100、第117・118図）

S B22内に位置する。切り合いかからSK111より新しい。方形を呈し、長径116cm、短径83cm、深さ5cmである。埋土は基本的に上層のにぶい黄色シルトと中層のオリーブ褐色粘土質シルトと下層の褐色シルトに分けられる。

101号土坑（SK101、第117・118図）

S B22内に位置する。切り合いかからSK107より古い。方形を呈し、長径218cm、短径84cm、深さ36cmである。埋土は上層のにぶい黄色シルトに褐色土と炭が混入する土と下層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土とに分けられる。SK101はSK16の南端にある番号を付けていない土坑とSK110がSP09とSP104の延長上にあり、そのなかにおさまることから、SB22に伴う堅穴状土坑の可能性がある。他にSK116・16・100・111・101・107・106・109・114などが堅穴状土坑として挙げられ、複数の遺物の存在が想定されるが、SB22以外明確な柱穴の並びはない。

107号土坑（SK107、第117・118図）

S B22内に位置する。切り合いかからSK07・102より古く、SP104・SK101より新しい。方形を呈し、長径350cm、短径136cm、深さ41cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

105号土坑（SK105、第117・118図）

S B22南に位置する。切り合いかからSK106・117より古く、SE133より新しい。深さは25cmである。埋土は基本的に暗灰黄色粘土質シルトで3層に分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

113号土坑（SK113、第117・118図）

S B22西に位置する。方形を呈し、長径173cm、短径82cm、深さ17cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黄色土と炭が混入する土である。遺物は中世土師器と白磁が出土している。

08号土坑（SK08、第117・118図）

SE23西に位置する。切り合いかからSK100・101・111より新しい。楕円形を呈し、長径90cm、短径78cm、深さ13cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに黒色土が混入する土である。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

07号土坑（SK07、第117・118図）

S B22西に位置する。切り合いかからSK06・107より新しい。円形を呈し、直径49cm、深さ10cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土が混入する土である。

06号土坑（SK06、第117・118図）

S B22西に位置する。切り合いからSK07より古い。円形を呈し、直径43cm、深さ6cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに褐色土と黄褐色砂が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

10号土坑（SK10、第117・118図）

S B22内に位置する。切り合いからSP09（SB22）より新しい。円形を呈し、直径23cm、深さ41cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトである。遺物は中世土師器が出土している。

106号土坑（SK106、第117・118図）

S B22南に位置する。切り合いからSK105・109より新しい。深さは10cmである。埋土は単層で暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

109号土坑（SK109、第117・118図）

S B22南に位置する。切り合いからSK106より古く、SK114より新しい。短径は164cm、深さ20cmである。埋土は上層の暗灰黄色粘土質シルトに炭が混入する土と下層の暗灰黄色粘土質シルトに黄褐色砂が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と珠洲が出土している。

114号土坑（SK114、第117・118図）

S B22南に位置する。南側は調査区外へ延びる。切り合いからSK109より古い。深さは14cmである。埋土はオリーブ褐色土に黄色土と黒褐色土が混入する土と、暗灰黄色粘土質土に黄褐色砂が混入する土とに分けられる。遺物は中世土師器と鉄製品が出土している。

2005号土坑（SK2005、第119図）

S B23西に位置する。楕円形を呈し、長径54cm、短径40cm、深さ15cmである。埋土は単層でオリーブ褐色砂質土に黄褐色砂質シルトと暗灰黄色粘土質シルトが混入する土である。遺物は青磁が出土している。

2145号土坑（SK2145、第119図）

SK2153北に位置する。楕円形を呈し、長径49cm、短径32cm、深さ51cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土と暗オリーブ褐色粘土質土で3層に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2146号土坑（SK2146、第119図）

S B23内に位置する。楕円形を呈し、長径33cm、短径20cm、深さ7cmである。埋土は単層で暗オリーブ褐色砂質土である。遺物は中世土師器が出土している。

2150号土坑（SK2150、第119図）

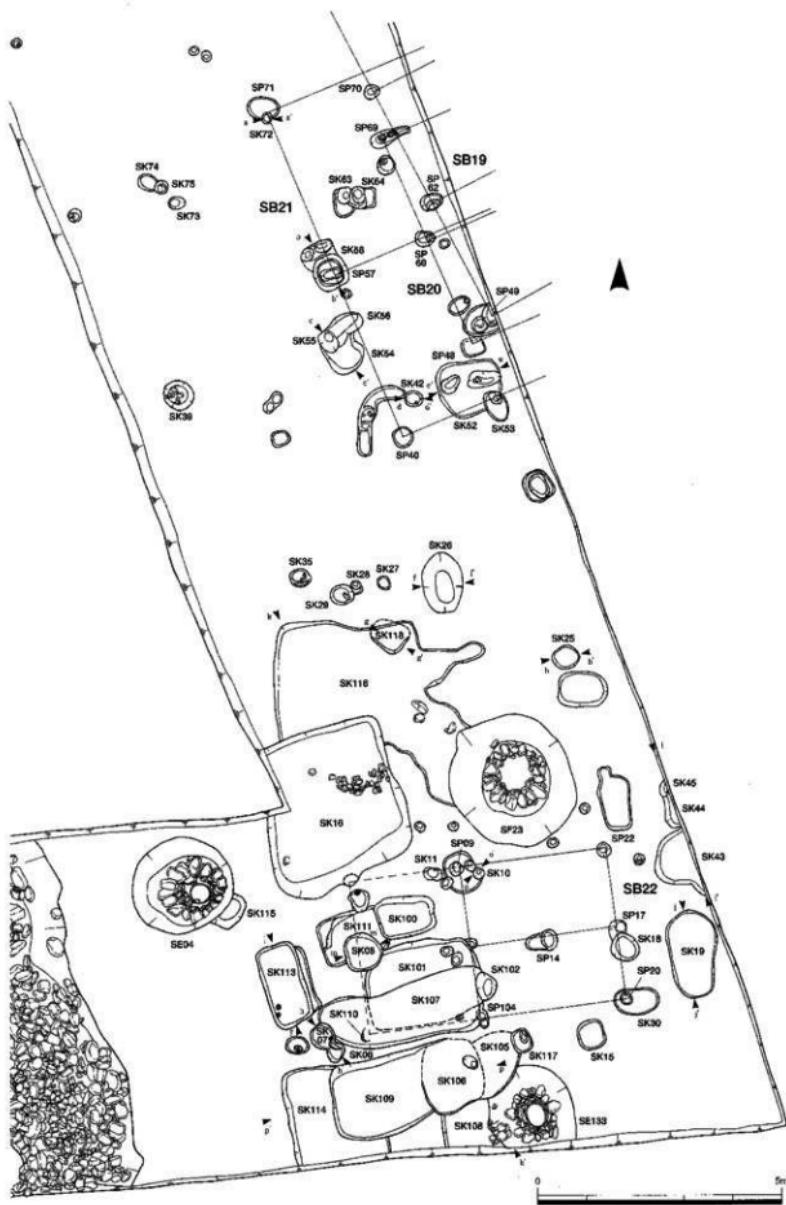
SD2140東に位置する。円形を呈し、直径33cm、深さ23cmである。埋土は単層で黄褐色砂質土である。遺物は中世土師器が出土している。

2153号土坑（SK2153、第119図）

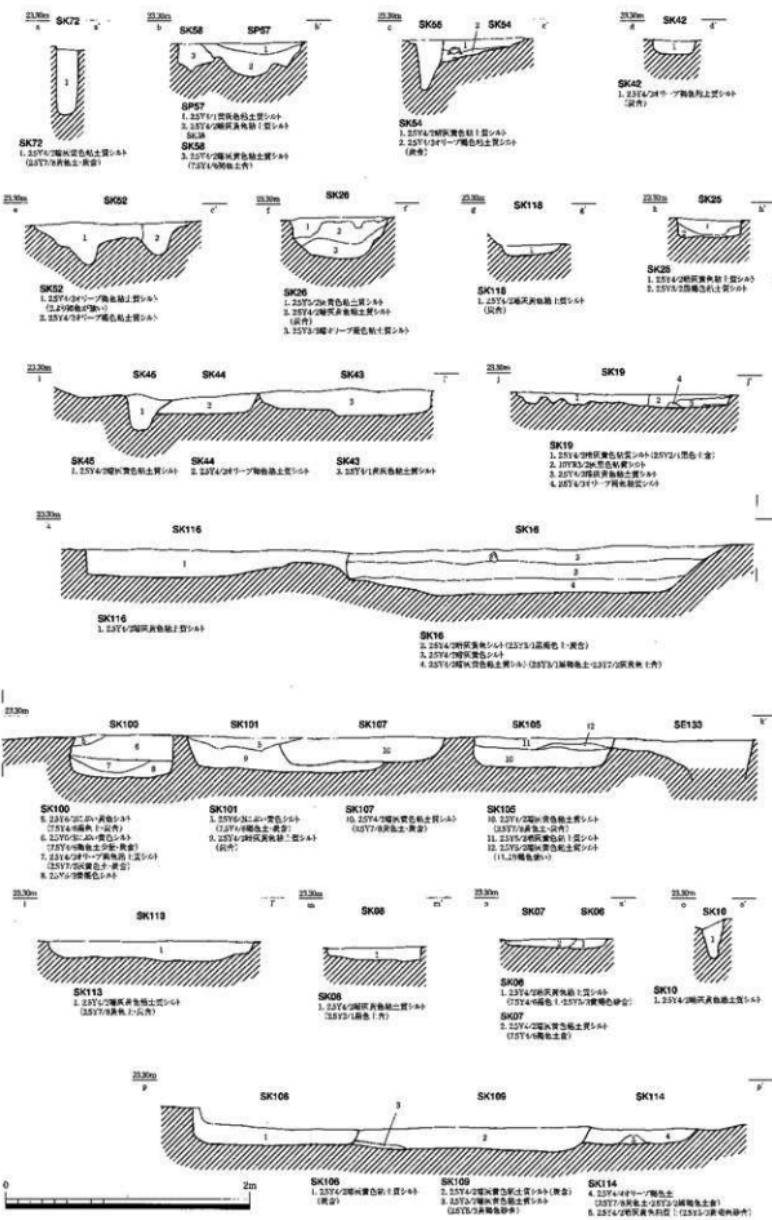
S B23内に位置する。方形を呈し、幅215cm、深さ21cmである。埋土は上層のぶい黄褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘土質土に分けられる。遺物は中世土師器が出土している。SB23の項でも触れたが、SP2012の底部はSK2153の底部より高い位置にあるため、SB23よりSK2153のほうが古い。

2136号土坑（SK2136、第119図）

SK2135北に位置する。楕円形を呈し、長径192cm、短径155cm、深さ9cmである。埋土は上層のオリーブ褐色砂質土と下層の暗オリーブ褐色粘土質土に分けられる。遺物は珠洲が出土している。

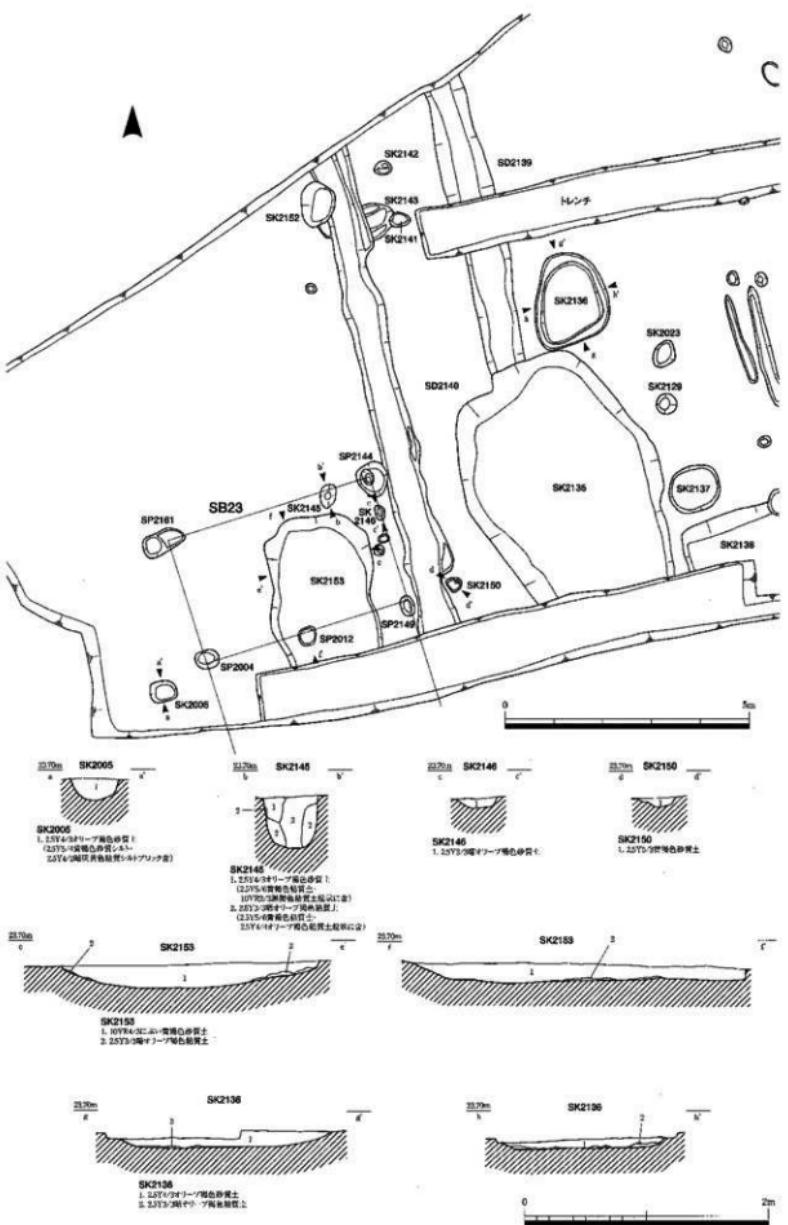


第117図 造構実測図



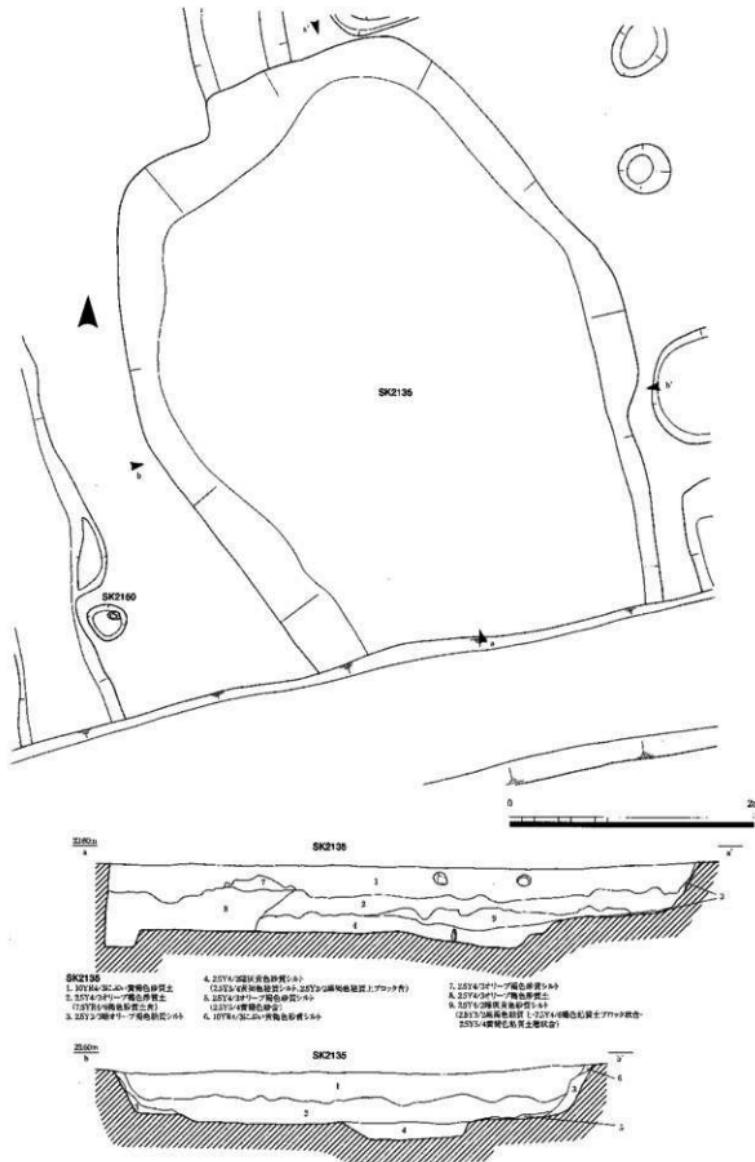
第118図 遺構実測図

SK72 SP57 SK58 SK51 SK42 SK52 SK26 SK118 SK25 SK45 SK44 SK43 SK19
SK116 SK10 SK100 SK101 SK107 SK105 SK113 SK08 SK06 SK07 SK10 SK106
SK109 SK114



第119図 遺構実測図

SK2005 SK2145 SK2146 SK2150 SK2153 SK2136



第120図 遺構実測図

SK2135

2135号土坑（S K2135、第119・120図）

S B23東に位置する。南側は調査区外へ延び、平成6年度の婦中町教育委員会による調査のS D101Bにつながる。方形を呈し、短径403cm、深さ68cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色や暗灰黄色などの砂質土や砂質シルトで9層に分けられる。遺物は中世土師器・珠洲、木製品、釘が出土している。

2133号土坑（S K2133、第121図）

S E2100南に位置する。切り合いからS K2132より古い。円形を呈し、直径197cm、深さ36cmである。埋土は上層のぶい黄褐色砂質シルトと中層のオリーブ褐色砂質シルト、下層の黄褐色砂質シルトに分けられる。遺物は中世土師器が出土している。

2132号土坑（S K2132、第121図）

S E2100南に位置する。切り合いからS K2133より新しい。円形を呈し、直径52cm、深さ22cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土とぶい黄褐色砂質シルトの2層に分けられる。遺物は珠洲と金属製品が出土している。

2043号土坑（S K2043、第121図）

S E2100南東に位置する。切り合いからS D2040より古い。平成6年度の婦中町教育委員会による調査のS K179につながる。深さ40cm。遺物は磁器が出土している。

2167号土坑（S K2167、第122図）

F 1地区東に位置する。方形を呈し、長径271cm、短径132cm、深さ24cmである。埋土はオリーブ褐色粘質シルトと暗灰黄色粘質シルトで4層に分けられる。S K2167・2169・2170はS D2249・2250・2251の東に溝と平行に3基の方形の土坑が南北に並んでいる。遺構の性格はわからないが、何らかの関係があったと考えられる。

2170号土坑（S K2170、第122図）

F 1地区東に位置する。方形を呈し、長径173cm、短径81cm、深さ19cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトに暗オリーブ褐色シルトと黄褐色砂が混入する土である。遺物は中世土師器が出土している。

2169号土坑（S K2169、第122図）

F 1地区東に位置する。方形を呈し、長径323cm、短径126cm、深さ20cmである。埋土は単層でオリーブ褐色粘質シルトに黄褐色砂が混入する土である。

石列

65号石列（S X65、第112図、図版55）

E 2地区中央に位置する。東西に伸び東側、西側とも調査区外へ延びる。直径約20~45cm程度の石が並べられているが、S D135とぶつかる所では一段南側に並べられている。地面の高さは石列の南側が高く、北側が低い。方向がS D134・136と平行であることから両者と何らかの関連があったと思われる。

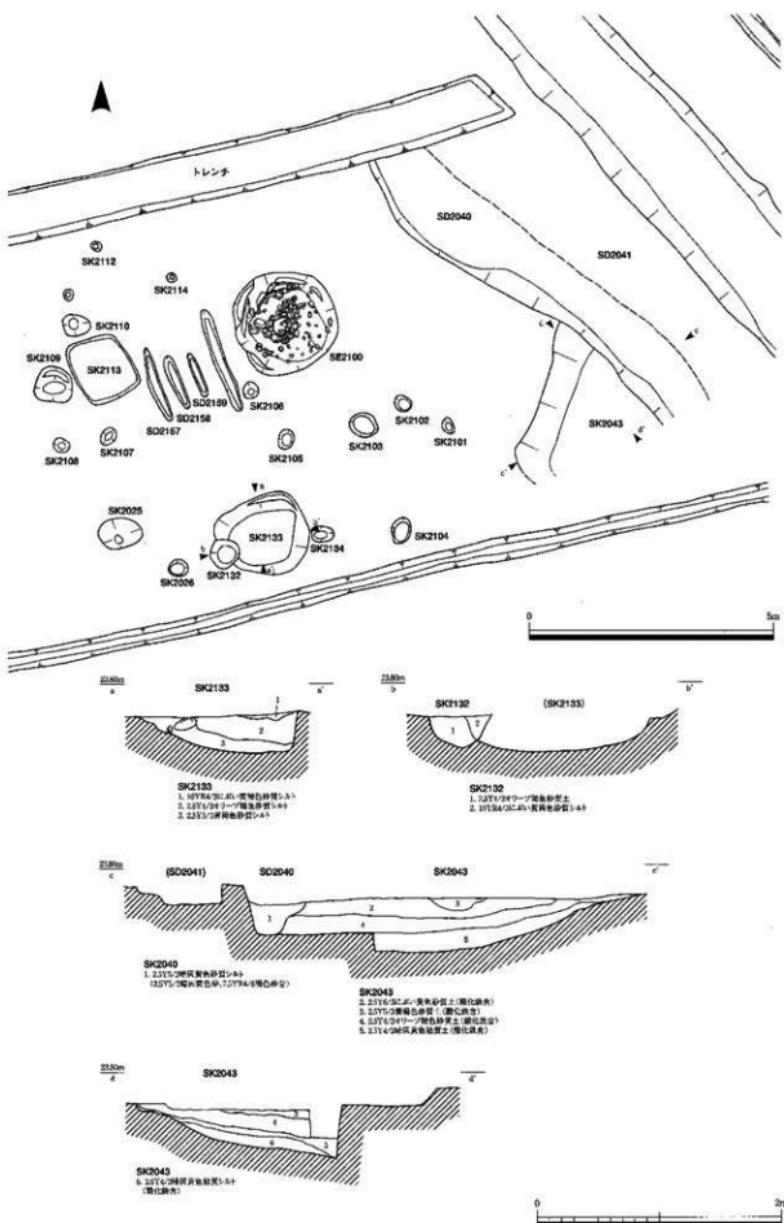
D 近世

近世の遺構はF 1地区で溝、土坑が検出された。

溝

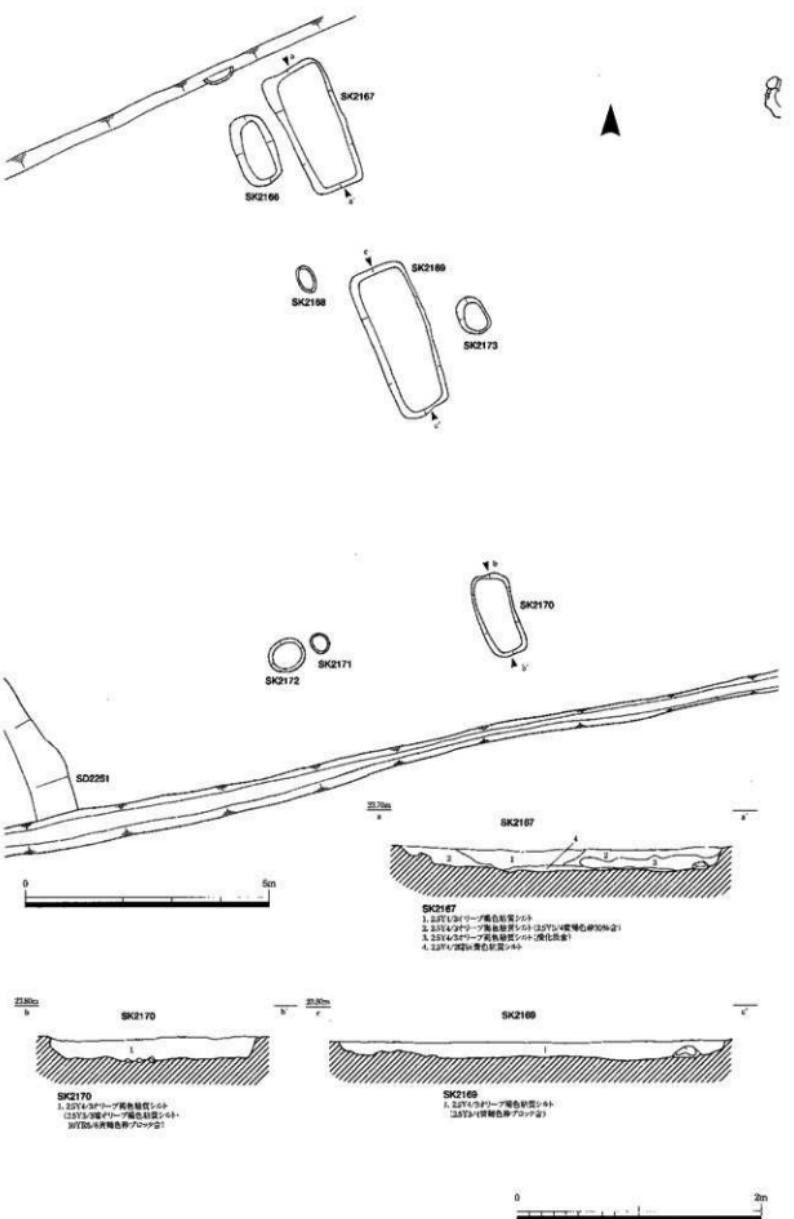
2041号溝（S D2041、第123図）

F 1地区中央に位置する。南北方向の溝。幅80cm、深さ13cmである。埋土はぶい黄色砂、黄褐色



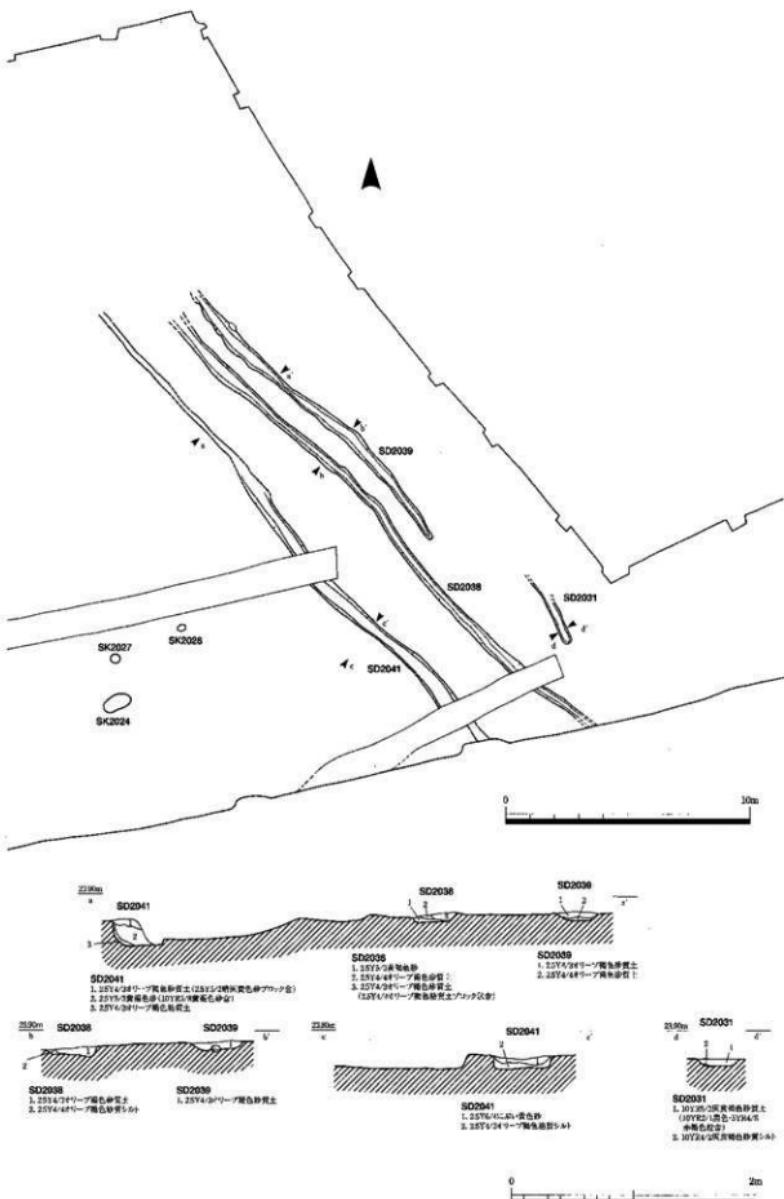
第121図 遺構実測図

SK2133 SK2132 SD2040 SK2043



第122図 遺構実測図

SK2167 SK2170 SK2169



第123図 遺構実測図

SD2041 SD2038 SD2039 SD2031

2 遺構

砂、オリーブ褐色粘質シルトなどで、5層に分けられる。遺物は伊万里が出土している。

2038号溝（S D2038、第123図）

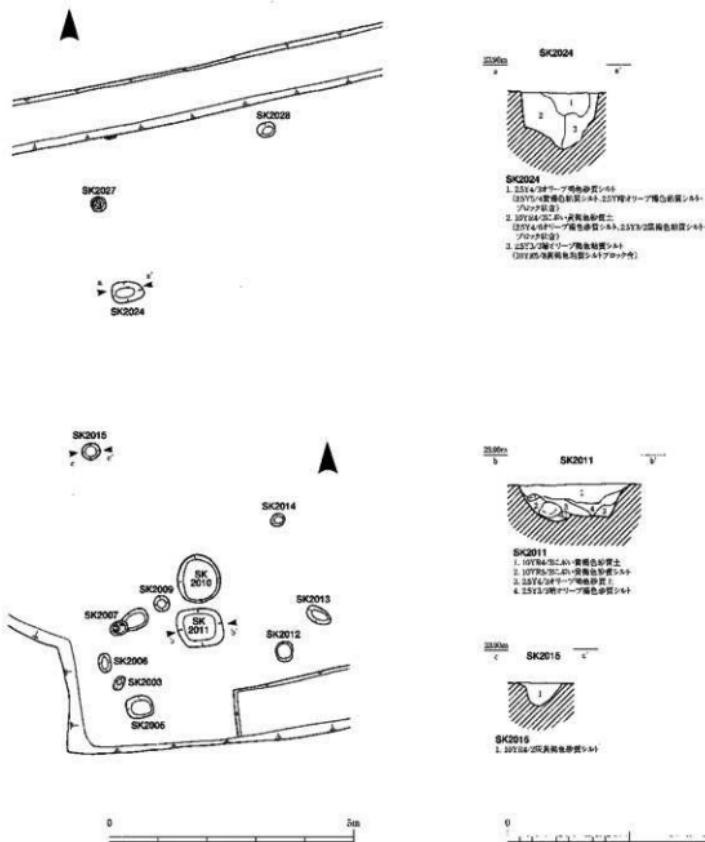
F1地区中央に位置する。南北方向の溝。幅40cm、深さ5cmである。埋土は基本的にオリーブ褐色砂質土と黄褐色砂で3層に分けられる。

2039号溝（S D2039、第123図）

F1地区中央に位置する。南北方向の溝。幅50cm、深さ11cmである。埋土はオリーブ褐色砂質土で2層に分けられる。

2031号溝（S D2031、第123図）

F1地区中央に位置する。南北方向の溝。幅40cm、深さ6cmである。埋土は上層の灰黄褐色砂質土に黒色粒と赤褐色粒が混入する土と下層の灰黄褐色砂質シルトに分けられる。



第124図 遺構実測図

SK2024 SK2011 SK2015

土坑**2024号土坑 (S K2024、第124図)**

F 1 地区西に位置する。楕円形を呈し、長径64cm、短径45cm、深さ45cm。埋土はオリーブ褐色シルト、にぶい黄褐色砂質土、暗オリーブ褐色粘質シルト、暗オリーブ褐色粘質土の3層に分けられる。

2011号土坑 (S K2011、第124図)

F 1 地区西に位置する。隅丸方形を呈し、長径92cm、短径79cm、深さ27cmである。埋土はにぶい黄褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質シルト、オリーブ褐色砂質土、暗オリーブ褐色砂質シルトの4層に分けられる。

2015号土坑 (S K2015、第124図)

F 1 地区西に位置する。円形を呈し、直径37cm、深さ18cmである。埋土は単層で灰黄褐色砂質シルトである。

3 遺物**A 古代****堅穴住居****424号堅穴住居 (S I 424、第125図、図版58)**

1~10は土師器の壺である。底部まであるもので高台が付くものはない。体部がやや丸みを帯びる1~6と直線的な7~10がある。1と5は底に回転糸切り痕がみられる。11は須恵器の壺である。底は回転糸切り痕を残し、高台を貼り付けている。

包含層 (第125図)

12~14は土師器である。12は壺で体部は直線的に伸び、口縁部がやや直立する。13は碗で体部はゆるやかに内弯し、口縁部は外反する。14は壺で口縁端部は直線的に内傾する。

15~16は須恵器の壺である。15は体部はゆるやかに内弯し、口縁部はふくらみを帯びる。16は底でヘラキリされており、高台はつかない。

B 中世前期**掘立柱建物****05号掘立柱建物 (S B 05、第126図)**

17はS P 281から出土した中世土師器の皿である。ロクロ成形で底には回転糸切り痕がみられる。

09号掘立柱建物 (S B 09、第126図、図版59・63)

18~20はS P 1202から出土した非ロクロ成形の中世土師器の皿である。18・19は体部にやや強いナデを施し、口縁端部に面取りをするものである。20は体部に強いナデが施されている。

21~23はS P 1209から出土した遺物である。21は中世土師器の皿でロクロ成形である。22・23は鉄滓である。

24~30はS P 1214から出土した遺物である。24~29は中世土師器の皿で体部は強いナデを施し、口縁端部は面取りをしている。30は鉄滓である。

31・32はS P 1218から出土した中世土師器の皿である。体部には強いナデが施される。

33はS P 1222から出土した中世土師器の皿である。体部に強いナデを施し、口縁端部は面取りされる。

34~39はS P 1232から出土した遺物である。34~38は中世土師器の皿で、34は器厚はうすく、体部

をゆるいナデで内弯させ、口縁端部には面取りが施される。35は平底で、器厚は厚く口縁端部はやや内傾している。36・37は器厚は厚く、口縁端部に面取りが施されている。39は鉄滓である。

40はS P 1234から出土した鉄滓である。

41はS P 1238から出土した中世土師器の皿で底面中央部はやや上がり、体部から口縁部は外反する。

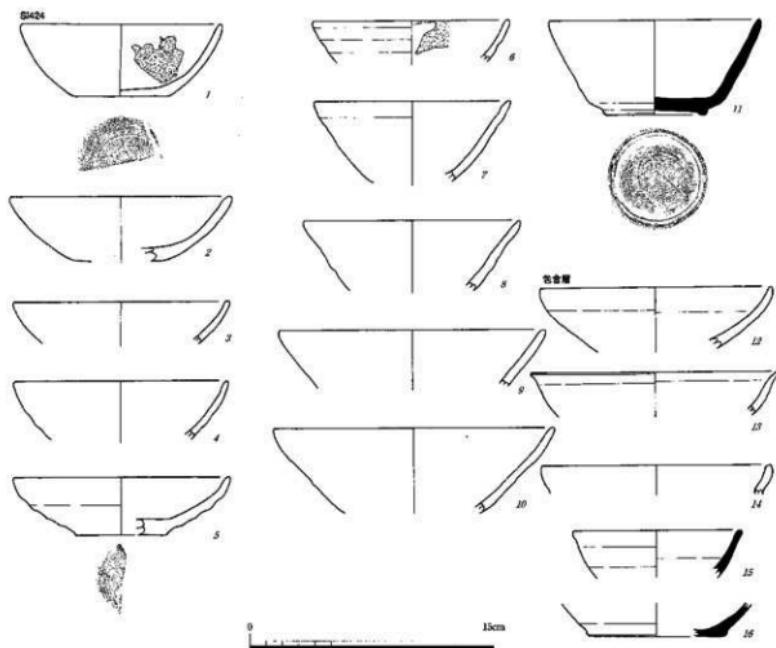
42~49はS P 1255から出土した遺物である。42~48は中世土師器の皿で、42~46は体部に強いナデを施し口縁端部を面取りするタイプ。47は器厚が薄く体部に強いナデを施し、口縁端部はつまみ上げている。48はロクロ成形で器厚は厚く、口径は14.4cmとやや大きい。49は鉄製品で刀子の茎から刃の部分と思われる。

50~54はS P 1264から出土した中世土師器の皿である。50~53は体部に強いナデを施し、口縁端部を面取りしている。54はロクロ成形で底部が1.2cmと厚く、口縁端部は平らに成形されている。底部には回転糸切り痕が残る。

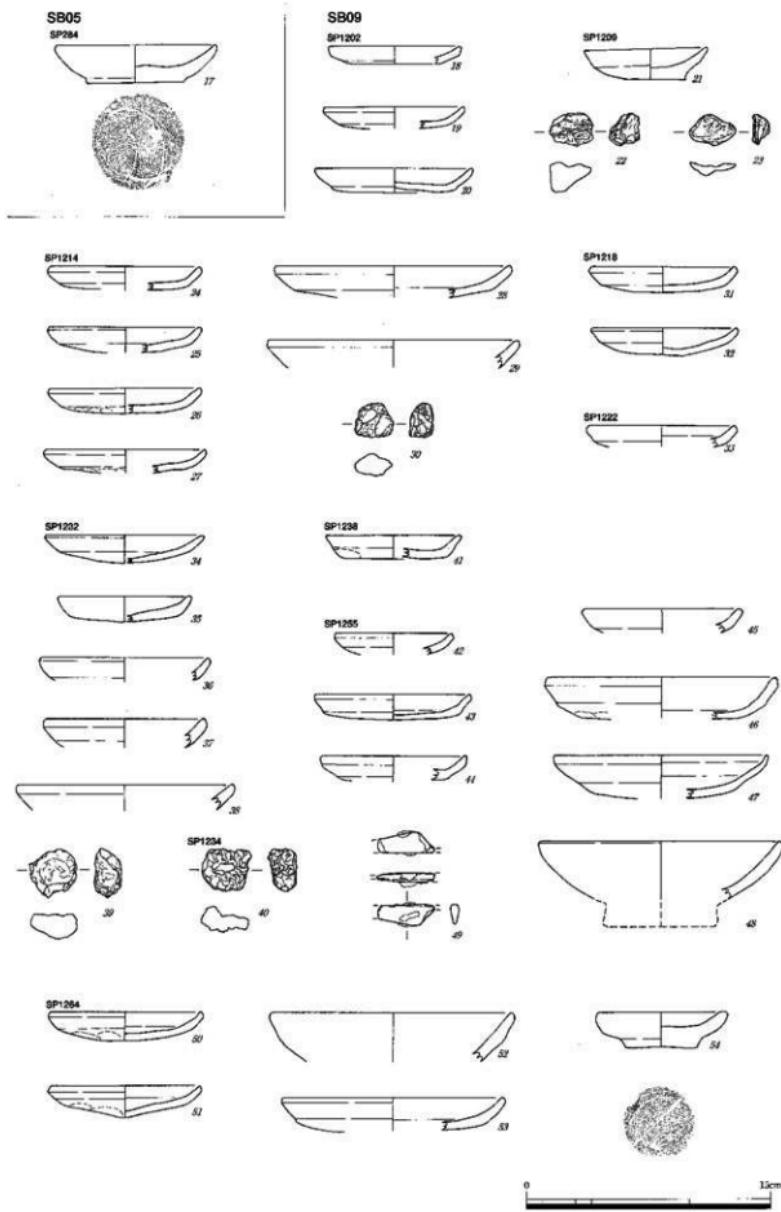
10号掘立柱建物（S B 10、第127図、図版62・67・77）

55~58はS P 1210から出土した遺物である。55・56は中世土師器の皿である。どちらも非ロクロ成形である。57は珠洲の鉢である。58は礎石に使われていた可能性がある石だが、一部崩れており礎石を転用したと思われる。

59はS P 1213から出土した柱である。断面は梢円形である。残りは悪い。

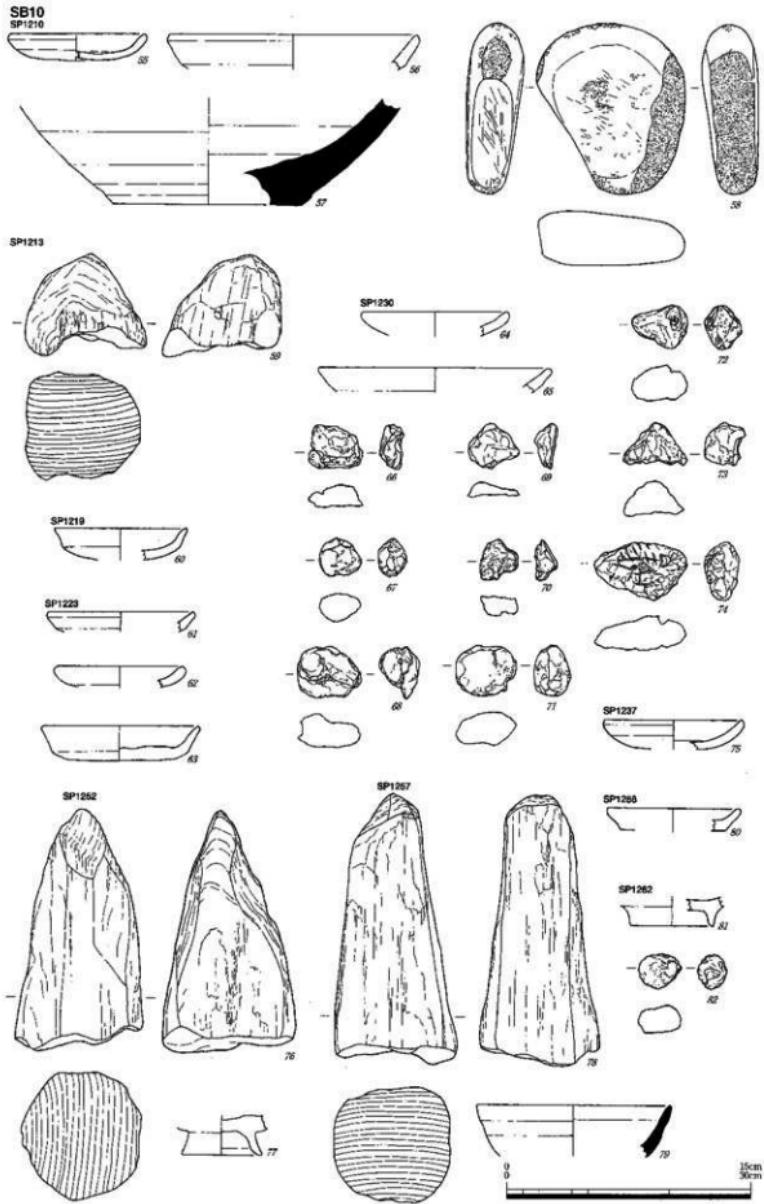


第125図 遺物実測図 (1/3)
SI424 (1~11) その他包含層



第126図 遺物実測図 (1/3)

SB05 SP284 (17)
 SB09 SP1202 (18~20) SP1209 (21~23) SP1214 (24~30) SP1218 (31~32) SP1222 (33)
 SP1224 (34~39) SP1232 (40) SP1238 (41) SP1255 (42~49) SP1264 (50~54)



第127図 遺物実測図 (55~57・60~75・77・79~82 1/3, 58・59・76・78 1/6)

SB10 SP1210 (55~58) SP1213 (59) SP1219 (60) SP1223 (61~63) SP1230 (64~74)
SP1237 (75) SP1252 (76~77) SP1257 (78~79) SP1258 (80) SP1262 (81~82)

60はS P 1219から出土した中世土師器の皿である。非クロコ成形で体部にやや強いナデを施す。

61~63はS P 1223から出土した中世土師器の皿である。非クロコ成形である。63はS K 1254から出土したものと接合している。

64~74はS P 1230から出土した遺物である。64・65は中世土師器の皿でどちらも非クロコ成形である。66~74は鉄滓である。

75はS P 1237から出土した中世土師器の皿である。非クロコ成形で体部にナデを施し、口縁端部を面取りするもので、S K 1236から出土した土器と接合している。

76・77はS P 1252から出土した遺物である。76は柱で直径16.5cmの円柱である。77は中世土師器のロクロ成形の皿で、高さ1.4cmの高い高台が付く。

78・79はS P 1257から出土した遺物である。78は直径15.2cmの楕円柱である。79は須恵器の壺である。体部は内弯し、口縁部ではやや外反する。

80はS P 1258から出土した中世土師器の皿である。ロクロ成形で、底部には糸切り痕が残る。

81・82はS P 1262から出土した遺物である。81は中世土師器の皿で高さ0.9cmの高台が付く。82は鉄滓である。

11号掘立柱建物（S B 11、第128図、図版73）

83はS P 1319から出土した木製品である。長さ11.2cm、幅10.4cm、厚さ7.5cm、断面は四角い板状のものである。

16号掘立柱建物（S B 16、第128図）

84はS P 1010から出土した中世土師器の皿である。器厚は厚く、平らな底から短く立ち上がる。

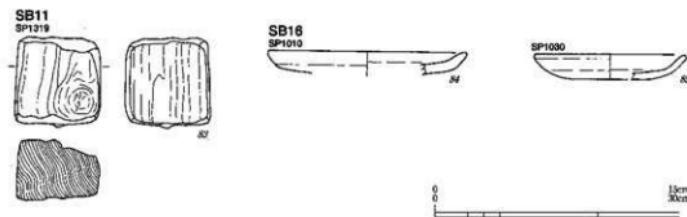
85はS P 1030から出土した中世土師器の皿である。体部にナデを施し、口縁端部は面取りがされている。

溝

136号溝（S D 136、第129図、図版59・65）

86~95はS D 136から出土した遺物である。86~94は中世土師器の皿である。86・87は非クロコ成形である。共に器厚が薄く、体部にナデを施し、口縁端部は面取りされている。88~94はロクロ成形である。93・94は径が大きく、口縁端部は面取りされている。95は陶器の壺で頸部は短く肩は外に大きく張り出す形になると思われる。外面、内面とも釉がかかり、外面は基本的に黄味がかった灰白色で肩部にはその上に青灰色の釉が、内面は刷毛塗りの暗オリーブ色の釉がかかっている。胎土は灰色で直径1mm程の石英が多く含まれる。

137号溝（S D 137、第129図）



第128図 遺物実測図（84・85 1/3, 83 1/6）

SB11 SP1319 (83)
SB16 SP1010 (84) SP1030 (85)

96~99はS D137から出土した遺物である。96~98は中世土師器の皿で96・97は非ロクロ成形。98はロクロ成形である。99は板状の木製品である。

385号溝（S D385、第129図）

100・101は中世土師器の皿である。100は非ロクロ成形で器厚は厚く、平らな底部から緩く立ち上がる。101はロクロ成形である。

386号溝（S D386、第129図）

102は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

395号溝（S D395、第129図）

103は中世土師器の皿で厚手の体部から斜めに立ち上がる。

411号溝（S D411、第129図、図版60）

104~107は中世土師器の皿である。4枚ともほぼ完形でまとまって出土した。104はやや体部のナデが強いが、105~107は緩いナデが施されそのまま立ち上がり、口縁端部に面取りはされない。

435号溝（S D435、第129図）

108・109は製塙土器である。108は平らな底からまっすぐ上に立ち上がっている。色調は橙色で内面にはまだ粘土が乾いていない状態でおおざっぱに施されたナデがみられる。外面と底面の肌があれでいる。胎土には長石と骨針が含まれる。また、わずかであるが直径2mm程度の小石もみられる。109も平らな底からまっすぐ上に立ち上がる器形である。外面の凹凸はナデによるものである。色調は明赤褐色で胎土には長石と骨針が含まれる。肌あれは特に底面と内面にみられる。

1158号溝（S D1158、第129図）

110は中世土師器の皿である。非ロクロ成形の中型の皿で器厚は薄い。

1159号溝（S D1159、第129・130図、図版71）

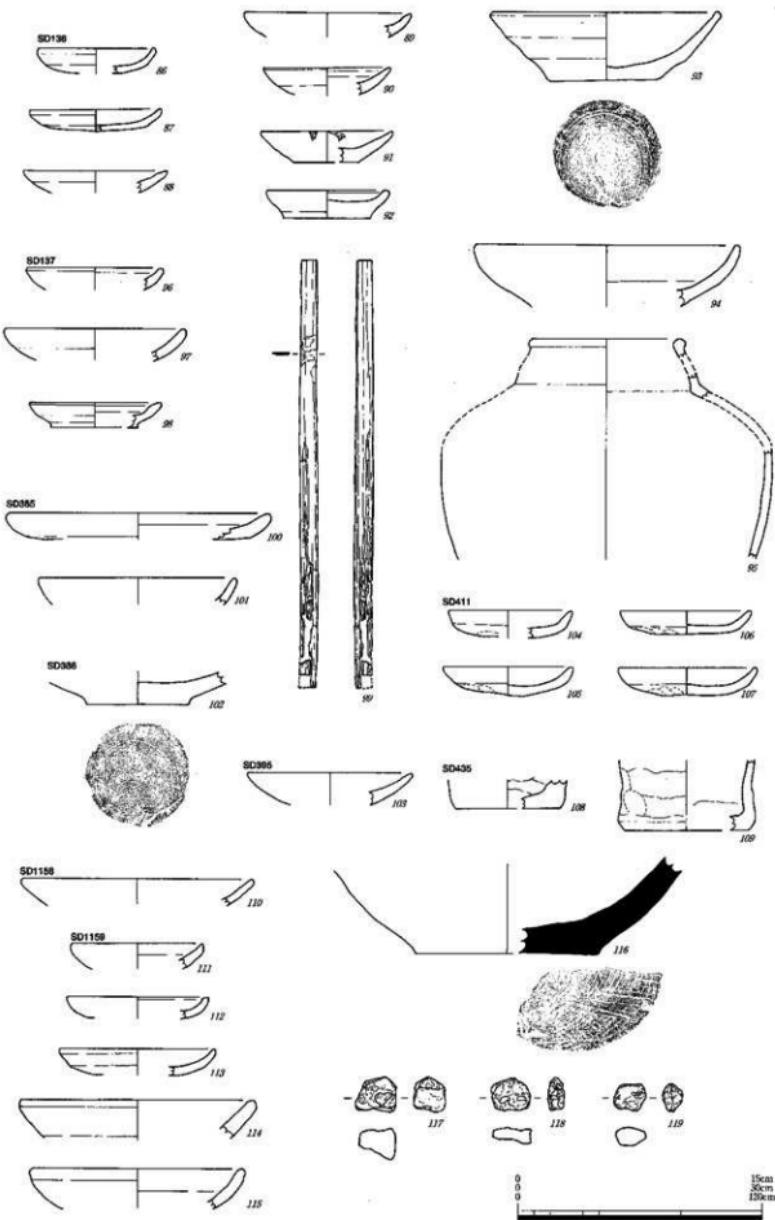
111~123はS D1159から出土した遺物である。111~115は中世土師器の皿で111・112はロクロ成形、113~115は非ロクロ成形である。111は体部は斜めにのび、口縁端部外側が直に立ち上がる。112は体部は内湾し、口縁端部をほぼ水平に面取りしている。113は口縁端部に弱い面取りが施されている。116は珠洲の鉢で底部には回転糸切り痕が残る。117~119は鉄滓である。120・123は板状の木製品である。121は箸である。122は棒状で片方の端のみ加工されている。

1160号溝（S D1160、第130・131図、図版62・68・70・73・74）

124~149はS D1160から出土した遺物である。124~132は中世土師器の皿である。124~130は非ロクロ成形で124・125は器厚が薄く、口縁端部に面取りを施す。128は中型で器厚は厚く、体部に強いナデを施している。129は体部に強いナデを施し、高台が付く。器厚は薄い。131・132はロクロ成形で131は体部から口縁にかけて斜めにつまみあげているだけである。底部には回転糸切り痕が残る。132は体部にやや強いナデを施し、高台が付く。133~146は木製品である。133は漆器の皿で底部以外内外面とも黒色漆が塗られている。134は片方が厚く、もう片方は薄いくさび状である。135は板状で端が加工されているが、用途は不明である。139は曲物の蓋と思われる。147・148は鉄滓である。149は叩き石と思われる。

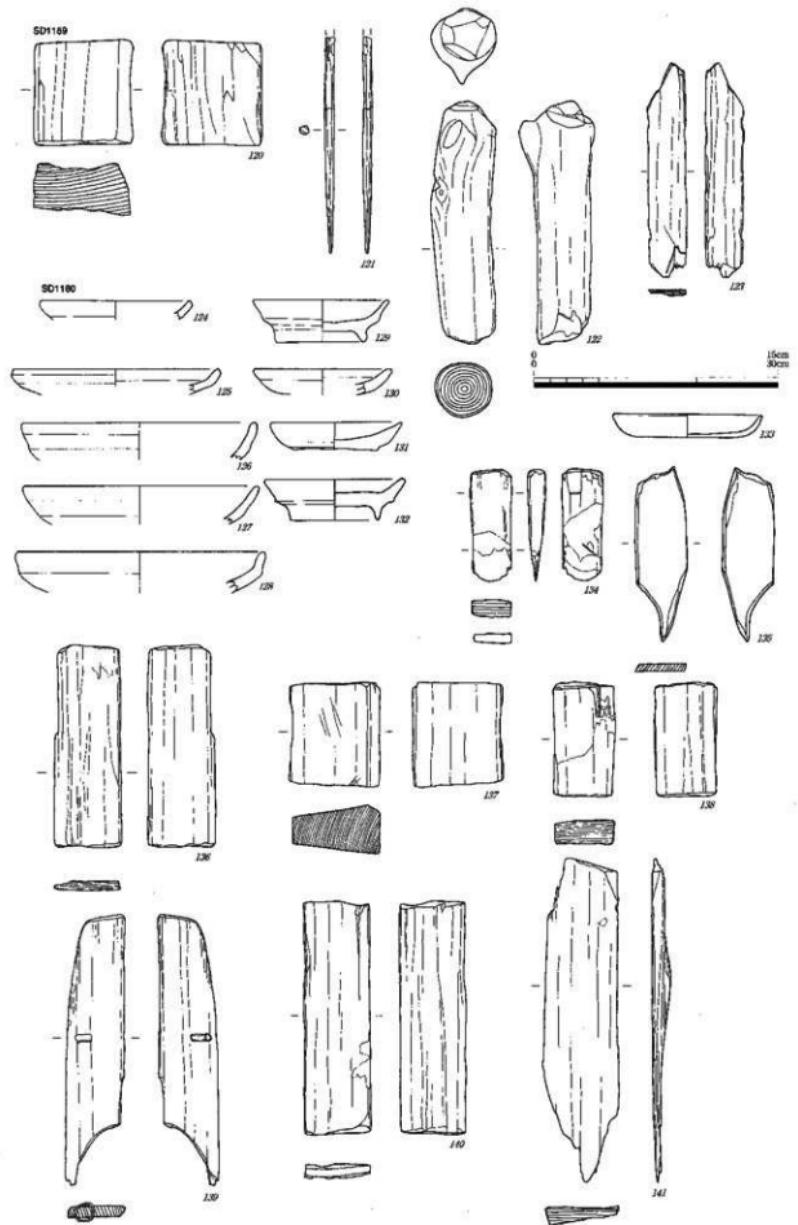
1267号溝（S D1267、第131図、図版66）

150~152はS D1267から出土した遺物である。150・151は中世土師器の皿である。152は青磁の皿である。内面は擣状のもので施文されている。釉はオリーブ灰色であるが、外面の接地面まではかかっていない。

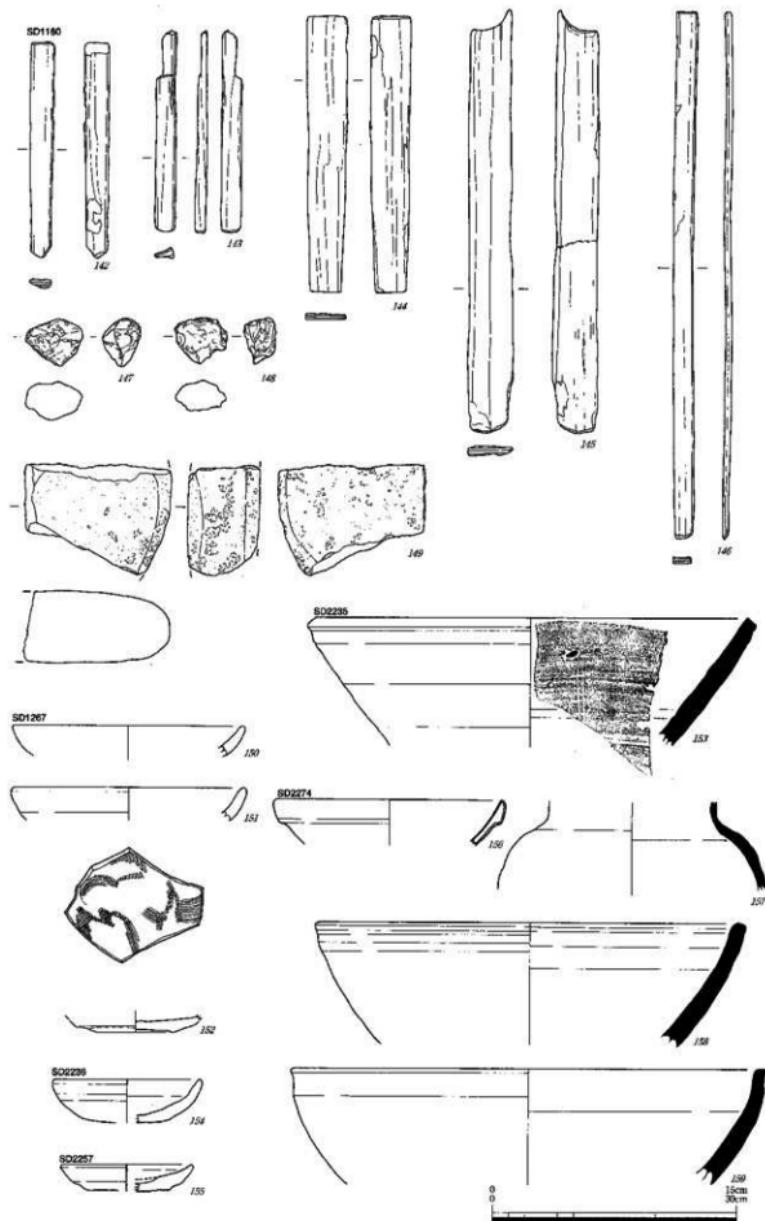


第129図 遺物実測図 (86~94・96~98・100~119 1/3, 95 1/6, 99 1/24)

SD136 (86~95) SD137 (96~99) SD385 (100~101) SD386 (102) SD395 (103)
SD411 (104~107) SD435 (108~109) SD118 (110) SD119 (111~119)



第130図 遺物実測図 (120~122・124~141 1/3, 123 1/6)
SD1159 (120~123) SD1160 (124~141)



第131図 遺物実測図 (142~156・158・159 1/3, 157 1/6)

SD1160 (142~149) SD1267 (150~152) SD2235 (153) SD2236 (154) SD2237 (155)
SD2274 (156~159)

2235号溝（S D2235、第131図）

153は珠洲の鉢である。口縁は断面が四角く、Ⅲ期である。

2236号溝（S D2236、第131図）

154は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部は緩く内寄している。

2257号溝（S D2257、第131図、図版61）

155は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

2274号溝（S D2274、第131図、図版63・66）

156～159はS D2274から出土した遺物である。156は白磁の碗である。口縁は玉縁状で胎土に黒い粒が混じり、釉は黄味がかった灰色である。157は珠洲の壺である。S D2249から出土したものと接合した。158・159は珠洲の鉢である。158はⅠ期からⅡ期で包含層出土のものと接合した。159はⅠ期。

土坑

110号土坑（S K110、第132図、図版76）

160は銅鏡である。「皇宋通寶」で初鑄は1039年である。

138号土坑（S K138、第132図）

161～163は中世土師器の皿である。161は底部が平らで立ち上がりが短い非ロクロ成形のコースター型。162・163はロクロ成形である。

158号土坑（S K158、第132図）

164は珠洲の鉢である。包含層出土のものと接合した。

179号土坑（S K179、第132図、図版76）

165は鉄滓である。

181号土坑（S K181、第132図）

166～172は中世土師器の皿である。166は器厚が薄く体部をナデ、口縁端部を面取りしている。167は器厚はやや厚く平らな底部から短い立ち上がりで、口縁端部は面取りをしている。168はロクロ成形である。口縁端部に緩い面取りを施している。169は非ロクロ成形で体部にやや強いナデを施し屈曲させている。172はロクロ成形で口縁端部は丸みを帯びる。底部に回転糸切り痕が残る。

183号土坑（S K183、第132図、図版79）

173は砥石である。

202号土坑（S K202、第132図、図版79）

174は砥石である。四面が使用され、中央部がくぼんでいる。

241号土坑（S K241、第132図）

175は中世土師器の皿である。器厚は厚く、口縁端部は丸みを帯びた三角形である。

260号土坑（S K260、第132図）

176は中世土師器の皿である。底部から口縁部まで内寄し、口縁端部は緩い面取りがされている。

267号土坑（S K267、第132図、図版76）

177は鉄滓である。

277号土坑（S K277、第132図）

178は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は厚く、底部は平らで立ち上がりは短い。

299号土坑（S K299、第132図）

179～181は中世土師器の皿である。179・180は非ロクロ成形。180は器厚が厚く体部に強いナデを

施し、屈曲させている。181はロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

363号土坑（S K363、第132図）

182は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は厚く平らな底部から短く立ち上がる。

401号土坑（S K401、第132図）

183は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く口縁端部はつまみ上げる。

449号土坑（S K449、第132図）

184は中世土師器の皿である。ロクロ成形で、口縁は外反し器厚は厚い。

481号土坑（S K481、第132図）

185・186は中世土師器の皿である。ともにロクロ成形で口縁端部がやや内側に屈曲する。

1054号土坑（S K1054、第132図）

187は中世土師器の皿である。ロクロ成形で体部上半にやや強いナデを施している。

1059号土坑（S K1059、第132図）

188・189は中世土師器の皿である。188は非ロクロ成形で体部に強いナデを施し口縁を外反させている。189はロクロ成形である。

1061号土坑（S K1061、第132図）

190・191はS K1061から出土した遺物である。190は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部に強いナデを施し、屈曲させている。191は珠洲の鉢でI期。包含層出土のものと接合している。

1073号土坑（S K1073、第132図）

192は中世土師器の皿である。ロクロ成形で平らな底部から短い立ち上がりで口縁端部はつまみ上げている。底部に回転糸切り痕が残る。

1074号土坑（S K1074、第132図）

193は土鍍である。細身のタイプである。

1201号土坑（S K1201、第133図、図版66）

194は白磁の碗である。高台は高く、釉は内面と外面の高台の上までかかっている。

1211号土坑（S K1211、第133図）

195～197は中世土師器の皿である。195・196は非ロクロ成形で体部に強いナデを施し、口縁端部に面取りをしている。197はロクロ成形である。口縁端部に外傾の面取りを施している。

1221号土坑（S K1221、第133図）

198・199は中世土師器の皿である。ともに体部に強いナデを施し屈曲させ、口縁端部に面取りがされている。

1231号土坑（S K1231、第133図）

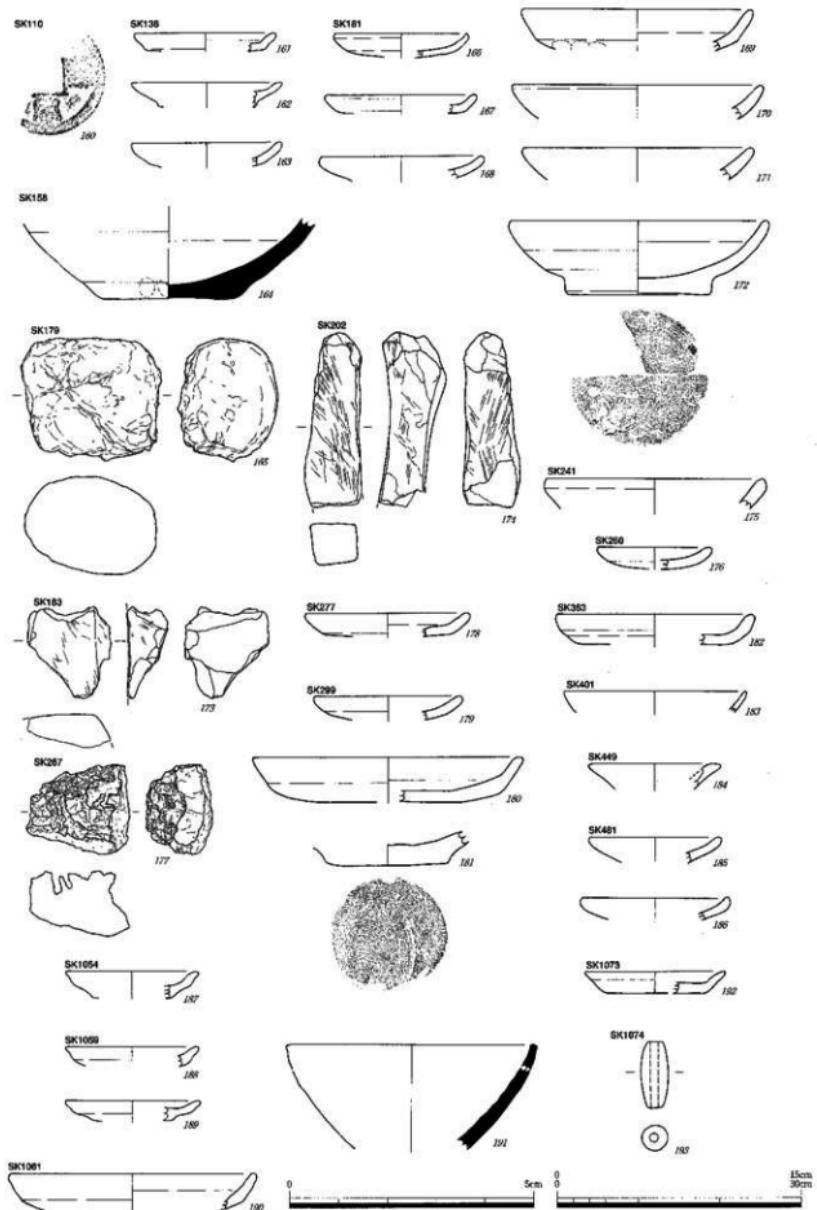
200は中世土師器の皿である。体部を強くナデ、口縁端部に面取りを施している。

1236号土坑（S K1236、第133図）

201～204は中世土師器の皿である。201～203は非ロクロ成形。201は体部にナデを施しているが、底部は丸く、体部から口縁まで緩やかに内弯する。202は口縁端部に面取りを施している。203は体部に強いナデを施し屈曲させている。204はロクロ成形で底部に回転糸切り痕が残る。

1247号土坑（S K1247、第133図）

205～207はS K1247から出土した遺物である。205は中世土師器の皿。非ロクロ成形で底部は平らで口縁端部に面取りを施している。206・207は鉄滓である。



第132図 遺物実測図 (160 1/1, 161~190・192・193 1/3, 191 1/6)

SK110 (160) SK138 (161~163) SK158 (164) SK179 (165) SK181 (166~172) SK183 (173)
 SK202 (174) SK241 (175) SK260 (176) SK267 (177) SK277 (178) SK299 (179~181) SK363 (182)
 228 SK401 (183) SK449 (184) SK481 (185~186) SK1054 (187) SK1059 (188~189)
 SK1061 (190・191) SK1073 (192) SK1074 (193)

1254号土坑 (SK1254、第133図、図版62・63)

208~214は中世土師器の皿である。208はロクロ成形で立ち上がりは短く外傾している。209~214は非ロクロ成形。209は底部は半らで立ち上がりは短い。210~212は体部をナデ、口縁端部に面取りを施している。213はその大きいタイプ。214は器厚が厚く口縁端部には緩い面取りを施す。

1305号土坑 (SK1305、第133図)

215は中世土師器の皿である。体部に強いナデを施し屈曲させている。

2256号土坑 (SK2256、第133図)

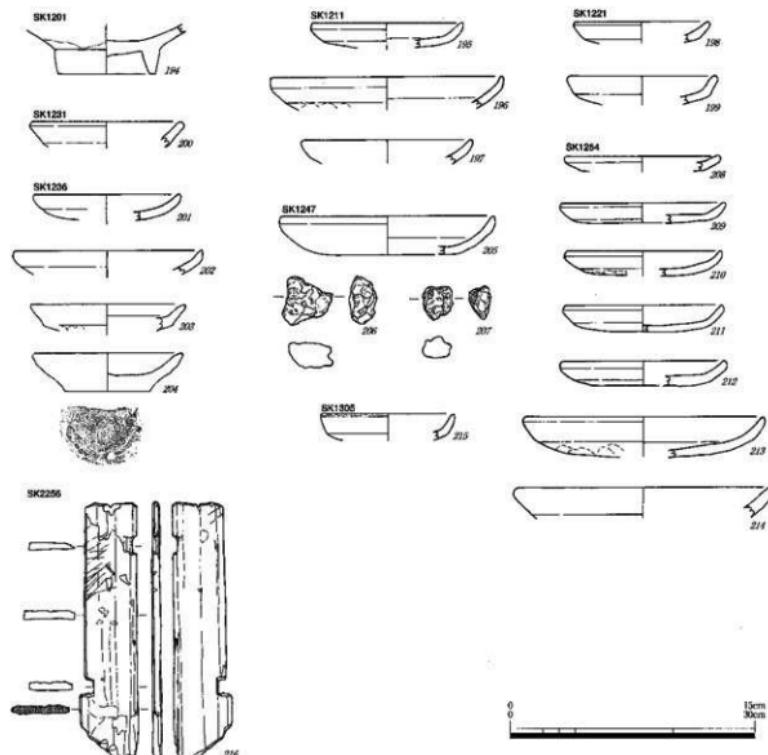
216は板材である。2カ所に四角い穴が開けられている。用途は不明。

鍛冶関連遺構

1002~①号鍛冶関連遺構 (SX1002~①、第134図)

217~220はSX1002~①から出土した遺物である。217~219は鉄滓である。他の鍛冶関連遺構から出土した鉄滓に比べ、やや小ぶりである。220は叩き石である。

1272~①号鍛冶関連遺構 (SX1272~①、第134図、図版77)



第133図 遺物実測図 (194~215 1/3, 216 1/6)

SK1201 (194) SK1211 (195~197) SK1221 (198·199) SK1231 (200) SK1236 (201~204)
SK1247 (205~207) SK1254 (208~214) SK1305 (215) SK2256 (216)

221～228は鉄滓である。

1272-②号鍛冶関連遺構 (S X1272-②、第134図、図版77)

229は鉄滓である。

1273-①号鍛冶関連遺構 (S X1273-①、第134図、図版78)

230～232は鉄滓である。

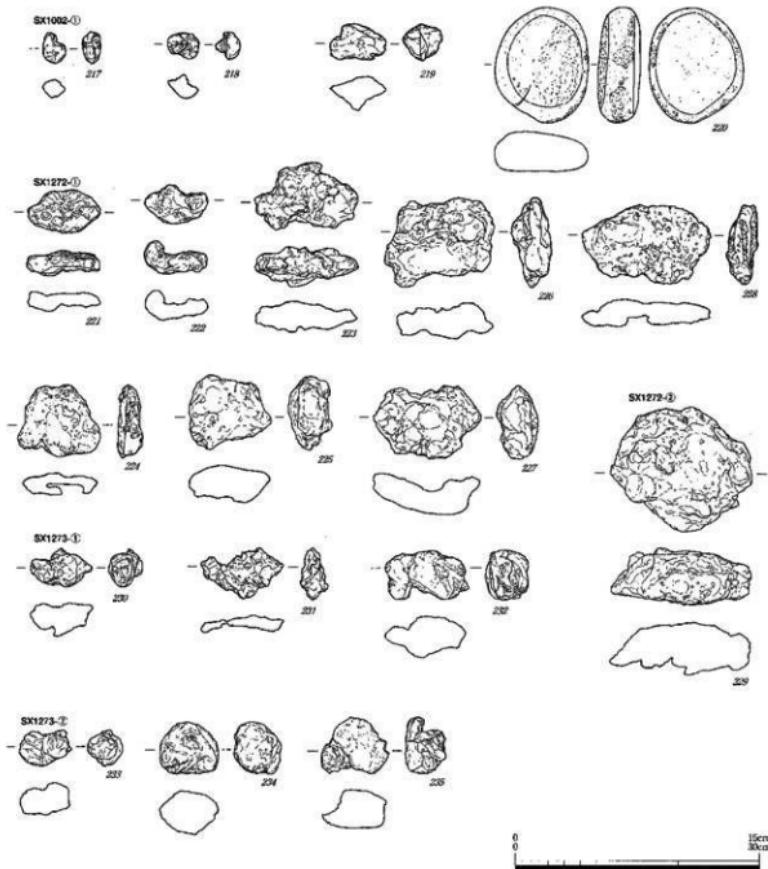
1273-②号鍛冶関連遺構 (S X1273-②、第134図、図版78)

233～235は鉄滓である。

C 中世後期

溝

03号溝 (S D03、第135図、図版63・64・66・79)



第134図 遺物実測図 (217~219, 221~235 1/3, 220 1/6)

SX1002-① (217~220) SX1272-① (221~228) SX1272-② (229)

SX1273-① (230~232) SX1273-② (233~235)

236~249はS D03から出土した遺物である。236~240は中世土師器の皿である。236は器厚はやや厚く、平らな底部から緩く内湾し立ち上がる。237は器厚はやや厚めで体部は直線的に開く。238も体部は直線的に開くが器厚は薄い。239・240は煤が付着している。241・242は青磁の碗である。241は外面が鶴状のもので施文されている。太宰府分類の同安窯系の碗I-1・b類に相当する。242は外縁に刺頭がなく細線のみが描かれるもので16世紀の製品である。243~247は珠洲で243は叩き壺の口縁でI期である。244は壺の口縁でI 2期である。245は鉢でIV期以降。246も鉢で口縁端部は平坦面が内傾し、波状文が入るものでV期以降。247は鉢の底部である。248は八尾の甕の底部である。249は砥石で使用面は2面みられる。

96号溝 (S D96、第135図)

250は珠洲の鉢である。

119号溝 (S D119、第135図、図版64)

251は珠洲の鉢である。I期の製品である。

121号溝 (S D121、第135図)

252は土師器の坏である。

125号溝 (S D125、第135図)

253は中世土師器の皿である。非クロコ成形で口縁端部はやや尖る。

134号溝 (S D134、第135図)

254は須恵器の坏である。受部は短く断面は四角である。6世紀後半の製品。

2034号溝 (S D2034、第135図、図版79)

255~258はS D2034から出土した遺物である。255は中世土師器の皿である。非クロコ成形で、平らな底部から直立するコースター型である。口縁端部は断面が三角形で内側にやや平坦な面を持つ。256・257は珠洲の鉢で、ともにIV期である。258は視である。

2139号溝 (S D2139、第136図、図版64)

259~261はS D2139から出土した遺物である。259・260は珠洲の鉢である。259はIV期以降で包含層出土のものと接合する。260は底部でS D2140出土、包含層出土のものと接合する。261は石製品で用途は不明。

2140号溝 (S D2140、第136図)

262は中世土師器の皿である。非クロコ成形で体部から口縁部にかけて直線的にのびる。

2164号溝 (S D2164、第136図、図版66)

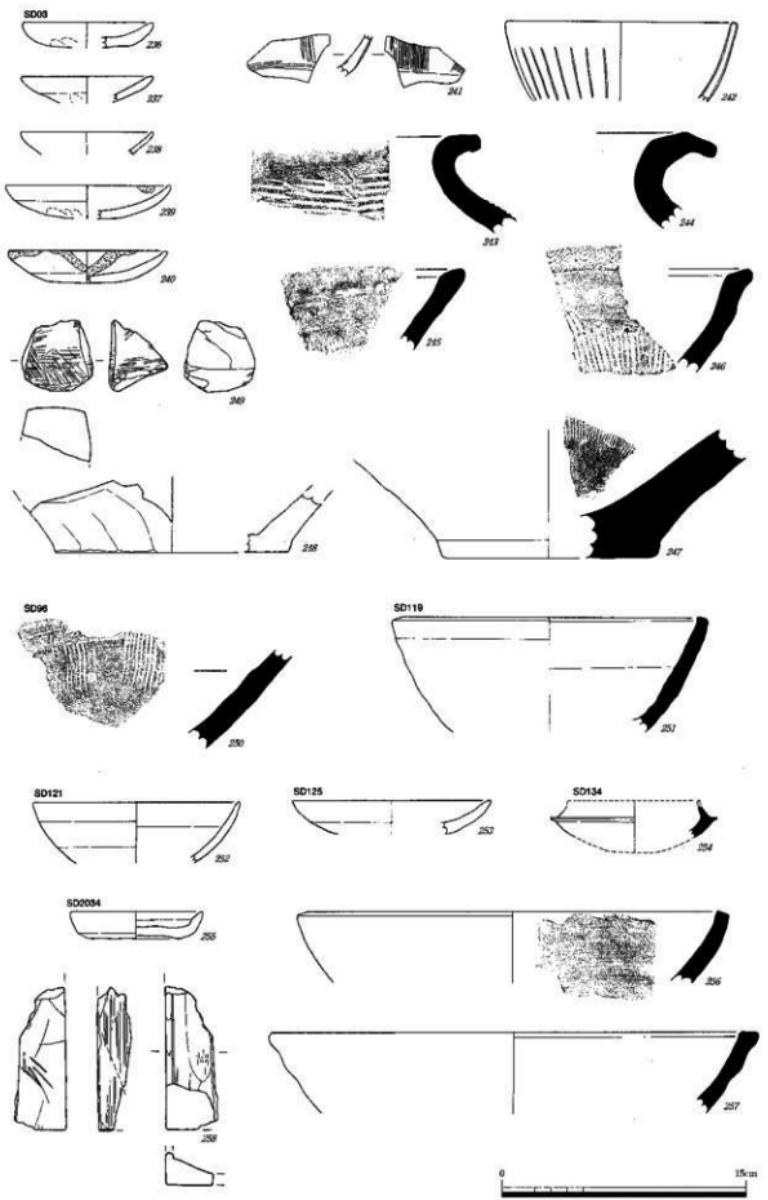
263~265はS D2164から出土した遺物である。263・264は非クロコ成形の中世土師器の皿である。263は小型で器厚は薄くわずかに内湾しながら立ち上がる。264は器厚は厚く大型である。265は青磁の碗で見込みに「干」の字がみられる。

2165号溝 (S D2165、第136図)

266は中世土師器の皿である。非クロコ成形で器厚は薄く緩く内湾し、端部は丸い。内外面の口縁部に煤が付着している。

2250号溝 (S D2250、第136図、図版59)

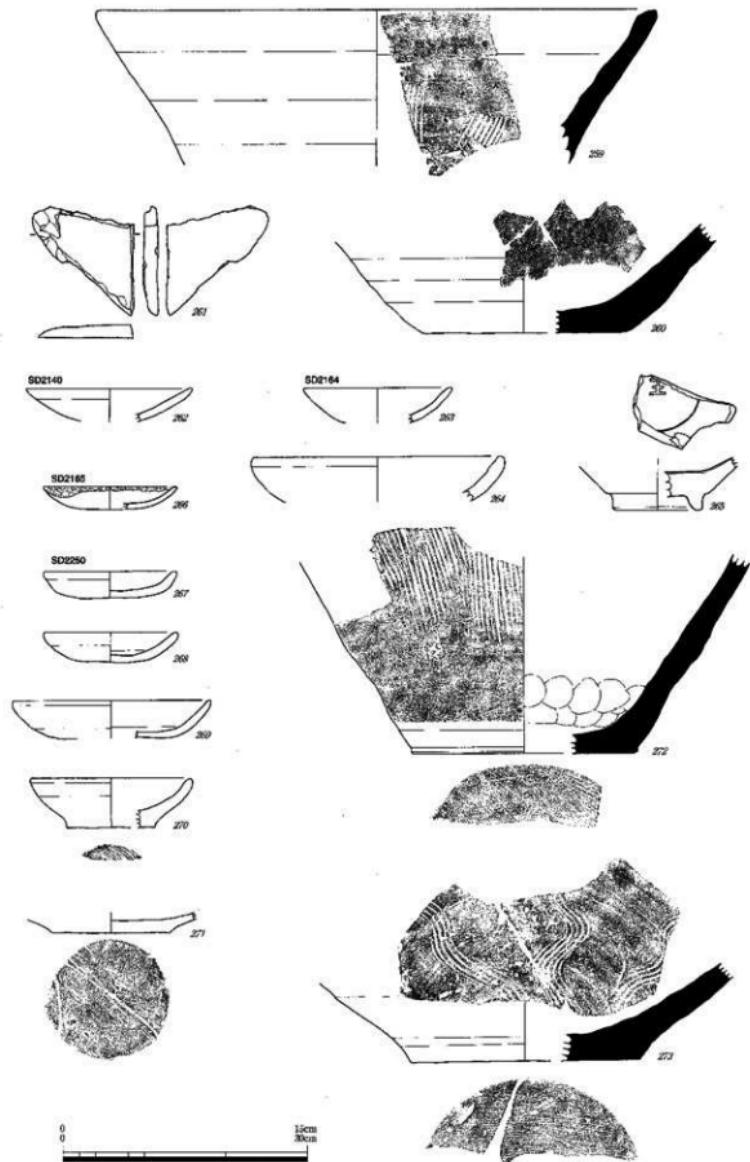
267~273はS D2250から出土した遺物である。267~271は中世土師器の皿である。267・268は非クロコ成形で体部にナデを施し、口縁端部に面取りをしている。269も非クロコ成形である。中型で器厚は薄く平らな底部から直線的に体部がのびる。270はロクロ成形で厚い底部から内湾し口縁にのび



第135図 遺物実測図 (1/3)

SD03 (236~249) SD96 (250) SD119 (251) SD121 (252) SD125 (253) SD134 (254)
SD2034 (255~258)

SD2139



第136図 遺物実測図 (259・260・262~273 1/3, 261 1/6)

SD2139 (259~261) SD2140 (262) SD2164 (263~265) SD2165 (266) SD2250 (267~273)

るタイプである。271もロクロ成形で底部に回転糸切り痕がみられる。272は珠洲の壺である。273は珠洲の鉢で卸口は曲線である。底部には静止糸切り痕が残る。II期の製品である。

2251号溝（S D2251、第137～142図、図版59・61・63・68～75・79）

274～379はS D2251から出土した遺物である。274～289は中世土師器の皿である。274～282は非ロクロ成形である。274は底部は丸く体部を弱くナデ、口縁端部を面取りしている。275は底部は平らで体部を強くナデ、口縁端部を面取りしている。276は平らな底部から短い立ち上がりでコースター型である。277は丸い底部から直線的に口縁にのびている。器厚は薄く、口縁端部はやや尖る。278～280は器厚が厚く口縁端部は丸い。281は器厚は厚く体部にやや強いナデを施している。283～289はロクロ成形である。283・284・287は底部から直立または斜めに立ち上がってから体部へのびる高台風のものがみられる。290～295は珠洲である。290は壺の胴部である。291～294は壺の口縁部で291・292はI期、293・294はI期～II期である。295は鉢でI期である。296～377は木製品である。296～301は漆器である。296～298は皿、299～301は椀ですべて内外面とも黒漆である。文様はない。302～304は曲物の底板だと思われる。305～307はへら状のものである。305は一方は平面形が三角でもう一方の先は細くなっている。三角形の方では途中で厚さが薄くなっている。斎串である可能性もある。308～332は板状加工材である。310は板の上部中央に四角い穴が開けられているが、この形は道場I遺跡の井戸の部材でみられる。313～316は折敷などの部材と思われる。313は木釘がみられる。333～348は棒状加工材である。338は端から3cm程のところを半周削り、もう一方の端は細くなっている。一乗谷朝倉氏遺跡では半周削った部分を首に見立て、その上に日と口の切り込みを入れて顔を表現している遺物が出土しているが、338にそのような加工はみられない。349～374は箸である。折れているものが多いが、両端が残っているものの長さは16.5～25.1cmで平均すると約20cmである。375は櫛である。部分的に炭化している。376・377は舟形である。376は長方形に中が削られており底は丸い。船首の下から上に向かって穴が穿ってあるが、貫通はしていない。船尾は折れており、残存長15.4cm、幅2.3cmで船首の一番厚いところで1.5cm、底の厚さは約6mmである。377は上面は平らで中は削られていないが船首近くと船尾近くに横線が一本ずつ引かれており、削る際の目安としてつけたものと思われる。断面の形は上面も底も平らであるため四角である。これも船尾は折れており、残存長25.6cm、幅3.6cm、厚さ2.2cmである。378・379は砥石である。

井戸

04号井戸（S E04、第143図）

380～383はS E04から出土した遺物である。380は珠洲の壺である。S D03出土のものと接合する。381～383は曲物である。同一個体と思われる。

23号井戸（S E23、第143図）

384は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、体部に弱いナデを施している。口縁はやや立ち上がるが面取りはされていない。

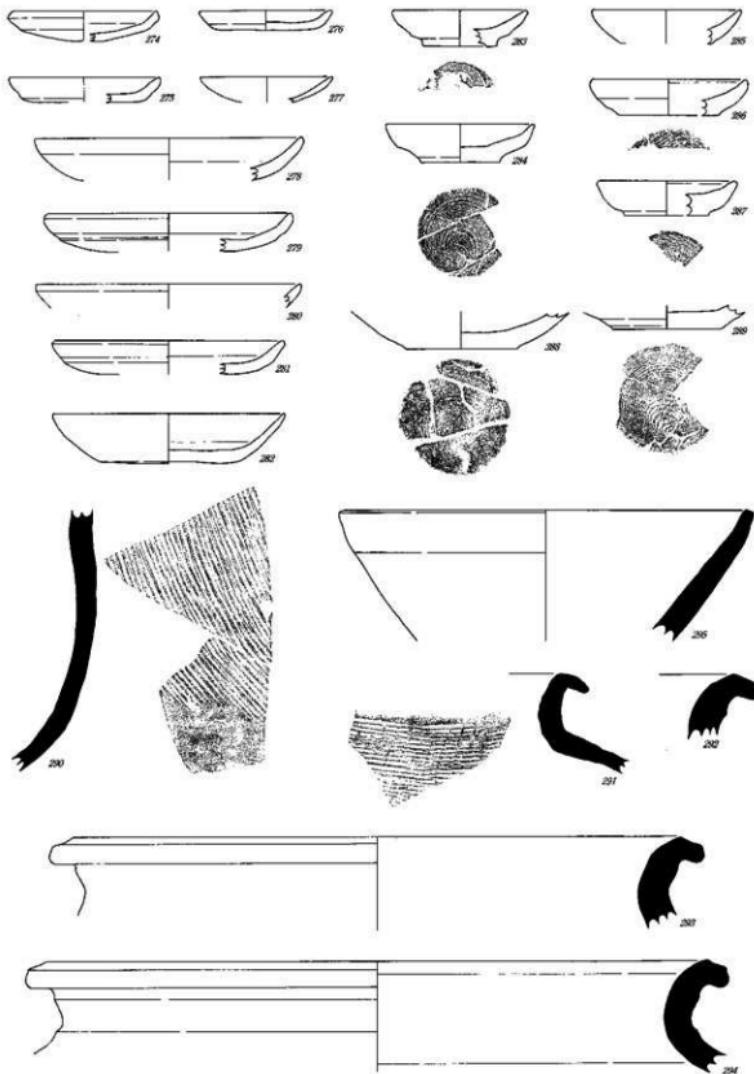
133号井戸（S E133、第143図、図版64）

385～387はS E133から出土した遺物である。385は珠洲の鉢である。卸口は直線と曲線のものがみられる。386・387は曲物である。同一個体と思われる。

2100号井戸（S E2100、第143図、図版63）

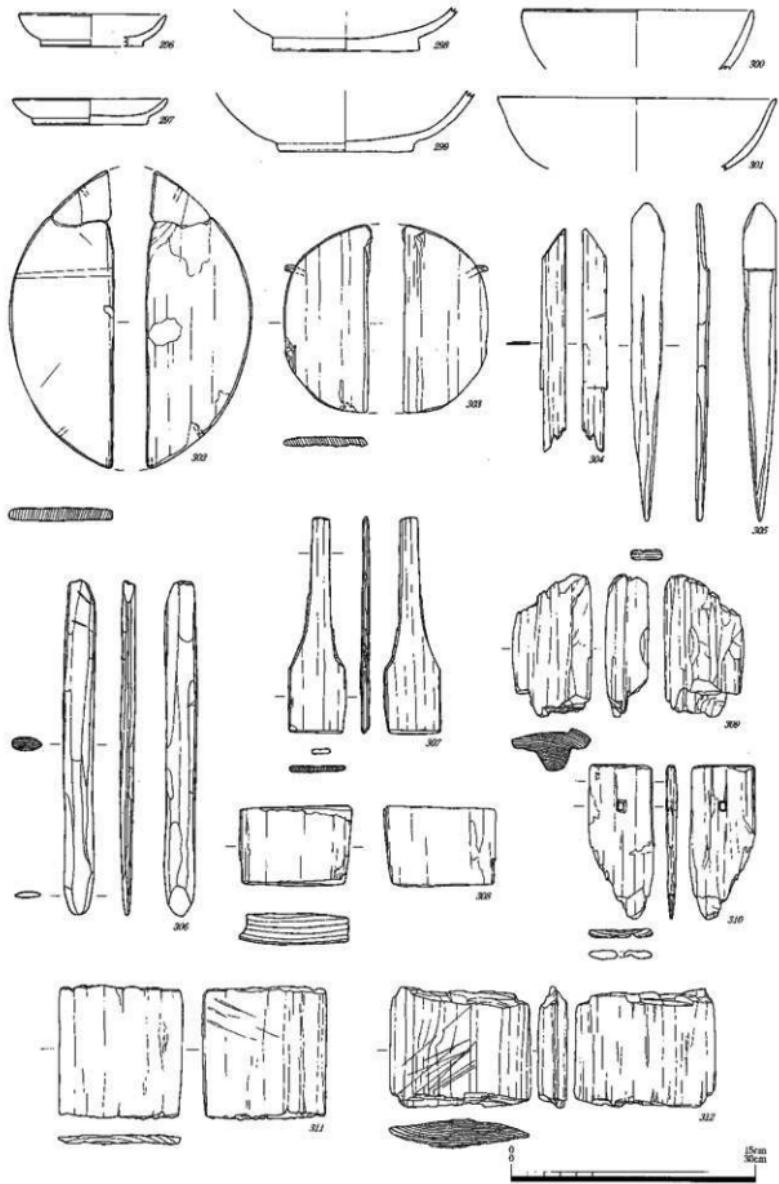
388・389はS E2100から出土した遺物である。388は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、口縁端部はやや尖る。口縁部の内外面に煤が付着する。389は珠洲の壺である。

SD2251

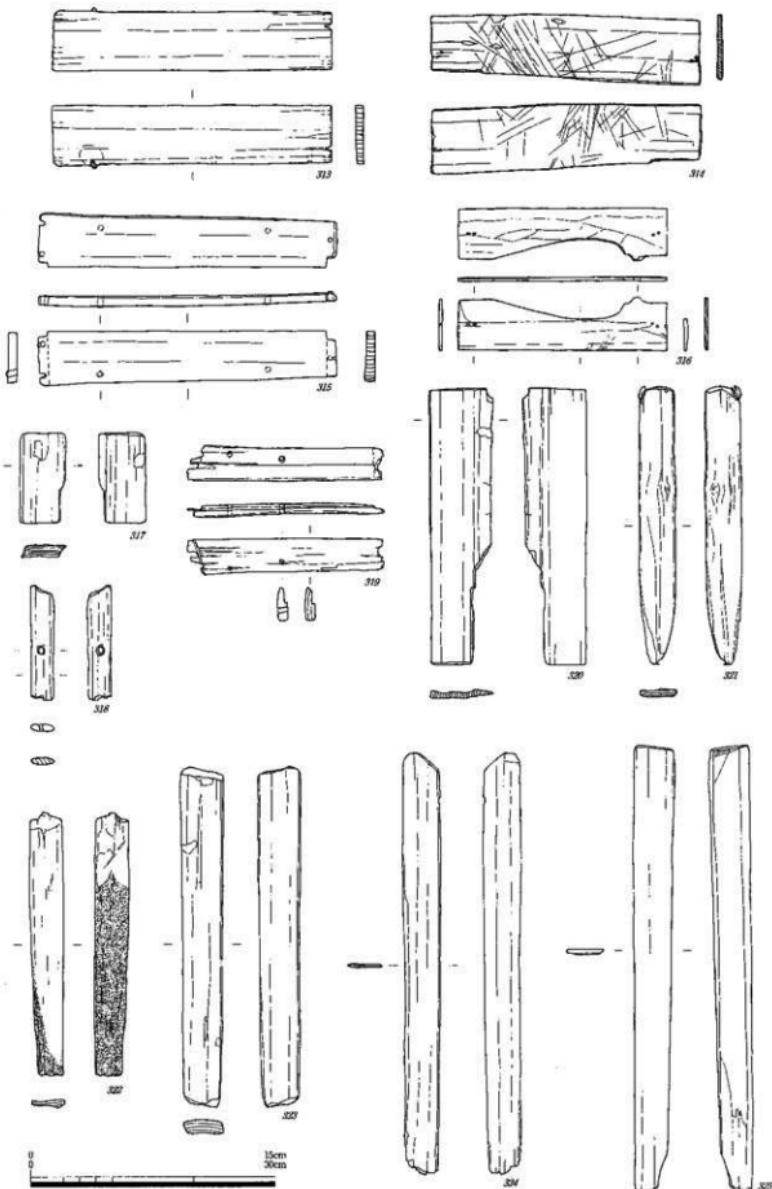


第137図 遺物実測図 (1/3)

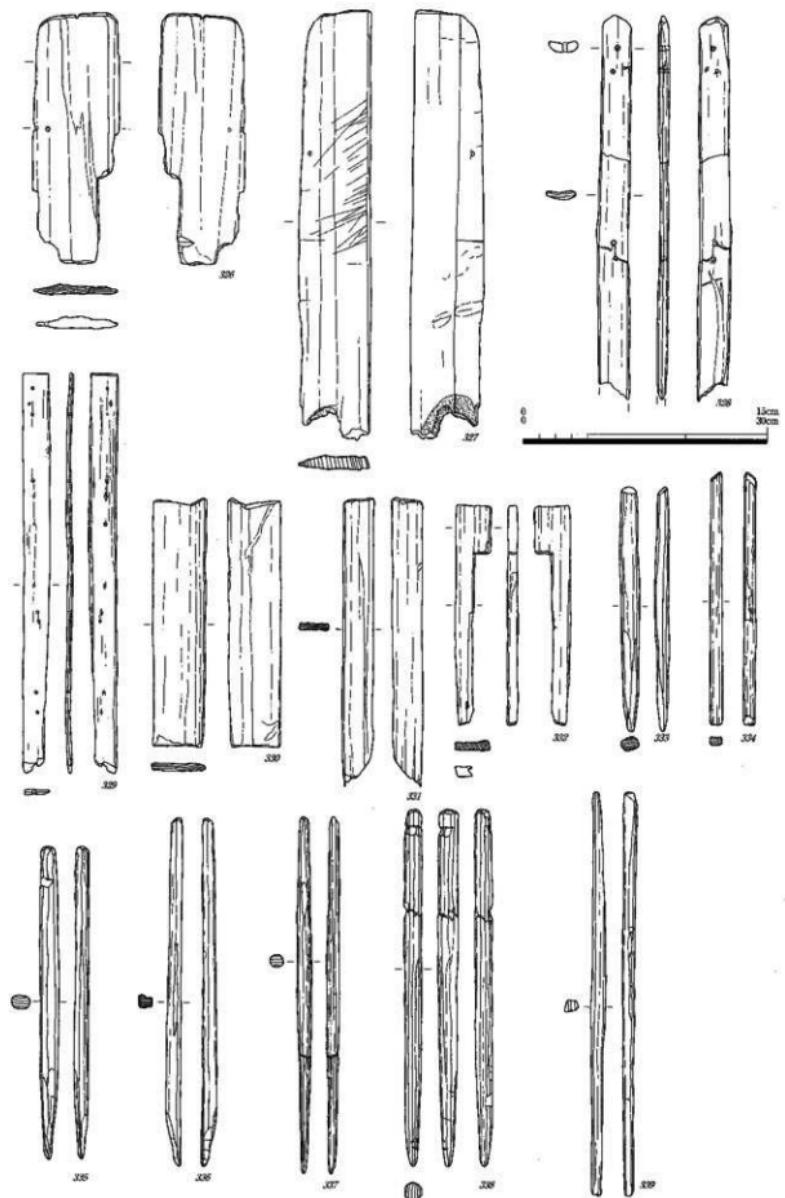
SD2251 (274~294)



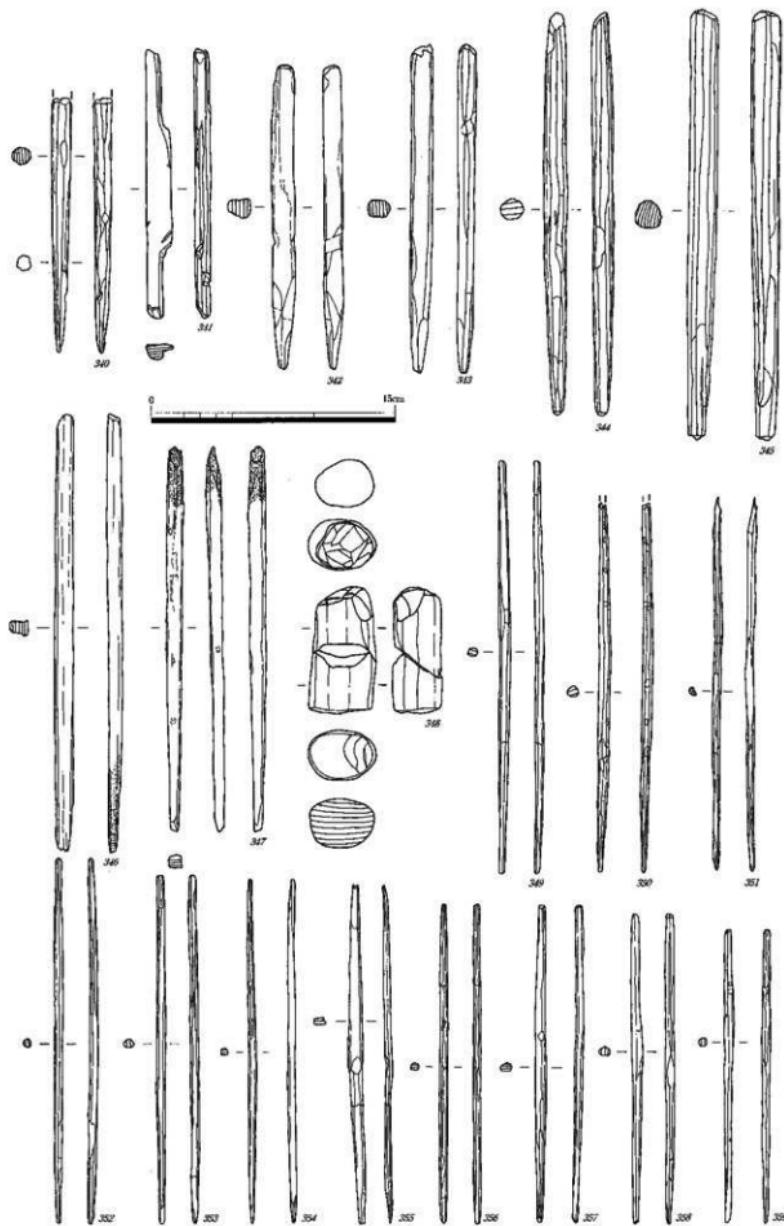
第138図 遺物実測図 (296~306・308 1/3, 307・309~312 1/6)
SD2251 (296~312)



第139図 遺物実測図 (313・315・317~325 1/3, 314・316 1/6)
SD2251 (313~325)

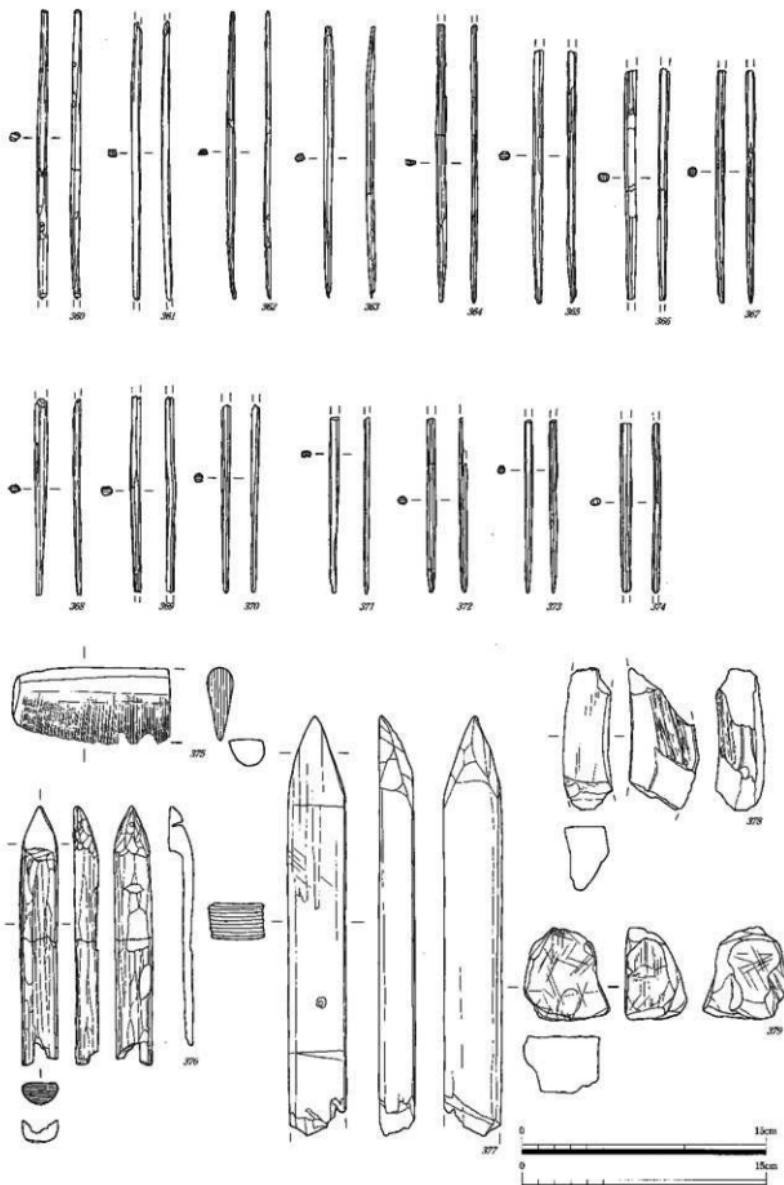


第140図 遺物実測図 (326~328 1/3, 329~339 1/6)
SD2251 (326~339)

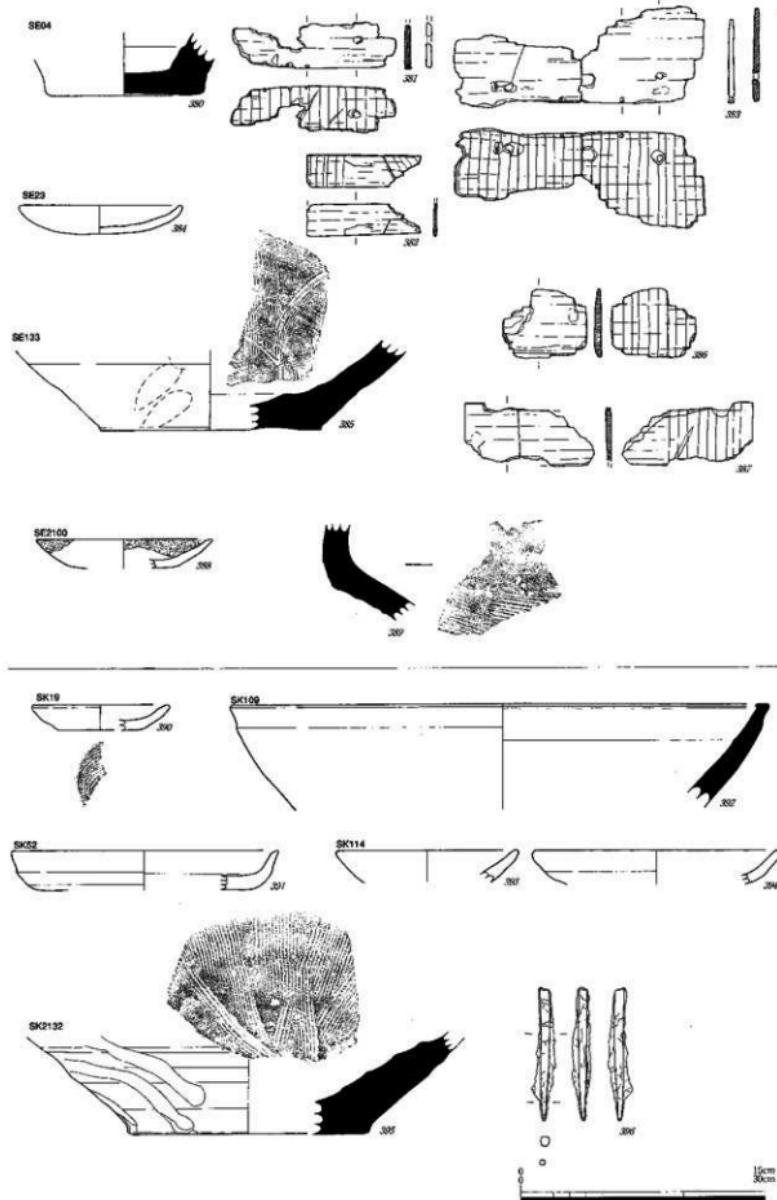


第141図 遺物実測図 (1/3)

SD2251 (340~359)



第142図 遺物実測図 (375 1/1, 360~374・376~379 1/3)
SD2251 (360~379)



第143図 遺物実測図 (380・384・385・388~396 1/3, 381~383・386・387 1/6)

SE04 (380~383) SH23 (384) SR133 (385~387) SE2100 (388~389) SK19 (390)
SK52 (391) SK109 (392) SK114 (393~394) SK2132 (395~396)

土坑

19号土坑 (SK19、第143図)

390は中世土師器の皿である。ロクロ成形で底部には回転糸切り痕が残る。

52号土坑 (SK52、第143図)

391は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で体部に強いナデを施し屈曲させ、口縁端部はやや尖っている。底部は器厚が厚く平らである。

109号土坑 (SK109、第143図)

392は珠洲の鉢である。I期の製品である。

114号土坑 (SK114、第143図)

393・394は中世土師器の皿である。393は器厚が厚く体部から口縁部まで直線的で口縁端部は丸い。

423は体部にやや強いナデを施している。口縁端部は丸い。

2132号土坑 (SK2132、第143図、図版64・76)

395・396はSK2132から出土した遺物である。395は珠洲の鉢である。卸目は稠密である。外面は取り上げ指頭痕が目立つ。396は釘状の金属製品である。断面は四角い。

2133号土坑 (SK2133、第144図)

397は中世土師器の皿である。非ロクロ成形で器厚は薄く、体部は平らな底部から直線的に伸びる。口縁端部はやや尖る。

2135号土坑 (SK2135、第144図)

398は石製品で、一部被熱している部分があり暖房具であった可能性がある。

2136号土坑 (SK2136、第144図)

399は珠洲の擂鉢である。卸目が稠密であるためIV期以降の製品であると思われる。

2145号土坑 (SK2145、第144図)

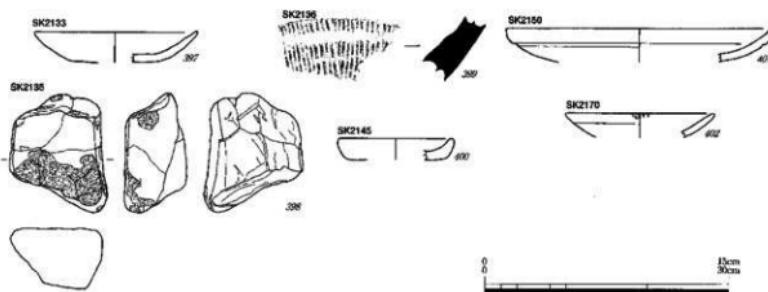
400は中世土師器の皿である。器厚は厚く平らな底部から短く立ち上がり、口縁端部は丸い。

2150号土坑 (SK2150、第144図)

401は中世土師器の皿である。器厚は薄く、口縁端部はつまみ上げられ、面取りが施されている。内面には板状の工具によるハケメがあり、外面には沈線が一本みられる。

2170号土坑 (SK2170、第144図)

402は中世土師器の皿である。器厚は薄く体部から口縁部は直線的で、口縁端部はやや尖る。口縁



第144図 遺物実測図 (397・399~402 1/3, 398 1/6)

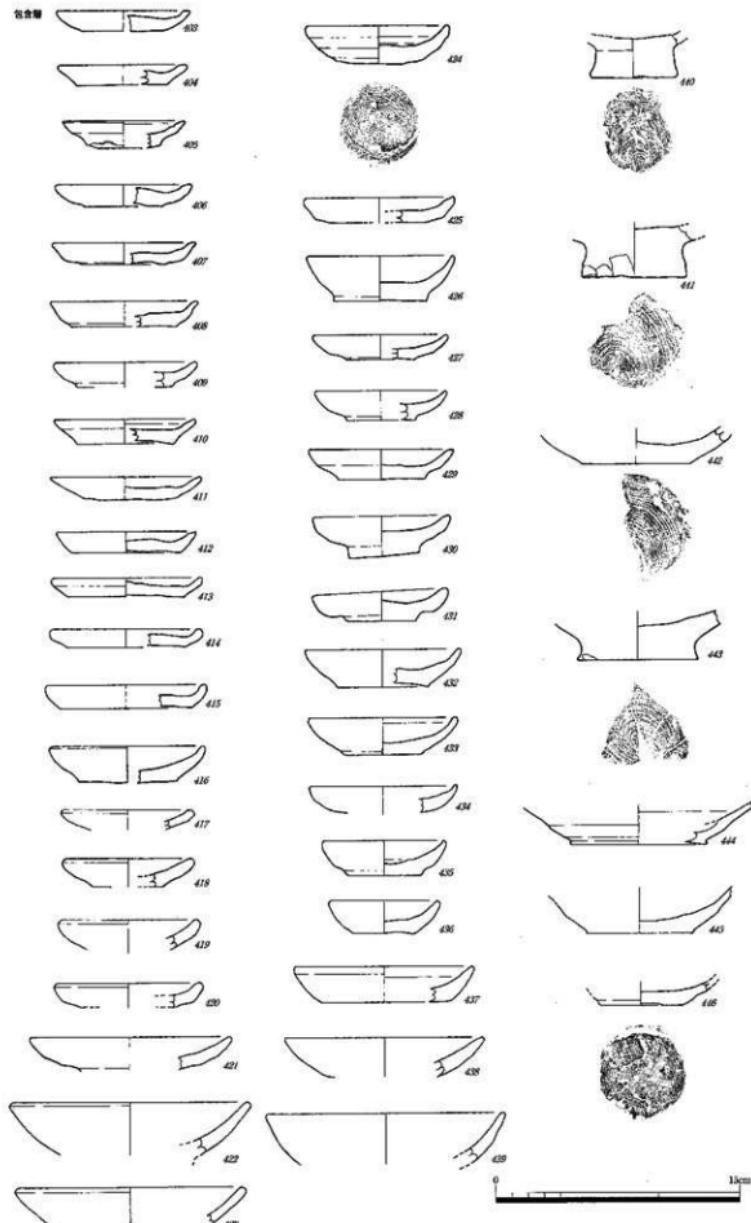
SK2133 (397) SK2135 (398) SK2136 (399) SK2145 (400) SK2150 (401)
SK2170 (402)

の内外面に煤が付着している。

包含層（第145～154図、図版60～64・66・76～79）

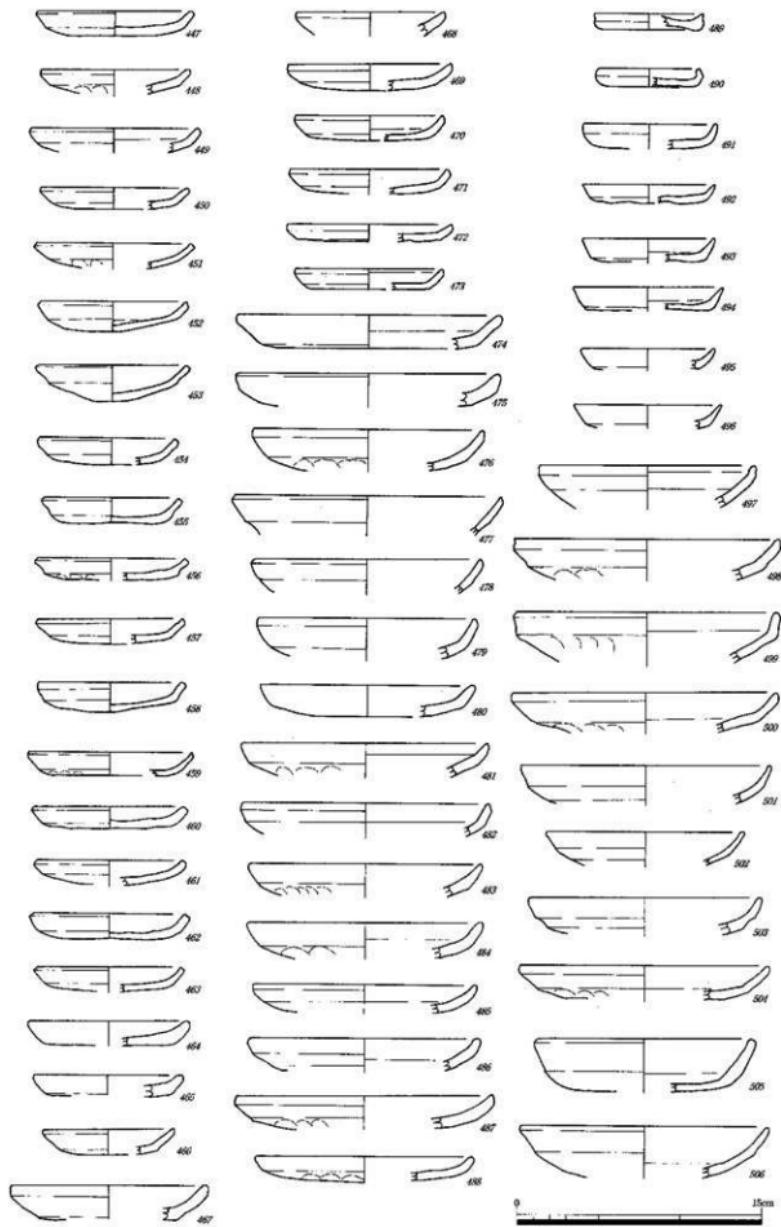
包含層の遺物は中世前期・後期を一括して記載する。

403～446はロクロ成形の中世土師器の皿である。403～407は厚い底部から体部がのび、口縁端部は内傾する面取りを施すタイプである。底部と体部の境が高台風に立ち上がる405と、そのままななめに伸びる403の様なタイプに細分できる。408～412は体部の立ち上がりが短く、やや外反している。413～415は408～412よりもさらに体部の立ち上がりが短い。416～423は口縁端部を外傾に面取りし、断面が四角くなる。体部内面はやや内弯している。体部に比ベ口縁端部の器厚がやや薄くなる416・421～423と、厚いままの417～420がある。424は体部のナデが強く、口縁端部が丸い。425は体部のナデは強いが424より立ち上がりが短い。426～432は底部から体部への立ち上がりがややみられ、体部は緩く内弯しながら伸び、口縁端部は丸く仕上げている。434・435は口縁端部をつまみ上げるタイプである。436～439は厚い体部から口縁部にむかって先細りしている。440・441は底部しか残存していないが、柱状の高台をもつものである。447～561は非ロクロ成形の中世土師器の皿である。447～480は体部にナデを施し、口縁端部に面取りをするものである。489～496は底部は平らで体部の立ち上がりが短いタイプである。直立するもの（489・491）、内傾するもの（490）、外傾するもの（492～496）がある。497・498は体部にナデを施し、口縁端部をつまみ上げるタイプである。505・506は深さが深く、碗のような形である。507～516は底部が丸く体部に強いナデを施し屈曲させている。517～520は器厚が比較的薄く、体部にナデによる屈曲がやや認められるタイプ。521～528は器厚が厚く、底部から口縁部へ緩く内弯している。529～533は器厚が薄く、底部から口縁部へ直線的にのび、口縁端部がやや尖るタイプである。529・530は口縁部分に煤が付着している。534～545は529～533よりも体部が内弯し、底部が平らになる。536・537・539・542・544・545の口縁部内外面には煤が付着している。549～554は丸い底部で腕形である。555・556・560は口縁部を外反させるタイプ。557～559・561は口縁部を外反させ、端部をつまみ上げるタイプである。558には外面に煤が付着している。562～564はロクロ成形の中世土師器の皿である。562は口縁端部内側を面取りしている。563は体部から口縁部までの器厚は厚く、口縁端部を丸く仕上げている。564は体部から口縁部にむかって先細りするタイプである。口縁部外面に煤が付着している。565・566は瀬戸美濃である。565は荷腰型の香炉である。三足が付き、底部には糸切り痕が残る。566は底部のみしかない。三足が付いており、緑釉がかかっている。釉が内面中心にかかっていないため、香炉であると思われる。567～572は白磁である。567～571は碗である。567は内面に4カ所の重ね焼き痕がみられる。568～570は太宰府分類のV類で口縁は外反している。568・569は内面体部に沈線が入れられている。572は皿である。底部はやや上げ底である。573～583は青磁である。573～581は碗である。573は龍泉窯系で2本の沈線によって体部内面を5分割し、その中に飛雲文を描く、太宰府分類のI～4類である。575は龍泉窯系で太宰府分類のI～2類である。576～578は口縁が外反している。579は見込みに草花文が描かれる。581は片彫りで文様を描いている。582・583は皿である。582は龍泉窯系で見込みに櫛状のもので文様が描かれている。583は同安窯系でやはり櫛状のものでジグザグ文様が描かれている。584～610は洲焼である。584～591は壺である。584はT種の口縁で漆接ぎがみられる。I期。586は胴部でヘラ焼きがされている。587はV期の製品で肩部に波状文が施されている。588はT種でI2期。589もT種でI2期の製品である。590は肩部に波状文が施され、その上部には耳がとれた痕がある。I～II期の製品である。591は胴部から底部である。E1地区の包含層出土のものとE2地区包含層、S1424覆土出土のもの

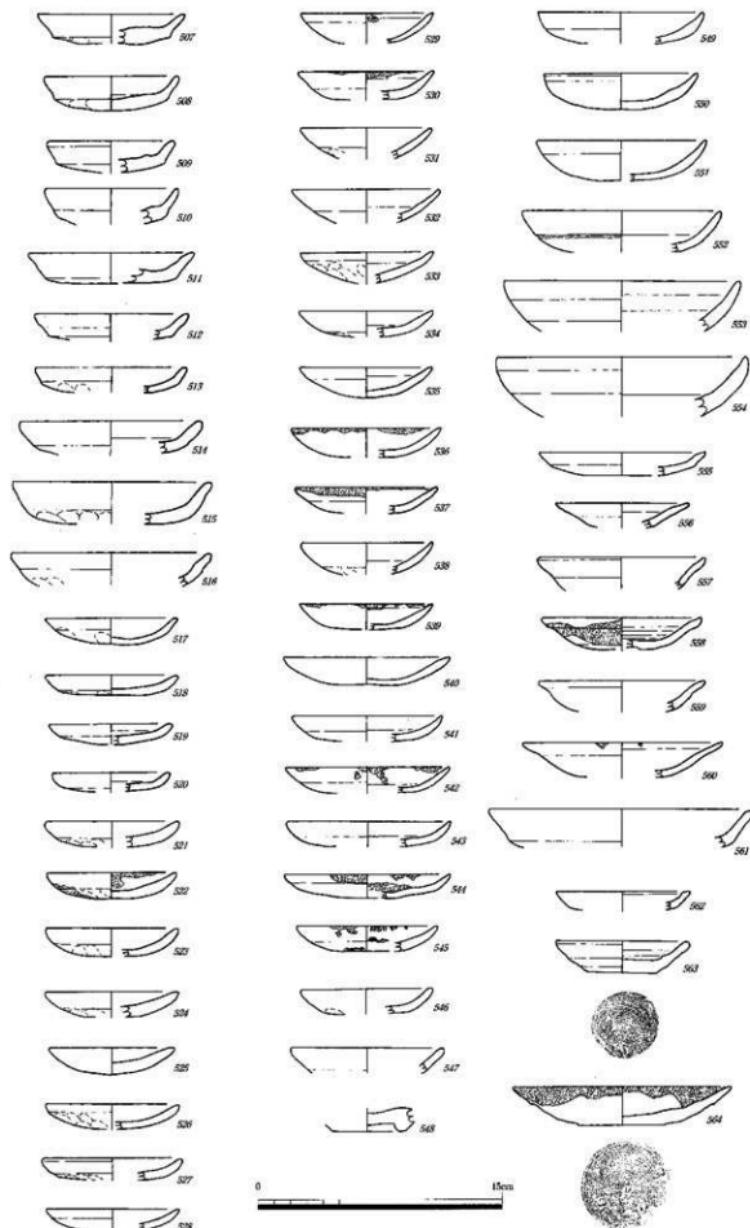


第145図 遺物実測図 (1/3)

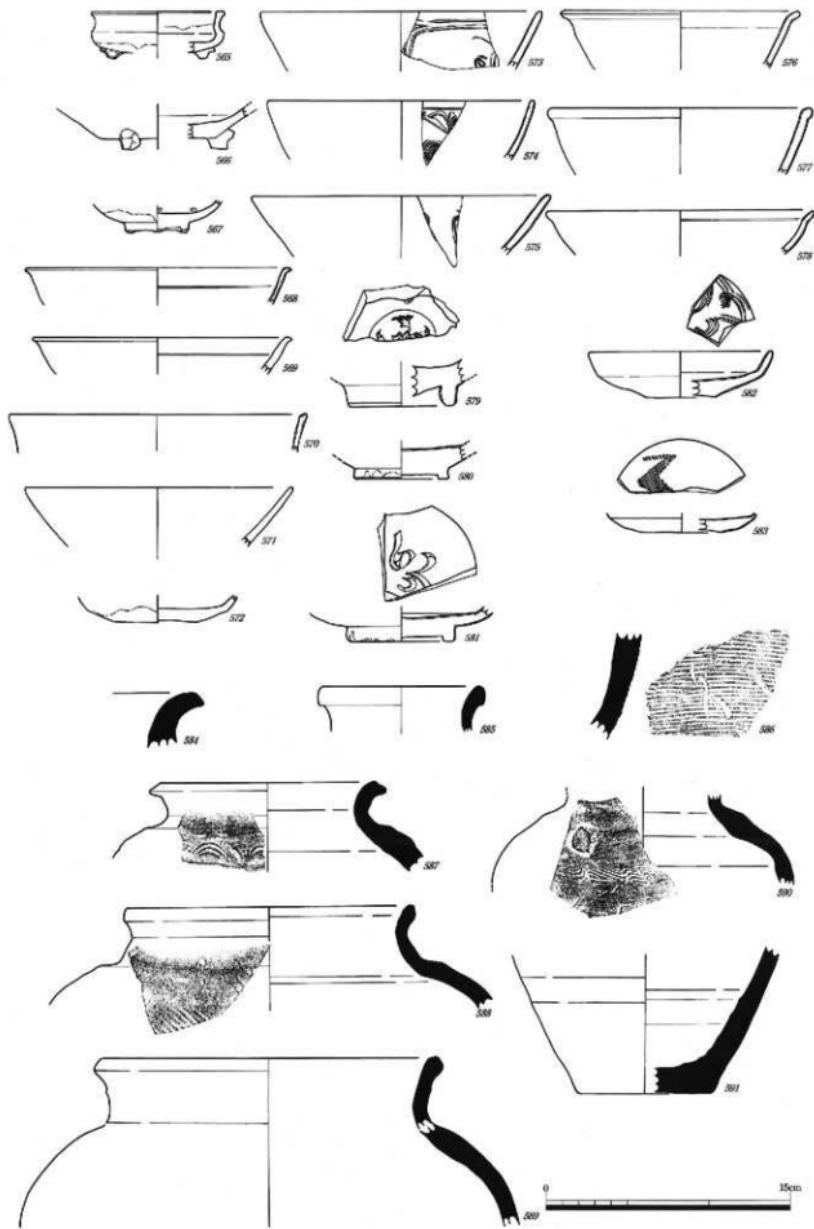
包含層



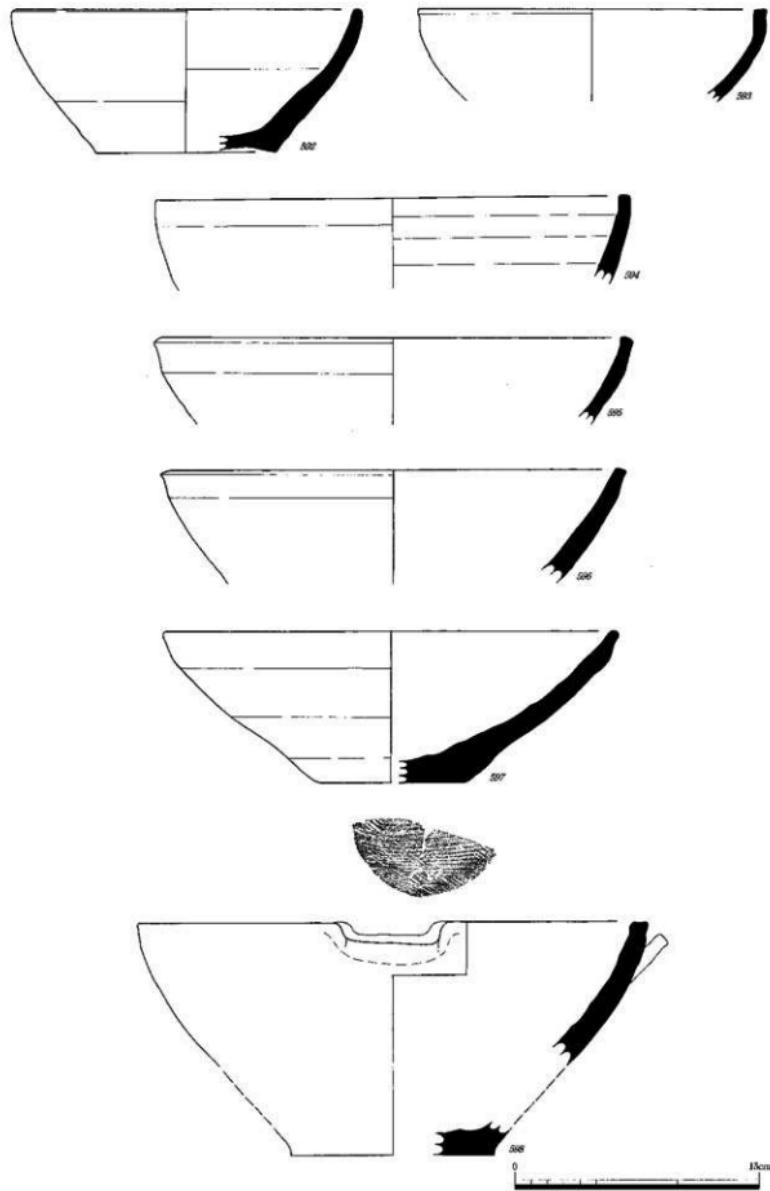
第146図 遺物実測図 (1/3)
包含層



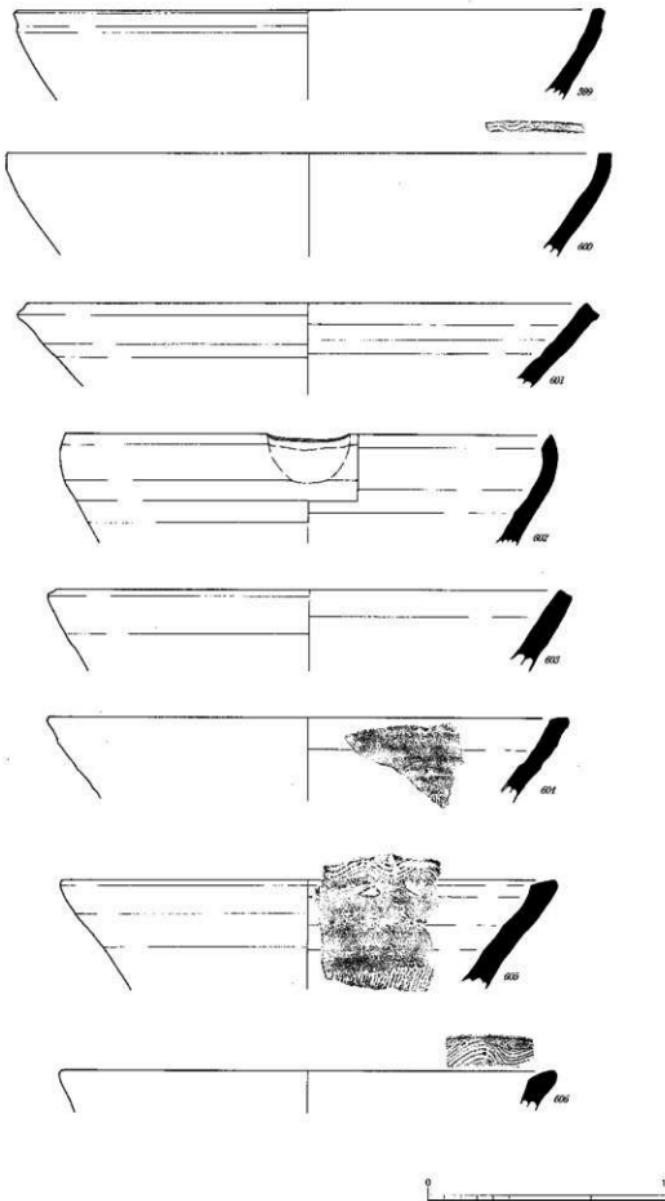
第147図 遺物実測図 (1/3)
包含層



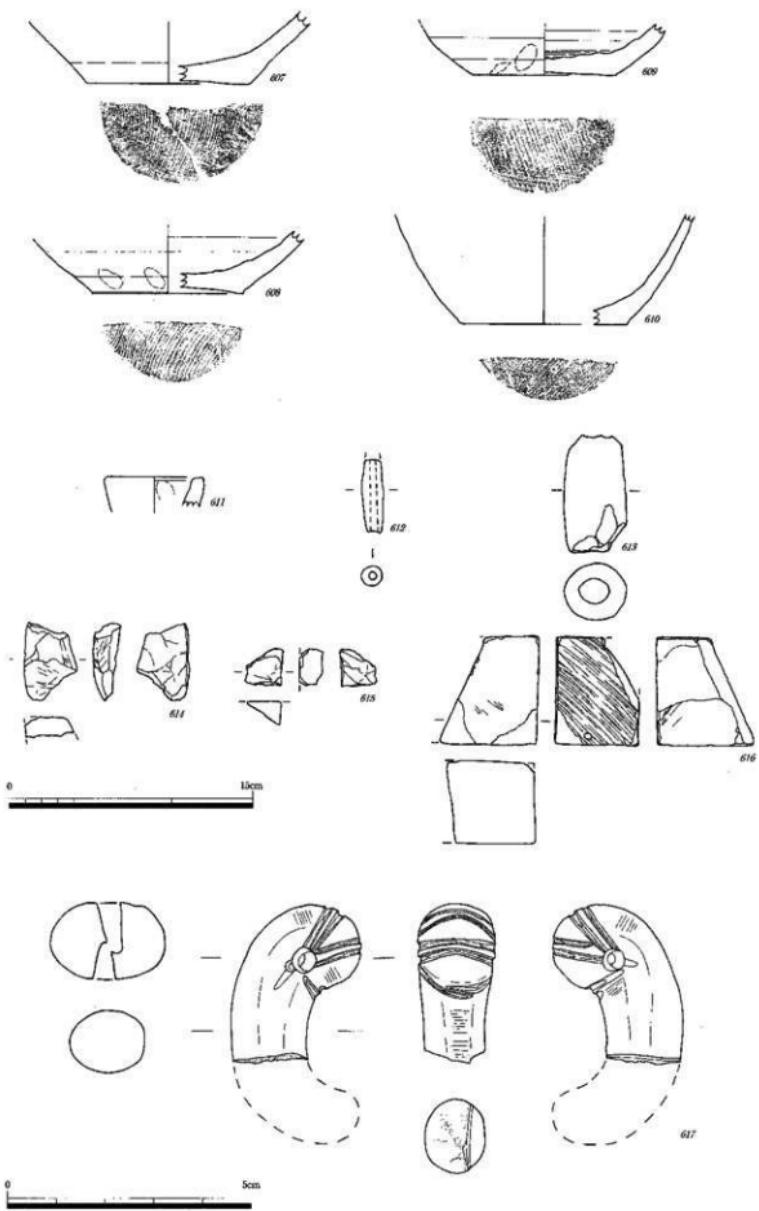
第148図 遺物実測図 (1/3)
包含層



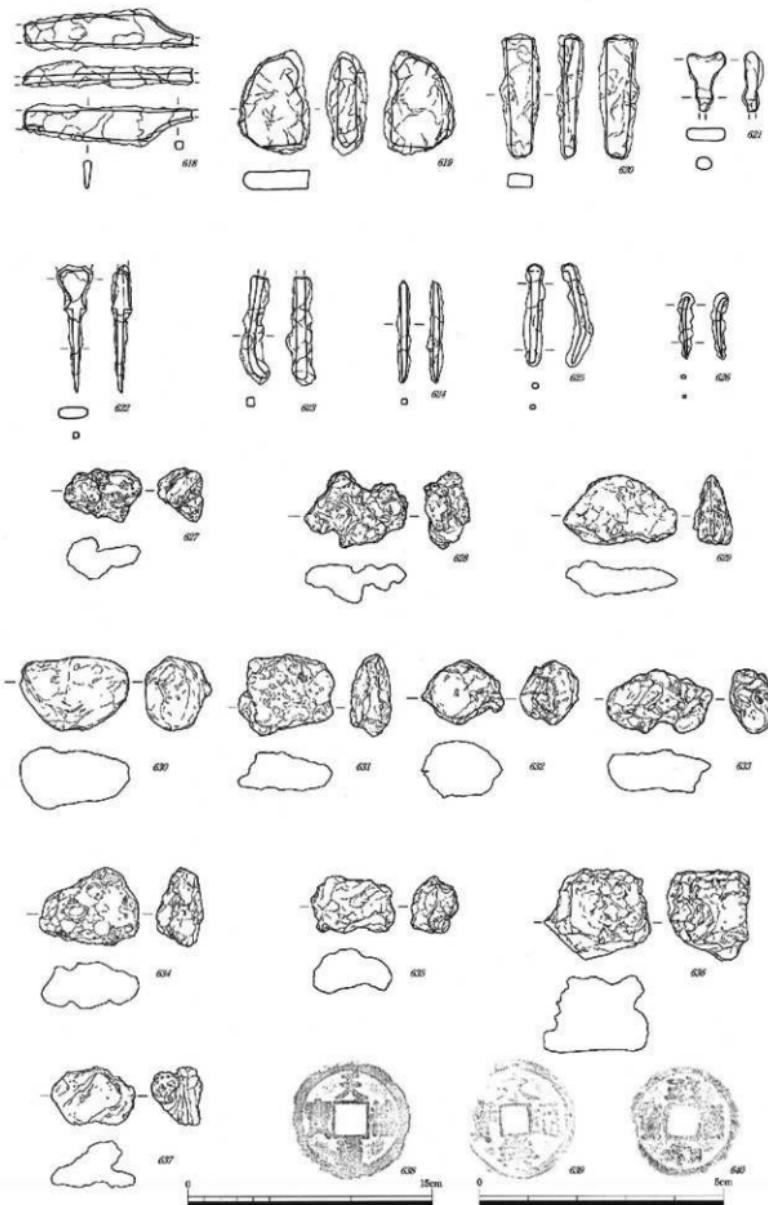
第149図 遺物実測図 (1/3)
包含層



第150図 遺物実測図 (1/3)
包含層



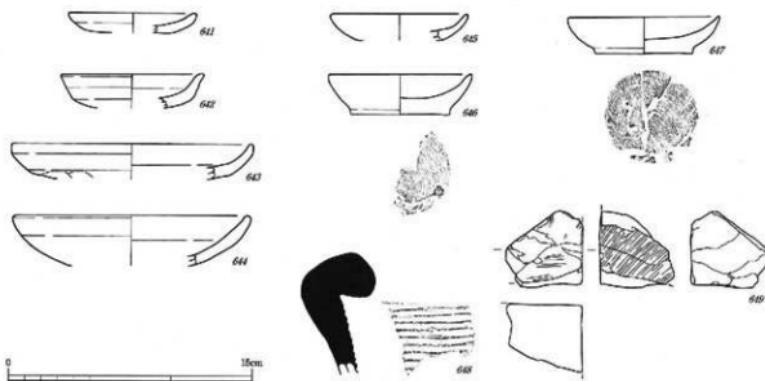
第151図 遺物実測図 (617 1/1, 607~616 1/3)
包含層



第152図 遺物実測図 (638~640 1/1, 618~637 1/3)

包含層

が接合している。592～610は鉢である。592～595はⅠ期の製品で内面に卸目はない。592は口縁端部が方形で角がやや丸い。593は口縁が直立し、端部はやや外側に突出した方形で水平である。594も口縁は直立し、端部は方形で水平である。595は口縁端部が内側に突出した方形で外傾である。596はⅠ～Ⅱ期で内面に卸目ではなく、口縁端部は方形で外傾している。597はⅡ～Ⅲ期で内面に卸目ではなく、口縁端部は外側がやや細くなる方形である。598は片口が付いている。厚手で内側にやや突出する口縁端部は水平である。599も内面に卸目がなく、口縁端部は水平である。器壁は口縁で段をつけ、体部よりも薄くしている。600も内面に卸目がなく、口縁端部は方形で水平である。水平部分には波状文が入る。601はⅢ期で口縁端部は方形で外側がやや突出し、外傾している。602は片口鉢で片口周辺しか口縁部が残っていないため、図では口縁部が内湾している。603は口縁端部は方形で外傾している。Ⅲ～Ⅳ期である。604は内面に卸目がみられ、口縁端部は外面が突出する方形で水平である。Ⅳ期である。605は口縁は三角頭で内傾しており、そこに波状文がつけられている。V期である。606も内傾した口縁部に波状文がつけられている。V期以降の製品である。611は製塙土器である。口縁端部は方形でやや内傾している。色調は橙色で胎土には長石が含まれる。肌あれは内外面にみられる。612・613は土錘である。612は細いタイプ、613は太いタイプである。614～616は砥石である。617は丁字頭勾玉である。緑色の硬玉製である。2本1セットで頭部4本、頸部2本の溝が彫り込まれている。穿孔は通ってはいるが、両側から施されておりずれている。固い材質のためか穿孔する際、穴が定まらずにできたと思われる浅い穴が横にみられる。先の部分は擦り切りで切り込みがいれられ、折られている。折られた先は他の装飾具に転用されたのであろうか。残存長は3.2cm、20.1gである。全長は推定5cmで、大型の部類に属する。SD137東の中世包含層の出土であるが、古墳時代の製品である。618～640は金属製品である。618は刀子である。619は鍋と思われる。620は板状であるが、くさびのようなものであろうか。621・622は鎌である。623～626は釘である。627～637は鉄滓である。638～640は鎌である。638は天禧通寶で初鋤は1017年である。639は永樂通寶で初鋤は1587年である。640は政和通寶で初鋤は1111年である。639と640は重なって出土した。641～649は層位不明の包含層出土遺物である。641～647は中世土師器の皿である。641～644は非ロクロ成形である。641は器厚が厚く立ち上がりが短い。口縁端部は丸く仕上げている。642は器厚は厚く体部に強いナデを施し屈曲させている。643は641の大きいタイプである。644は器厚が厚く底部から口縁部までやや内湾しながら



第153図 遺物実測図 (1/3)

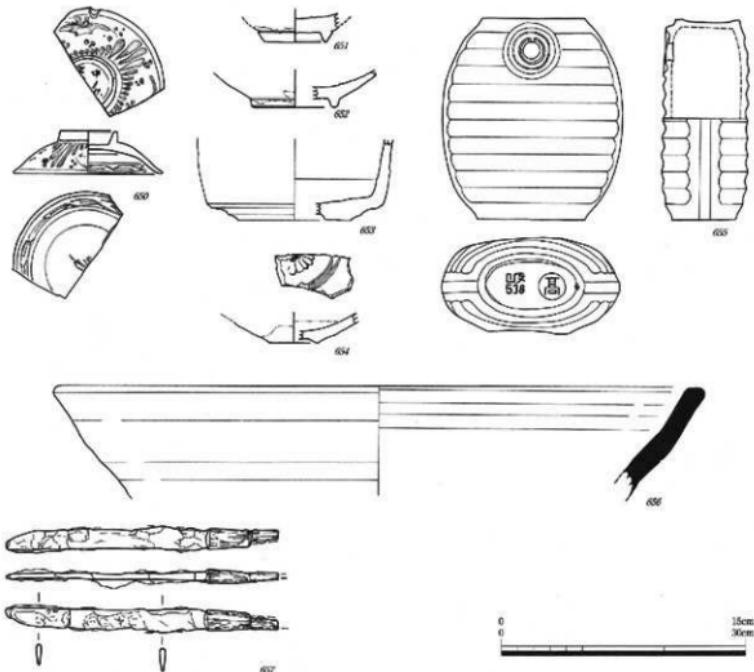
包含層

ら伸びる。口縁端部は丸く仕上げている。645～647はロクロ成形である。645は器厚は薄く、底部から口縁部へ内窓しながら伸びる。646・647は底部から一度上に立ち上がり、体部から口縁部へと伸びる。器厚は体部の厚さに比べ口縁部では薄くなり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。648は珠洲の甕である。IV期の製品である。649は砥石である。

D 近世・近現代（第154図）

近世・近現代の遺物はおもにF 1地区の遺構と包含層、E 2地区S B19北の擾乱から出土している。650～653は伊万里である。650は蓋である。内面の縁には横線の間に横鎖線を巡らし、見込みには寿の字が書かれている。外側はつまみを中心にして、花であろうか涙形の文様で菱形が描かれ、菱形の外側にも文様が描かれる。つまみの内側には後から書き加えられた赤色の二行の文字がみられる。右側の一行は中ノ□（名か？）という字が読みとれるため持ち主の住所であろうと思われる。左側の一行为続きの住所か名前を記したのであろうか。652は皿で見込みは蛇の目釉剥ぎが施されている。653は香炉で蛇の目高台である。654は越中瀬戸の皿である。見込みに菊の押印がみられる。655は岐阜産の陶器の湯たんぽでE 2地区的擾乱から出土した。戦時下のものである。656は珠洲の鉢でIV期である。657は金属製品で刀子である。656・657は近現代の溝から出土しているため古い時代のものが紛れ込んだものであると思われる。

（青山 裕子）



第154図 遺物実測図 (650～654, 656・657 1/3, 655 1/6)
包含層

第14表 建物一覧

No.	棟號	桁長(m)	梁高(m)	面積(m ²)	棟方向	方位	柱形式	時代	備考	掛図番号	出版番号
1	1×1			2.4		N-4°-E	側柱	中世前期		79	
2	2×1	3.9	1.9	7.4	東西	N-10°-W	側柱	中世前期		79	
3	2×2?	5.0				N-9°-W	側柱	中世前期		80	
4	3×3?	8.0	7.5			N-9°-W	側柱	中世前期		81	48
5	2×1?	6.0	2.2			N-20°-W	側柱	中世前期		80	58
6	2×1~	4.9	2.9			N-15°-W	側柱	中世前期		82	48
7	2×?	4.9				N-1°-W	側柱	中世前期		82	
8	3×1~	7.5	1.9			N-7°-W	側柱	中世前期		83	48
9	5?×4	11.9	11.3			N-7°-W	側柱	中世前期		84	49・50
10	5×4	11.3	10.3	116.4	東西	N-4°-W	側柱	中世前期		86	49・50
11	3×2?	6.4	4.8			N-6°-W	側柱	中世前期		88	
12	1×1	2.7	2.5	6.8	東西	N-6°-W	側柱	中世前期		88	
13	2×1	4.9	2.2	10.8	東西	N-0°-W	側柱	中世前期		89	
14	2×1	5.8	2.7	16.7	東西	N-2°-E	側柱	中世前期		89	
15	2?×2~	4.2	3.9			N-12°-E	側柱	中世前期		90	
16	2?×1~	4.3	2.1			N-0°-W	側柱	中世前期		90	
17	3×?	6.6				N-22°-W	側柱	中世前期		91	
18	2?×	4.6				N-27°-W	側柱	中世前期		91	
19	3×?	7.8				N-28°-W	側柱	中世後期		107	
20	2?×	4.6				N-24°-W	側柱	中世後期		107	
21	2?×	7.2				N-23°-W	側柱	中世後期		108	
22	2?×1	3.2	3.0			N-8°-W	側柱	中世後期		108	
23	2?×1	4.9	4.3	21.1	南北	N-18°-W	側柱	中世後期		109	
24	3?×2	6.9	4.8	33.1	東西	N-20°-W	側柱	中世後期		110	57

第15表 柱穴一覧 (1)

遺構番号	遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時代	掛図番号	出版番号
SP412	SB04	円	33	27	27		中世前期	79	
SP415	SB04	円	39	30	44		中世前期	79	
SP421	SB01	円	41	35	29		中世前期	79	
SP478	SB01	円	32	27	13		中世前期	79	
SP413	SB02	円	29	23	27	中世土器	中世前期	79	
SP414	SB02	円	39	31	40		中世前期	79	
SP417	SB02	円	30	26	24		中世前期	79	
SP420	SB02	円	50	38	35		中世前期	79	
SP430	SB02	円	30	—	16		中世前期	79	
SP374	SB03	椭円	41	38	12		中世前期	80	
SP375	SB03	円	47	45	9		中世前期	80	
SP377	SB03	円	49	47	21		中世前期	80	
SP323	SB04	円	49	43	39		中世前期	81	
SP334	SB04	円	45	42	36		中世前期	81	
SP339	SB04	円	57	49	11		中世前期	81	
SP342	SB04	円	48	45	35		中世前期	81	
SP344	SB04	円	49	35	49		中世前期	81	
SP346	SB04	円	40	35	37		中世前期	81	
SP352	SB04	円	42	39	34		中世前期	81	
SP356	SB04	不整	77	55	55		中世前期	81	
SP359	SB04	円	47	44	17		中世前期	81	
SP362	SB04	円	50	40	41		中世前期	81	
SP365	SB04	円	46	49	44		中世前期	81	
SP366	SB04	円	54	45	43		中世前期	81	
SP372	SB04	円	43	42	38		中世前期	81	
SP284	SB05	椭円	43	(29)	13	中世土器	中世前期	80	
SP286	SB05	円	53	47	24		中世前期	80	
SP300	SB05	椭円	60	48	39	中世土器	中世前期	80	
SP332	SB05	円	62	44	26		中世前期	80	
SP313	SB05	椭円	73	38	32	中世土器	中世前期	80	
SP315	SB05	椭円	50	33	23		中世前期	80	
SP441	SB06	円	46	44	42		中世前期	82	
SP433	SB06	円	38	34	42		中世前期	82	
SP436	SB06	円	53	37	38		中世前期	82	
SP460	SB06	不整	60	59	36		中世前期	82	
SP474	SB06	円	62	40	44		中世前期	82	
SP479	SB07	椭円	45	30	26		中世前期	82	
SP471	SB07	椭円	44	30	28		中世前期	82	

第15表 柱穴一覧 (2)

遺物番号	遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	地図番号	回取番号
SP472	SB07	円	50	42	23		中世前期	82	
SP171	SB08	円	58	52	30		中世前期	83	
SP174	SB08	円	50	41	37		中世前期	83	
SP178	SB08	円	52	48	46		中世前期	83	
SP186	SB08	楕円	47	41	44		中世前期	83	
SP1269	SB09	円	38	(22)	26		中世前期	84・85	
SP1201	SB09	円	56	47	29	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1203	SB09	楕円	72	(70)	13		中世前期	84・85	
SP1207	SB09	楕円	48	49	47	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1209	SB09	不整形	64	55	28	中世土師器、瓦器、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1214	SB09	円	43	49	36	中世土師器、瓦器	中世前期	84・85	
SP1218	SB09	楕円	56	(50)	34	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1222	SB09	楕円	55	46	42	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1232	SB09	楕円	76	52	50	中世土師器、瓦器、鉄滓	中世前期	84・85	
SP1234	SB09	円	54	49	36	中世土師器、瓦器	中世前期	84・85	
SP1235	SB09	円	46	49	58		中世前期	84・85	
SP1238	SB09	円	61	51	28	中世土師器	中世前期	84・85	
SP1250	SB09	円	48	40	40	上衛器、中世土師器	中世前期	84・85	
SP1255	SB09	楕円	70	56	55	中世土師器、铁刀子	中世前期	84・85	
SP1260	SB09	楕円	56	46	38	中世土师器	中世前期	84・85	
SP1264	SB09	楕円	111	102	53	中世土师器、铁滓	中世前期	84・85	
SP1268	SB09	円	32	31	44		中世前期	84・85	
SP1206	SB10	楕円	81	55	22		中世前期	86・87	
SP1208	SB10	楕円	60	47	36		中世前期	86・87	
SP1210	SB10	円	46	41	48	中世土师器、瓦器、瓦片	中世前期	86・87	
SP1212	SB10	円	47	46	38	中世土师器	中世前期	86・87	
SP1213	SB10	円	58	47	34	柱	中世前期	86・87	
SP1215	SB10	円	75	70	39		中世前期	86・87	
SP1219	SB10	不整形	50	46	39	上师器、中世土师器	中世前期	86・87	
SP1223	SB10	円	52	45	37	中世土师器、铁滓	中世前期	86・87	
SP1230	SB10	円	62	50	50	中世土师器、瓦器	中世前期	86・87	
SP1233	SB10	方	46	37	22		中世前期	86・87	
SP1237	SB10	円	45	44	47	中世土师器	中世前期	86・87	
SP1242	SB10	楕円	108	59	51		中世前期	86・87	
SP1245	SR10	楕円	67	48	53		中世前期	86・87	
SP1252	SB10	楕円	77	47	46	中世土师器、柱	中世前期	86・87	51
SP1257	SR10	楕円	54	47	47	土师器、原窓器、中世土师器、核	中世前期	86・87	51
SP1258	SB10	円	38	30	47	中世土师器	中世前期	86・87	
SP1262	SB10	円	41	39	44	中世土师器、铁滓	中世前期	86・87	
SP1315	SB11	円	18	15	27		中世前期	88	
SP1318	SB11	円	17	14	4		中世前期	88	
SP1319	SB11	楕円	27	18	10	柱	中世前期	88	
SP1320	SB11	円	17	13	9		中世前期	88	
SP1321	SB11	円	24	23	7		中世前期	88	
SP1325	SB11	円	17	15	37		中世前期	88	
SP1326	SB11	円	15	11	17		中世前期	88	
SP1331	SB11	円	16	13	—		中世前期	88	
SP1086	SB12	円	30	24	26		中世前期	88	
SP1100	SB12	円	30	27	34		中世前期	88	
SP1148	SB12	楕円	37	30	29		中世前期	88	
SP1156	SB12	円	29	26	27		中世前期	88	
SP1313	SB13	円	28	25	9		中世前期	89	
SP1094	SB13	円	31	31	26		中世前期	89	
SP1096	SB13	円	39	25	35		中世前期	89	
SP1099	SB13	円	36	28	30		中世前期	89	
SP1110	SB13	円	39	28	44		中世前期	89	
SP1114	SB13	円	30	29	53		中世前期	89	
SP1087	SB14	楕円	42	29	35		中世前期	89	
SP1098	SB14	円	27	24	40		中世前期	89	
SP1112	SB14	円	38	30	32		中世前期	89	
SP1117	SB14	楕円	(50)	39	36		中世前期	89	
SP1154	SB14	円	29	26	33		中世前期	89	
SP1007	SB15	不整形	33	31	34		中世前期	90	
SP1017	SB15	円	76	66	28	中世土师器	中世前期	90	
SP1034	SB15	円	43	37	21		中世前期	90	
SP1056	SB15	楕円	37	(31)	28		中世前期	90	
SP1134	SB15	円	46	40	22		中世前期	90	
SP1141	SB15	円	33	30	23		中世前期	90	
SP1010	SB16	楕円	30	29	29	中世土师器	中世前期	90	
SP1024	SB16	楕円	49	26	31		中世前期	90	
SP1030	SB16	円	47	46	32	中世土师器	中世前期	90	

第15表 柱穴一覧 (3)

遺跡番号	遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	掲載番号	図版番号
SP1045	SB16	円	38	32	13		中世後期	90	
SP1126	SB16	円	36	30	28		中世後期	90	
SP2227	SB17	円	56	46	84		中世後期	91	
SP2240	SB17	椭円	(68)	54	44		中世後期	91	
SP2271	SB17	椭円	37	28	36		中世後期	91	
SP2276	SB17	椭円	45	59	24		中世後期	91	
SP2289	SB18	椭円	51	33	32		中世後期	91	
SP2291	SB18	椭円	53	35	37		中世後期	91	
SP2242	SB18	椭円	45	32	43	中世土器群	中世後期	91	
SP49	SB19	円	45	(22)	29		中世後期	107	
SP62	SB19	円	47	35	12		中世後期	107	
SP70	SB19	円	32	29	35		中世後期	107	
SP82	SB19	円	62	32	35		中世後期	107	
SP48	SB20	円	47	38	6		中世後期	107	
SI60	SB20	円	18	14	44		中世後期	107	
SI69	SB20	円	72	31	46		中世後期	107	
SP40	SB21	円	41	40	18		中世後期	108	
SP57	SB21	円	82	70	37	中世土器群	中世後期	108	
SP71	SB21	椭円	65	48	4		中世後期	108	
SP69	SB22	円	27	26	63		中世後期	108	
SP14	SB22	不整	43	32	29	中世土器群、鉄製品	中世後期	108	
SP17	SB22	円	(40)	35	54	中世土器群	中世後期	108	
SP20	SB22	円	26	23	46	中世土器群	中世後期	108	
SP22	SB22	円	30	30	39	中世土器群	中世後期	108	
SP104	SB22	円	48	21	10	中世土器群	中世後期	108	
SP204	SB23	円	49	39	20		中世後期	109	
SP212	SB23	円	39	35	12		中世後期	109	
SP2144	SB23	円	72	51	20	珠潤	中世後期	109	
SP2149	SB23	椭円	40	29	18		中世後期	109	
SP2161	SB23	椭円	89	45	49		中世後期	109	
SP2303	SB24	椭円	64	47	37		中世後期	110	
SP2305	SB24	円	50	47	54	中世土器群	中世後期	110	
SP2306	SB24	円	38	37	37		中世後期	110	
SP2223	SB24	円	57	50	3		中世後期	110	
SP2224	SB24	円	35	34	25		中世後期	110	
SP2240	SB24	円	50	48	33		中世後期	110	
SP2251	SB24	円	46	40	9		中世後期	110	
SP2262	SB24	円	40	37	40		中世後期	110	
SP2263	SB24	円	62	52	40		中世後期	110	
SP2264	SB24	円	37	34	43	珠潤	中世後期	110	
SP2272	SB24	円	49	49	53		中世後期	110	
SP229	SA01	円	36	33	44		中世後期	92	
SP246	SA01	円	40	35	47	中世土器群	中世後期	92	
	SA01	円	42	30	24		中世後期	92	

第16表 溝一覧 (1)

遺跡番号	毎(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	掲載番号	図版番号
SD03	340	64	中世土器群、珠潤、八角、圓錐、白磁、青磁、唐津、鐵石	中世～近世	112	
SD46	29	4		中世後期		
SD96	115	27	鉄器群、中世土器群、珠潤	中世後期	111	
SD98	53	9		中世後期	111	
SD99	66	10	中世土器群、珠潤	中世後期	111	
SD119	56	13	中世土器群、珠潤	中世後期	111	
SD120	32	19	中世土器群	中世後期	111	
SD121	102	13	中世土器群、珠潤	中世後期	111	
SD123	35	8		中世後期	111	
SD124	30	3		中世後期	111	
SD125	31	5	中世土器群	中世後期	111	
SD126	27	3		中世後期	111	
SD134	51	11	領地器、中世土器群	中世後期	112	
SD135	53	5		中世後期	112	
SD136	81	14	土器群、中世土器群、珠潤、中國製茶葉壺	中世前後期	94-112	56
SD137	101	51	中世土器群、加工材、種子	中世前前期	94	
SD143	50	11		中世前前期	95	
SD153	47	19		中世前中期	95	
SD154	50	8		中世前中期	95	
SD156	60	6		中世前中期	95	
SD157	41	6		中世前中期	95	

第16表 溝一覧(2)

遺跡番号	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	辨別番号	周囲番号
SD164	40	5		中世前期	95	
SD165	90	9		中世前期	95	
SD169	116	8		中世前期	95	
SD256	105	12		中世前期	94	
SD355	33	7		中世前期	93	
SD368	63	6		中世前期	93	
SD380	50	10		中世前期	93	
SD382	33	6		中世前期	93	
SD385	106	18	中世土器	中世前期	93	
SD386	117	30	中世土器、珠	中世前期	93	
SD388	23	10		中世前期	93	
SD389	161	34	珠	中世前期	93	
SD392	81	8		中世前期	93	
SD395	140	15	中世土器	中世前期	93	
SD411	144	8	中世土器	中世前期	93	
SD435	126	47	木製品、鉄片、鍔子、鐵塗土器	中世前期	94	
SD437	238	10		中世前期	94	
SD438	130	8		中世前期	94	
SD463	56	9		中世前期	94	
SD473	58	13		中世前期	94	
SD1001	24	28	中世土器	中世前期	96	
SD1101	100	19	珠	中世前期	96	
SD1158	180	55	中世土器、珠	中世前期	96	
SD1159	185	67	中世土器、珠、鐵片、鍔子、棒状加工木、竹管、藤材	中世前期	49 - 50	
SD1160	220	80	禹器、中世土器、羽口、鐵片、叩石、折扇、鐵、曲物条、漆器、棒状加工木、板状加工木、藤材	中世前期	49 - 50	
SD1267	35	15	中世土器	中世前期	96	
SD1268	59	15	中世土器	中世前期	96	
SD1271	131	4		中世前期	96	
SD1301	226	12	中世土器	中世前期	96	
SD1306	35	20		中世前期	96	
SD1324	50	28		中世前期	96	
SD1327	44	10		中世前期	96	
SD1328	36	13		中世前期	96	
SD1329	36	14		中世前期	96	
SD1330	37	13		中世前期	96	
SD1401	170	60	中世土器	古代	77	47
SD2031	40	6		近世	123	
SD2032	35	5		中世後期	113	
SD2034	104	18	中世土器、珠、鐵、唐津、伊万里	中世後期	113	
SD2035	145	30	中世土器、珠、鐵、繩器	中世後期	113	
SD2036	70	17	珠	中世後期	113	
SD2038	40	5		近世	123	
SD2039	50	11		近世	123	
SD2040	(135)	21		中世後期	113	
SD2041	80	13	伊万里	近世	123	
SD2139	100	17	中世土器、珠、鐵、加工石	中世後期	113	
SD2140	86	20	中世土器、珠	中世後期	113	
SD2154	21	2		中世後期	113	
SD2155	31	7		中世後期	113	
SD2156	22	4		中世後期	113	
SD2157	25	4		中世後期	113	
SD2158	25	5		中世後期	113	
SD2159	17	4		中世後期	113	
SD2160	25	3		中世後期	113	
SD2164	115	25	鐵劍柄、中世土器、珠、鐵、吉備、越中國	中世後期	113	
SD2165	72	25	鐵劍柄、中世土器、珠	中世後期	113	
SD2229	77	15	中世土器	中世後期	113	
SD2230	105	16	中世土器	中世後期	113	
SD2231	901	9		中世後期	113	
SD2232	46	5		中世後期	113	
SD2233	51	17	中世新器	中世後期	97	
SD2234	170	25		中世後期	97	
SD2235	107	27	珠	中世後期	97	
SD2236	182	61	中世土器	中世後期	97	
SD2237	(106)	50	中世土器、白磁	中世後期	114	
SD2245	41	13		中世後期	97	

第16表 溝一覧（3）

遺構番号	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	博岡番号	図版番号
SD2246	(191)	16		中世後期	114	
SD2247	96	17		中世後期	115	
SD2249	233	75	珠洞	中世後期	97	52・53
SD2250	380	101	中世土師器、珠洞、八尾、越中鹿戸、内墨	中世後期	97	52・53
SD2251	1010	111	上師器、中世土師器、珠洞、白磁、青磁、越中鹿戸、伊万里、磁石、青、板、高板、へら、枕、梯、中世前後期	中世前後期	97	52・53
SD2257	161	37	中世土師器	中世前期	97	
SD2273	22	24		中世前中期	97	
SD2274	202	56	中世土師器、珠洞、白磁	中世前期	97	

第17表 土坑一覧（1）

遺構番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	博岡番号	図版番号
SK06	円	43	(32)	6	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK07	円	49	(49)	10		中世後期	117・118	54
SK08	楕円	80	78	13	中世土師器、珠洞	中世後期	117・118	54
SK10	円	23	(21)	41	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK16	方	291	219	28	中世土師器	中世後期	117・118	
SK18		61	54	48	中世土師器	中世後期	108	
SK19	楕円	180	105	14	中世土師器	中世後期	117・118	
SK25	円	60	46	14	中世土師器	中世後期	117・118	
SK26	楕円	124	84	31	中世土師器	中世後期	117・118	
SK42	円	36	31	18	中世土師器	中世後期	117・118	
SK43		(81)	137	18	中世土師器	中世後期	117・118	
SK44		159	(24)	19		中世後期	117・118	
SK45	円	31	(18)	27		中世後期	117・118	
SK50	円	(68)	64	11		中世後期	107	
SK32	楕丸	131	108	46	中世土師器	中世後期	117・118	
SK54	円	75	(57)	13	中世土師器	中世後期	117・118	
SK58	円	70	(33)	25	中世土師器	中世後期	117・118	
SK61	円	40	31	19		中世後期	107	
SK72	円	22	20	68		中世後期	117・118	
SK100	方	117	83	5		中世後期	117・118	54
SK101	方	239	85	36		中世後期	117・118	54
SK105	方	(111)	(75)	25	中世土師器、珠洞	中世後期	117・118	54
SK106	不整	149	116	10	中世土師器	中世後期	117・118	54
SK107	方	350	196	41	中世土師器、白磁	中世後期	117・118	54
SK109	方	(192)	164	20	中世土師器、珠洞	中世後期	117・118	54
SK113	方	173	92	17	中世土師器、白磁	中世後期	117・118	54
SK114	方	(198)	158	14	中世土師器、鐵製品	中世後期	117・118	54
SK116	不整	403	219	29	中世土師器	中世後期	117・118	
SK118	楕丸	72	66	17	中世土師器、鐵製品	中世後期	117・118	
SK138	楕円	240	155	17	中世土師器	中世後期	101	
SK139	楕円	—	92	14		中世後期	101	
SK140	楕円	203	124	13		中世後期	101	
SK179	円	47	37	49		中世後期	102	
SK181	円	61	44	41	中世土師器	中世後期	83	
SK183	円	(145)	175	109	中世土師器、鐵石	中世後期	102	
SK184	円	50	49	39	中世土師器	中世後期	102	
SK191	円	103	(47)	33		中世後期	102	
SK202	円	45	43	27	鐵石	中世後期	102	
SK228	円	28	24	31		中世後期	99・100	
SK230	円	27	(19)	17		中世後期	92	
SK241	円	34	30	34	中世土師器	中世後期	99・100	
SK245	円	29	(14)	14		中世後期	92	
SK250	不整	69	47	49	中世土師器	中世後期	99・100	
SK267	楕円	75	58	49	中世土師器、珠洞	中世後期	99・100	
SK277	楕円	71	54	50	中世土師器	中世後期	99・100	
SK283	楕円	41	31	13	中世土師器	中世後期	99・100	
SK287	円	(70)	64	26	中世土師器	中世後期	99・100	
SK298	楕円	55	35	25	中世土師器	中世後期	99・100	
SK299	不整	288	147	14	中世土師器、珠洞	中世後期	80	
SK322	円	21	17	15	中世土師器	中世後期	99・100	

第17表 土坑一覽 (2)

遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	博物番号	同族番号
SK353	円	44	(40)	4		中世前期	81	
SK363	円	42	35	51	中世土師器	中世前期	96	
SK370	円	40	32	36		中世前期	96	
SK381	円	105	81	29		中世前期	96	
SK396	円	60	50	36		中世前期	96	
SK401	楕円	55	35	15	中世土師器	中世前期	96	
SK404	楕円	76	51	18		中世前期	96	
SK405	楕円	53	42	10		中世前期	96	
SK406	円	60	58	22		中世前期	96	
SK407	円	91	86	29		中世前期	96	
SK418	円	82	43	27		中世前期	96	
SK435	楕円	(161)	56	8	中世土師器	中世前期	101	
SK440	楕円	86	(56)	27	鉄斧、櫛子	中世前期	101	
SK441	不整形	133	56	29		中世前期	101	
SK449	円	30	27	9	中世土師器	中世前期	101	
SK475	円	37	(24)	23	白磁	中世前期	96	
SK481	方	625	112	60	中世土師器	中世前期	102	
SK482	円	25	21	13	土師器、須恵器	古代	78	
SK483	円	29	27	23		中世前期	99 - 100	
SK491	楕円	40	23	39	中世土師器	中世前期	104	
SK1028	円	31	31	27	中世土師器	中世前期	104	
SK1039	円	40	33	33	中世土師器	中世前期	104	
SK1043	楕円	51	45	19	中世土師器	中世前期	104	
SK1047		68	(24)	37	中世土師器、珠氈	中世前期	104	
SK1063	楕円	39	28	19	中世土師器	中世前期	104	
SK1064	楕円	47	31	23	中世土師器	中世前期	104	
SK1069	楕円	(40)	32	28	中世土師器	中世前期	104	
SK1071	楕円	48	42	14		中世前期	104	
SK1070	楕円	58	36	24	中世土師器	中世前期	104	
SK1073	楕円	45	35	15	中世土師器	中世前期	104	
SK1074	楕円	53	31	16	土鏡	中世前期	104	
SK1080	楕円	34	27	25	中世土師器	中世前期	104	
SK1118	楕円	(70)	60	14		中世前期	96	
SK1119		53	(39)	30		中世前期	96	
SK1128	楕円	45	41	25	中世土師器	中世前期	104	
SK1147		20	(11)	15		中世前期	88	
SK1201		131	(50)	14	白磁	中世前期	103	
SK1206	円	55	45	49		中世前期	87	
SK1211	楕円	86	70	29	中世土師器	中世前期	103	
SK1216	円	62	39	18		中世前期	84 - 85	
SK1217	不整形	80	62	46		中世前期	84 - 85	
SK1220	円	(60)	59	7		中世前期	103	
SK1221	円	33	29	22	中世土師器	中世前期	103	
SK1236	楕円	65	60	12	中世土師器、銀斧、銅刀	中世前期	103	
SK1239		43	(24)	20		中世前期	84 - 85	
SK1246		(50)	56	26		中世前期	86 - 87	
SK1247		49	24	8	中世土師器、鐵滓	中世前期	103	
SK1251	円	47	45	37		中世前期	84 - 85	
SK1254	不整形	(118)	85	14	中世土師器、伊壁	中世前期	103	
SK1259		34	(26)	17	中世土師器	中世前期	103	
SK1261		50	(21)	34		中世前期	84 - 85	
SK1263	円	36	30	10	玉鏡	中世前期	103	
SK1266		37	(10)	29	中世土師器	中世前期	103	
SK1400	不整形	407	150	22		古代	78	47
SK1500	円	140	83	56		古代	78	47
SK2005	圓丸	54	44	15	青磁	中世後期	119	
SK2011	圓丸	92	79	27		中世後期	124	
SK2015	円	37	34	18		中世後期	124	
SK2024	楕円	64	45	45		中世後期	124	
SK2043	不整形	—	(218)	40	金粉	中世後期	121	
SK2132	円	52	48	22	珠圓、金粉製品	中世後期	121	
SK2133	円	197	172	35	中世土師器	中世後期	121	
SK2135	不整形	(500)	403	68	中世土師器、珠圓、加工石、木製品、劍	中世後期	120	

第17表 土坑一覧(3)

遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	擲出番号	図版番号
SK2135	円内	192	155	9	珠洲	中世後期	119	—
SK2145	楕円	49	32	51	中世土器等	中世後期	119	—
SK2146	楕円	33	20	7	中世土器等	中世後期	119	—
SK2149	円	33	30	23	中世土器等	中世後期	119	—
SK2153	方	(298)	215	21	中世土器等	中世後期	119	—
SK2167	方	271	132	24		中世後期	122	—
SK2191	方	323	26	20		中世後期	122	—
SK2197	方	173	81	19	中世土器等	中世後期	122	—
SK2252	円	105	(84)	29		中世後期	105	—
SK2263	円	81	68	29		中世後期	105	—
SK2266	円	94	85	41	加工材	中世後期	105	—

第18表 井戸一覧

遺物番号	平面形	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	出土遺物	時期	擲出番号	図版番号
SE04	口	200	204	123	中世土器等、珠洲、角物	中世後期	115	—
SE23	円	270	256	121	中世土器等、珠洲、木製品	中世後期	116	57
SE133	円	180	174	107	中世土器等、珠洲、角物	中世後期	115	—
SE2100	円	221	220	140	中世土器等、珠洲、角物	中世後期	116	57

第19表 木製品一覧(1)

擲出番号	擲出番号	図版番号	遺物番号	遺物	出土地点	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
127	59	67	SP1213	SB10		柱	12.6	15.1	1.39	
	76	67	SP1252	SB10		柱	29.8	15.9	1.63	
	78	67	SP1257	SB10		柱	33.4	15.2	1.49	
128	83	73	SP1319	SB11		板状加工材	11.2	10.4	7.5	
129	99		SD137			板状加工材	208.4	8.8	1.0	
130	120		SD1150			板状加工材	6.4	6.1	3.1	
	121	71	SD1159	X71Y26		管	(18.1)	0.6	0.5	
	122		SD1159			板状加工材	14.8	4.0	4.6	
	123		SD1159			板状加工材	26.1	5.2	0.7	
	133	68	SD1160			漆面	8.9	1.1	0.3	底径 6.0
	134	73	SD1160	X74Y25	くさび		6.9	2.5	1.1	
	135	73	SD1160	X73Y27	板状加工材		10.7	3.2	0.4	
	136		SD1160			板状加工材	12.3	4.1	0.5	
	137		SD1160	X74Y25	板状加工材		6.4	3.6	2.9	
	138		SD1160			板状加工材	7.0	3.8	1.5	
	139	70	SD1160	X75Y26	曲物の轍		16.5	3.8	0.7	
	140	74	SD1160			板状加工材	14.2	4.0	0.9	
	141		SD1160			板状加工材	19.8	4.7	1.1	
131	142	74	SD1160	X75Y26		板状加工材	13.1	1.5	0.5	
	143	74	SD1160			板状加工材	12.2	1.2	0.6	
	144	74	SD1160	X74Y23		板状加工材	16.8	2.3	0.4	
	145		SD1160			板状加工材	25.8	2.8	0.5	
	146		SD1160			板状加工材	32.0	1.1	0.4	
133	146		SK2256			板状加工材	30.9	7.1	0.9	
138	296		SD2251			漆面	9.0	2.0	0.8	底径 6.3
	297	68	SD2251	X66Y73		漆面	9.4	1.6	0.7	
	298		SD2251			漆面	13.7	2.5	1.4	
	299		SD2251	X67Y73	漆桶		(15.6)	(3.5)	1.0	底径 8.0
	300		SD2251			漆桶	14.0	(3.6)	(0.5)	
	301	68	SD2251			漆桶	17.0	(4.4)	(0.3)	
	302	70	SD2251			漆板	18.0	6.4	0.8	
	303	70	SD2251			底板	11.4	5.3	0.6	
	304	75	SD2251			底板	27.3	3.0	0.2	
	305	73	SD2251	X68Y72	へら?		19.4	2.0	0.8	
	306		SD2251			へら?	20.4	1.9	0.8	
	307	79	SD2251			漆板	26.3	6.9	0.8	
	308		SD2251			板状加工材	7.0	4.9	1.9	
	309	73	SD2251			板状加工材	17.3	9.6	5.2	
	310	73	SD2251			板状加工材	18.3	8.0	0.9	
	311	73	SD2251			板状加工材	16.4	15.0	1.0	
	312	73	SD2251			板状加工材	14.8	17.4	3.5	

第19表 木製品一覧 (2)

番号	出土地点	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考	
313	SD2251	板状加工材	17.1	3.7	0.5		
314	SD2251	板状加工材	32.7	8.6	0.6		
315	SD2251	板状加工材	18.2	3.4	0.7	端部に穿孔あり	
316	SD2251	板状加工材	25.5	6.5	0.5		
317	SD2251	板状加工材	5.5	2.8	0.8		
318	SD2251	板状加工材	7.0	1.5	0.4		
319	SD2251	板状加工材	12.0	2.1	0.7	2ヶ所に穿孔あり	
320	SD2251	板状加工材	16.8	3.9	0.4		
321	SD2251	板状加工材	17.0	2.2	0.5		
322	SD2251	板状加工材	16.1	2.1	0.5		
323	SD2251	板状加工材	20.7	2.7	0.8		
324	SD2251	板状加工材	25.8	2.3	0.2		
325	SD2251	板状加工材	27.3	2.3	0.4		
326	SD2251	板状加工材	15.3	5.2	0.6		
327	SD2251	板状加工材	25.9	4.5	0.8		
328	SD2251	板状加工材	23.4	2.9	0.4		
329	SD2251	板状加工材	48.7	3.5	0.6	種3mmの穿孔1個あり	
330	SD2251	板状加工材	29.9	6.6	0.9		
331	SD2251	板状加工材	35.0	3.8	0.7		
332	SD2251	板状加工材	26.5	4.3	1.3		
333	SD2251	板状加工材	29.7	2.4	1.6		
334	SD2251	板状加工材	30.3	1.6	0.9		
335	SD2251	板状加工材	37.8	2.3	1.7		
336	SD2251	板状加工材	42.2	1.8	1.5		
337	SD2251	板状加工材	43.4	1.7	1.4		
338	SD2251	板状加工材	43.3	2.1	2.5		
339	SD2251	X67Y74	板状加工材	48.9	1.8	1.6	
340	SD2251	板状加工材	15.5	1.2	1.1		
341	SD2251	板状加工材	16.4	1.6	0.9		
342	SD2251	X69Y74	板状加工材	18.5	1.4	1.2	
343	SD2251	X69Y74	板状加工材	20.0	1.2	1.3	
344	SD2251	X70Y66	板状加工材	24.5	1.4	1.3	
345	SD2251	X67Y73	板状加工材	36.2	1.8	1.8	
346	SD2251	X65Y73	板状加工材	36.7	1.2	0.9	
347	SD2251	X66Y73	板状加工材	23.4	1.1	0.9	
348	SD2251	X66Y73	板状加工材	7.8	4.0	3.0	
349	SD2251	箸	28.1	0.7	0.5		
350	SD2251	箸	(22.5)	0.7	0.6		
351	SD2251底	箸	22.8	0.5	0.5		
352	SD2251	X65Y73	箸	22.3	0.5	0.5	
353	SD2251	X66Y72	箸	21.3	0.6	0.5	
354	SD2251	X66Y72	箸	21.0	0.5	0.4	
355	SD2251拂土中	箸	20.7	0.9	0.4		
356	SD2251	X65Y73	箸	19.5	0.6	0.4	
357	SD2251	箸	19.4	0.7	0.5		
358	SD2251	X65Y73	箸	18.9	0.7	0.5	
359	SD2251	X70Y73	箸	17.8	0.5	0.5	
360	SD2251	箸	(17.5)	0.6	0.6		
361	SD2251	X66Y73	箸	(16.9)	0.6	0.4	
362	SD2251	箸	17.5	0.4	0.3		
363	SD2251	箸	16.5	0.5	0.4		
364	SD2251	箸	(16.9)	0.6	0.3		
365	SD2251	箸	(15.4)	0.6	0.5		
366	SD2251	箸	(14.1)	0.7	0.5		
367	SD2251	箸	(14.2)	0.6	0.5		
368	SD2251	X66Y72	箸	(12.1)	0.8	0.4	
369	SD2251	箸	(11.9)	0.7	0.5		
370	SD2251	箸	(11.5)	0.5	0.3		
371	SD2251	箸	(10.8)	0.6	0.3		
372	SD2251	X66Y72	箸	(10.6)	0.5	0.5	
373	SD2251	箸	(10.5)	0.4	0.4		
374	SD2251	箸	(10.3)	0.7	0.5		
375	SD2251拂土中	箸	13.0	6.4	2.2		
376	SD2251底	X69Y73	舟形木製品	15.4	2.3	1.5	
377	SD2251	舟形木製品	25.6	3.6	2.2		

第19表 木製品一覧(3)

番号	博団番号	国版番号	遺構番号	建物	出土地	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
143	381		SI204			柾物	20.3	5.6	0.6	
382		SE04				柾物	14.0	4.0	0.2	
383		SE04				柾物	30.5	12.5	0.8	
386		SE133				柾物	10.3	8.4	0.8	
387		SE133				柾物	7.7	15.8	0.6	

第20表 石製品一覧

番号	博団番号	国版番号	遺構番号	建物	出土地	種類	長(cm)	幅(cm)	高(cm)	重(g)	材質	備考
127	58	SPI210	SB10			鐵石?	21.2	18.3	6.7	3,660		
131	149		SD1160			叩き石	8.9	6.8	4.4	390		
132	173	79	SK193			鐵石	5.6	5.1	2.0	58.5		
	174	79	SK202			鐵石	10.8	3.5	2.5	176.4		
134	220		SX1002-①			叩き石	14.2	11.5	4.9	1,290		
135	249	79	SD03			鐵石	4.4	4.3	3.1	60.7		
	258	79	SD2034	X60Y157		器	8.8	3.2	1.9	326		
136	261		SD2139	X61Y144		切石	13.5	12.3	1.7	305.3		
142	378	79	SD2251	X70Y74		鐵石	8.7	3.0	3.9	118.2		
	379	79	SD2251	X60Y71	底	鐵石	5.6	5.3	3.5	50.4		
144	398		SK2135	X60Y45	粘土中	加工石	14.5	12.0	7.5	4,608		
151	614	79		X79Y18	Ⅲa	鐵石	4.7	3.2	1.1	22.9		
	615			X61Y35	Ⅲa	鐵石	2.3	2.2	1.4	7.4		
	616	79		X40Y27	Ⅱ	鐵石	6.6	5.9	5.0	270.6		
	617			X100Y16	SD137の上手	勾玉	3.2	—	1.6	20.1	硬玉	半圓勾玉
153	649	79				鐵石	4.7	4.7	4.3	97.1		

第21表 金属製品一覧(1)

番号	博団番号	国版番号	遺構番号	建物	出土地	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考	
126	22		SP1209	SB09		鉄斧	2.6	2.0	1.8	9.4		
	23		SP1209	SB09		鉄斧	2.8	1.9	0.6	297		
30		SP1214	SP09			鉄斧	2.3	2.1	1.3	9.92		
39		SP1232	SB09			鉄斧	3.0	2.9	1.4	13.21		
40		SP1234	SB09			鉄斧	3.0	2.5	1.4	19.66		
49			SP1256	SB09	X60Y20	刀子	3.5	1.3	0.5	393		
127	66	77	SP1236	SB10		鉄斧	3.3	2.7	1.3	14.56		
	67	77	SP1230	SB10		鉄斧	2.6	2.4	1.7	9.21		
68	77	SP1230	SB10			鉄斧	1.0	3.2	2.0	22.33		
69	77	SP1230	SB10			鉄斧	3.2	2.8	0.8	6.84		
70		SP1230	SB10			鉄斧	2.5	2.3	1.2	9.34		
71	77	SP1230	SB10			鉄斧	3.8	3.1	2.0	23		
72	77	SP1230	SB10			鉄斧	3.4	2.7	3.1	12.81		
73	77	SP1230	SB10			鉄斧	3.9	2.6	1.9	23.54		
74	77	SP1230	SB10			鉄斧	5.8	3.6	2.1	27.42		
82		SP1262	SB10			鉄斧	2.6	2.1	2.1	6.74		
129	117		SD1156			鉄斧	2.5	2.2	1.9	13.9		
	118		SD1159			鉄斧	2.5	2.0	0.9	6.74		
119			SD1159			鉄斧	1.9	1.7	1.1	3.18		
131	147		SD1160			鉄斧	3.5	2.9	2.2	27.12		
	148		SD1160	X74Y18		鉄斧	3.3	2.8	1.8	23.83		
132	160	76	SK1110			鉄斧	2.6	—	0.1	0.5	单刃通寶	
	165	76	SK1179			鉄斧	8.5	7.5	5.9	423		
	177	76	SK267			鉄斧	6.1	5.5	3.9	168.5		
133	206		SK1247			鉄斧	3.1	2.9	1.5	15.01		
	207		SK1247			鉄斧	2.0	1.8	1.3	6.03		
134	217		SX1002-①			鉄斧	1.9	1.3	1.0	1.98		
	218		SX1002-①			鉄斧	1.9	1.6	1.4	2.47		
219			SX1002-①			鉄斧	3.4	2.2	2.0	8.03		
221			SX1272-①			鉄斧	4.4	2.6	1.0	18.42		
222			SX1272-①			鉄斧	3.8	2.4	1.5	12.82		
223	77		SX1272-①			鉄斧	6.3	4.2	1.9	53.28		
224	77		SX1272-①			鉄斧	5.1	4.5	1.0	33.55		
225	77		SX1272-①			鉄斧	5.0	4.6	2.0	53.18		
226	77		SX1272-①			鉄斧	6.7	5.2	2.0	56.43		

第21表 金属製品一覧 (2)

番号	洋銅番号	同銅番号	通銅番号	建物	半解	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
227	77	SX1272-①				鉄溶	6.6	4.3	2.2	59.97	
228	77	SX1272-②				鉄溶	7.9	4.8	1.7	57.58	
229	77	SX1272-③				鉄溶	8.6	7.6	3.2	188.39	
230	78	SX1273-①				鉄溶	3.8	2.3	1.7	8.35	
231	78	SX1273-②				鉄溶	5.1	3.1	0.8	15.43	
232		SX1273-③				鉄溶	5.1	3.0	2.5	36.08	
233	78	SX1273-④				鉄溶	3.2	2.1	1.8	12.03	
234		SX1273-⑤		X77Y19		鉄溶	3.5	3.2	2.5	34.34	
235	78	SX1273-⑥		X77Y19		鉄溶	4.1	3.1	2.3	15.93	
143	396	76	SX2132			鉄状	8.0	0.6	0.5	11.8	
152	618	76		X78Y17 IIIa		刀子	10.3	1.8	0.5	29.76	
	619			X80Y16 IIIa		鉄?	5.5	3.7	1.1	65.2	
	620			X98Y18 II		鉄状	7.2	1.6	0.9	43	
	621	76		X96Y15		鉄	3.6	2.3	0.8	8.5	
	622	76		X98Y19 III		鉄	7.5	1.8	1.1	9.1	
	623	76		X78Y17 IIIa		刀	6.2	0.7	0.5	9.33	
	624	76		X101Y19 III		鉄	6.0	0.4	0.3	4.6	
	625	76		X64Y35 II		刀	6.1	0.5	0.3	8.17	
	626			X60Y47 II		刀	3.7	0.3	0.2	2.9	
	627	78		X71Y28 IIIb		鉄溶	4.7	3.2	2.5	40.2	
	628	78		X73Y26 IIIb		鉄溶	6.2	4.7	2.2	35.67	
	629	78		X77Y21 IIIb		鉄溶	6.9	4.3	2.0	51.73	
	630	78		X79Y20 IIIb		鉄溶	6.7	4.5	3.8	114.32	
	631	76		X95Y17 IIIb		鉄溶	5.7	5.0	2.3	84.7	
	632	78		X79Y18 IIIa		鉄溶	5.0	3.9	3.4	49.14	
	633	78		X81Y15 IIIa		鉄溶	6.5	3.8	2.5	63.1	
	634	78		X103Y33 IIIa		鉄溶	6.0	4.8	2.7	75.8	
	635	78		X101Y19 III		鉄溶	5.1	3.5	2.4	74.2	
	636	76		X113Y30-40 III		鉄溶	6.5	5.5	4.5	270.6	
	637			X64Y61 IIIa		鉄溶	5.1	3.6	2.8	48.5	
	638	76		X105Y38 III		鉄	2.4	—	0.1	2.1	人輪通寶
	639	76		X71Y51 IIIb		鉄	2.5	—	0.2	3.7	水素通寶
	640	76		X71Y51 IIIb		鉄	2.3	—	0.1	1.67	秋田通寶
154	657	76		X67Y50		刀子	11.1	1.5	0.6	157	

第22表 土器・陶磁器一覧 (5)

分類	部類	器名	通考名	種類	寸法(m)	品名(m)	高さ(cm)	色調	年代	備考
137	289	S12261	X69174	小口瓶	1.1	6.1	13	灰白色	—	—
240	291	53	S12254	小口瓶	1.1	6.1	13	灰白色	—	—
240	292	—	X69173 53	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
240	292	—	S12253	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
241	294	63	S12254	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
245	295	56 (4) + SD 49	X69172	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
284	380	58	S2225	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
386	61	58	S2213	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
388	58	S22100	X69171 ⑤	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—	—
389	63	58	S22100	X69170 ⑤	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
390	58	58	S22100	X69172 58	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
391	—	58	S22100	X69173 58	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
392	58	58	S22100	X69174 58	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
393	—	58	S22114	X69174	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
394	—	58	S22114	X69174	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
395	58	58	S22132	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
144	387	58	S22133	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
396	—	58	S22133	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
400	—	58	S22135	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
401	—	58	S22145	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
402	—	58	S22150	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
403	—	58	S22170	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
404	—	58	S22170	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
405	—	58	X29119	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
406	—	58	X29119	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
407	—	58	X29119	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
408	—	58	X29125	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
410	—	58	X121749-41	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
411	—	58	X121749-41	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
412	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
413	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
414	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
415	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
416	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
417	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
418	—	58	X121749-41	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
419	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
420	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
421	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
422	—	58	X121749-41	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
423	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
424	60	—	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
425	60	—	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
426	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
427	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
428	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
429	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
430	61	—	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
431	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—
432	—	58	X69172	X69170 ①	小口瓶	1.1	6.0	13	灰白色	—

第22表 土器・陶磁器一覧 (7)

形態	器種	測定	測定	測定	年代	備考
		幅 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	(cm)	
116 486	X109725 釜	—	X109715 釜	—	137 36	10/18/3 23/6/4 底白色
497	X109716 釜	—	X109718 釜	—	134 35.4	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
498	X109719 釜	—	X109720 釜	—	122 35	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
499 60	X109721 釜	—	X109722 釜	—	64 31.0	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
500 60	X109723 釜	—	X109724 釜	—	58 31.0	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
501 59	X109725 釜	—	X109726 釜	—	58 31.0	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
502 63	X109727 釜	—	X109728 釜	—	50 30	65 67 7.5/7.4 1.2 底白色
503 63	X109729 釜	—	X109730 釜	—	59 31.0	65 67 7.5/7.4 1.5 底白色
504 63	X109731 釜	—	X109732 釜	—	79 35	64 65 10/18/3 底白色
505 63	X109733 釜	—	X109734 釜	—	85 36	65 67 10/18/3 底白色
506 63	X109735 釜	—	X109736 釜	—	110 25	65 67 10/18/3 底白色
507 63	X109737 釜	—	X109738 釜	—	116 25	67 67 10/18/3 底白色
508 62	X109739 釜	—	X109740 釜	—	116 25	67 67 10/18/3 底白色
509 62	X109741 釜	—	X109742 釜	—	116 25	67 67 10/18/3 底白色
510 62	X109743 釜	—	X109744 釜	—	116 25	67 67 10/18/3 底白色
511 62	X109745 釜	—	X109746 釜	—	116 25	67 67 10/18/3 底白色
512 62	X109747 釜	—	X109748 釜	—	96 21	69 69 10/18/3 底白色
513 62	X109749 釜	—	X109750 釜	—	90 21	69 69 10/18/3 底白色
514 62	X109751 釜	—	X109752 釜	—	108 30	65 67 10/18/3 底白色
515 62	X109753 釜	—	X109754 釜	—	108 30	65 67 10/18/3 底白色
516 62	X109755 釜	—	X109756 釜	—	118 20	66 67 10/18/3 底白色
517 62	X109757 釜	—	X109758 釜	—	118 20	66 67 10/18/3 底白色
518 62	X109759 釜	—	X109760 釜	—	78 15	64 64 10/18/3 底白色
519 62	X109761 釜	—	X109762 釜	—	78 15	64 65 10/18/3 底白色
520 62	X109763 釜	—	X109764 釜	—	75 12	65 65 10/18/3 底白色
521 62	X109765 釜	—	X109766 釜	—	70 11	65 65 10/18/3 底白色
522 62	X109767 釜	—	X109768 釜	—	75 11	66 66 10/18/3 底白色
523 62	X109769 釜	—	X109770 釜	—	76 15	66 66 10/18/3 底白色
524 62	X109771 釜	—	X109772 釜	—	76 15	66 66 10/18/3 底白色
525 62	X109773 釜	—	X109774 釜	—	75 15	66 66 10/18/3 底白色
526 62	X109775 釜	—	X109776 釜	—	78 15	65 65 10/18/3 底白色
527 62	X109777 釜	—	X109778 釜	—	85 12	64 64 10/18/3 底白色
528 62	X109779 釜	—	X109780 釜	—	75 13	64 64 10/18/3 底白色
529 62	X109781 釜	—	X109782 釜	—	80 11.8	63 63 10/18/3 底白色
530 62	X109783 釜	—	X109784 釜	—	80 11.7	63 63 10/18/3 底白色
531 62	X109785 釜	—	X109786 釜	—	76 15	66 66 10/18/3 底白色
532 62	X109787 釜	—	X109788 釜	—	76 15	66 66 10/18/3 底白色
533 62	X109789 釜	—	X109790 釜	—	76 15	66 66 10/18/3 底白色
534 62	X109791 釜	—	X109792 釜	—	78 15	66 66 10/18/3 底白色
535 62	X109793 釜	—	X109794 釜	—	80 15	65 65 10/18/3 底白色
536 62	X109795 釜	—	X109796 釜	—	80 15	65 65 10/18/3 底白色
537 62	X109797 釜	—	X109798 釜	—	84 15.6	64 64 10/18/3 底白色
538 62	X109799 釜	—	X109800 釜	—	78 15	64 64 10/18/3 底白色

第V章 持田I遺跡

1 調査の概要

A 概 要

持田I遺跡は婦負郡婦中町持田地内に所在する。標高23.00mを測るが、北に向かってやや低くなる。現況は水田である。富山平野の中央を流れる神通川の扇状地の扇尖部には、幾筋もの谷地形と微高地が南北に連なっており、この高台状に立地する遺跡の内の一つである。調査区は、ほぼ遺跡の全域に及んでいる。

遺跡の時期は、中世後期と中世末期～近世の2期に分かれる。

中世後期では、掘立柱建物や溝、井戸、土坑、墓が見つかっている。遺物は、中世土師器や珠洲、青磁等の土器・陶磁器類、曲物、箸といった木製品、鉄、刀子などの金属製品が出土している。

中世末期～近世では、掘立柱建物、溝、さく状遺構、井戸、土坑、柵列が見つかっている。遺物は、中世土師器、珠洲、八尾、瀬戸といった土器類、硯、火輪などの石製品、キセル、釘などの金属製品が出土している。

B 調査経過

平成7年度から富山農地林務事務所の委託を受けて、公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査が行われている。

持田I遺跡の調査は、平成8年度に実施された。県道館本郷添島線から南をA地区、北をB地区とし、調査はA地区が平成8年5月14日から、B地区は平成8年9月24日から始まった。

A地区では、当初約2,500m²を調査する予定であったが、上層面の調査が進むと南側へも遺構が続くことが判り、約950m²拡張した。調査区の西側は谷と推定されていたが、この谷の中からも遺構が検出された。しかし、これらの遺構は工事の影響を受けないため、盛り土保存することになり、検出のみにとどめた。これにより、遺跡の範囲は、東西・南北方向へ一回り大きくなった。A地区的調査面積は、3,429m²である。B地区的調査対象面積は、当初約2,700m²であったが、調査区南東隅約190m²で工事の影響を受けない箇所が確認された。この部分は遺構の検出のみで盛り土保存した。このため、その部分を除く2,557m²が調査された。

発掘調査は各地区とも、重機による表土除去後、手掘りによる包含層の掘り下げと、



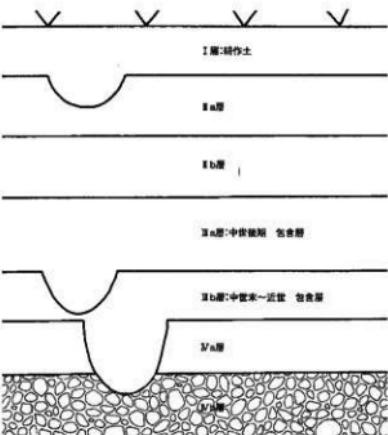
第155図 持田I遺跡地区割図（1:2000）

遺構上面での検出および発掘を行い、写真撮影と遺構実測・測量を実施した。遺構実測・測量は手測りと、ラジコンヘリによる写真測量を外注して実施した。

C 土層

基本層序は上から、I層：黄灰色粘土質シルト（耕土）、II a層：灰黄色砂質シルト・II b層：明黄褐色砂質シルト（近世・近代の包含層）、III a層：黄灰色粘土質シルト（中世後期の包含層）、III b層：暗灰黄色粘土質シルト（中世末期～近世の包含層）、IV a層：浅黄色砂質シルト・IV b層：砂礫層（地山）である。

遺構検出面は、II a層、III b層、IV a・IV b層である。II・III層はA地区の東西端の谷部に厚く堆積する。III a層はA地区中央部では薄く、SD09で区画された一帯にはこれの代わりに整地土（III a層と礫の混ざったもの）が見られる。B地区ではII a層がなく、III b層も一部検出できない箇所がある。また、IV a層がにぶい黄色シルト・IV b層が浅黄色粗砂という違いがある。



第156図 持田I遺跡土層模式図

2 遺構

A 中世後期

中世後期の遺構には、掘立柱建物12棟、柵列3条、井戸12基、墓5基、溝、土坑多数がある。

掘立柱建物

1号掘立柱建物（S B01、第157・158図、図版80）

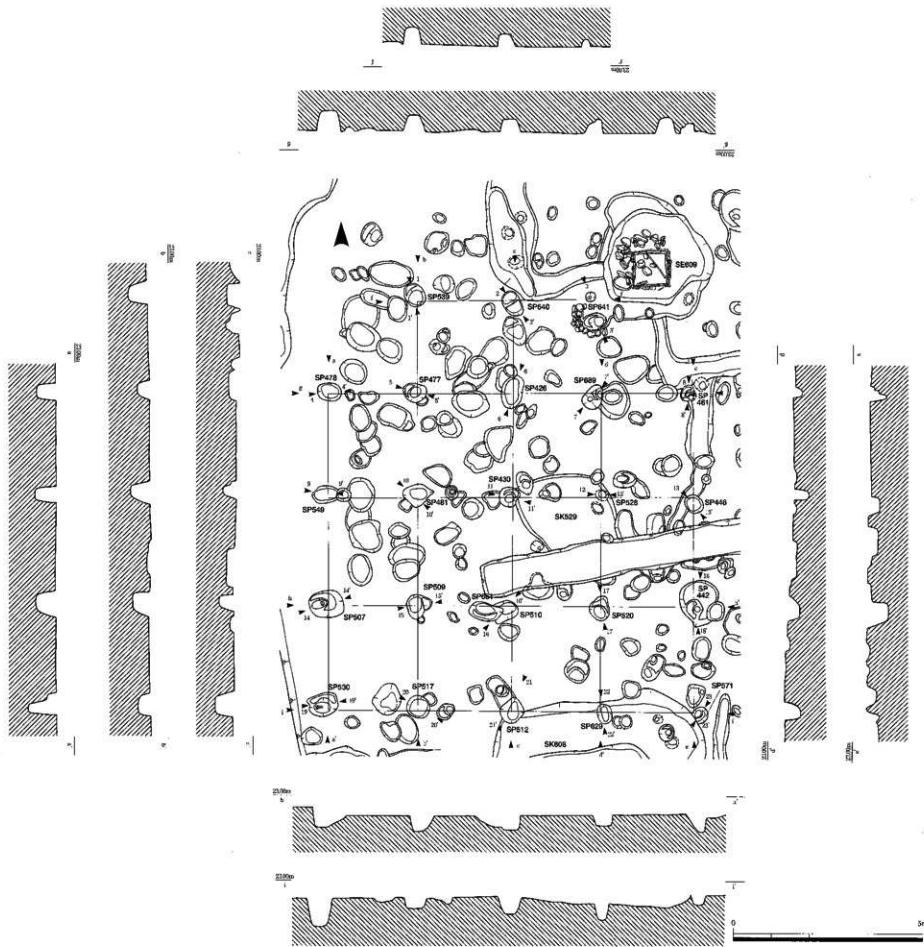
A地区北側調査区に位置する。4間×3間で、北面の中央に張出を持つ総柱建物である。向きは東西棟。桁行9.8m×梁行8.4m、平面積82.32m²、建物主軸の方位はW-1°-Sである。柱穴の大きさは直徑30~130cmとばらつきがあるが、西側の1列は大きめで深い柱穴をもつ。中でもSP507・530からは、礎盤と思われる加工木が出土している。遺物は、SP426から中世土師器、SP461から中世土師器と砥石、SP520から珠洲、SP629から中世土師器、SP571からは加工木が出土している。柱穴の切り合いかから、SB03・SB04・SB05よりも古い建物であることが判る。

2号掘立柱建物（S B02、第159図）

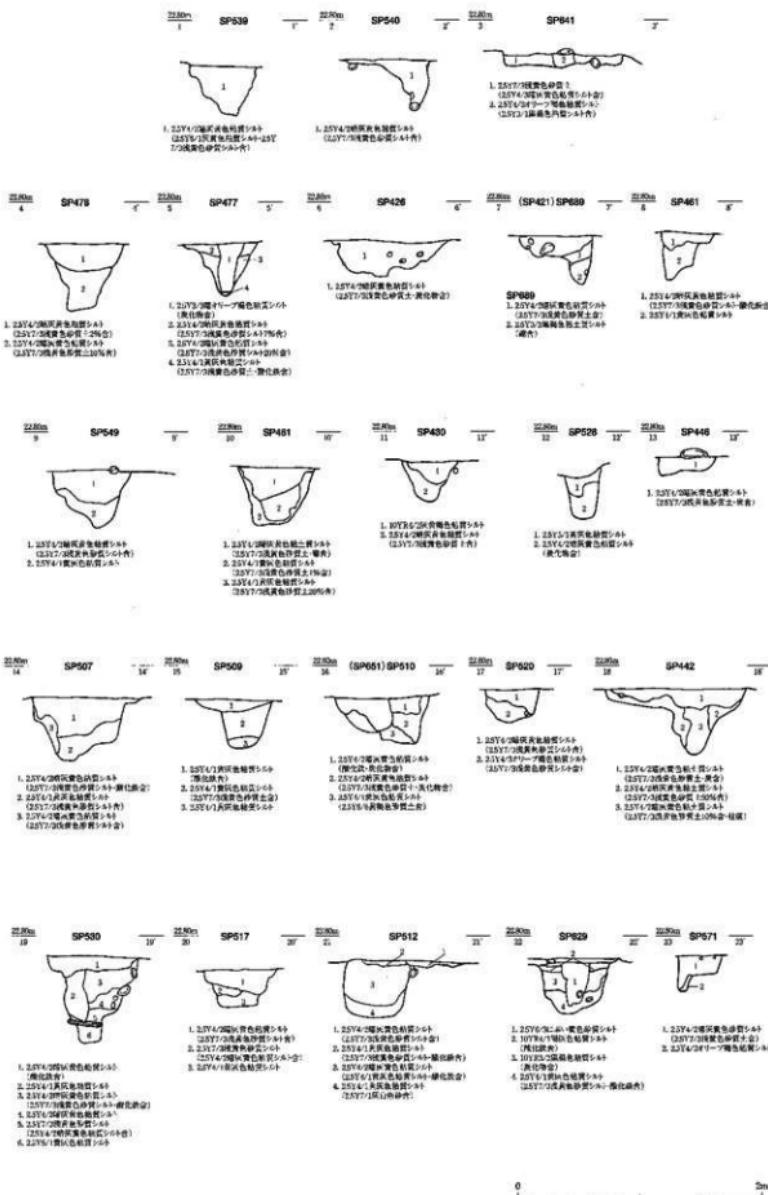
1号掘立柱建物の東に並んで立つ2間×2間の総柱建物。桁行5.2m×梁行5.0m、平面積は26m²。東西棟で、建物主軸の方位はW-2°-Sである。主軸方位が1号掘立柱建物とは同じであり、同時期と思われる。遺物は、SP679から珠洲のT壺が出土している。

3号掘立柱建物（S B03、第160図、図版80）

A地区北側調査区の中央部に位置する。2間×4間で東西棟の総柱建物である。桁行8.6m×梁行4.3m、平面積は36.93m²。建物主軸の方向はW-11°-S。SP659の周りに弧を描く石組があるが、柱穴・建物に伴うものかは不明である。SP424は柱根の腐敗により、空洞化していた。遺物は、S

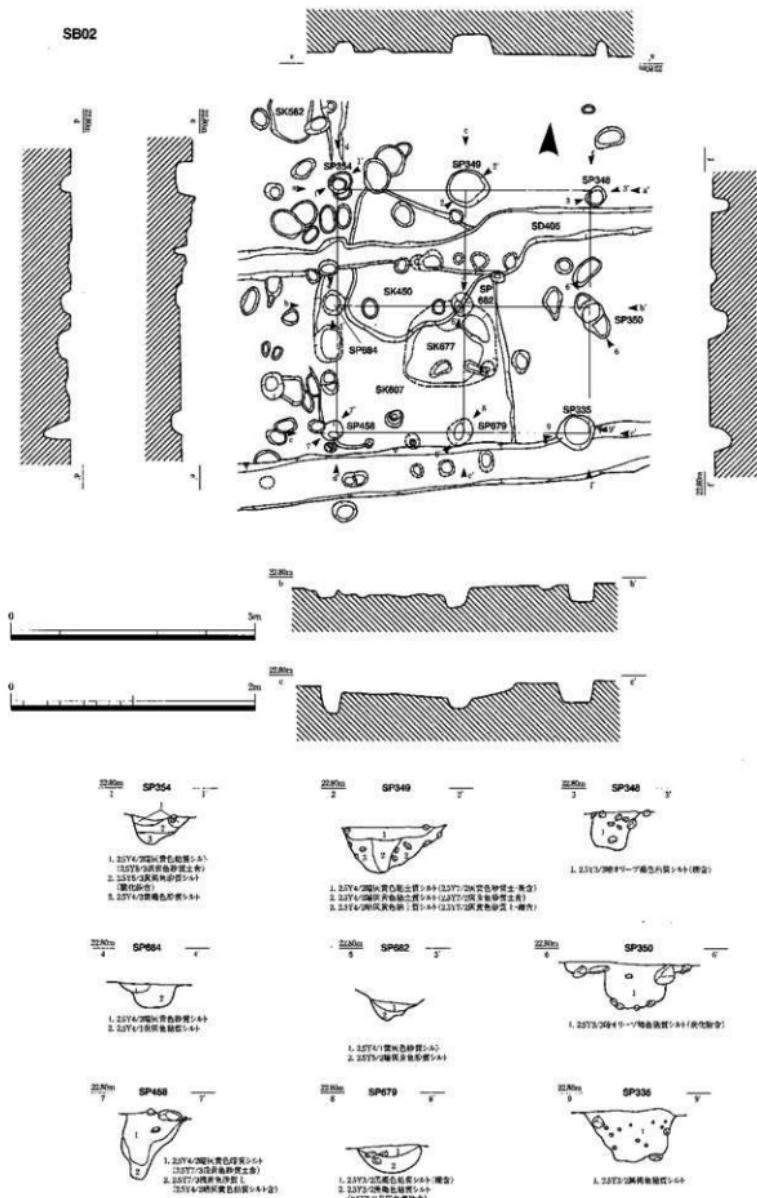


第157図 遺構実測図（中世後期）
SB01



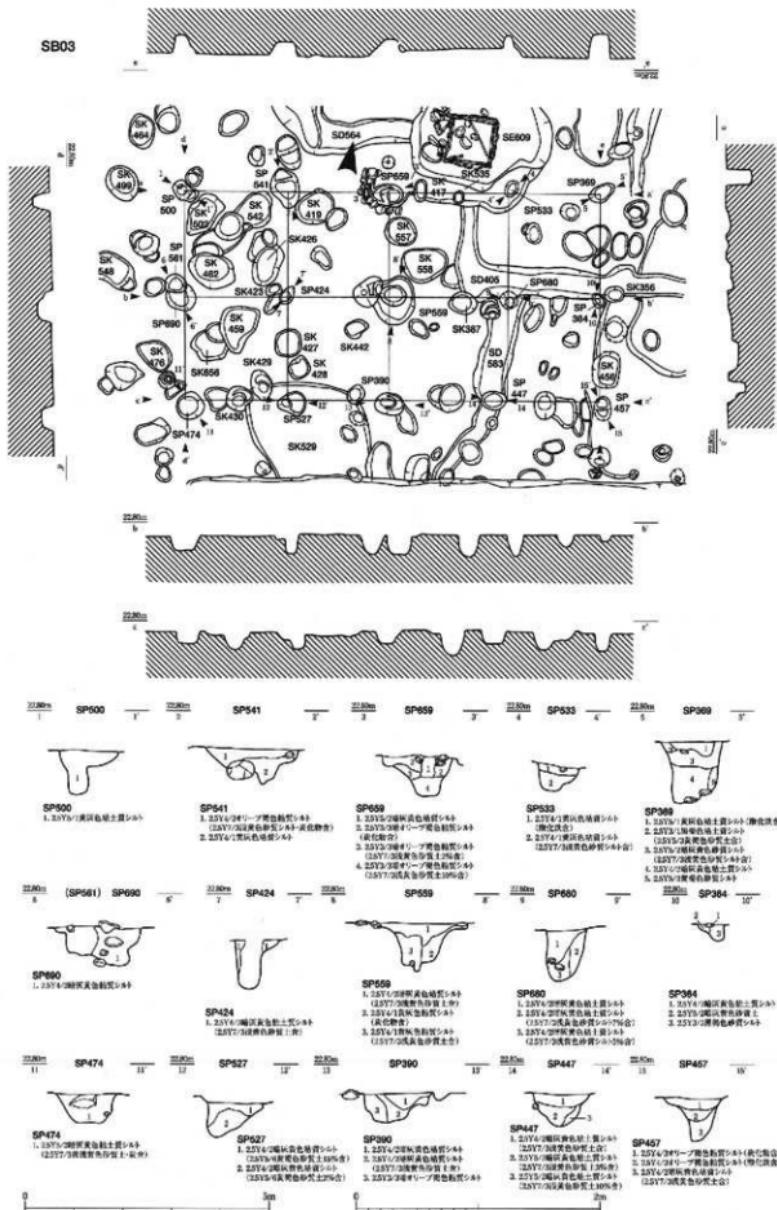
第158図 遺構実測図（中世後期）

SP539 SP540 SP641 SP478 SP477 SP426 SP689 SP461 SP549 SP481 SP430 SP528
SP446 SP507 SP509 SP510 SP520 SP442 SP530 SP512 SP517 SP571



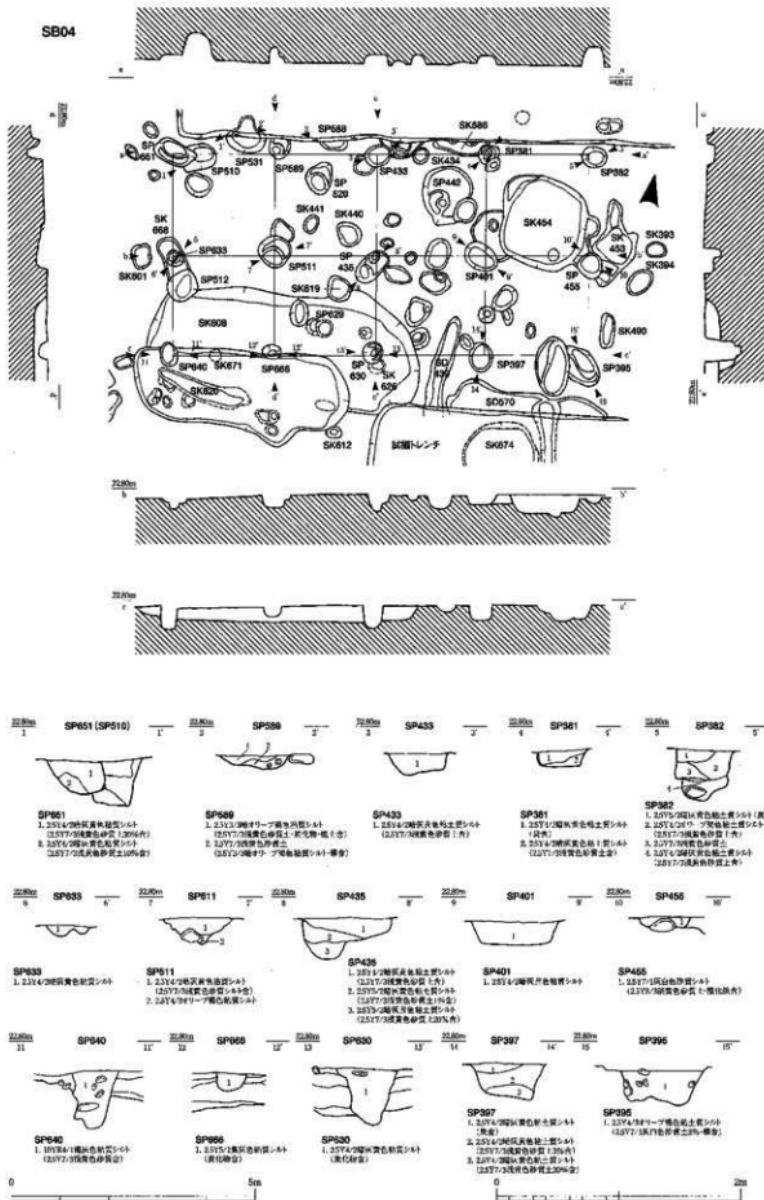
第159図 遺構実測図（中世後期）

SB02 SP354 SP349 SP348 SP684 SP682 SP350 SP468 SP679 SP335



第160図 遺構実測図（中世後期）

SB03 SB500 SB541 SP659 SP533 SP369 SP600 SP424 SP559 SP669 SP364
SP474 SP527 SP390 SP447 SP457



第161図 遺構実測図（中世後期）

SB04 SP395 SP381 SP382 SP397 SP401 SP433 SP435 SP455 SP511 SP589
SP630 SP633 SP640 SP651 SP666

P500から木製品と中世土師器、S P390・S P559・S P659からは中世土師器、S P474から青磁が出土している。柱穴の切り合いから、S B01より新しく、S B05より古い建物であることが判る。

4号掘立柱建物（S B04、第161図、図版80）

3号掘立柱建物の南側に建つ建物。S B03とは平行に並んでおり、同時期のものと思われる。2間×4間で東西棟の総柱建物である。桁行8.6m×梁行4.1m、平面積は35.26m²。主軸方向はW-10°-S。遺物は、S P381・S P401・S P433・S P455から中世土師器、S P382からは八尾が出土している。北東隅に不整形な土坑S K454があるが、この建物に付属するものであるかは不明である。

5号掘立柱建物（S B05、第162図、図版80）

S B01・S B03に重なって建つ建物。2間×4間で東西棟の総柱建物である。南面に短い樋S A01を作り、桁行7.9m×梁行3.7m、平面積は29.23m²。南側の梁間がやや狭い。建物主軸はW-7°-Sである。S P429は柱が腐ったために空洞化している。遺物は、S P449・S P675から中世土師器、S P429から加工木が出土している。柱穴の切り合いから、A地区北側調査区にある5棟の建物の中では最も新しい。

6号掘立柱建物（S B06、第163図）

S B07と一部重なって立つ1間×2間の掘立柱建物。桁行4.6m×梁行2.6m、平面積は11.96m²。南北棟で、主軸はN-9°-W。遺物の出土は見られない。

7号掘立柱建物（S B07、第163図）

A地区南側調査区の東端中央部に立つ掘立柱建物。3間×2間の側柱建物に、1間×2間の張出が付いており、南北棟である。桁行5.9m×梁行4.3m、平面積は25.37m²。建物主軸はN-4°-W。遺物はS P957から中世土師器が出土している。

8号掘立柱建物（S B08、第164・165図、図版81）

A地区南側調査区北端中央部に立つ掘立柱建物。4間×3間の総柱建物で、南北棟である。桁行10.3m×梁行6.8m、平面積は70.04m²。建物主軸はN-11.5°-W。桁行の柱間は北から、2.1m・2.9m・2.4mとなっており、中央が広い。梁間は、西から2.2m・2.0m・2.6mで不揃いである。遺物は、S P701から中世土師器・珠洲、S P705から加工木、S P706・S P707から中世土師器、S P1152から土師器・中世土師器、S P1185から中世土師器と珠洲、S P1277から珠洲が出土している。

9号掘立柱建物（S B09、第166図、図版81）

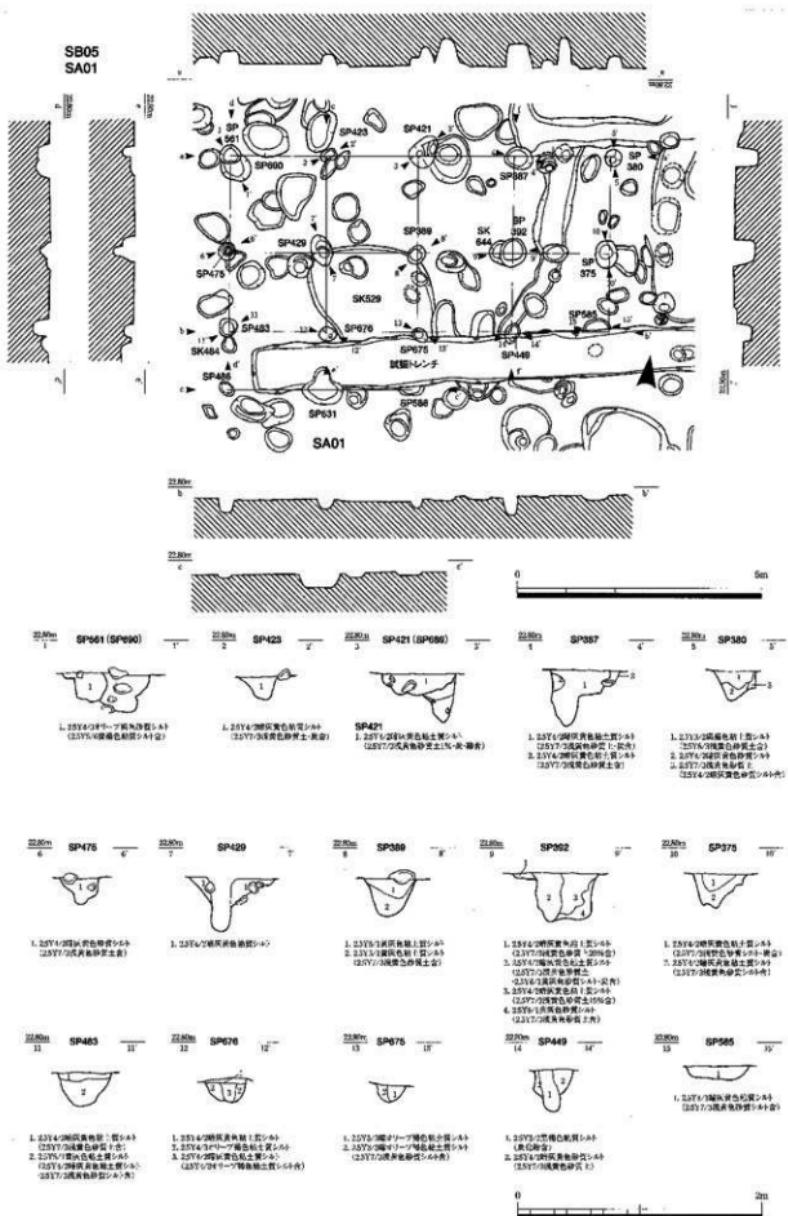
S B08に重なって立つ建物。東北隅の一部の柱穴を検出することができなかつたため建物の全体的な構造は不明であるが、検出できた部分から、4間×2間の東西棟の遺物が考えられる。桁行は6.8m、梁行4.4m、平面積29.92m²。建物の主軸方向は、W-11°-S。柱穴の大きさ、並び方共に不揃いである。

10号掘立柱建物（S B10、第166図、図版81）

S B08・09に重なって立つ掘立柱建物。東西棟と思われるが、西側の2列と南側の1列しか検出できなかつた。S B08と向きがほぼ同じため、S B08の建て替え等に伴う遺構と考えられる。遺物の出土は見られない。

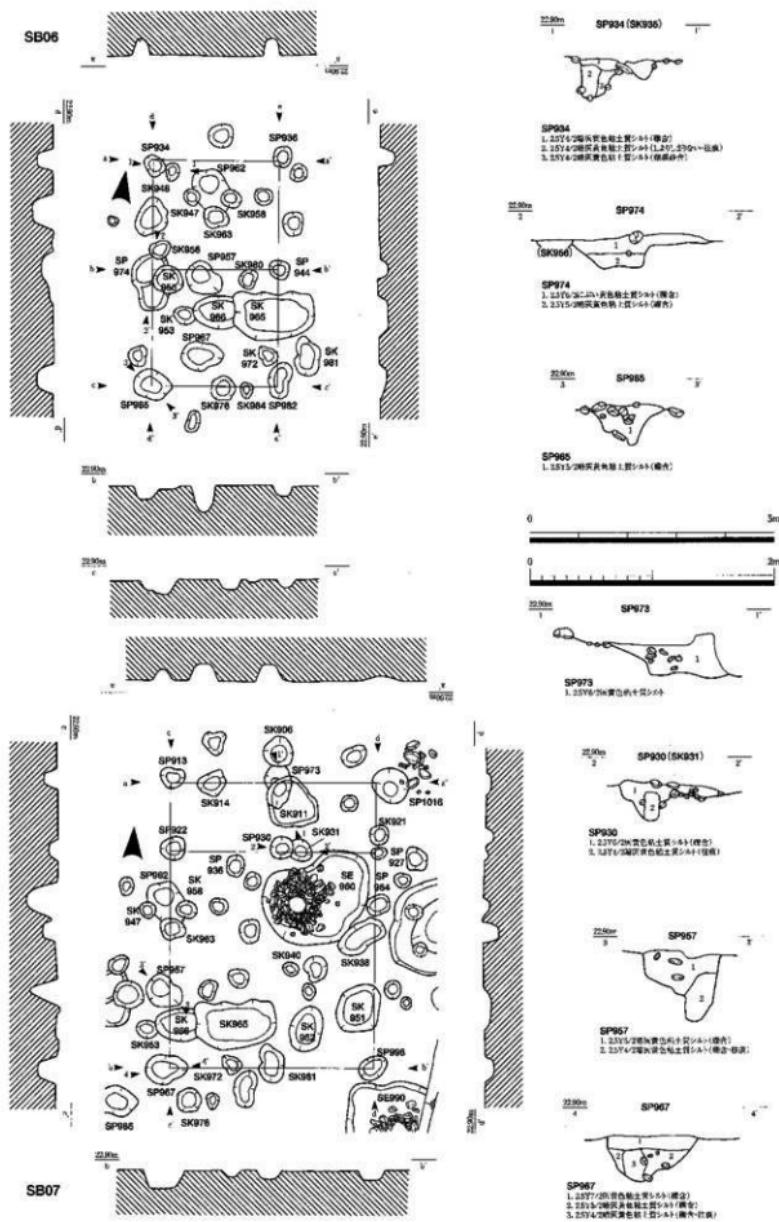
11号掘立柱建物（S B11、第167・168図、図版81）

A地区南側調査区の南端に位置する掘立柱建物。5間×4間の総柱建物で、東西に樋S A02・03を持つ。南北棟で、桁行は13.5m、梁行9.7m、平面積は130.95m²である。持田I遺跡内では最大の建物である。桁間は北から、2.5m・2.8m・2.8m・2.8m・2.6mで中央部が広い。梁間は西から、2.5m・



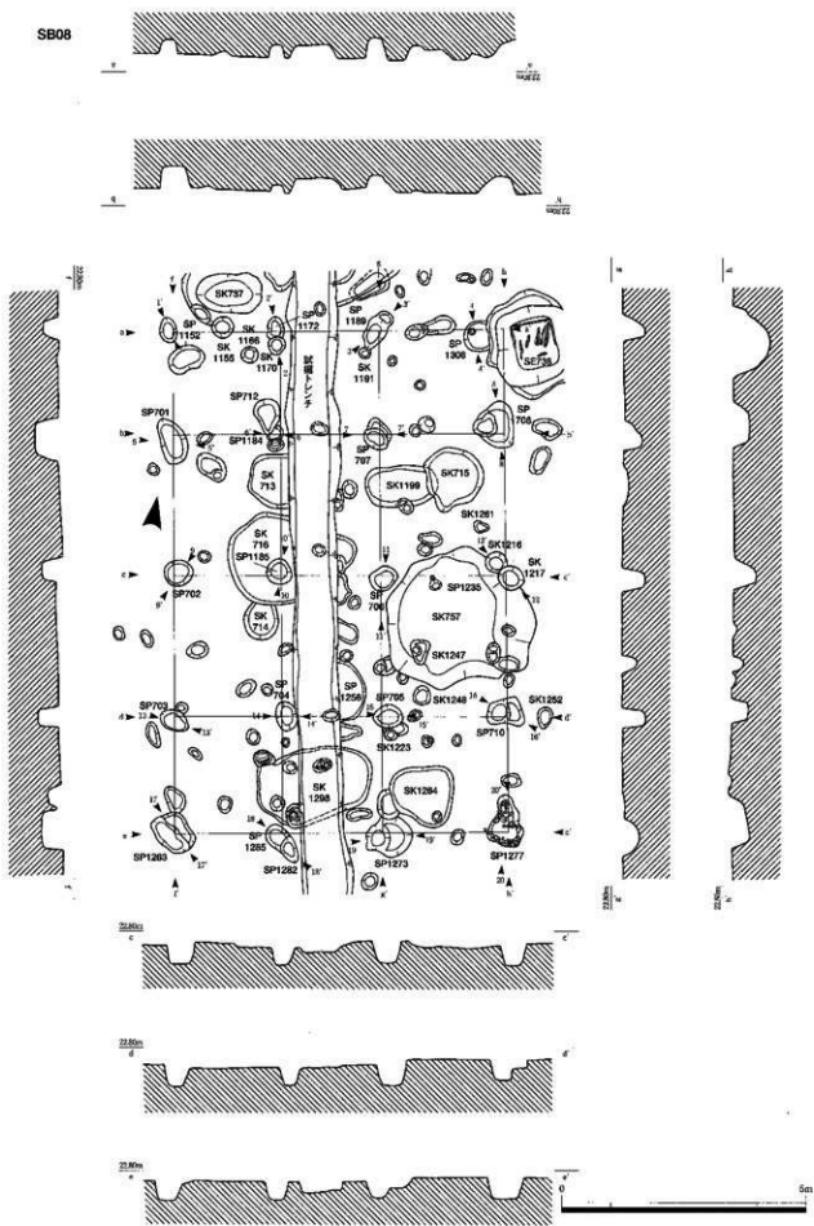
第162図 遺構実測図（中世後期）

SB05 SP561 SP423 SP21 SP387 SP380 SP475 SP429 SP389 SP392 SP375
SP483 SP676 SP675 SP449 SP585 SA01



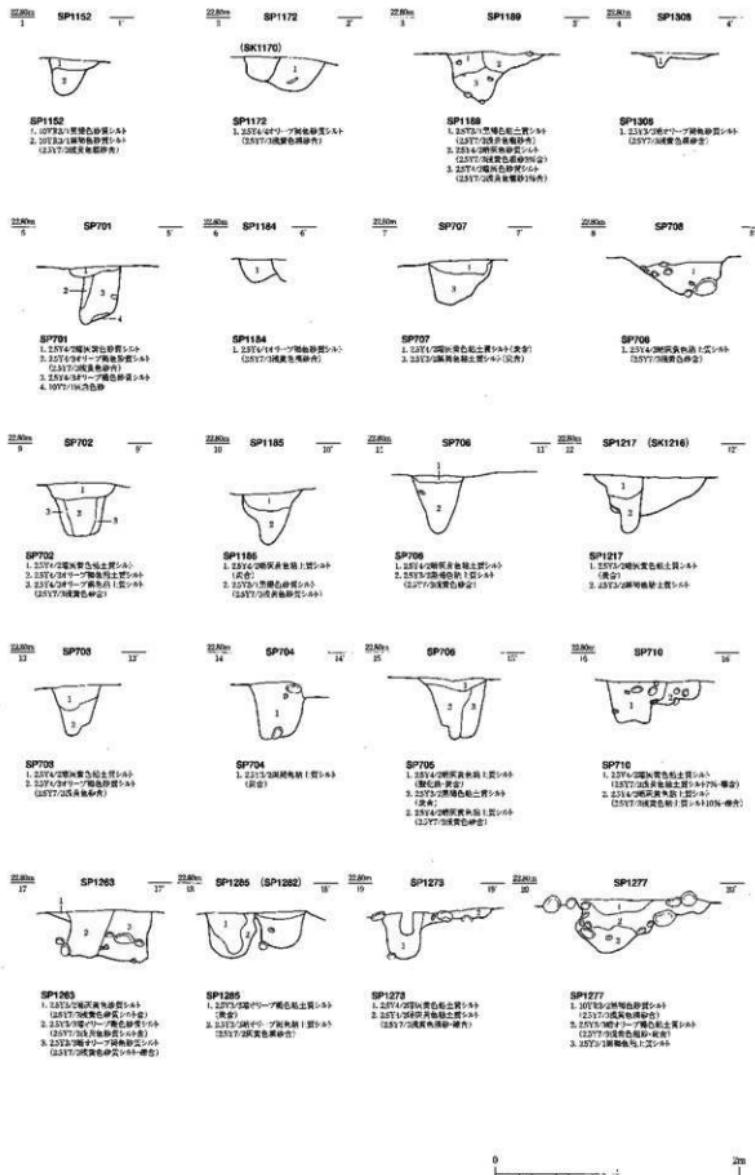
第163図 遺構実測図（中世後期）

SB06 SP934 SP974 SP985
SB07 SP973 SP930 SP957 SP967



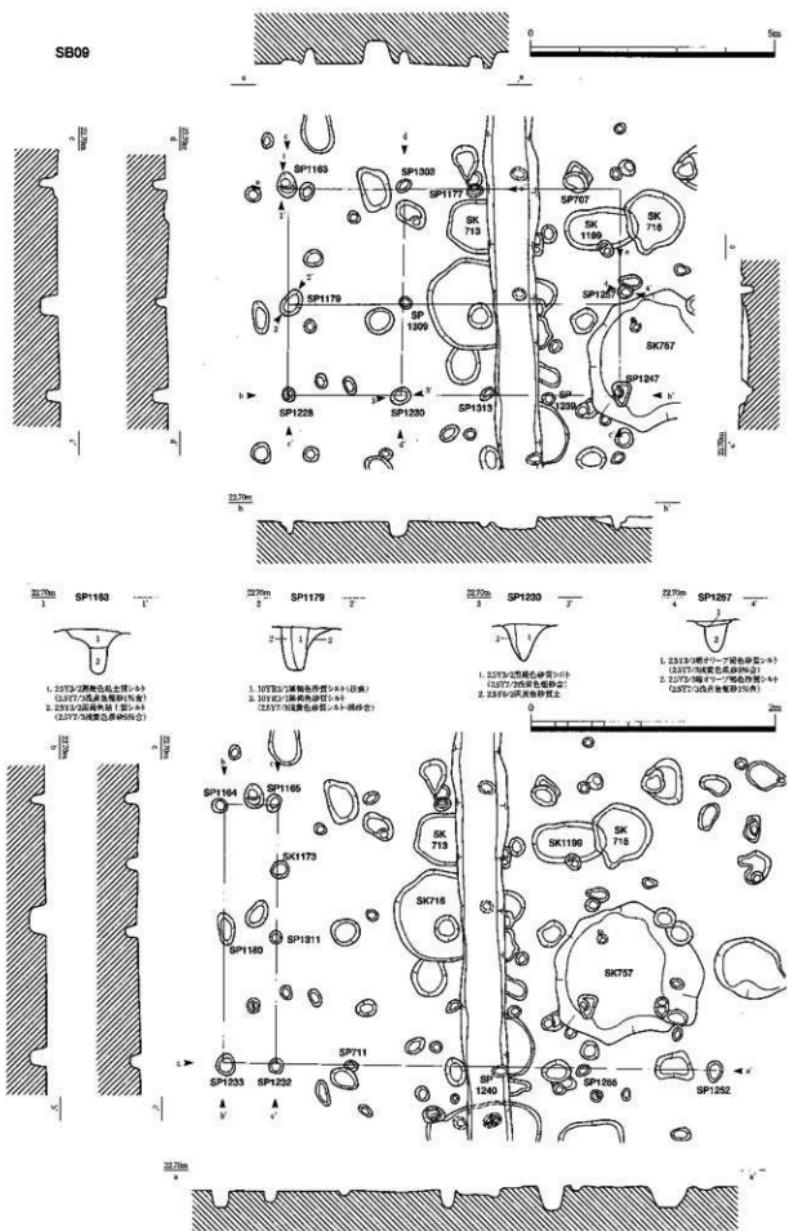
第164図 遺構実測図（中世後期）

SB08



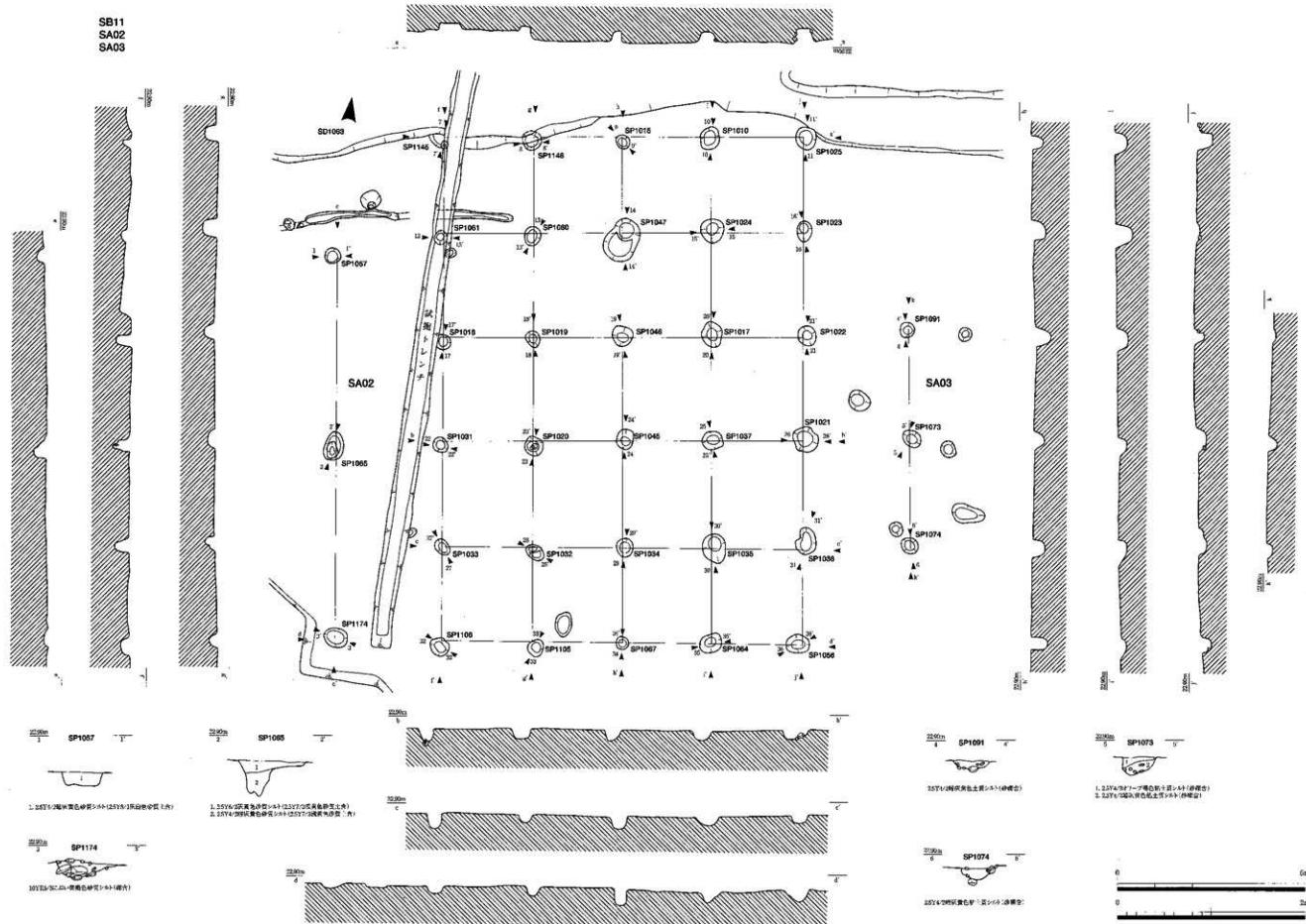
第165図 遺構実測図（中世後期）

SP1152 SP1172 SP1189 SP1308 SP701 SP1184 SP708 SP707 SP702 SP1185 SP706
SP1217 SP703 SP704 SP710 SP1263 SP1285 SP1273 SP1277



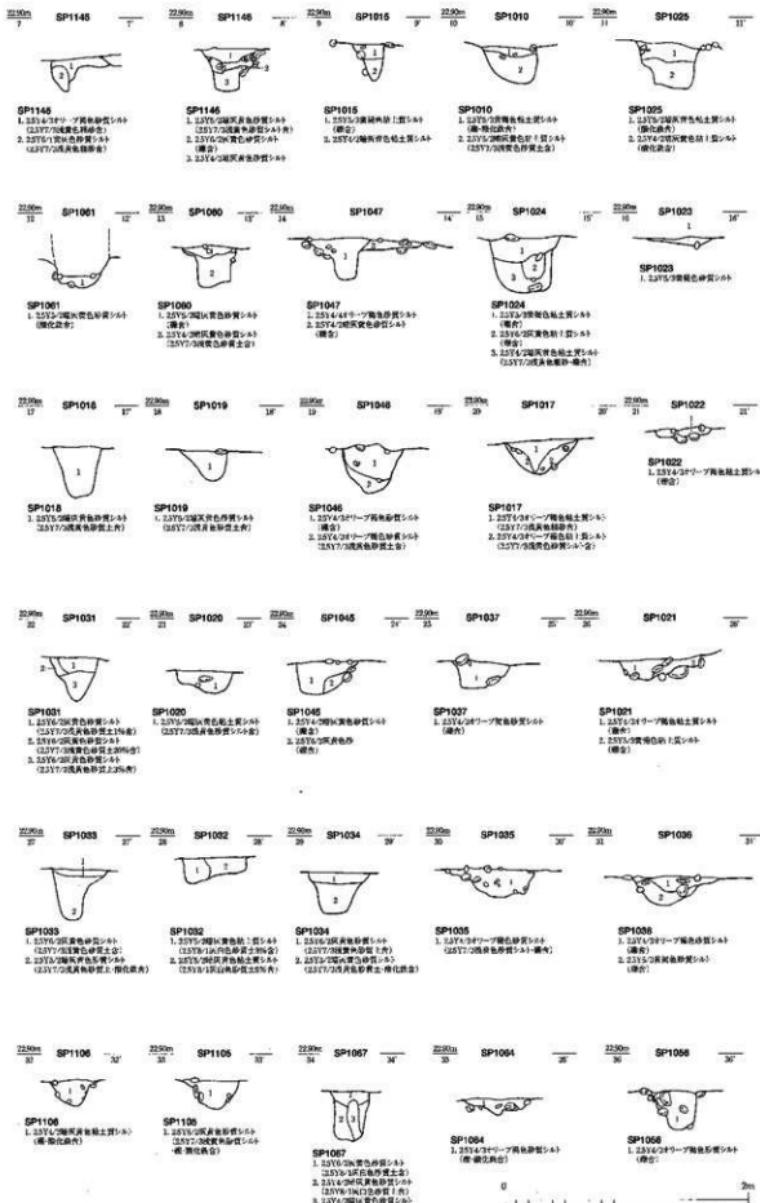
第166図 造構実測図（中世後期）

SB09 SP1163 SP1179 SP1230 SP1257 SB10



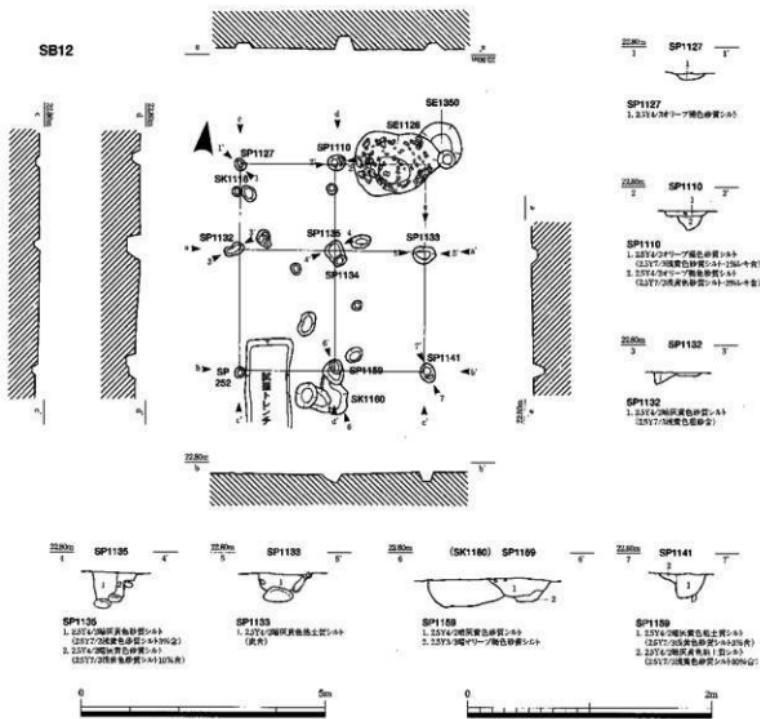
第167図 遺構実測図（中世後期）

SB11 SA02 SP1057 SP1065 SP1174 SA03 SP1091 SP1098 SP1074



第168図 遺構実測図（中世後期）

SP1145 SP1146 SP1015 SP1010 SP1025 SP1060 SP1061 SP1047 SP1024 SP1023 SP1018
SP1019 SP1017 SP1031 SP1020 SP1045 SP1021 SP1022 SP1032 SP1033 SP1034 SP1035
SP1036 SP1037 SP1046 SP1056 SP1064 SP1067 SP1105 SP1106



第169図 造構実測図（中世後期）

SB12 SP1127 SP1110 SP1130 SP1135 SP1133 SP1159 SP1141

2.4m・2.4m・2.4mである。遺物は、S P 1010から中世土師器と加工木、S P 1020・1037・1047・1050から中世土師器、S P 1024から土師器、S P 1031から柱根が出土している。

12号掘立柱建物（S B 12、第169図）

北東隅を井戸 S E 1126に切られる2間×2間の純柱建物。南北棟で、桁行は4.2m、梁行は3.8m、平面積は15.96m²である。建物主軸はN-9°-W。遺物の出土は見られない。

溝

2177号溝（S D 2177、第170図）

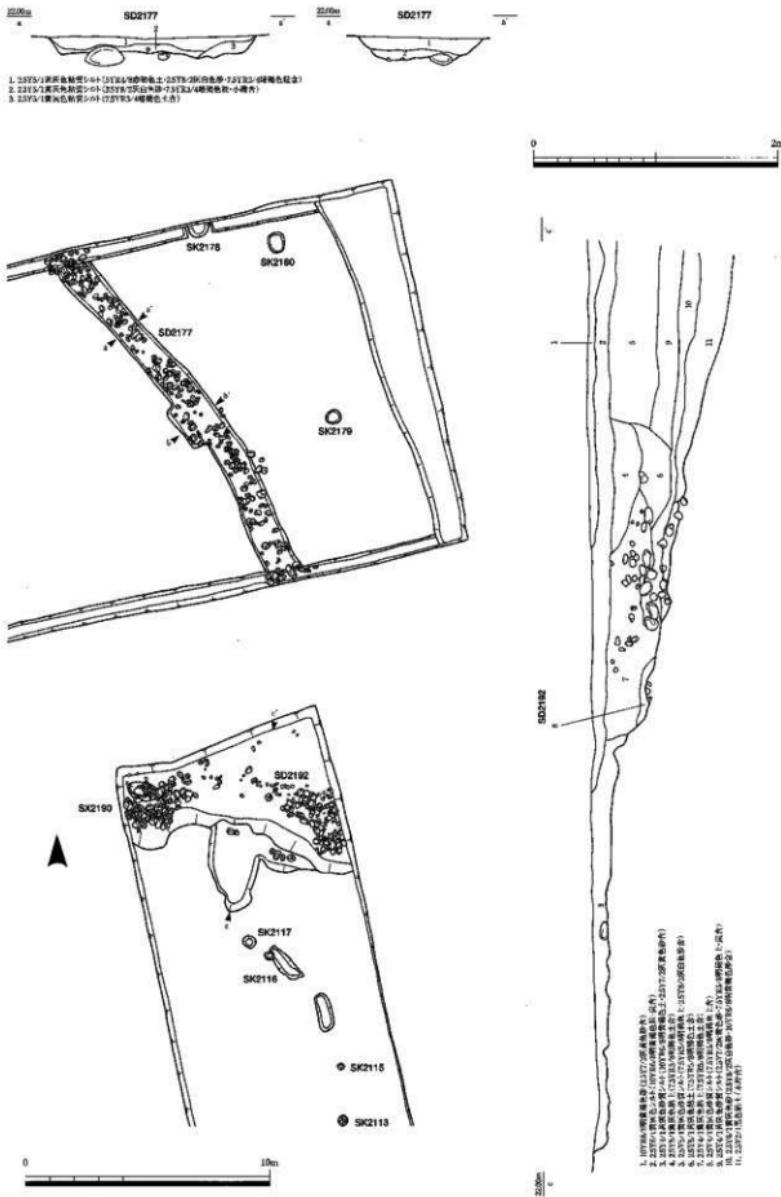
B地区の東側を横切る南北溝。最大幅177cm、深さ18cm。覆土中に小円謎を多く含む。珠洲が出土している。

2192号溝（S D 2192、第170図、図版82）

B地区の北端に位置する。長さ・幅共に、調査区外に延びるために不明である。西側の肩に石組S X2190を持つ。中世土師器が出土している。

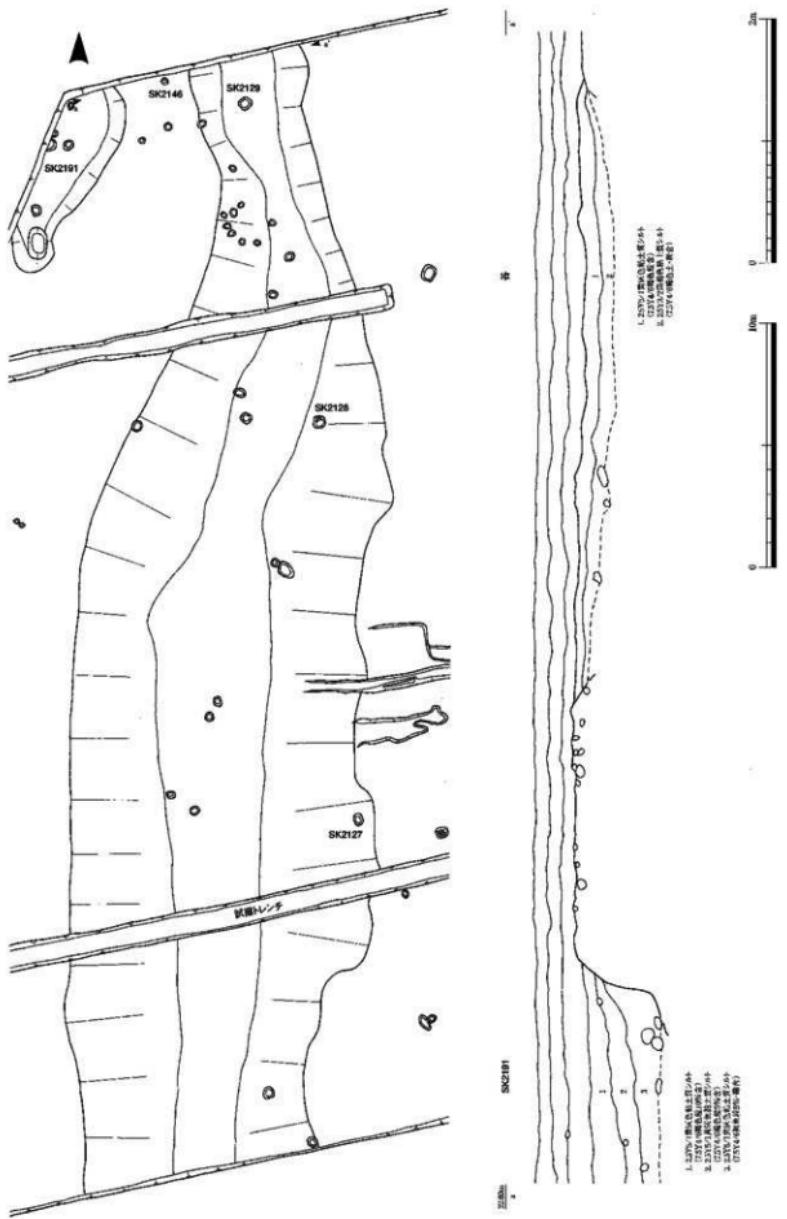
谷（第171図）

B地区的中央を南北に走る谷。最大幅1024cm。中世土師器・瀬戸・白磁・青磁・珠洲・金属製品が



第170図 遺構実測図（中世後期）

SD2117 SP2192



第171図 遺構実測図（中世後期）
谷

出土している。

2109号溝（S D2109、第172図）

S D2016と直行するような南北の溝。調査区外に延びるため、詳細は不明である。遺物は出土していない。

2106号溝（S D2106、第172図）

B地区のほぼ中央を東西に流れる溝。遺物は出土していない。

2032号溝（S D2032、第173図）

B地区の南東の一画を囲むようにして廻る溝。墓群S Z2038・2039・S X2040・2119・2120より古い。最大幅350cm、深さ27cm。中世土師器が出土している。

2047号溝（S D2047、第173図）

S D2032に切られる溝。北西から南東へ流れる。最大幅57cm、深さ18cm。遺物は出土していない。

2033号溝（S D2033、第173図）

S D2032を切る東西溝。調査区外へ延びるため詳細は不明。遺物は出土していない。

2076号溝（S D2076、第173図、図版82）

逆コの字状に廻る溝。区画溝と思われる。最大幅44cm、深さ24cm。遺物は出土していない。

565号溝（S D565、第174図）

A地区北側調査区の北西隅に位置する溝。南側調査区のS D739・S D741のどちらかと繋がり、区画溝を形成すると思われる。最大幅290cm、深さ10cm。土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

658号溝（S D658、第174図）

A地区北側調査区の北壁でS D565と接する溝。東西方向に流れる。最大幅218cm、深さ19cm。中世土師器が出土している。

564号溝（S D564、第174図）

S E609から西へ延び、ついで直角に曲がって北へ流れ、また壁際で西に向きを変える溝。S E609に切られている。最大幅106cm、深さ17cm。中世土師器・珠洲が出土している。

409号溝（S D409、第174図）

S B02の北西隅から北上し、東へ直角に曲がってS D658の一部を切って流れる溝。最大幅140cm、深さ13cm。中世土師器・珠洲が出土している。

405号溝（S D405、第174図）

S E609から北へ流れ、東に向かって直角に曲がって延びる溝。S D564と同一の溝と思われる。出土遺物は見られない。

583号溝（S D583、第174図）

S D405が東へ曲がる箇所から南へ延びる溝。最大幅70cm、深さ7cm。S B01・S B03の柱穴に切られており、掘立柱建物群よりも以前の遺構と考えられる。珠洲が出土している。

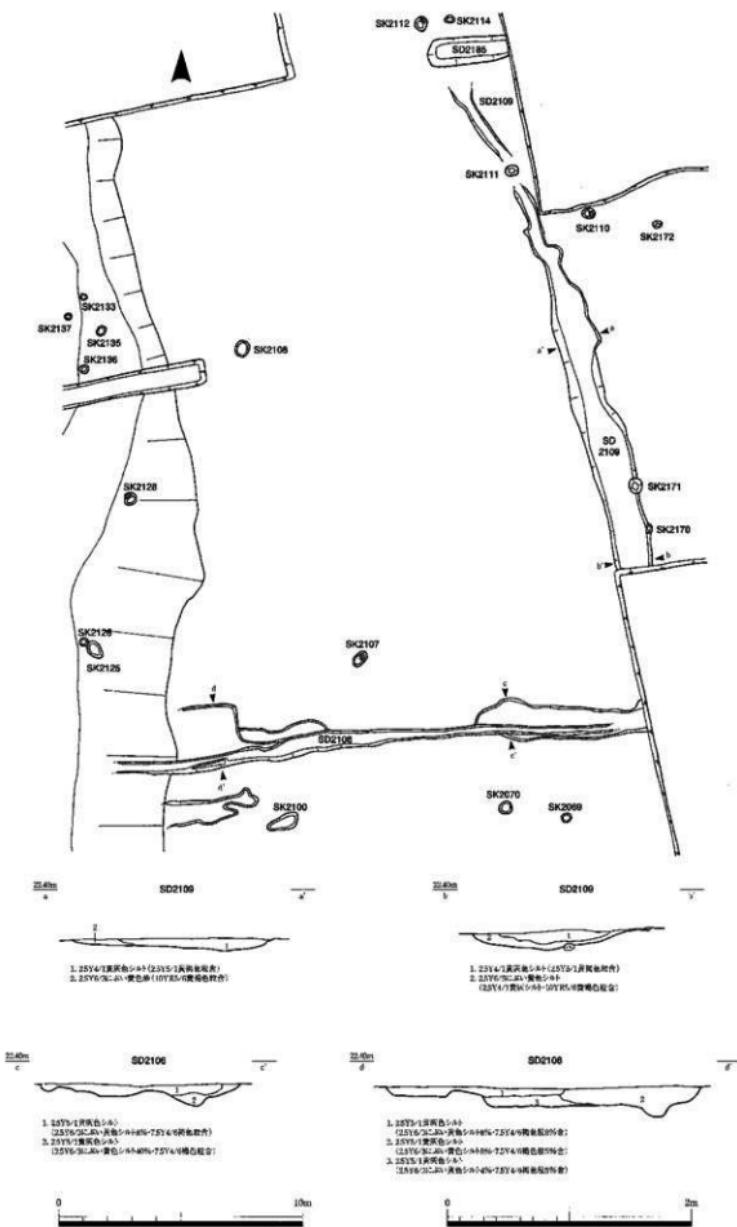
611号溝（S D611、第174図）

A地区北側調査区の西壁から東へ延びる溝。東側の端は、はっきりとは検出できなかった。最大幅190cm、深さ14cm。青磁が出土している。

439号溝（S D439、第174図）

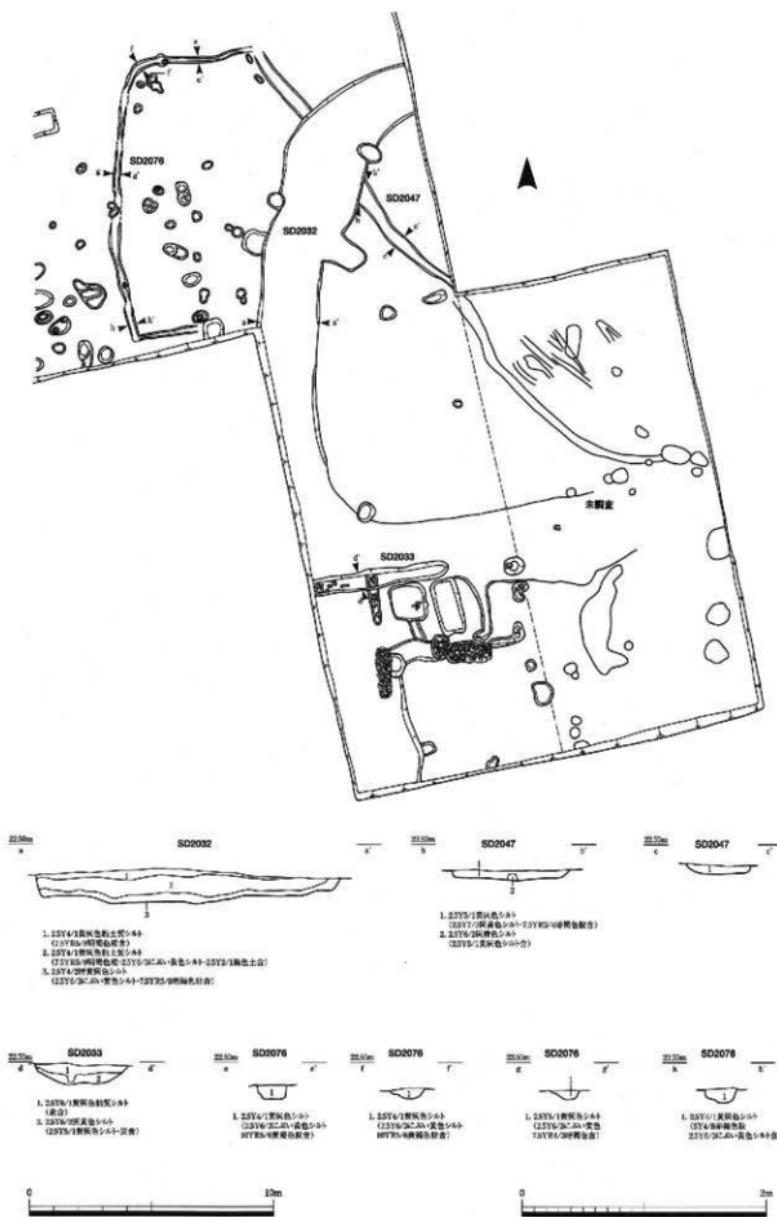
S K608とS D570に挟まれる南北の溝。最大幅38cm、深さ16cm。中世土師器・珠洲が出土している。

618号溝（S D618、第174図）

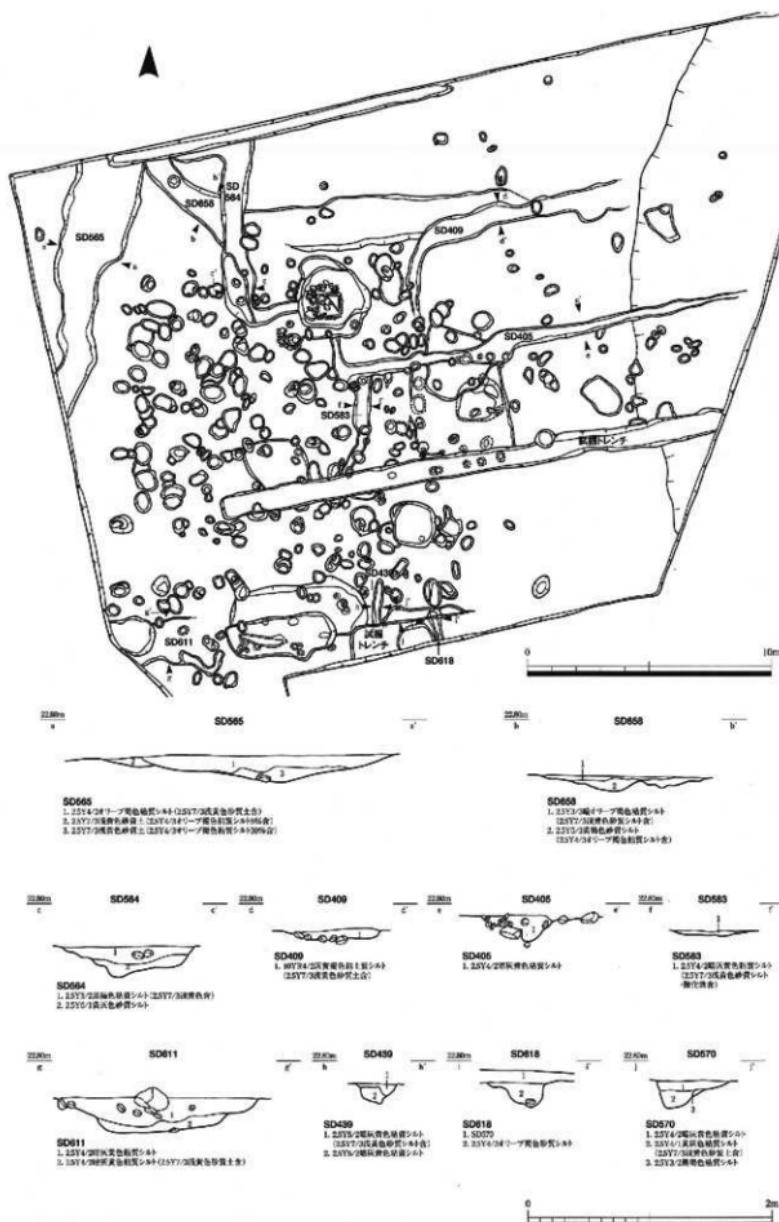


第172図 造構実測図（中世後期）

SD2109 SD2106



第173図 遺構実測図（中世後期）
SD2032 SD2047 SD2033 SD2076



第174図 遺構実測図（中世後期）

SD565 SD658 SD564 SD409 SD405 SD583 SD611 SD439 SD618 SD570

S D570に切られる溝。南北溝であるが、調査区外に延びており、全体は不明である。幅60cm、深さ28cm。中世土師器が出土している。

570号溝（S D570、第174図）

A地区北側調査区の南端に位置する東西溝。試掘トレンチに切られており、全体の形状は不明である。中世土師器・八尾が出土している。

741号溝（S D741、第175図）

A地区南側調査区の北東隅に位置する溝。最大幅277cm、深さ36cm。北側調査区の掘立柱建物群を区画する溝と思われる。土師器・中世土師器が出土している。

739号溝（S D739、第175図）

調査区北壁のX54Y51付近から南北に延びる溝。最大幅147cm、深さ11cm。遺物は出土していない。

736号溝（S D736、第175図）

S D739を切って東西に延びる溝。北は調査区外に続く。最大幅138cm、深さ8cm。遺物の出土は見られない。

721号溝（S D721、第175図）

南側調査区の北壁に沿って位置する不整形な溝。中世土師器・珠洲が出土している。

1292号溝（S D1292、第175図）

調査区北壁から南東に向かって延びるS D722に切られる溝。最大幅243cm、深さ16cm。中世土師器が出土している。

1112・1130・1295・1296号溝（S D1112・1130・1295・1296、第176図）

X38～42Y40～45の範囲に点在する、浅く短い溝。上層で検出されたS D03・04・06・08・10等と同じ様に状造構ではないかと考えられる。出土遺物はいずれの遺構でも見られない。

1319号溝（S D1319、第176図）

X40～45Y47～48付近の南北溝。途中を試掘トレンチで切られる。覆土中に少量の焼土を含む。出土遺物は見られない。

1063号溝（S D1063、第176図）

S B11の北側を東西に流れる溝。S B11の柱穴を切っており、建物よりも新しい。中世末期～近世面で検出したS D221の掘り残しの可能性がある。中世土師器・珠洲が出土している。

井戸

609号井戸（S E609、第177図、図版83）

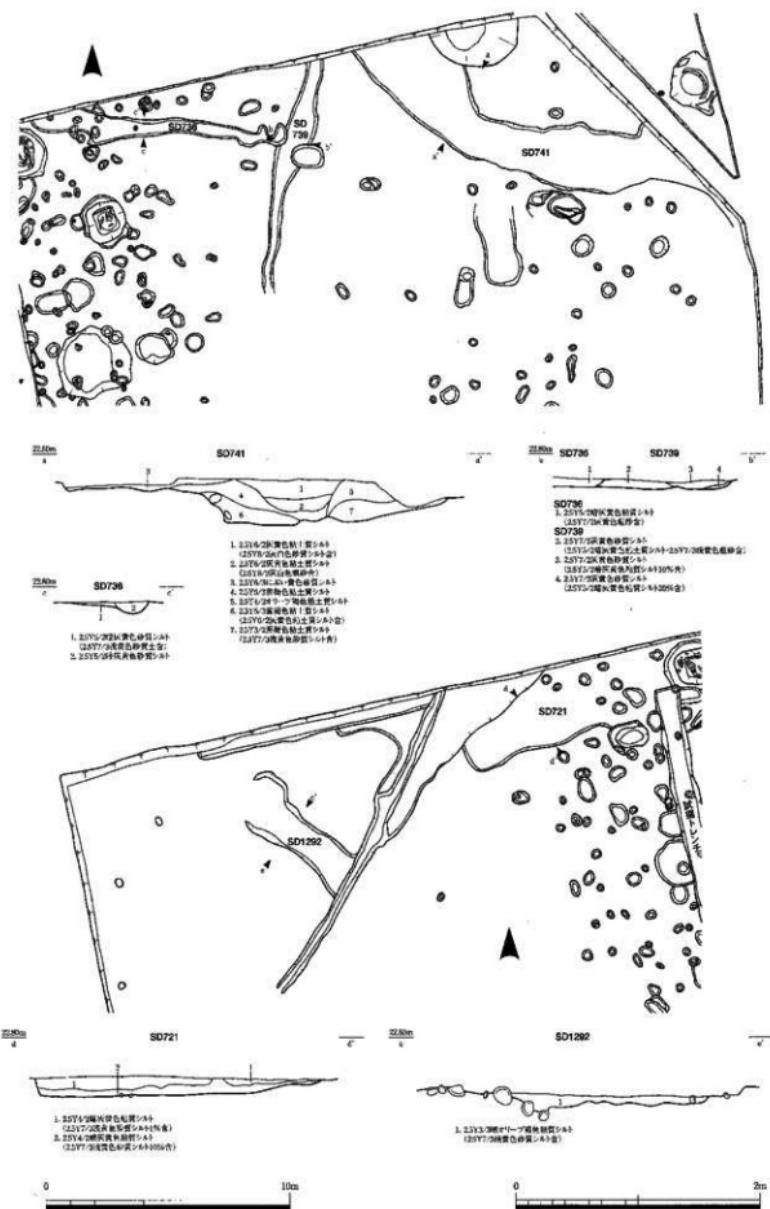
A地区北側調査区 S B01の北に位置する井戸。長径295cm、短径249cm、深さ110cmで、92cm四方の縦板組横桟留めの井戸構を持つ。出土遺物には、中世土師器・珠洲・八尾・白磁・木製品がある。覆土中から骨・昆虫の羽が見つかっている。

738号井戸（S E738、第177図、図版83）

S B08の北東隅を切る木組井戸。井戸側の残存は悪く、縦板が半分程度しか残っていなかった。井戸側内から角柱状の木製品が出土しており、縦板組横桟留めであったとも考えられる。水溜めには曲物が据えられていた痕跡があった。金属製品が出土している。

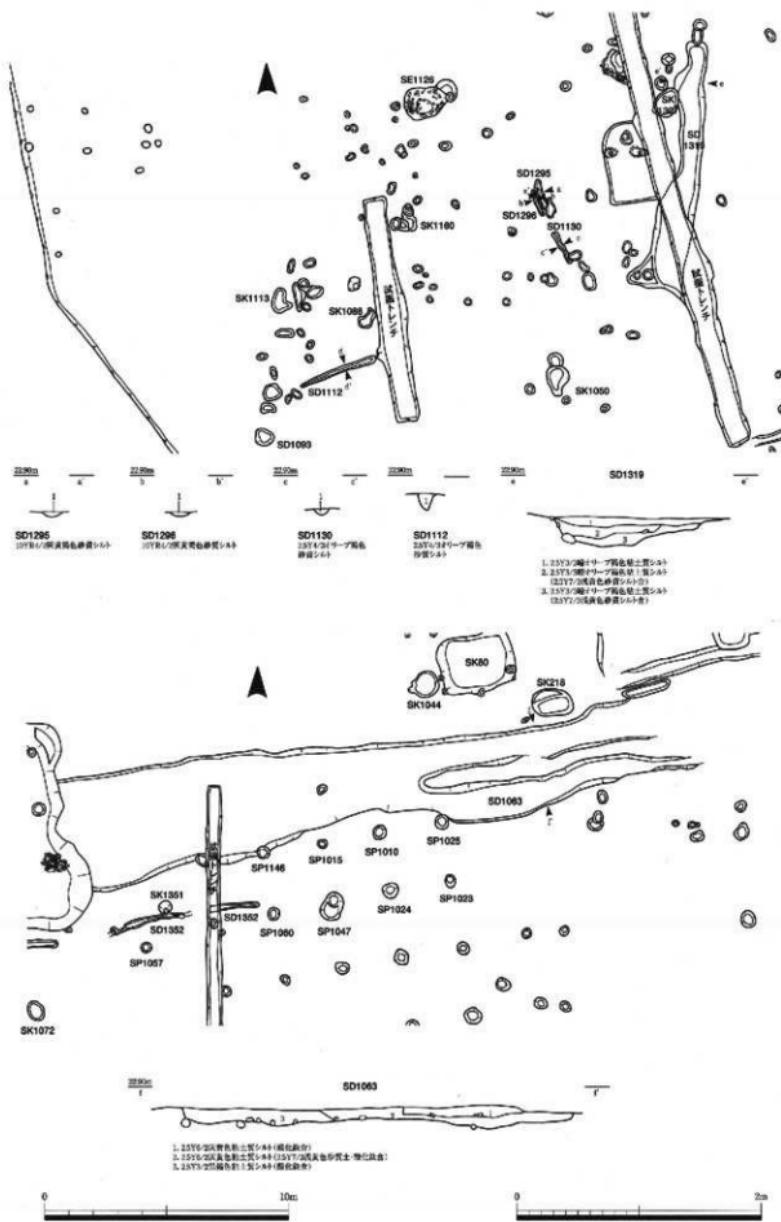
575号井戸（S E575、第177図、図版83）

A地区北側調査区の南端に位置する素掘の井戸。長径268cm、短径184cm、深さ88cm。覆土の堆積状況から、廃棄する際に石が抜かれたのではなく、元々素掘であったと思われる。中世土師器・種子（桃）



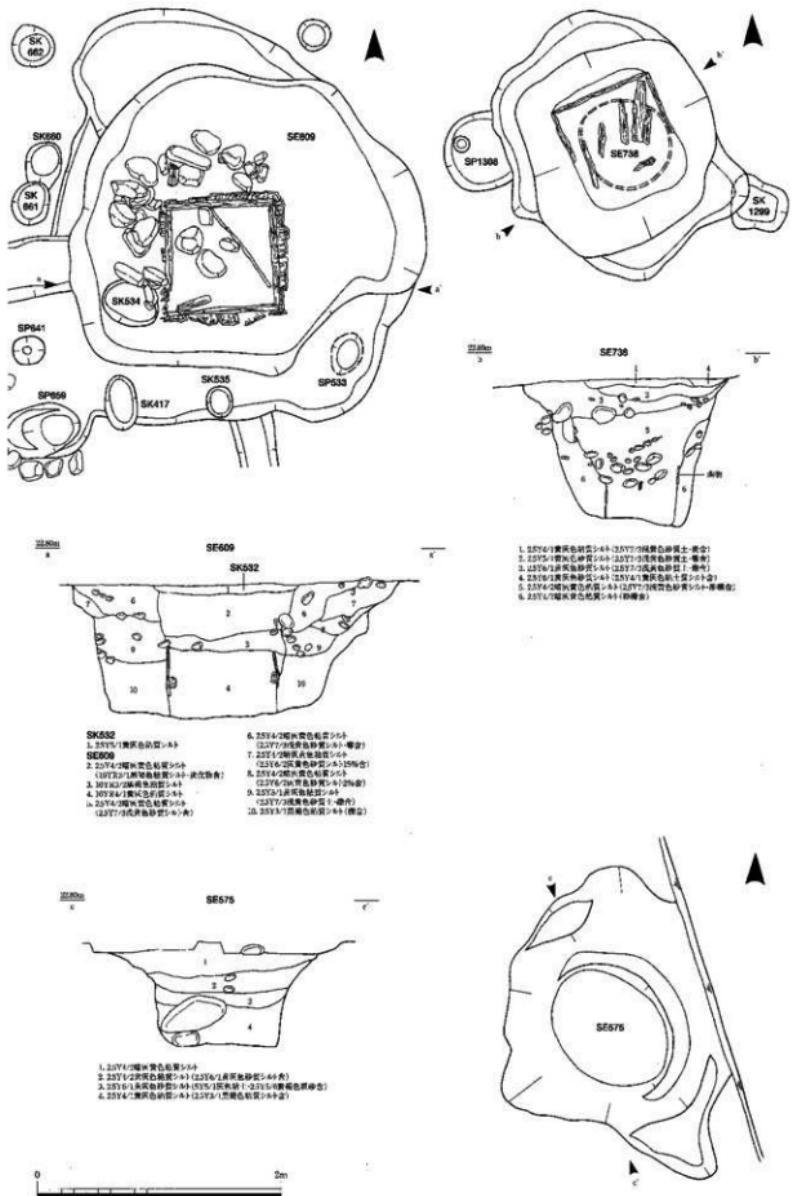
第175図 遺構実測図（中世後期）

SD741 SD739 SD736 SD721 SD1292



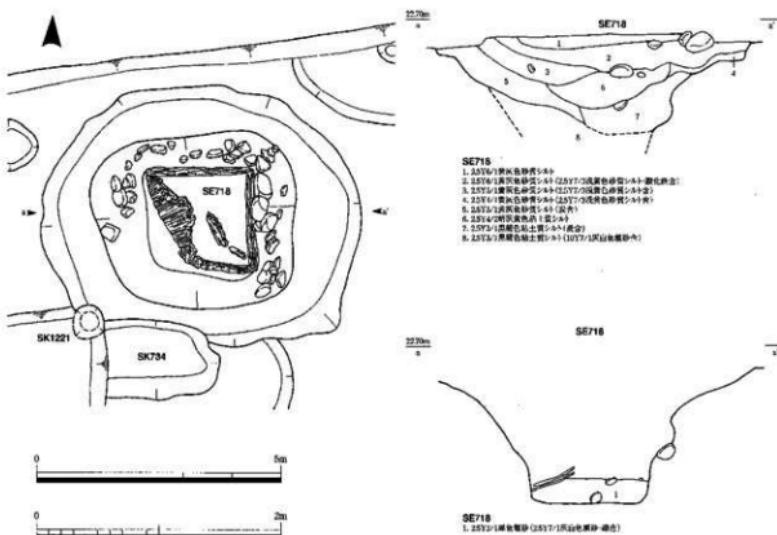
第176図 遺構実測図（中世後期）

SD1295 SD1296 SD1130 SD1112 SD1319 SD1063



第177図 遺構実測図（中世後期）

SE609 SE738 SE575



第178図 遺構実測図（中世後期）

SE718

が出土している。底に大きな石が投げ込まれており、井戸を埋めた際の祭祀ではないかと考えられる。

718号井戸（S E718、第178図）

A地区南側調査区の北端に位置する木組井戸。長径260cm、短径209cm、深さ95cm。井戸側の西半分が内側に向かって倒れていた。凝板組横棟留めの井戸側と思われる。出土遺物には、中世土師器・珠洲・木製品がある。

895号井戸（S E895、第179図、図版83）

長径245cm、短径226cm、深さ134cmの石組井戸。S E870より新しい。石組の断面形は、やや漏斗形を呈す。水溜めに曲物を持つ。出土遺物には、珠洲・木製品（曲物底板など）がある。

870号井戸（S E870、第179図、図版84）

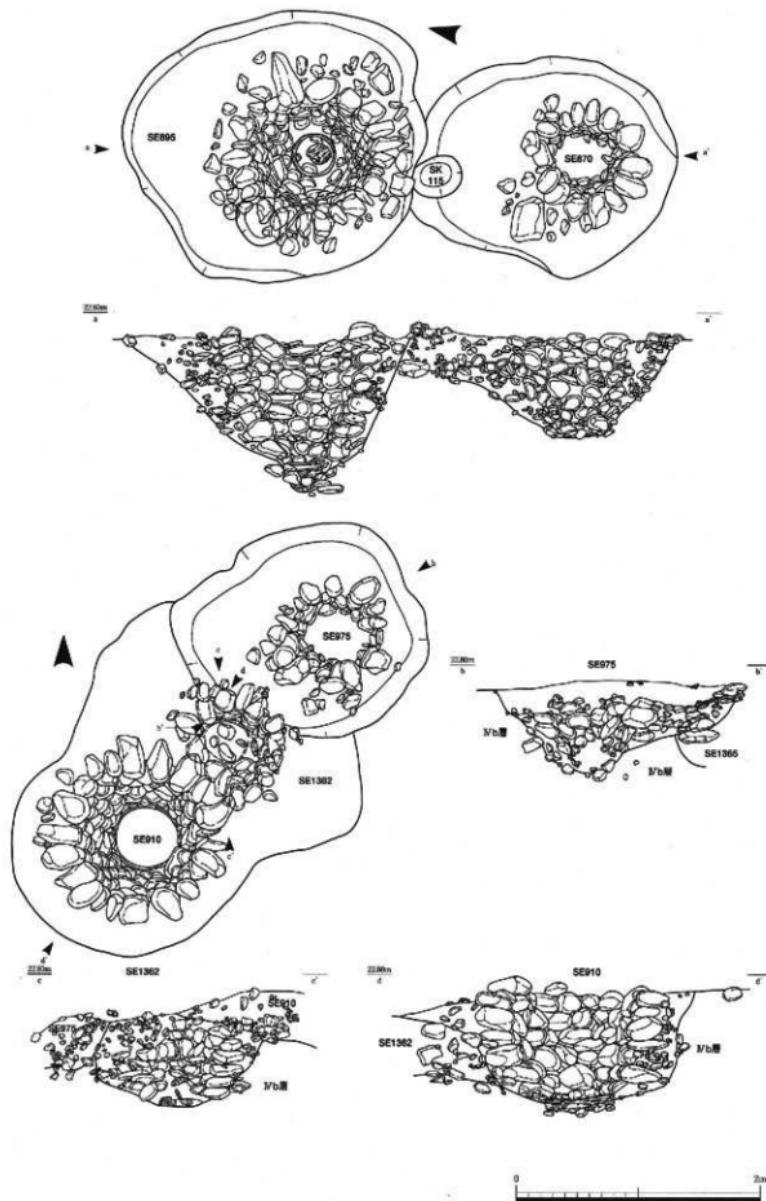
S E895に切られる石組井戸。長径260cm、短径180cm、深さ82cm。掘形は、北側がやや広くなり、小円錐で充填される。S E895に比べると、石の組み方は雑である。底に水溜めが入っていた痕跡は見られない。遺物は出土していない。

910号井戸（S E910、第179図、図版84）

S E1362を切る石組井戸。長径240cm、短径184cm、深さ96cm。底部に直径50cmの曲物が水溜めとして据えられていた。掘形は小さく、石も大きさの揃ったものが使われている。珠洲・石製品が出土している。

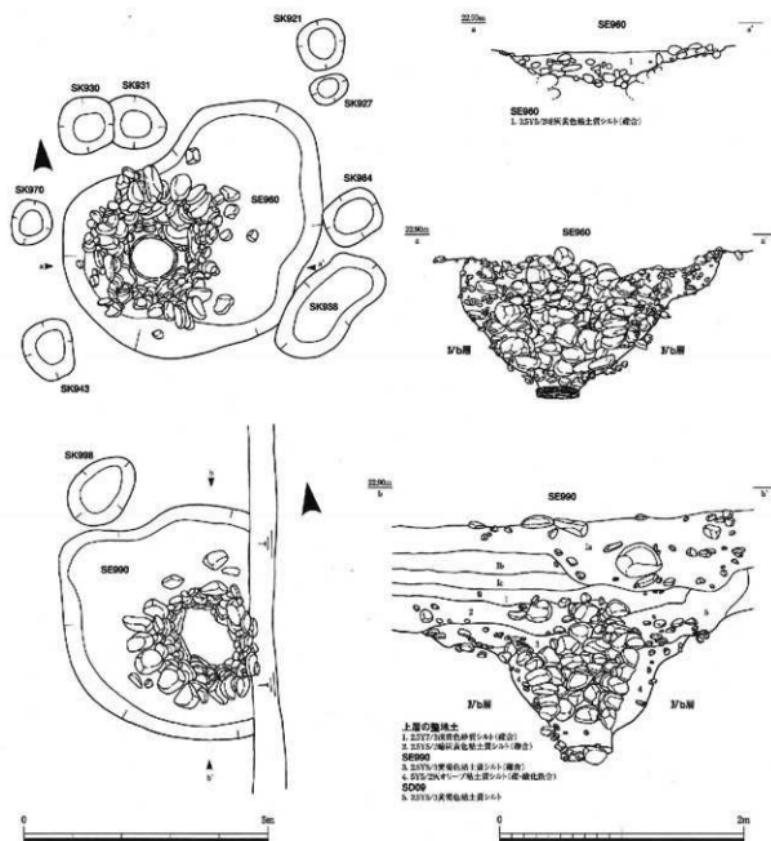
975号井戸（S E975、第179図、図版84）

S E910の北側でS E1362を切る石組井戸。長径210cm、短径180cm、深さ76cm。掘形は浅い漏斗形を呈し、石組は2~3段程度しかない。遺物の出土は見られない。



第179図 造構実測図（中世後期）

SE895 SE870 SE975 SE1362 SE910



第180図 遺構実測図（中世後期）

SE960 SE990

1362号井戸（S E1362、第179図、図版84）

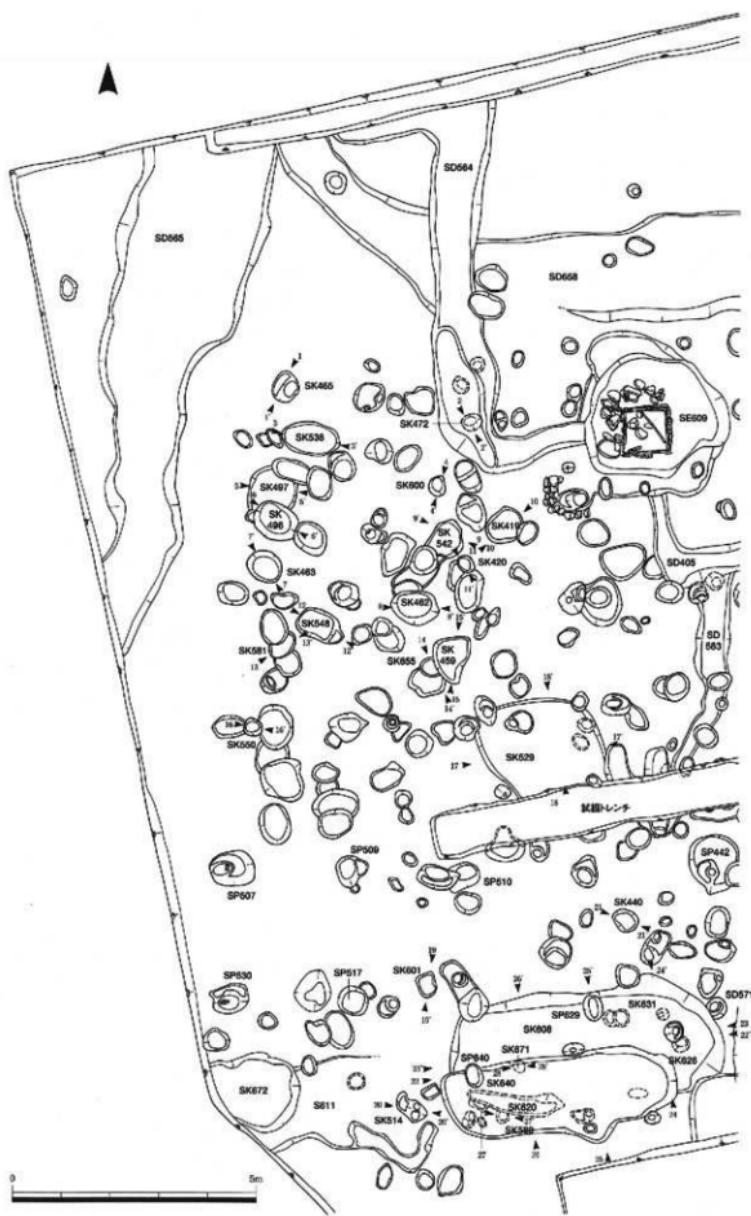
S E910・S E975に切られる石組井戸。深さ76cm。石組の上部は、前記の井戸に壊されており、2～6段が残っていた。水溜めの曲物があるが、残存状態は悪い。中世土師器・珠洲・土鍤・曲物の底板が出土している。

960号井戸（S E960、第180図、図版85）

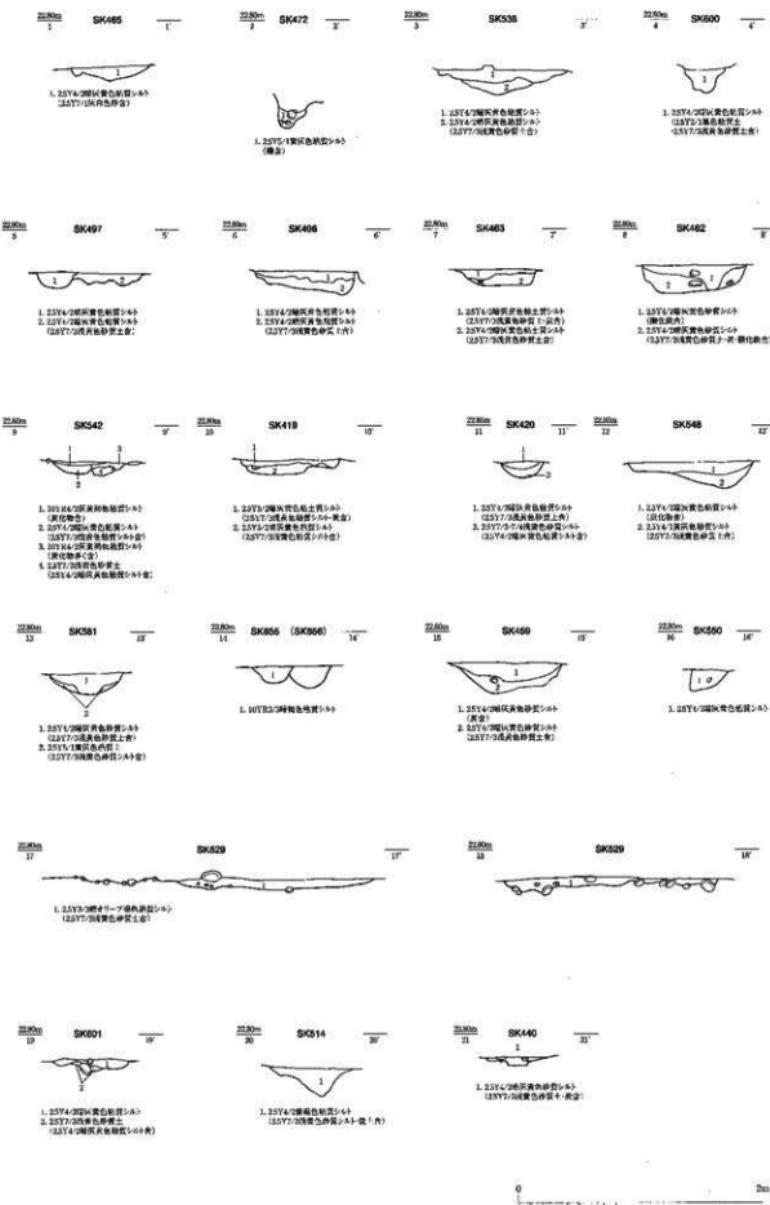
S B06の内側に位置する石組井戸。長径236cm、短径180cm、深さ122cm。掘形が大きく、石組も隙間のある雜な組み方である。水溜めに曲物を持つ。中世土師器が出土している。

990号井戸（S E990、第180図、図版85）

A地区南側調査区の東壁に掘形の一部を切られる石組井戸。長径192cm、現存幅150cm、深さ110cm。水溜め部分には曲物が据えられていたと思われる。木製品が出土している。



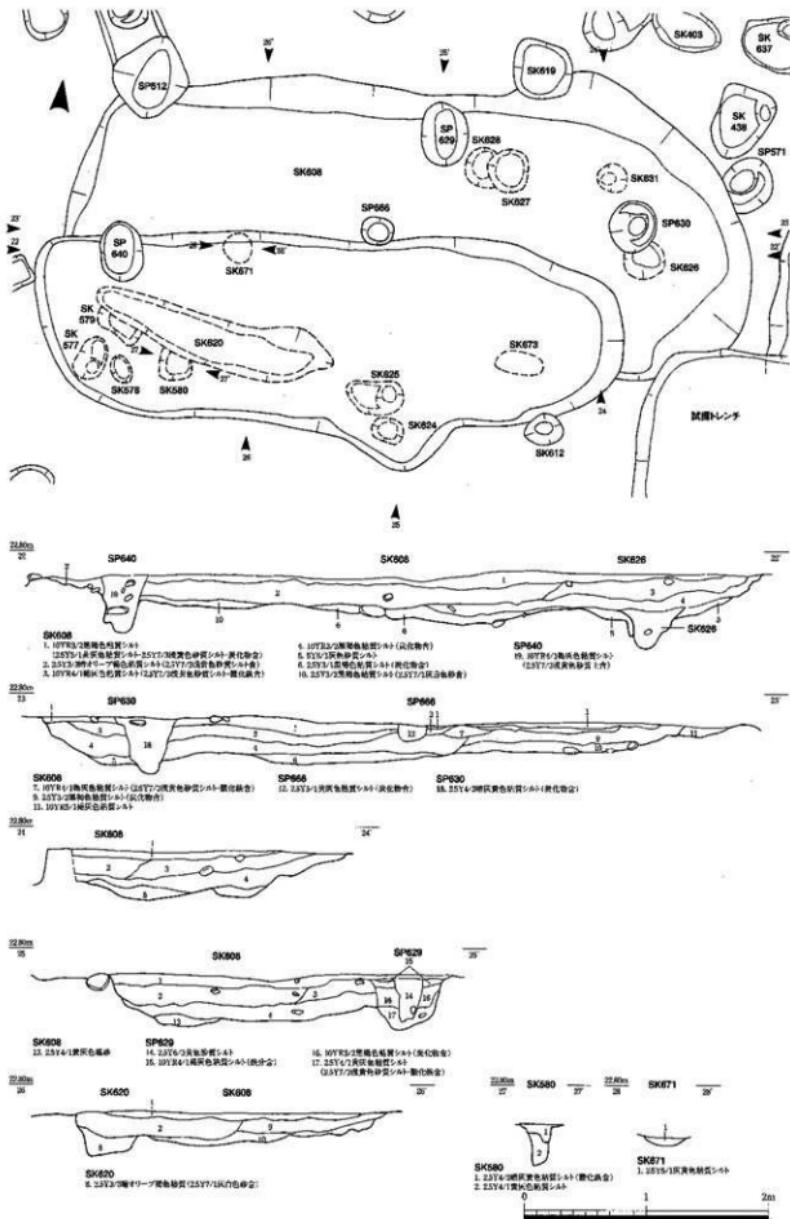
第181図 造構実測図（中世後期）



第182図 遺構実測図（中世後期）

SK465 SK472 SK538 SK600 SK497 SK498 SK463 SK462 SK542 SK419 SK420 SK548
SK581 SK556 SK550 SK529 SK601 SK514 SK640

2 造構



第183図 造構実測図（中世後期）

SK608 SP640 SK626 SP630 SP666 SP629 SK620 SK580 SK671

土坑

465号土坑（S K465、第181・182図）

A地区北側調査区X64Y56に位置する土坑。中世土師器が出土している。

472号土坑（S K472、第181・182図）

S D564の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。

538号土坑（S K538、第181・182図）

X63Y57に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

600号土坑（S K600、第181・182図）

X63Y85に位置する土坑。中世土師器・珠洲が出土している。

497号土坑（S K499、第181・182図）

X62Y57に位置する楕円形の土坑。S K496に切られる。中世土師器が出土している。

496号土坑（S K496、第181・182図）

X63Y56に位置する楕円形の土坑。珠洲が出土している。

463号土坑（S K463、第181・182図）

X62Y56に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

462号土坑（S K462、第181・182図）

X63Y85に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

542号土坑（S K542、第181・182図）

X62Y58に位置する楕円形の土坑。S K543に切られる。中世土師器が出土している。

419号土坑（S K419、第181・182図）

X62Y59に位置する土坑。中世土師器が出土している。

420号土坑（S K420、第181・182図）

X62Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

548号土坑（S K548、第181・182図）

X62Y57に位置する土坑。中世土師器が出土している。

581号土坑（S K581、第181・182図）

X61Y56に位置する土坑。中世土師器が出土している。

655号土坑（S K655、第181・182図）

X61Y58に位置する土坑。S K459に切られる。中世土師器が出土している。

459号土坑（S K459、第181・182図）

X61Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

550号土坑（S K550、第181・182図）

X60Y56に位置する土坑。中世土師器が出土している。

529号土坑（S K529、第181図・182図）

X60Y59に位置する土坑。S B05の柱穴に切られており、方形を呈す。S B05に伴う土坑かどうかは不明である。中世土師器が出土している。

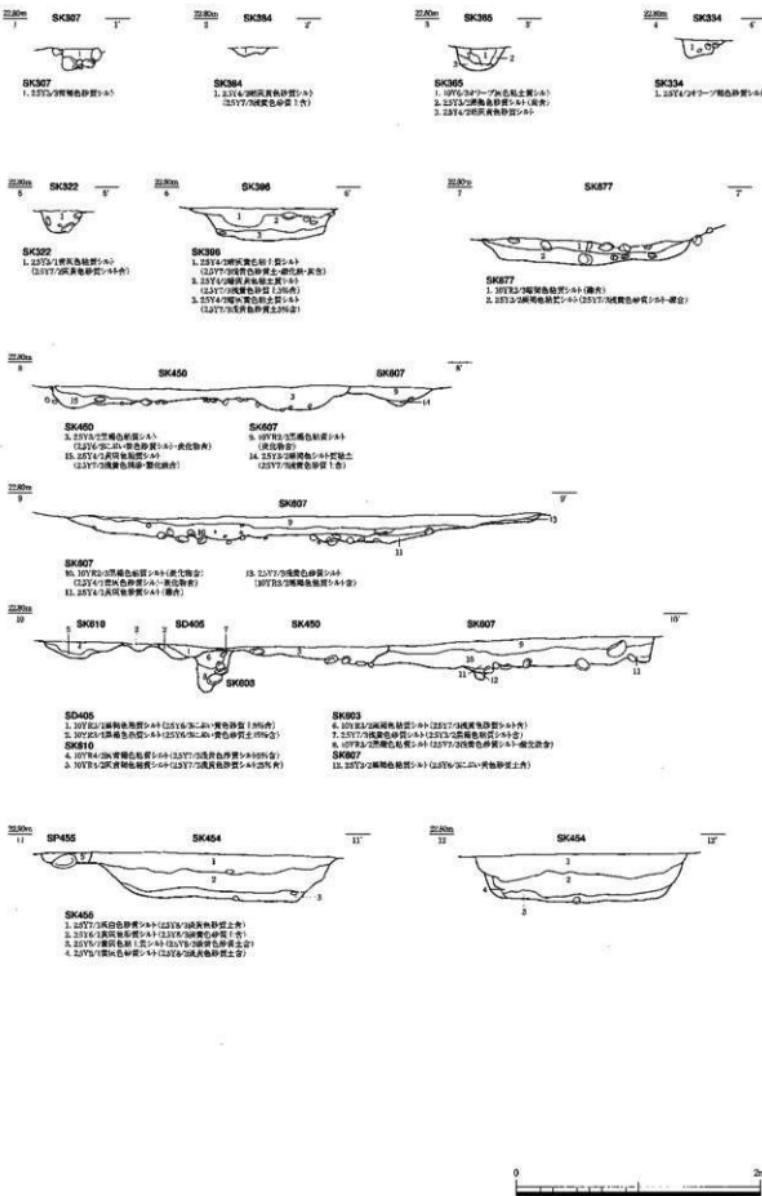
601号土坑（S K601、第181・182図）

X58Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

514号土坑（S K514、第181・182図）

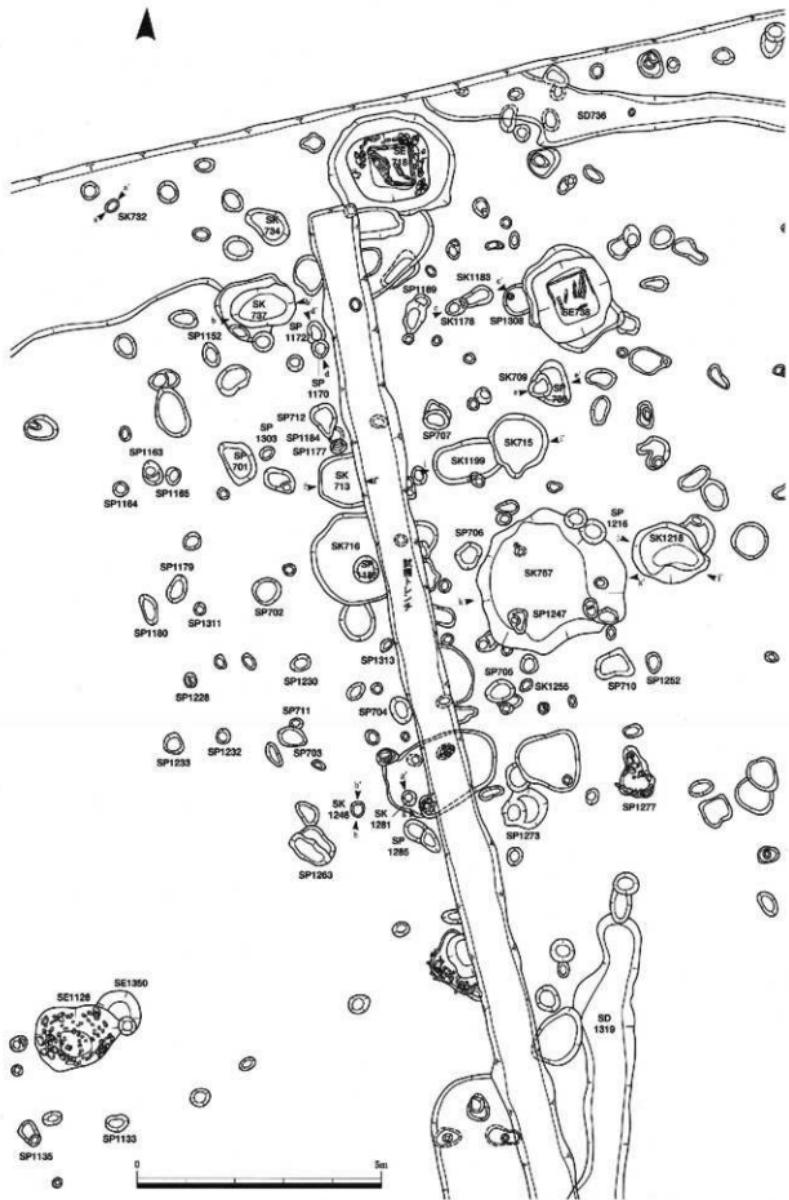


第184図 遺構実測図（中世後期）

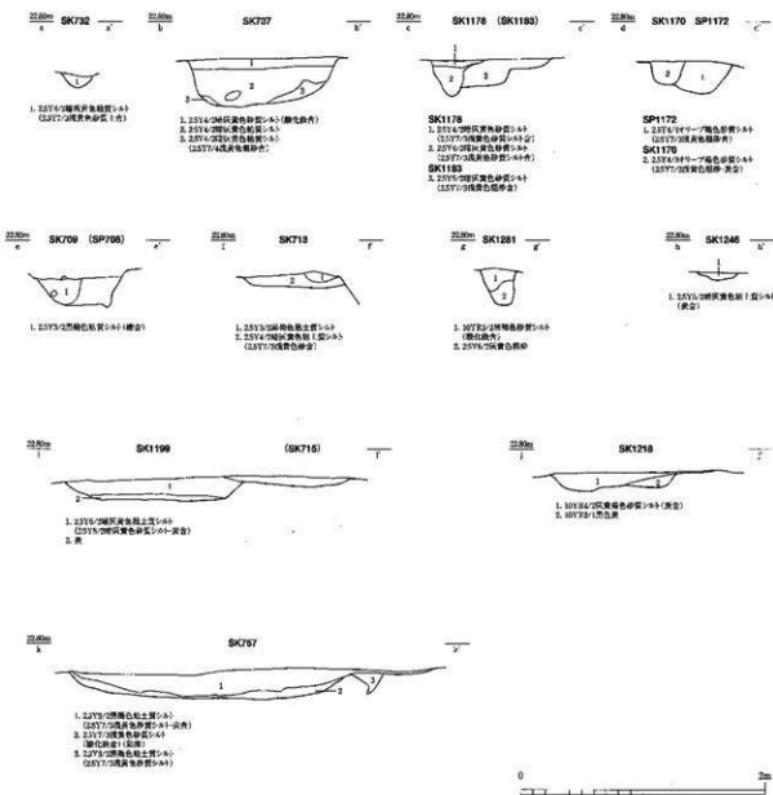


第185図 遺構審測図（中世後期）

SK307 SK384 SK365 SK334 SK322 SK396 SK677 SK450 SK607 SK610 SD405 SK603
SP455 SK454



第186図 造構実測図（中世後期）



第187図 遺構実測図（中世後期）

SK732 SK737 SK1178 SK1183 SK1170 SK1172 SK709 SK713 SK1281 SK1246 SK1199 SK1218
SK757

X57Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

440号土坑（S K440、第181・182図）

X58Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。

608号土坑（S K608、第183図）

S B01・04の柱穴に切られる土坑。覆土の堆積から2期に分けられる。中世土師器・珠洲・白磁・青磁・卜師器・石製品・金属製品が出土している。

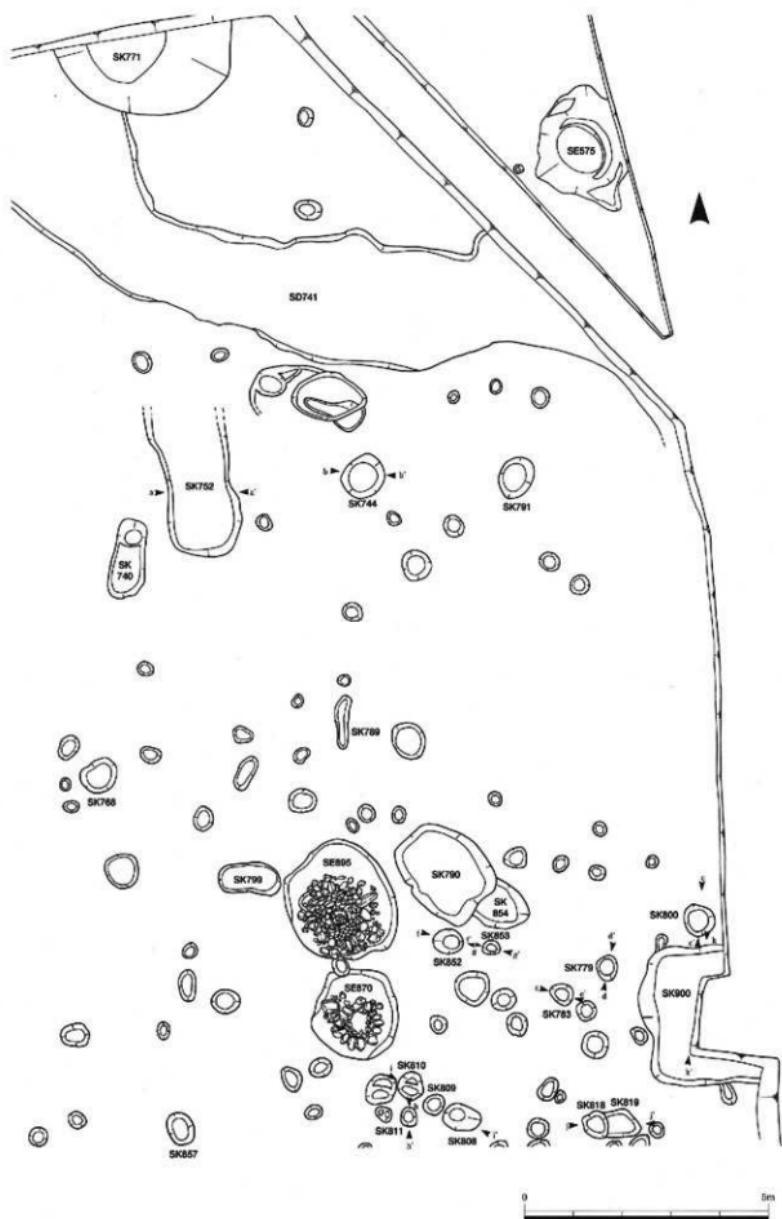
631号土坑（S K631、第183図）

S K608の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。

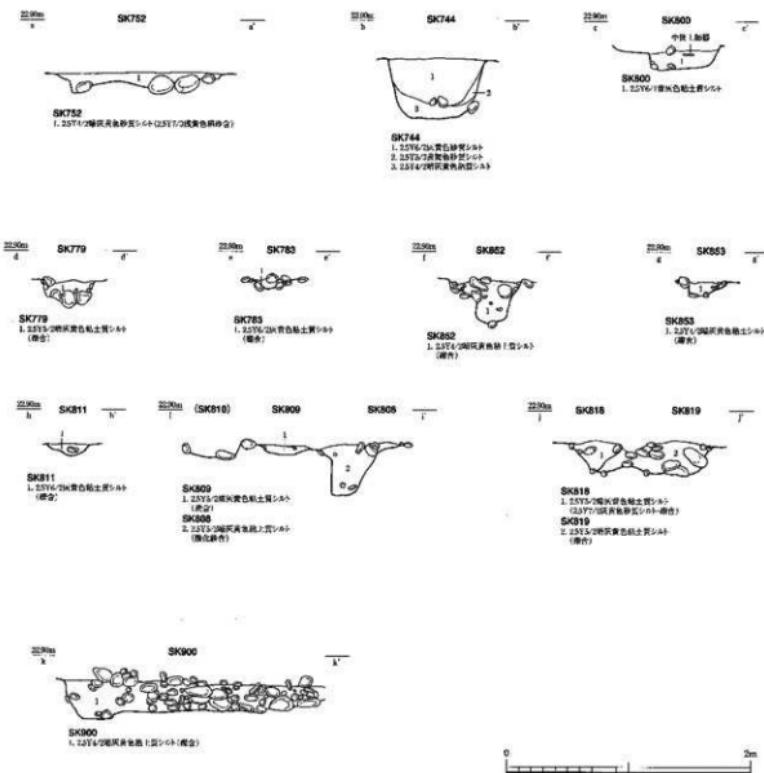
580号土坑（S K580、第183図）

S K608の底面から検出された土坑。S K620に切られる。中世土師器が出土している。

671号土坑（S K671、第183図）



第188図 遺構実測図（中世後期）



第189図 遺構実測図（中世後期）

SK752 SK744 SK800 SK779 SK783 SK852 SK811 SK809 SK808 SK818 SK819
SK900

S K 608の底面から検出された土坑。中世土師器が出土している。

307号上坑 (S K307、図184・185図)

X68 Y 65に位置する土坑。礫層から検出された。中世土師器が出土している。

384号上坑 (S K384、図184・185図)

X64 Y 62に位置する上坑。中世土師器が出土している。

365号土坑 (S K365、図184・185図)

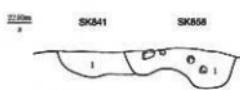
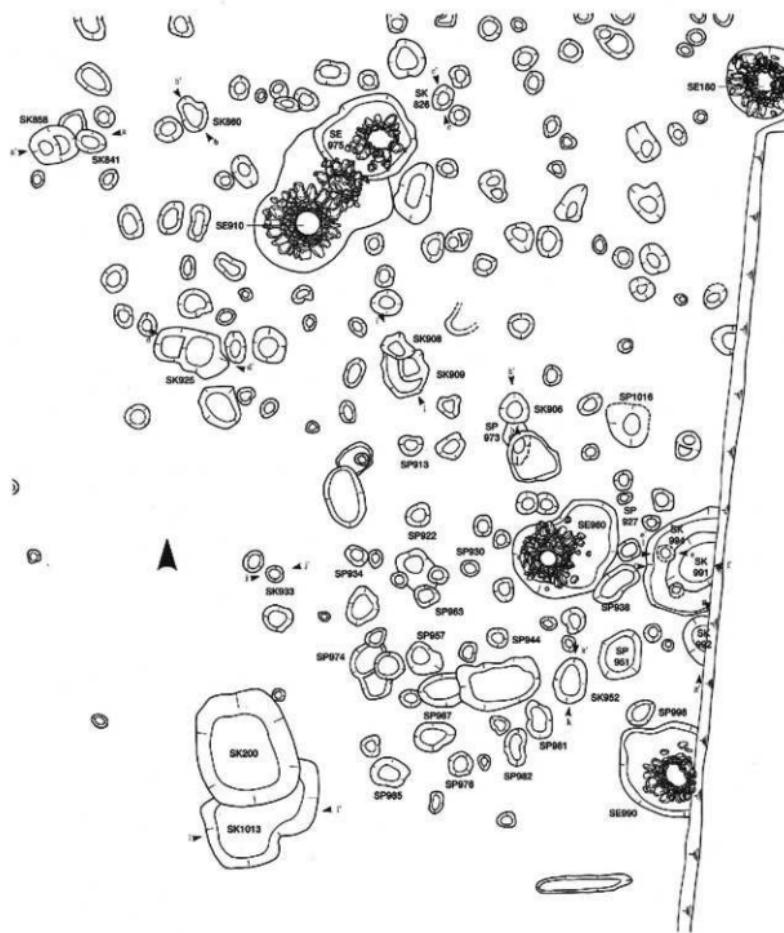
X62 Y 62に位置する上坑。中世土師器が出土している。

334号土坑 (S K334、図184・184図)

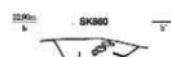
X61 Y 64に位置する土坑。中世土師器・青磁が出土している。青磁は碗の底部で、S K607出土のものと接合した。

332号土坑 (S K322、図184・185図)

X63 Y 66に位置する土坑。中世土師器が出土している。



SK841
1. 2275/2層灰白色土質シルト
SK858
1. 2275/2層灰白色土質シルト
(窓)

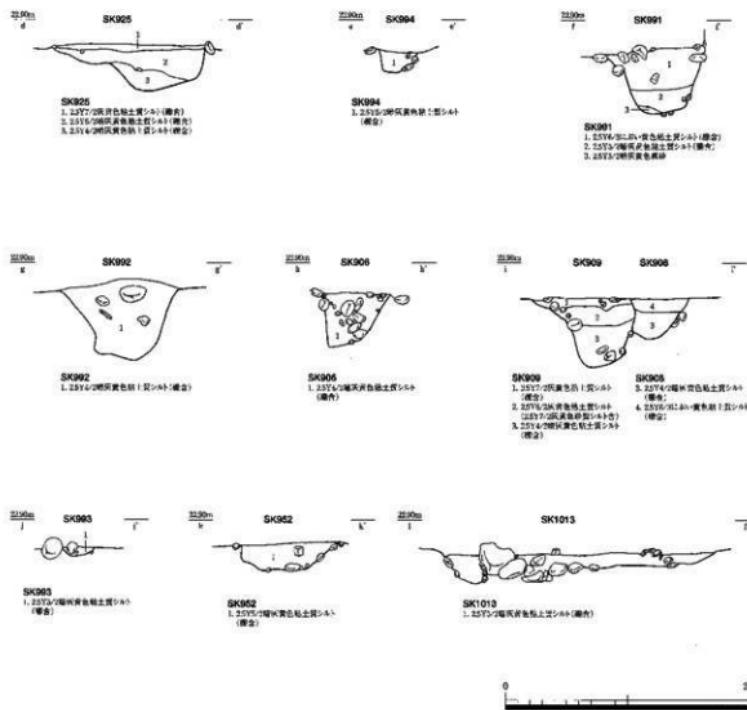


SK860
1. 2275/2層灰白色土質シルト
(窓)



SK826
1. 2275/2層灰白色土質シルト
(窓)

第190図 造構実測図（中世後期）
SK841 SK858 SK860 SK826



第191図 遺構実測図（中世後期）

SK925 SK994 SK991 SK992 SK906 SK909 SK908 SK993 SK1013

396号土坑（S K396、図184・185図）

X58Y62に位置する土坑。中世土器が出土している。

677号土坑（S K677、図184・185図）

X62Y63に位置する土坑。S K607の底面から検出した。

450号土坑（S K450、図184・185図）

S D405に切られる土坑。S B02の柱穴 S P682を切るために、建物に伴う土坑ではないと思われる。土師器・中世土器・珠洲・八尾・青磁が出土している。八尾はS K607出土のものと接合する。

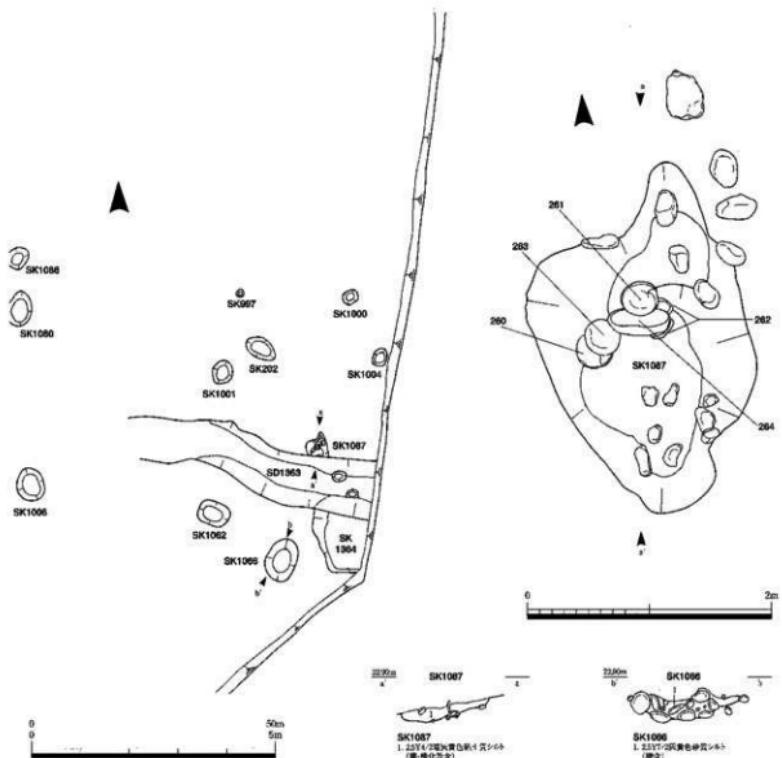
607号土坑（S K607、図184・185図）

S K450に切られる土坑。中世土器・珠洲・八尾・瀬戸・青磁・金属製品が出土している。

454号土坑（S K454、図184・185図、図版85）

S B04の柱穴に切られる土坑。方形を呈し、S B04に伴うとも考えられるが、覆土に堅い粘床状の土層は見られない。中世土器が出土している。

732号土坑（S K732、図186・187図）



第192図 遺構実測図（中世後期）

SK1087 SK1066

X52Y43に位置する土坑。中世土師器・珠洲が出土している。

737号土坑（S K737、第186・187図）

X51Y44に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

1178号土坑（S K1178、第186・187図）

X51Y46に位置する土坑。S K1183を切る。中世土師器が出土している。

1170号土坑（S K1170、第186・187図）

S B08の柱穴S P1172を切る土坑。中世土師器が出土している。

709号土坑（S K709、第186・187図）

S B08の柱穴S P708を切る土坑。白磁が出土している。

713号土坑（S K713、第186・187図）

X49Y45に位置する土坑。試掘トレンチに切られている。珠洲と青磁が出土している。

1281号土坑（S K1281、第186・187図）

- X46 Y46に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 1246号土坑（S K1246、第186・187図）
- X46 Y45に位置する土坑。浅い円形を呈し、鉄滓が出土している。
- 1199号土坑（S K1199、第186・187図）
- X50 Y47に位置する土坑。底面に炭化物層が見られる。珠洲が出土している。
- 1218号土坑（S K1218、第186・187図）
- X48 Y48に位置する土坑。底面に炭化物の堆積が見られる。遺物の出土は見られない。
- 757号土坑（S K757、第186・187図、図版85）
- S B08・09の柱穴に切られる土坑。底面に酸化鉄を含む堅く締まった面がある。S B08に伴う土坑の可能性がある。中世土師器が出土している。
- 752号土坑（S K752、第188・189図）
- 中世末期～近世の溝 S D09に切られる長方形の土坑。中世土師器が出土している。
- 744号土坑（S K744、第188・189号土坑）
- X51 Y57に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 800号土坑（S K800、第188・189図）
- X46 Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 779号土坑（S K779、第188・189図）
- X46 Y60に位置する土坑。珠洲が出土している。
- 783号土坑（S K783、第188・189図）
- X45 Y59に位置する浅い土坑。中世土師器が出土している。
- 852号土坑（S K852、第188・189図）
- X46 Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 853号土坑（S K853、第188・189図）
- X46 Y59に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 811号土坑（S K811、第188・189図）
- X44 Y57に位置する土坑。中世土師器が出土している。
- 808号土坑（S K808、第188・189図）
- X44 Y58に位置する梢円形の土坑。青磁が出土している。
- 819号土坑（S K819、第188・189図）
- X44 Y59に位置する土坑。S K818に切られる。中世土師器が出土している。
- 900号土坑（S K900、第188・189図）
- 調査区東壁に切られる方形の土坑。覆土は単層で礫を多く含む。珠洲が出土している。
- 858号土坑（S K858、第190・191図）
- S K841に切られる土坑。青磁が出土している。
- 860号土坑（S K860、第190・191図）
- X43 Y55に位置する不整形な土坑。珠洲が出土している。
- 826号土坑（S K826、第190・191図）
- X43 Y57に位置する土坑。中世土師器・八尾が出土している。
- 925号土坑（S K925、第190・191図）

X40Y54に位置する土坑。中世土師器が出土している。

994号土坑（S K994、第190・191図）

X39Y59に位置する土坑。珠洲が出土している。

991号土坑（S K991、第190・191図）

X38Y60に位置する土坑。木製品が出土している。

992号土坑（S K992、第190・191図）

X37Y60に位置する土坑。中世土師器が出土している。

906号土坑（S K906、第190・191図）

X40Y58に位置する土坑。中世土師器が出土している。

908号土坑（S K908、第190・191図）

X40Y57に位置する土坑。S K909に切られる。中世土師器が出土している。

933号土坑（S K933、第190・191図）

X38Y55に位置するごく浅い土坑。珠洲が出土している。

952号土坑（S K952、第190・191図）

X37Y58に位置する土坑。珠洲が出土している。

1013号土坑（S K1013、第190・191図）

中世末期～近世の遺構 S K200に切られる土坑。遺物の出土は見られない。

1087号土坑（S K1087、第192図、図版86）

S D1363に切られる土坑。形状は、不整形で南北に長い。完形の中世土師器が5枚出土した。中世土師器は、大1枚・小4枚のセットであったが、これは梅原胡摩堂の土壙墓から出土したものと同じである。しかし、大きさ・深さから墓壙とは考えにくい。

1060号土坑（S K1060、第192図）

X29Y58に位置する楕円形の土坑。中世土師器が出土している。

墓壙

2038号土壙墓（S Z2038、第193図、図版86）

B地区南側 S D2032に囲まれた一画に位置する。長さ156cm、幅149cm、深さ33cmの方形の土坑。南北を主軸方向とする。珠洲が出土している。

2039号土壙墓（S Z2039、第193図、図版86）

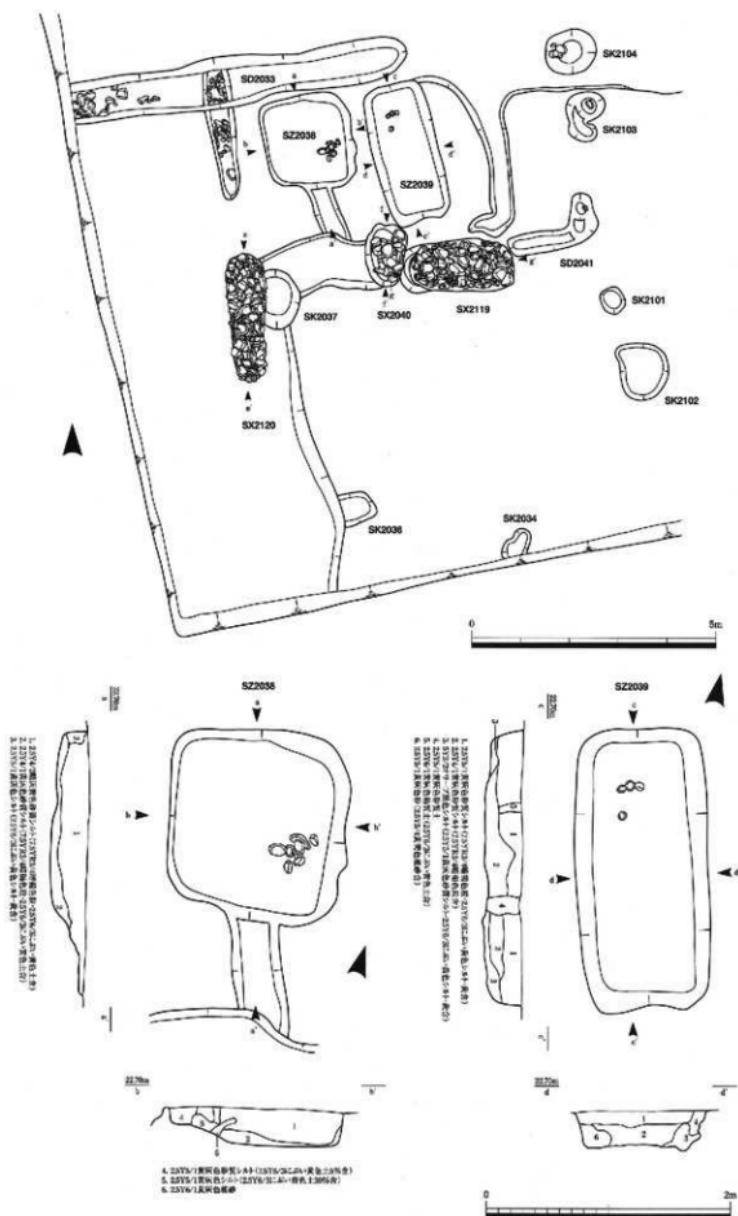
S Z2038の東に並ぶ土壙墓。長さ231cm、幅109cm、深さ36cmの長方形を呈する土坑。主軸方向は南北。土壙内の北側、床面から少し浮いた状態で中世土師器の皿が完形で4枚出土している。この内3枚は東西に1列に並び、1枚は南に少し離れて出土した。木質遺物・釦などの木棺がおかれていた形跡はないが、堆積の状況から見て木棺墓の可能性もある。墓壙内に中世土師器が副葬される例は、富山県福岡町梅原胡摩堂遺跡でも見られる。

2040号集石墓（S X2040、第193・194図、図版86）

S Z2039の南西隅に接するよう位置する楕円形の土坑。長さ105cm、幅67cm、深さ14cm。主軸方向は南北。覆土表面に礫が貼り付けられている。遺物の出土は見られない。

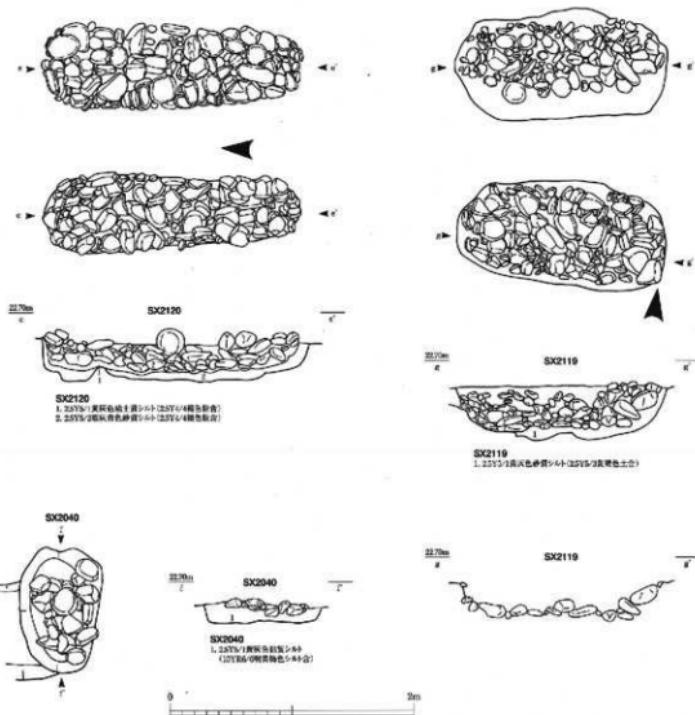
2119号集石墓（S X2119、第194図、図版87）

S Z2039の南側に位置する集石墓。長さ174cm、幅84cm、深さ22cmを測る細長い楕円形を呈す。主軸は、東西方向。土坑内の床面・壁面には直径10cm前後の扁平な円礫を貼り、内部を円礫で充填する。



第193図 遺構実測図（中世後期）

SZ2038 SZ2039



第194図 造構実測図（中世後期）

SX2120 SX2119 SX2040

珠洲・八尾が出土している。また、微量ではあるが骨片も出土している。

2120号集石墓（S X2120、第194図、図版87）

S X2040の西側に位置する集石墓。長さ209cm、幅63cm、深さ28cmの細長い楕円形の土坑。主軸は南北方向。S X2119と同じく、土坑内を礫で埋い、充填する。S X2120は、S X2119に比べて土坑の縁を意識して造られており、土坑の壁面には円礫が立てて貼り付けられている。中世土器・珠洲・八尾が出土している。

B 中世末期～近世

中世末期～近世からは、掘立柱建物6棟、土台建物、柵列2条、溝、井戸3基、土坑多数が見つかっている。

掘立柱建物

13号掘立柱建物（S B13、第195図、図版88）

A地区北側調査区の東北隅に位置する2間×2間の掘立柱建物。南北棟で、主軸方向はN-17°-W。桁行4.7m×梁行4.0mで、平面積は18.8m²である。北西隅と南西隅の柱穴を欠く。柱穴の大きさは、

直径20~60cm、深さは10~20cmである。建物内に不整形で浅い土坑 S K343・310を持つ。柱穴 S P 312から中世土師器が出土している。

14号掘立柱建物（S B 14、第196図、図版88）

S D09に囲まれる区画の北西隅に位置する掘立柱建物。2間×3間の南北棟で、主軸方向はN-7°-E。桁行5.5m×梁行3.4mで、平面積は18.7m²である。遺物の出土は見られない。

15号掘立柱建物（S B 15、第197図、図版88）

A地区南側調査区のX37~41Y56~58に位置する2間×4間の掘立柱建物。南面に1間×1間の張り出しを持つ。桁行6.76m、梁行4.04m。平面積は27.3m²になる。

16号掘立柱建物（S B 16、第197図）

S B15と重なって建つ1間×1間の掘立柱建物。桁行4.0m×梁行3.22mで、主軸はN-0°-W。

17号掘立柱建物（S B 17、第198図、図版89）

A地区南側調査区のX34~38Y49~51に位置する。2間×3間の南北棟で、北面に1間×1間の張り出し、建物内に土坑 S K80を持つ。主軸方向は、N-6.5°-W。桁行は7.3m、梁行3.3mで、建物の平面積は24.09m²になる。建物内にある土坑 S K80は、3.1m×2.4mの長方形で、柱穴を含む。柱間寸法は、桁行が北張り出しから1.5m、3.5m、1.7m、2.1m、梁行が東から1.7m、1.6mである。南辺の柱穴 S P 243・244・245は、柱間が不規則であり、穴自体も他のものに比べると浅い。このため、建物の柱穴ではなく、庇や櫛といったものも考えられる。S K80から中世土師器が出土している。この掘立柱建物は、柱の立て方から見て近世と思われる。

18号掘立柱建物（S B 18、第199図、図版89）

A地区南側調査区のX40~42Y40~44に位置する掘立柱建物。土坑とそれに伴う1間×3間の西棟、小さな柱穴が不規則に並ぶ東棟で構成される。西棟は南北棟で、主軸方向は、N-10°-Wである。桁行3.1m×梁行3mで、平面積は9.3m²。桁行の柱間は北から1.6m、1.5m。土坑 S K26の中央部を南北に試掘トレンチが通っており、このため梁の柱穴が検出できなかった可能性がある。S K26は、3.4m×2.8mの南北に長い土坑。東棟は、4間×2(3)間の南北棟に張り出し・土坑が付く。建物北面が3間、南面が2間になっており、平面形は台形を呈す。東棟の母屋部分の平面積は18.55m²。周辺に小さな土坑が散り、これらも立て替え等に伴う柱穴かと考えられる。S K26から中世土師器・珠洲・八尾、S P 30・S K32・S K49から珠洲が出土している。

土台建物

915・977・978・983号土台建物（S X915・977・978・983、第200図、図版90）

X40Y60付近にある重なり合った遺構群で、調査区東壁に切られる。長方形を呈し、貼り床と思われる堅く締まった覆土を持つ。S X915は西側に30cm大の礫が一列に並ぶ。S X977は調査区外に延びる方形の遺構で、外周に礫が並べられ、土台建物の基礎と考えられる。

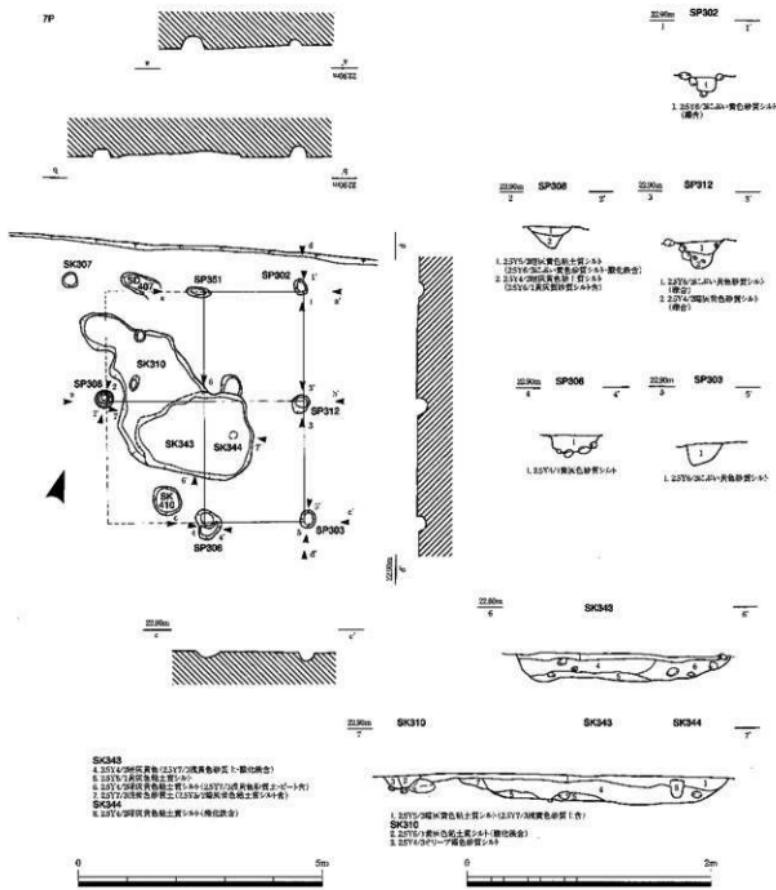
溝

12号溝（S D12、第201図）

A地区南側調査区の東北隅を東西に流れる溝。S D09の北辺を平行に走る。S D09・219と併せて道の側溝と考えられる。中世土師器・珠洲が出土している。

9号溝（S D09、第201図、図版90）

A地区南側調査区の東端を逆の字形に巡り、北側で鉤状に曲がる溝。区画溝と考えられ、その内側には掘立柱建物・井戸・土坑等が密に存在する。北でS D219、南でS D90を切っている。中世土



第195図 遺構実測図（中世末期～近世）

SB13 SP302 SP308 SP312 SP306 SP303 SK343 SK310

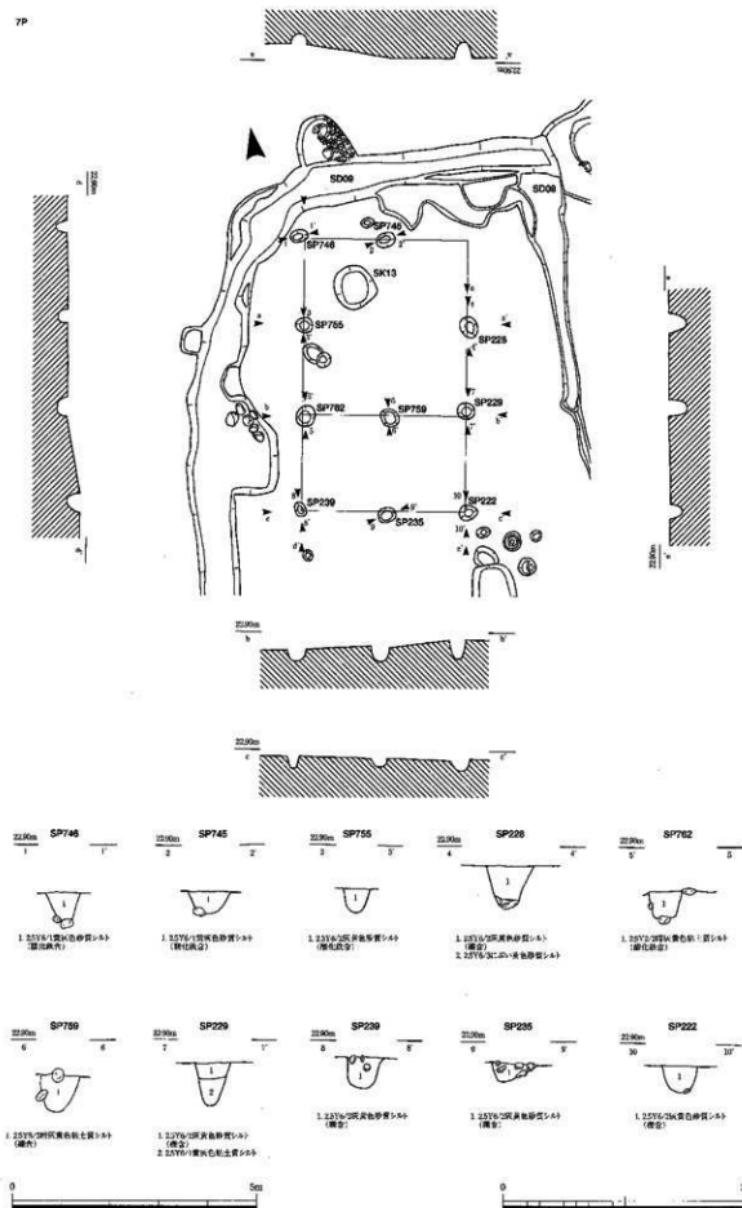
築器・珠洲・瀬戸・越中瀬戸が出土している。

21号溝（S D219、第201図）

A地区南側調査区の東壁から S D09に向かって東西に流れる溝。西端を S D09・S K215に切られる。出土遺物は見られない。

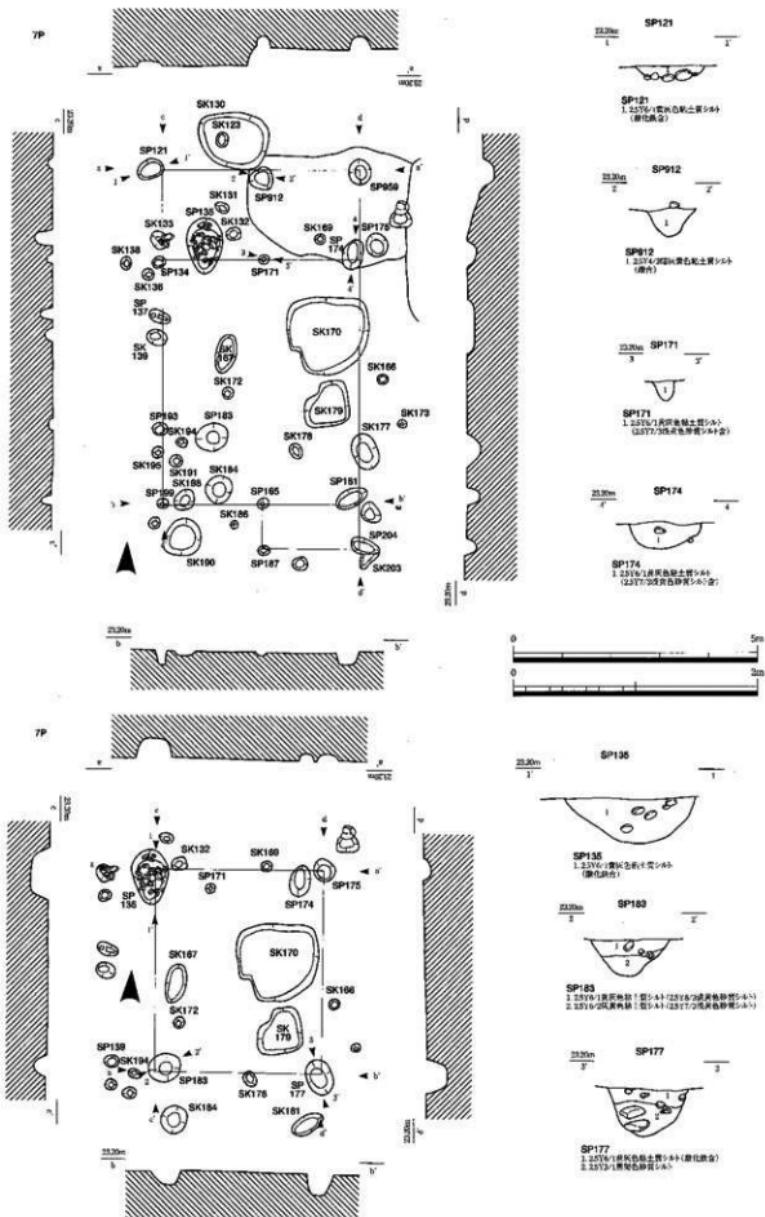
90号溝（S D90、第201図）

S D09の南辺に一部重なり東西を流れる溝。S D09より古く、S D220・221よりは新しい。集落と低地（S D241）を分ける区画溝と考えられる。中世・築器・珠洲・瀬戸・伊万里が出土している。珠洲には、S D09出土遺物と接合するものがある。



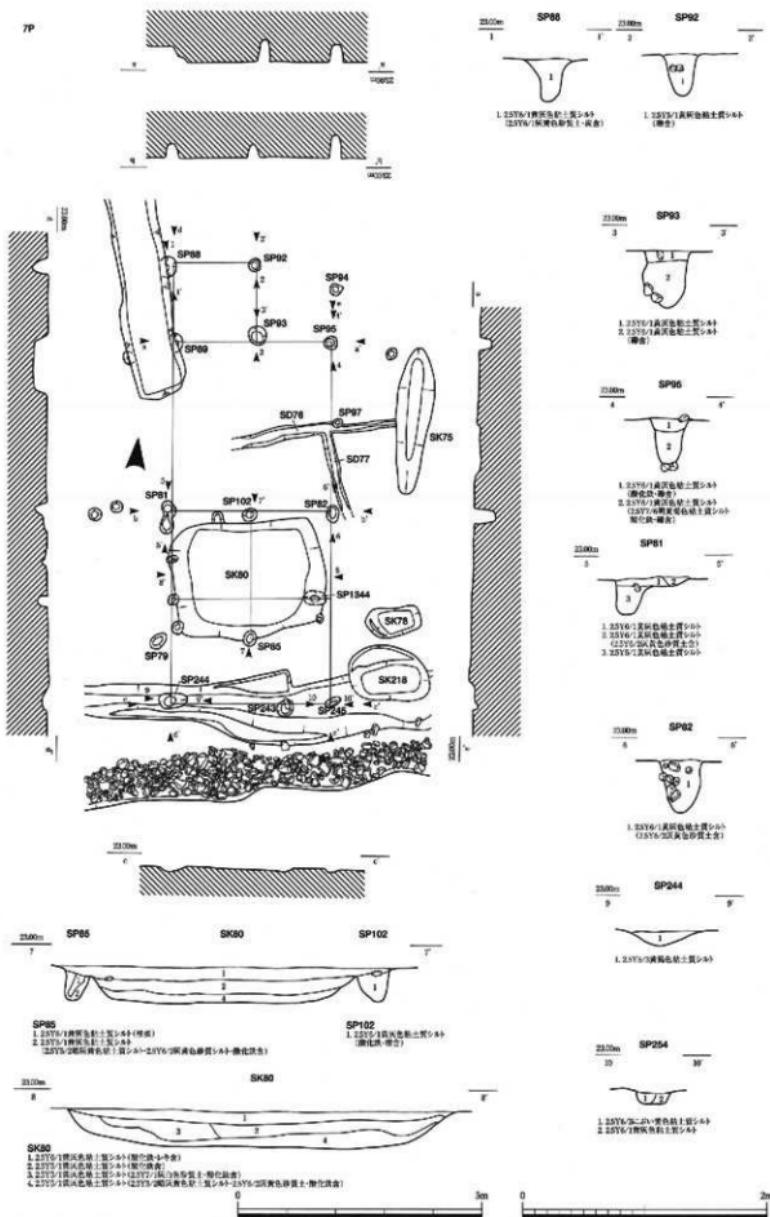
第196図 遺構実測図（中世末期～近世）

SB14 SP746 SP745 SP755 SP228 SP762 SP759 SP229 SP239 SP235 SP222



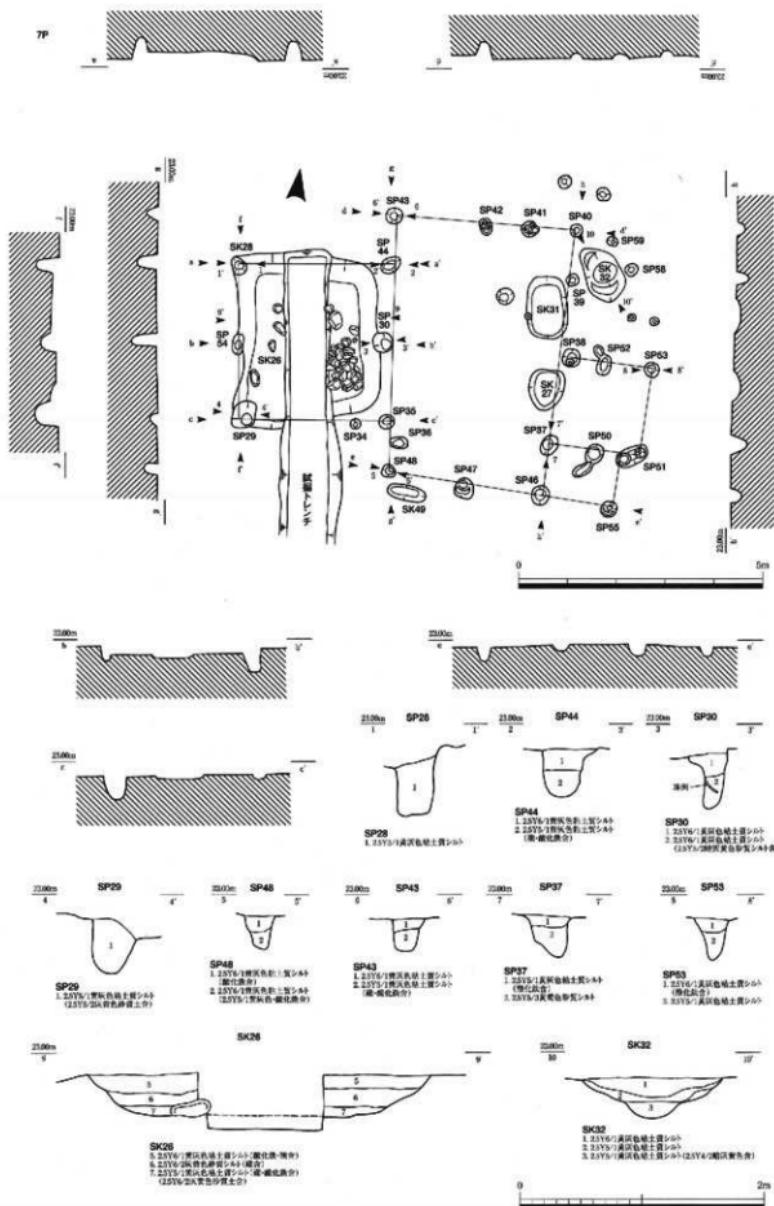
第197図 遺構実測図（中世末期～近世）

SB15 SP121 SP912 SP171 SP174 SB16 SP135 SP183 SP177



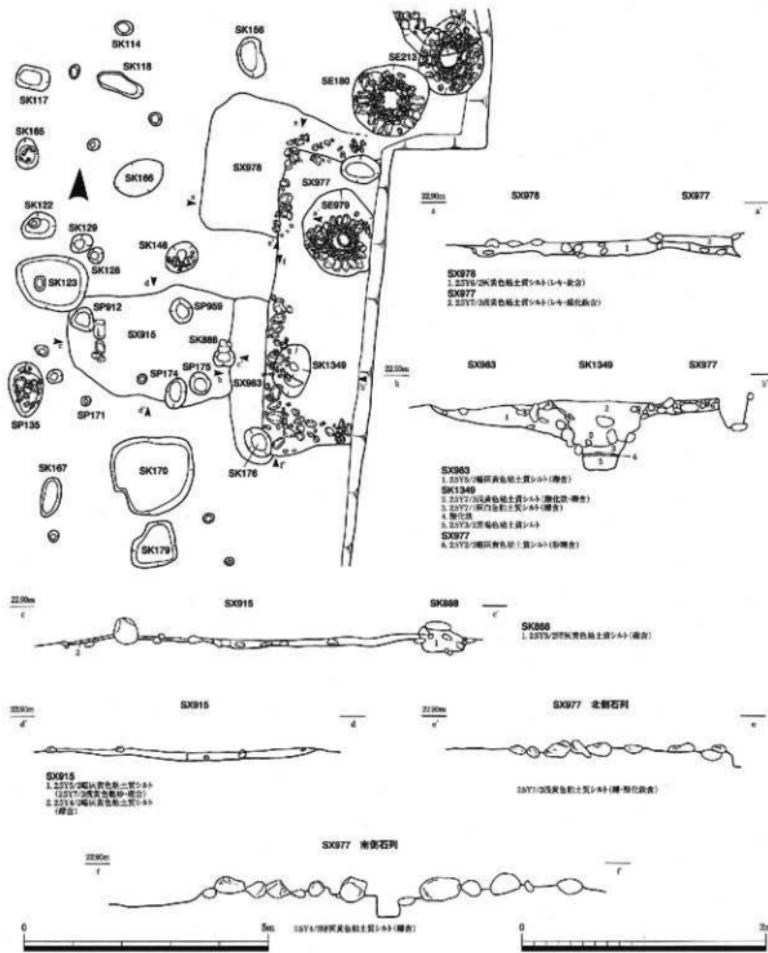
第198図 遺構実測図（中世末期～近世）

SB17 SP88 SP92 SP93 SP95 SP96 SP81 SP82 SP244 SP245 SP85 SP102 SK80



第199図 遺構実測図（中世末期～近世）

SB18 SP28 SP44 SP30 SP29 SP48 SP43 SP37 SP53 SK26 SK32



第200図 遺構実測図（中世末期～近世）

SX978 SX977 SX983 SX915

220号溝（S D220、第201図）

S D90と重なって東西に流れる溝。S D09より古く、S D221より新しい。覆土中に多量の小円礫を含む。珠洲が出土している。

221号溝（S D221、第201図）

S D90と平行に流れる溝。S D90と同じく区画溝と思われる。切り合う S D09・90・220・221の中では一番古い溝である。溝の肩に礫が並ぶ。中世土師器・珠洲が出土している。

6号溝（S D06、第202図）

A地区南側調査区の北辺中央部に位置する溝。南北に流れる。一部検出できなかった部分があるが、全長14m程度になると思われる。幅30cm、深さ3cmと浅い。遺物の出土は見られない。

8号溝（S D08、第202図）

S D06の1m西側を平行に流れる溝。全長13m、幅27cm、深さ5cm。中世土師器が出土している。

3号溝（S D03、第202図）

S D08の西側を平行に流れる溝。一部検出できなかった部分があるが、全長14m程度と思われる。幅33cm、深さ3cmと浅い。遺物の出土は見られない。

4号溝（S D04、第202図）

S D03の西側を平行に流れる溝。幅21cm、深さ3cm。遺物の出土は見られない。

10号溝（S D10、第202図）

S D04の西側2.5mに位置する南北溝。全長6m、幅40cm、深さ5cmで、S D03・04・06・08に比べ幅はやや広いが浅い溝である。遺物の出土は見られない。

14号溝（S D14、第202図）

S D10の西側2.3mに位置する南北溝。全長8m、幅20~94cm、深さ4cm。土師器・中世土師器・珠洲が出土している。

15号溝（S D15、第202図）

S D14の西2.5mを走る南北溝。全長9.5m、幅34cm、深さ4cm。遺物の出土は見られない。

16号溝（S D16、第202図）

S D15の南東に位置する短く深い溝。全長1.7m、幅17cm、深さ5cm。遺物の出土は見られない。

17号溝（S D27、第202図）

S D15の西側1mに位置する溝。一部検出できない箇所があった。全長7.5m、幅23cm、深さ4cm。遺物の出土は見られない。

S D03・04・06・08・10・14~17は、いずれも浅い溝で、ほぼ平行に南北を流れている。必ずしも等間隔ではないが、非常に浅い溝であるために検出できなかった可能性もある。これら9条の溝はさく状（鉗状）造構ではないかと考えられる。これらの造構の周辺には、土坑・掘立柱建物等の造構が少なく、A地区南側調査区の北辺中央部16m×17mの範囲は畑地として利用されていたのではないかと思われる。

65・66・69号溝（S D65・66・69、第202図）

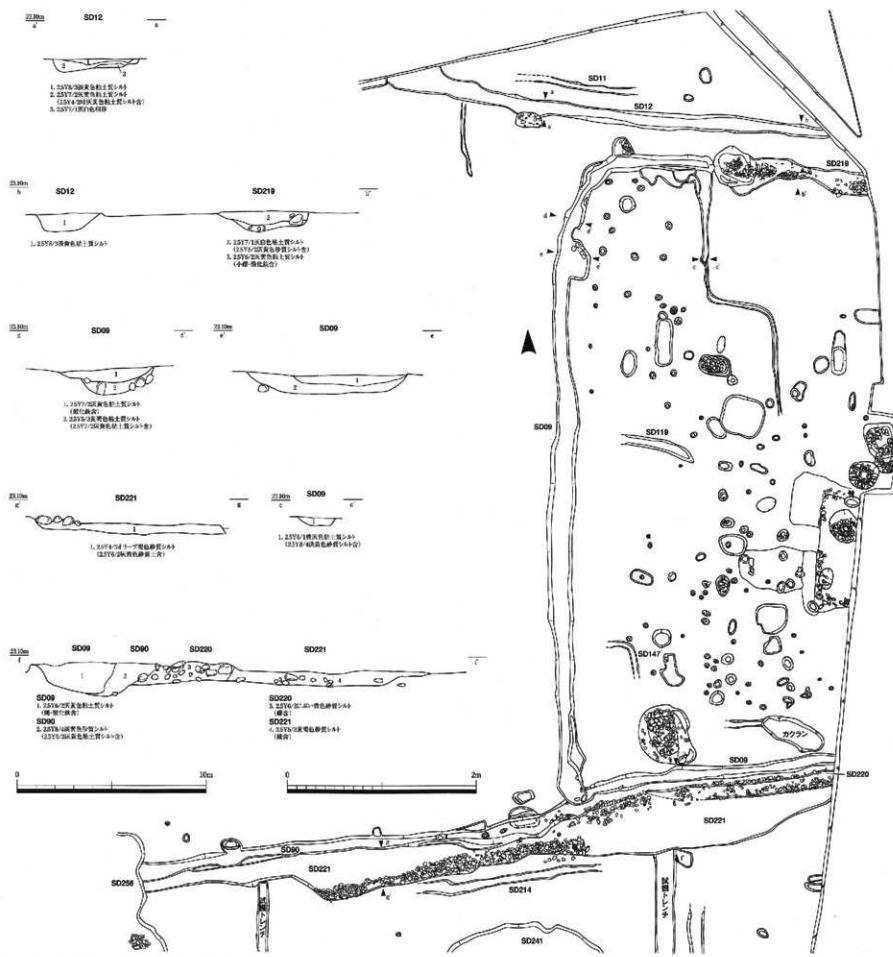
A地区南側調査区のX37Y47付近に位置する浅く短い溝。S D65は南北溝である。S D66はS D65の西側1m離れたところに位置する。S D65とは平行ではない。S D69はS D65の西2.3mに位置する溝。S D65と平行に南北に走る。遺物の出土は見られない。さく状造構と考えられる。

241号溝（S D241、第203図）

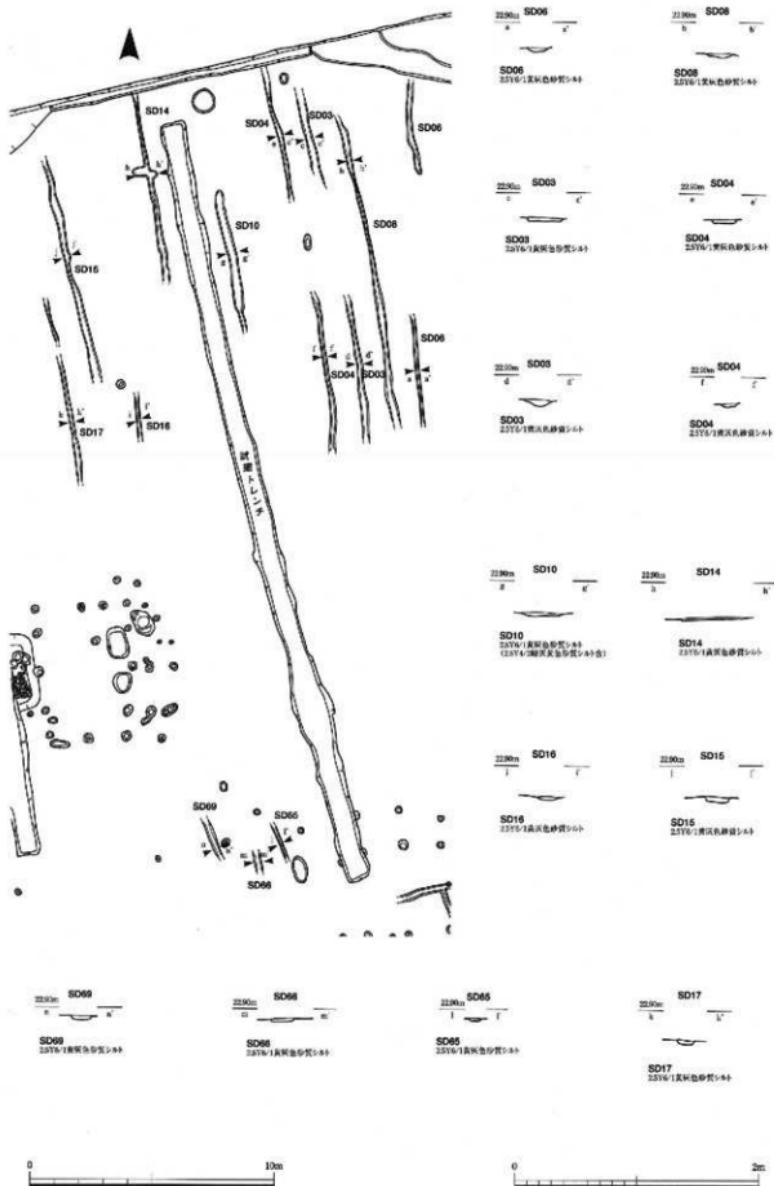
A地区南側調査区のX31以南に広がる溝。最深部で、検出面からの深さが42cm。溝というよりも、池や湿地といったものが考えられる。地形的にこれより南は低くなっている。S D90・220・221は、これを区画するための溝と思われる。中世土師器・珠洲・八尾が出土している。

256号溝（S D256、第203図）

A地区南側調査区の西端に位置し、S D90・221を切る溝。調査区外に延びる。現存幅9.1m、深さ25cm。この溝の覆土は、浅黄色砂で他の造構では見られない。このためS D256は造構の性格が他とは異なり、人為的な造構というよりも洪水などで砂が堆積したのではないかと考えられる。中世土師

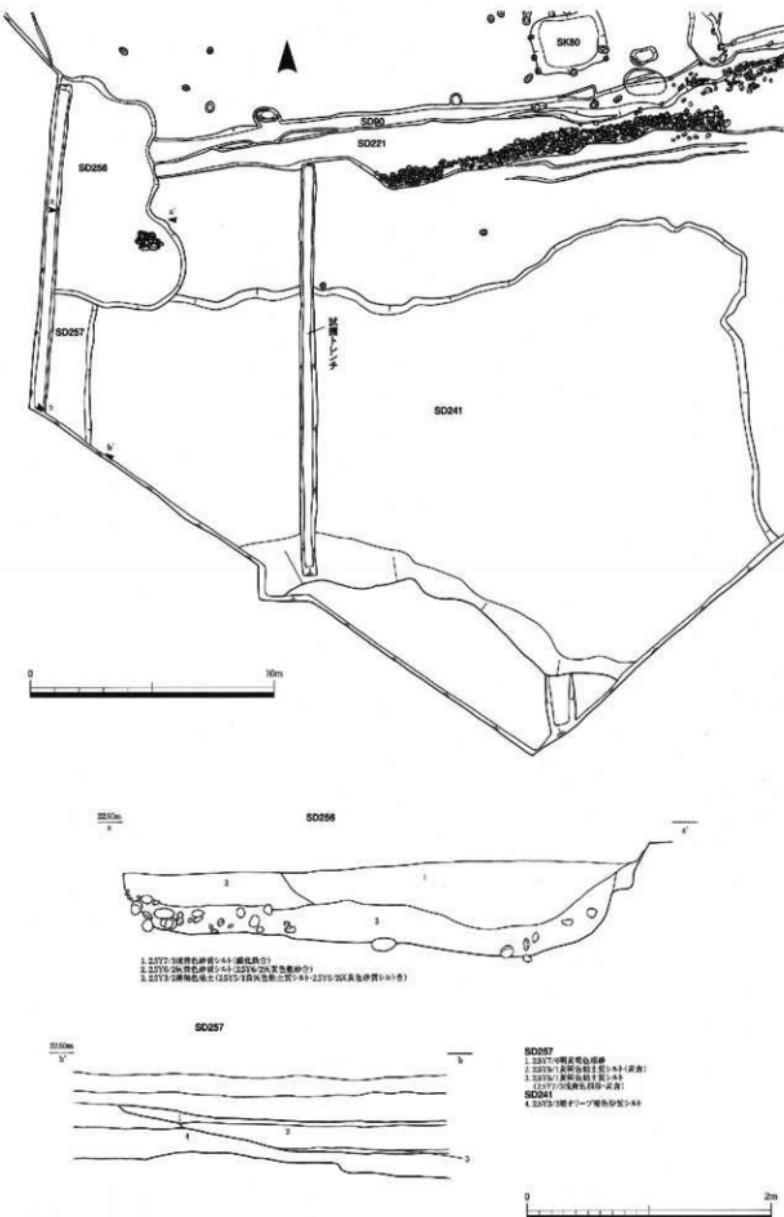


第201図 遺構実測図（中世末期～近世）
SD12 SD219 SD09 SD221 SD20 SD220



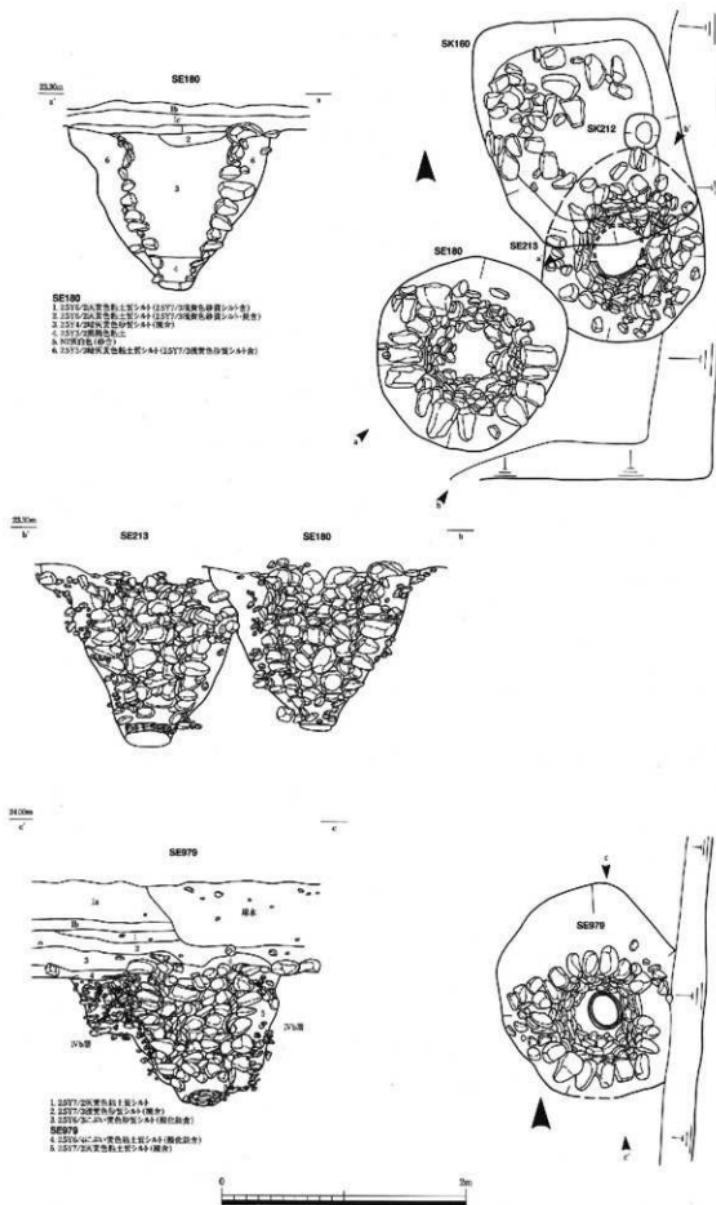
第202図 造構実測図（中世末期～近世）

SD06 SD08 SD03 SD04 SD10 SD14 SD16 SD15 SD69 SD66 SD65 SD17



第203図 遺構実測図（中世末期～近世）

SD256 SD257 SD241



第204図 遺構実測図（中世末期～近世）
SE180 SE213 SE979

器・珠洲・瓦質土器が出土している。

井戸

180号井戸（S E180、第204図、図版90・91）

A地区南側調査区の東縁際に位置する石組井戸。長径154cm、短径147cm、深さ132cm。S E213より新しい。覆土中から曲物片が出土しており、水溜めに曲物が据えられていた可能性がある。中世土師器・珠洲・曲物・漆器・加工木が出土した。また、骨・植物の種子・昆虫の羽といった動植物の遺存体も見つかっている。

213号井戸（S E213、第204図、図版90・91）

S E180とS K160に切られる井戸。長径161cm、短径132cm、深さ139cmの石組井戸で、水溜め部分には曲物をもつ。曲物は半分程度の残存である。石組はS E180に比べてやや粗い。出土遺物には、中世土師器・加工木・曲物がある。植物種子・昆虫の羽が覆土中から出土している。

979号井戸（S E979、第204図、図版91）

S X977を切る石組井戸。長径177cm、短径145cm、深さ97cm。水溜めに曲物をもつ。掘形の北側がやや広く、小円碟で充填される。遺物の出土はみられない。

土坑

7号土坑（S K07、第205図）

S D12を切る土坑。長軸139cm、短軸78cm、深さ39cmの楕円形である。覆土は小円碟を多量に含む。珠洲・近世の陶器が出土している。

215号土坑（S K215、第205図）

S D219を切る土坑。覆土中に碟の混入が見られる。長軸235cm、短軸146cm、深さ22cmの不整形を呈す。中世土師器・珠洲が出土している。

13号土坑（S K13、第205図）

S B14の内部に位置する、直径85cm、深さ13cmの円形の土坑。中世土師器が出土している。出土遺物から16世紀以降の遺構と思われる。S B14に伴う遺構かどうかは不明。

109号土坑（S K109、第205図）

X46~47Y55に位置する長方形の土坑。長さ253cm、幅93cm、深さ32cm。出土遺物は見られない。

116号土坑（S K116、第205図）

X46Y56に位置する直径49cm、深さ9cmの円形の土坑。珠洲が出土している。

115号土坑（S K115、第205図）

X46Y57に位置する土坑。

210号土坑（S K210、第206・207図）

X44Y56に位置する。長さ129cm、深さ30cm。珠洲が出土している。

156号土坑（S K156、第206・207図）

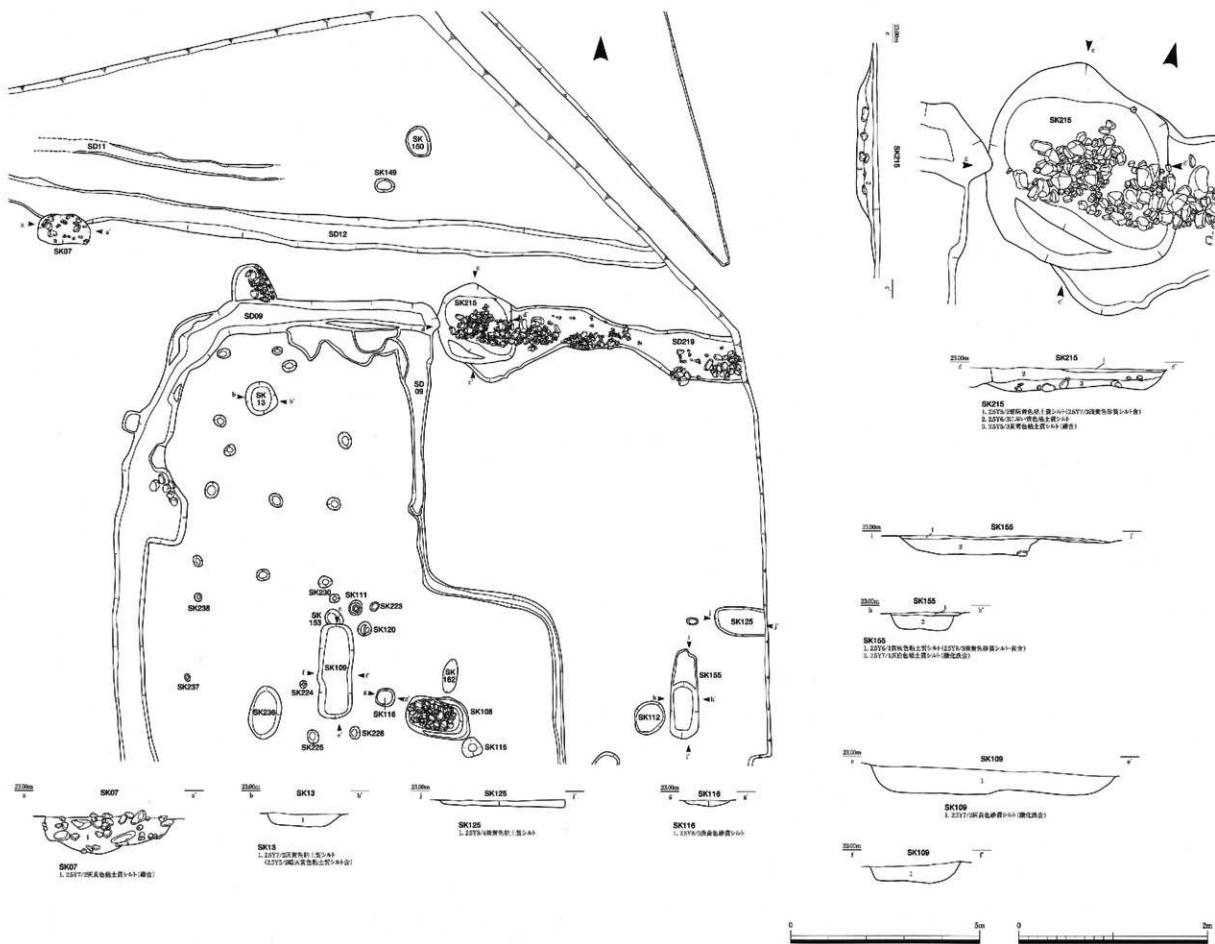
X44Y59に位置する。長軸84cm、短軸53cm、深さ20cmの楕円形の土坑。遺物の出土は見られない。

165号土坑（S K165、第206・207図）

X43Y57に位置する。長軸63cm、短軸48cm、深さ25cmの楕円形の土坑。15世紀末から16世紀前半の中世土師器が出土している。

166号土坑（S K166、第206・207図）

X42Y58に位置する。長軸105cm、短軸48cm、深さ25cmの楕円形の土坑。中世土師器・珠洲が出土



第205図 遺構実測図（中世末期～近世）

SK07 SK13 SK125 SK116 SK215 SK155 SK109

している。珠洲は S D09出土のものと接合する。

128号土坑（S K128、第206・207図）

X42Y57に位置する。直径33cmの円形の土坑。中世土師器が出土している。

130号土坑（S K130、第206・209図）

S K123に切られる土坑。中世土師器が出土している。

123号土坑（S K123、第206・207図）

X41Y57に位置する土坑。中世土師器・越中瀬戸が出土している。

190号土坑（S K190、第206・207図）

X37Y56に位置する土坑。中世土師器が出土している。

170号土坑（S K170、第206・207図）

X39Y58に位置する土坑。S B16の内側にあり、建物に伴う土坑とも考えられる。中世土師器が出土している。

200号土坑（S K200、第206・207図、図版88・91）

X36Y55に位置する土坑。長径361cm、短径290cm、深さ82cmの不整形を呈する土坑。土坑の北側に石段が築かれており、排水施設と考えられる。珠洲が出土している。

構列

4・5号構列（S A04・05、第208図、図版92）

B地区南壁沿いのX79~81Y38~49に位置する。土坑が2列、平行に並ぶ。北側のS A04は12基の土坑が並び、全長19m。南側のS A05は15基の土坑が並び、全長21.5mを測る。土坑は直径20~30cm、深さ3~16cmである。土坑が浅いこと、またS A01とS A05の土坑が対応していないことから、建物の柱穴とは考えにくい。S K2004から中世土師器が出土しているほか遺物の出土は見られない。

3 遺物

A 中世後期

掘立柱建物

1号掘立柱建物（S B01、第209図、図版106）

1はS P530出土の礎盤。柱穴の底面近くで見つかった。Y字状を呈し、粘質シルトの土壤で柱を固定するためのものと思われる。2~4・6は中世土師器。S P426出土の2はB類、3はD類。S P461出土の4はE類。S P627出土の6は、ロクロ土師器でR D類である。5はS P461出土の砥石。

2号掘立柱建物（S B02、第209図）

7はS P349出土の土師器の壺。S K450出土のものと接合したが、いずれも古代の包含層を遺構が掘り抜いているために出土したものと思われる。8はS P679から出土した珠洲。Ⅲ~Ⅳ期のT壺。

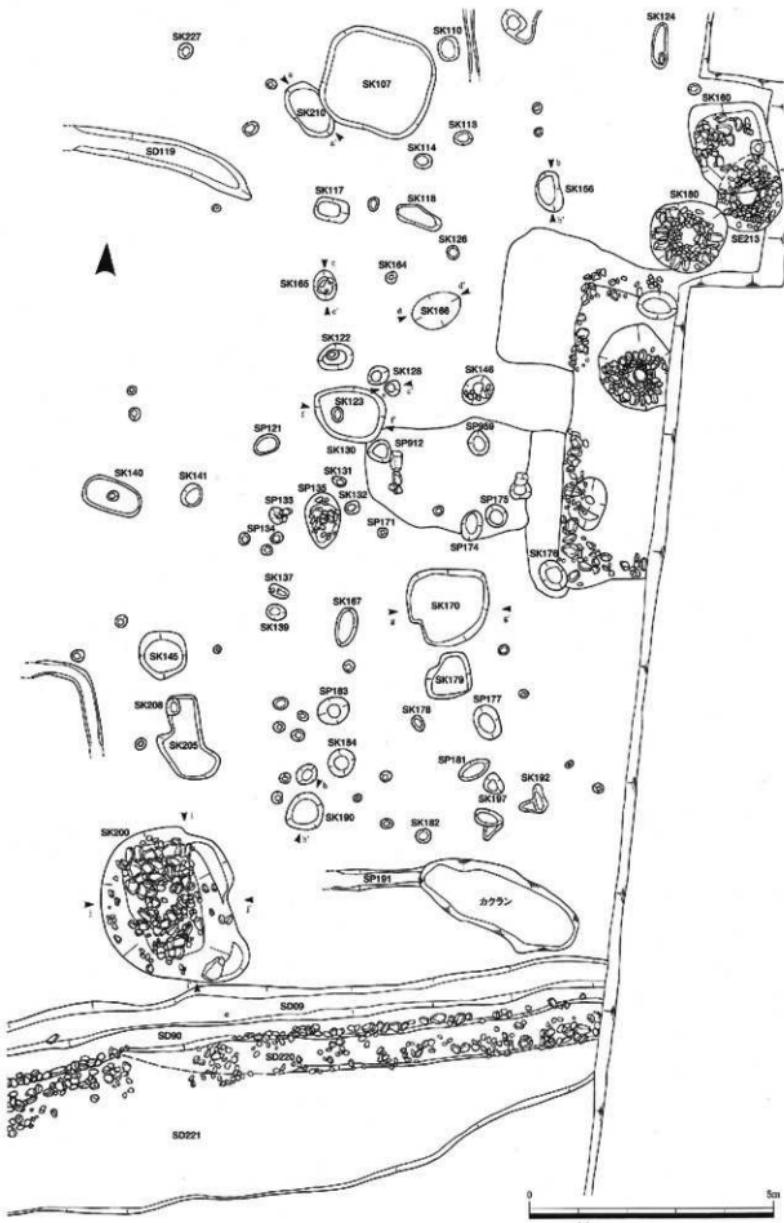
3号掘立柱建物（S B03、第209図）

柱穴から中世土師器が出土している。S P390出土の9、S P659出土の10、S P559出土の13がB類。S P559出土の11はD類、12はE類、14はロクロ土師器でRA類である。

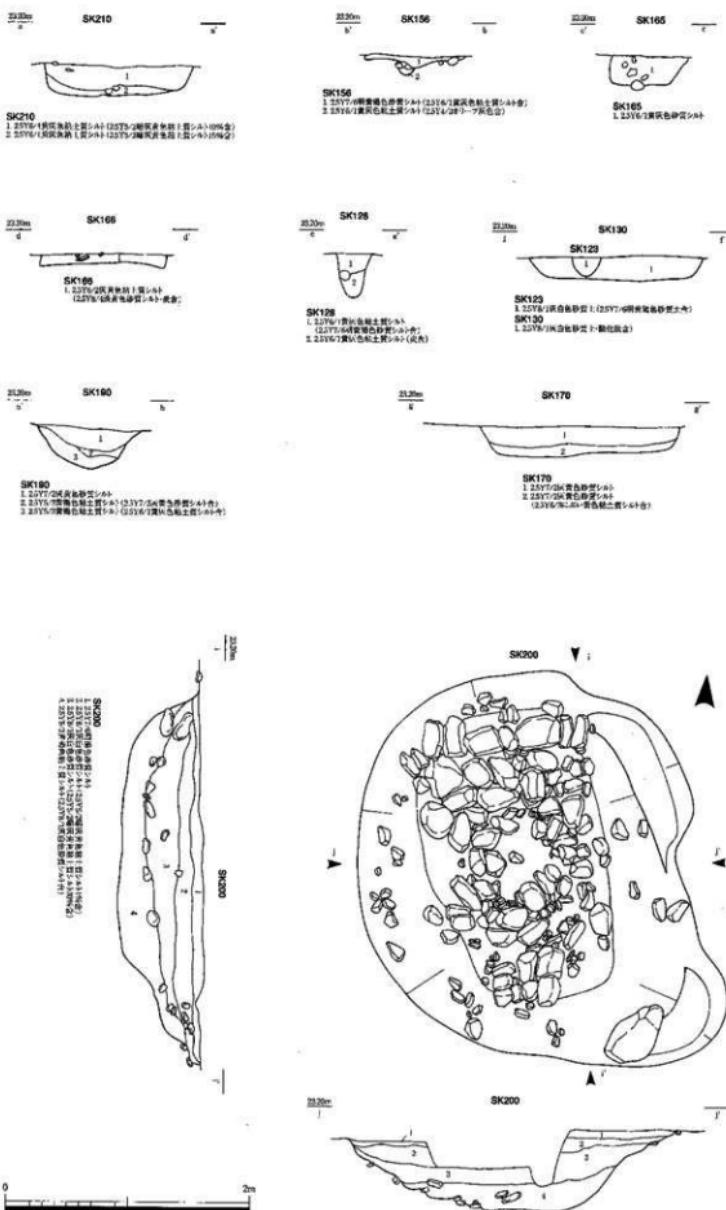
4号掘立柱建物（S B04、第209図、図版94）

柱穴から中世土師器が出土している。S P381出土の15、S P455出土の17がD類。S P401出土の16はB類である。

5号掘立柱建物（S B05、第209図）



第206図 造構実測図（中世末期～近世）



第207図 遺構実測図（中世末期～近世）

SK210 SK156 SK165 SK166 SK128 SK130 SK190 SK170 SK200

S P 449から I類の中世土師器が出土している。

8号掘立柱建物 (S B08、第210図)

19~22は中世土師器。S P 706出土の19はB類。S P 1152出土の20・21はロクロ土師器である。20はR C類。22は表面が摩耗しており、分類できない。23・24は珠洲の鉢。23はS P 1185から出土した片口鉢。Ⅲ期に相当する。24はS P 701出土のすり鉢。I~Ⅱ期にあたる。外傾する口縁部に波状文が施されている。

11号掘立柱建物 (S B11、第210図、図版93)

25~30は中世土師器。S P 1010出土の25はB類、26はロクロ土師器で柱状高台を持つR B類、27もロクロ土師器で、回転糸切り底である。S P 1020出土の28もロクロ土師器で、内面に煤の付着が見られる。29はS P 1060から出土したロクロ土師器で、R B II類。柱状高台を持ち、法量が中位のものである。S P 1037出土の30はB類。

溝

409号溝 (S D409、第211図)

31はB類の中世土師器。

439号溝 (S D439、第211図)

32はC類の中世土師器。粘土の接合痕が底面に残る。

564号溝 (S D564、第211図)

33~35は中世土師器。33・34はB類、35はF類。36は珠洲の鉢でI~Ⅱ期。

570号溝 (S D570、第211図)

37はB類の中世土師器。38は八尾の鉢。

618号溝 (S D618、第211図)

39はB類の中世土師器。

658号溝 (S D658、第211図)

40はH類の中世土師器。

721号溝 (S D721、第211図)

41は中世土師器。ロクロ土師器であるが、底部しか残っていない。摩滅しているが、回転糸切り底と思われる。

741号溝 (S D741、第211図)

42は土師器の杯。S K312出土の遺物と接合する。43は产地不明の葉茶壺。表面に乳白色の釉が厚く掛かる。中名II遺跡から出土したものと同一個体と思われる。

1292号溝 (S D1292、第211図)

44は中世土師器の皿。ロクロ土師器で、R A類。回転糸切り底である。

2032号溝 (S D2032、第211図)

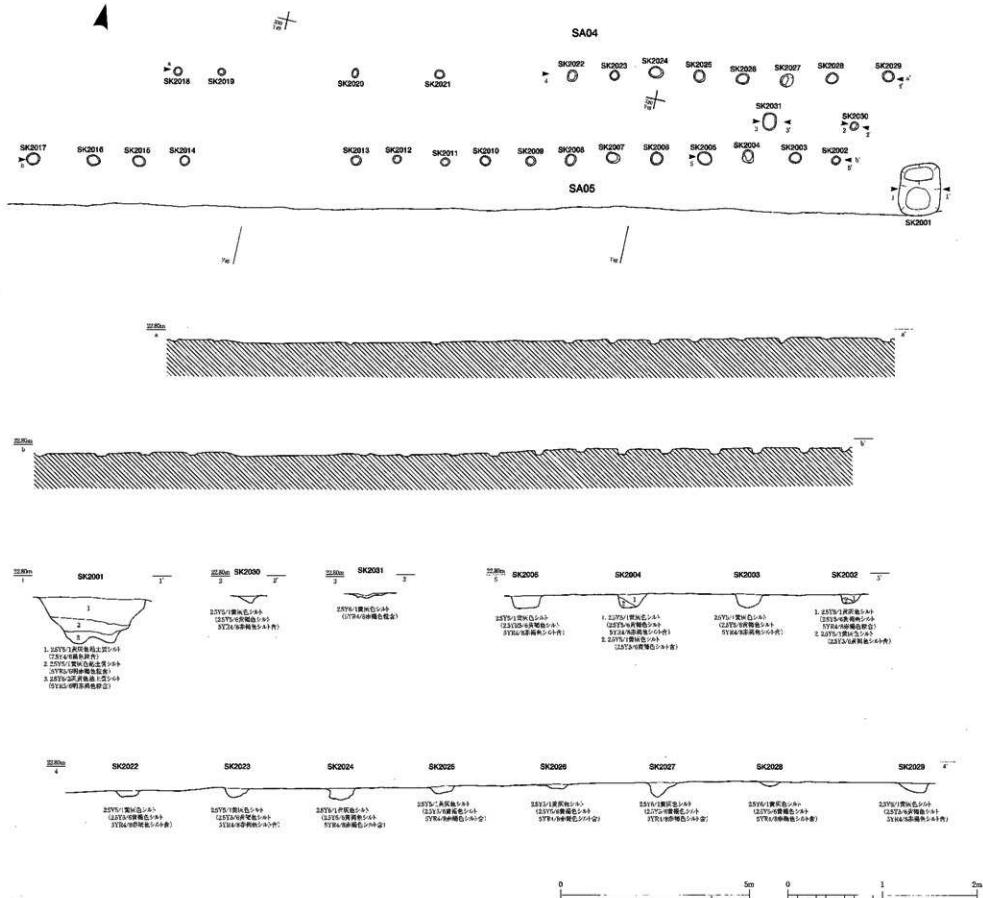
45・46共に中世土師器。45は小型のB類、46はF類。46の口縁部には煤が付着する。

2177号溝 (S D2177、第211図、図版97)

47はⅢ~Ⅳ期の珠洲の壺。頸部外面に印が押されている。

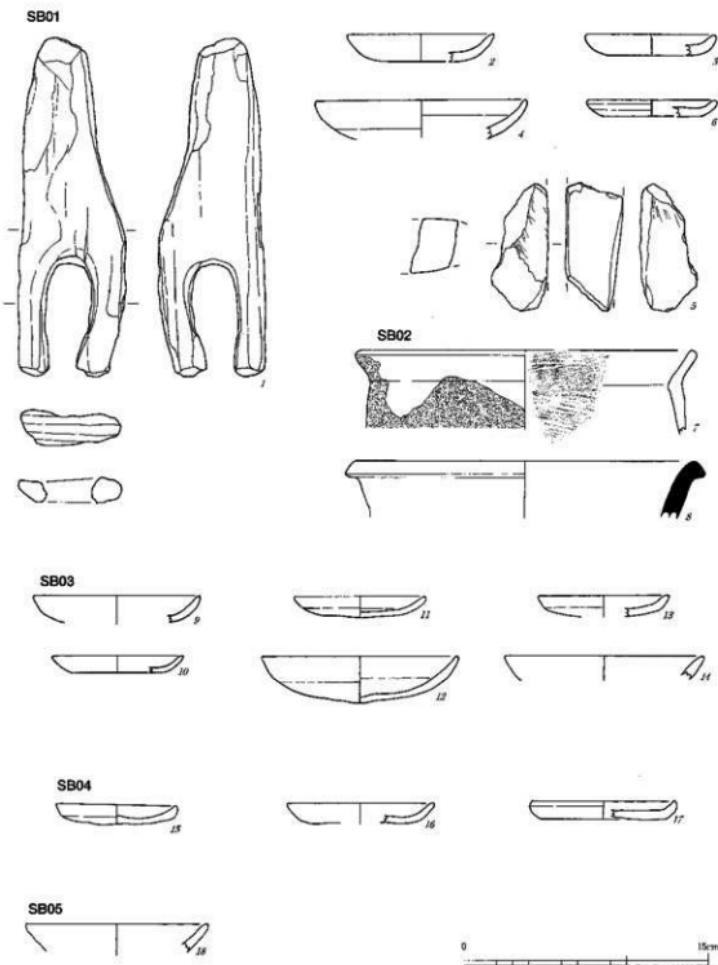
谷部 (第211・212図、図版99・100・105)

48は瀬戸の小杯。鉄釉が掛けられており、底面は回転糸切り。49・50は白磁である。49は皿の底部で、底面にはヘラキリの痕が残っている。50は碗の体部。内面に櫛描文が施されている。13世紀に比



第208図 遺構実測図（中世末期～近世層）

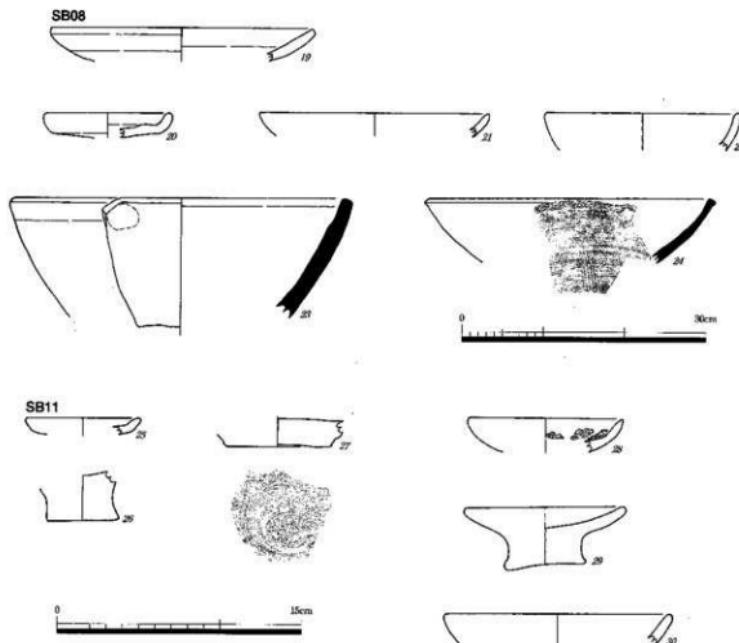
SK2001 SK2030 SK2031 SA04 SK2005 SK2004 SK2003 SK2002 SA05 SK2022 SK2023
SK2024 SK2025 SK2026 SK2027 SK2028 SK2029



第209図 遺物実測図（中世後期）(1/3)

SB01: SP530 (1) SP426 (2・3) SP461 (4・5) SP629 (6) SB02: SP349 (7)
 SP679 (8) SB03: SP390 (9) SP559 (11~14) SP659 (10) SB04: SP381 (15)
 SP401 (16) SP455 (17) SB05: SP449 (18)

定される。51は龍泉窯系青磁の杯。内面に蓮弁が削り出されており、14世紀に比定されるものである。53は瀬戸の瓶子。体部外面に沈線が廻り、灰釉が掛けられている。53・54は珠洲の鉢。どちらもIV類に相当する。55~78は中世土師器の皿。55~62はB類に分類される。この内、62は2段ナデが施される12世紀のもの。55・56・58はやや新しく14世紀のものである。63・64はD類。65~70はE類。65はE I 2類で、14~15世紀後半にあたる。口縁部外面のナデ幅は狭く、体部にはユビオサエの痕が残つ



第210図 遺物実測図（中世後期）(19~23・25~30 1/3, 24 1/6)

SB08: SP706 (19) SP1152 (20~22) SP1185 (23) SP701 (24) SB11: SP1010 (25~27)
SP1020 (28) SP1060 (29) SP1037 (30)

ている。67は被熱のため、体部外面が剥がれていた。71~73はF類で、14世紀のもの。74はI類、75はH類。76~78はロクロ土師器。77の口縁部には煤の付着が見られる。78はRA類で、回転糸切り底をもつ。79は金属製品で、釘である。

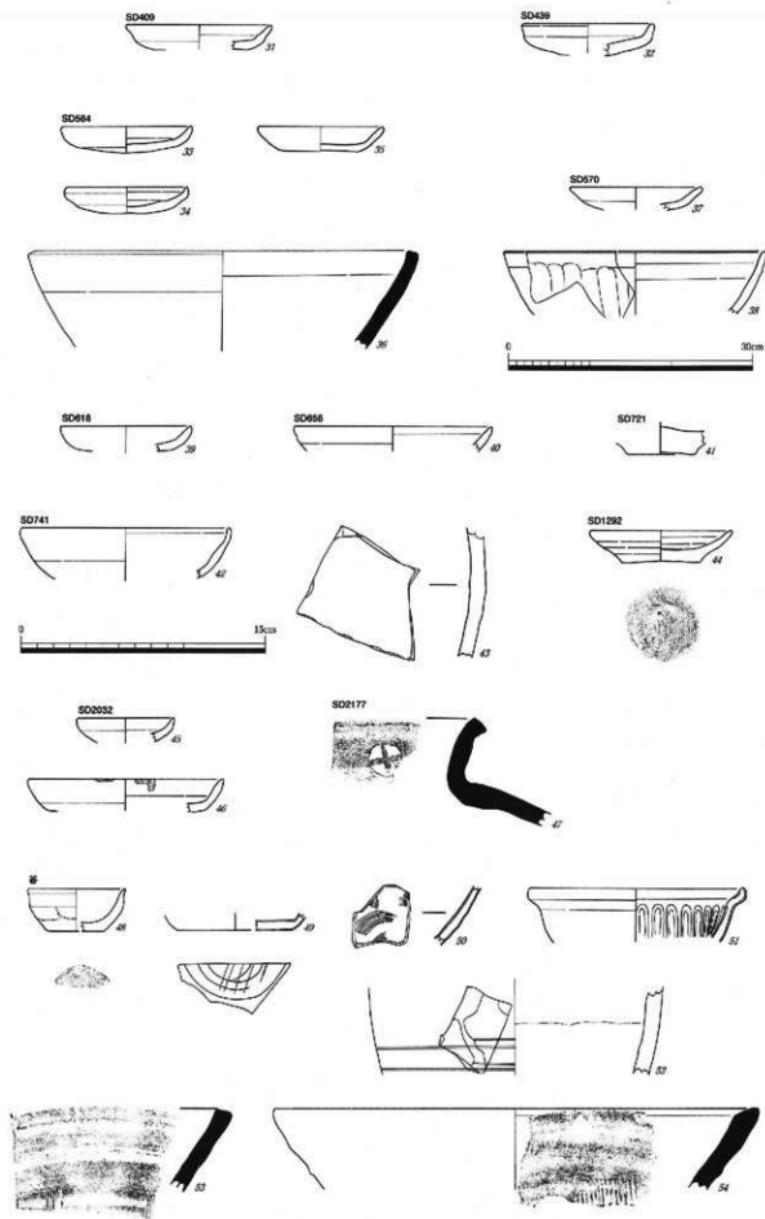
2192号溝（S D2192、第212図）

80は中世土師器の皿。H類で、14世紀に比定される。

井戸

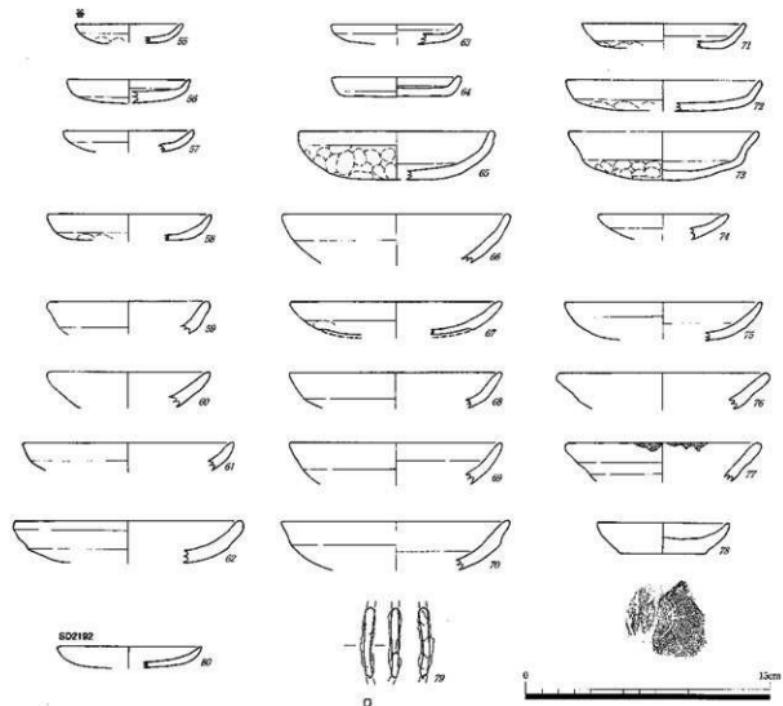
609号井戸（S E609、第213・214図、図版96・99・101・102）

81~87は中世土師器。82~84はB類。82の口縁部には煤の付着が見られる。85はH類、86・87はJ類。81はロクロ土師器である。88は珠洲の鉢で、II~III期にあたる。89は八尾の鉢である。外面にケズリが施される。84は白磁の合子。体部外面に花弁状の装飾がなされている。91は玉縁の口縁を持つ白磁の碗で、12世紀のものである。92~106は木製品。92は板状の加工木。両面の一部が炭化している。93は箸。一方の端が折れており、全長は不明である。95はヘラ状木製品。片面に叩打痕が残る。96は曲物の底板。3枚の板を木釘でつなぎ合わせてある。曲物に嵌め込んで固定するための釘跡が5箇所残っている。97・98・100は井戸側の縱板。101~106は井戸側の横桟。99は角柱状を呈すが、ほぞ穴は見られず、井戸側の部材とは考えられない。



第211図 遺物実測図（中世後期）(31~37・39~54 1/3, 38 1/6)

SD409 (31) SD439 (32) SD564 (33~36) SD570 (37~38) SD618 (39) SD658 (40)
SD721 (41) SD741 (42~43) SD1292 (44) SD2032 (45~46) SD2177 (47)
谷部 (48~54)



第212図 遺物実測図（中世後期）(1/3)

谷部 (55~79) SD2192 (80)

718号井戸 (S E 718、第215図、図版96・103)

107・108は中世土器器。107はロクロ土器器で、R A IV類。108はA類。外面の一部に煤が付着する。内面はハケ状の工具でなでられる。109~111は珠洲。109は壺の体部で、櫛描波状文が施る。110は、I~II期の鉢。111は鉢の底部で、内面は磨り減って滑らかになっている。底面は静止糸切り。112~118は木製品。116以外は井戸側の部材と思われる。116は中央部が失われているため、全長は不明である。薄板の両端が丸くふくらむ。117は井戸側の縦板であるが、下端近くに埋め木が施されている。

895号井戸 (S E 895、第216図、図版98)

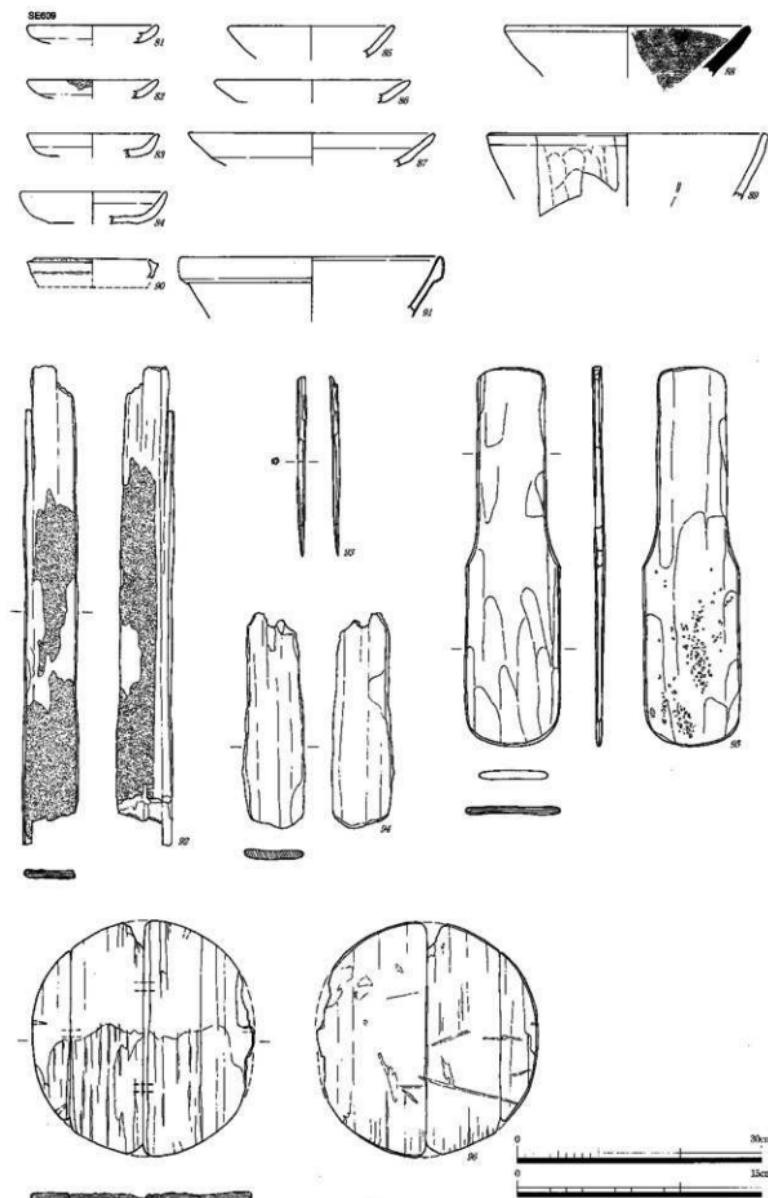
119は珠洲の鉢。10条のおろし目が放射線状にはいる。口縁は緩やかに内傾し、VI期に比定される。120は曲物の底板である。側面に釘穴は見られない。

738号井戸 (S E 738、第216図、図版104)

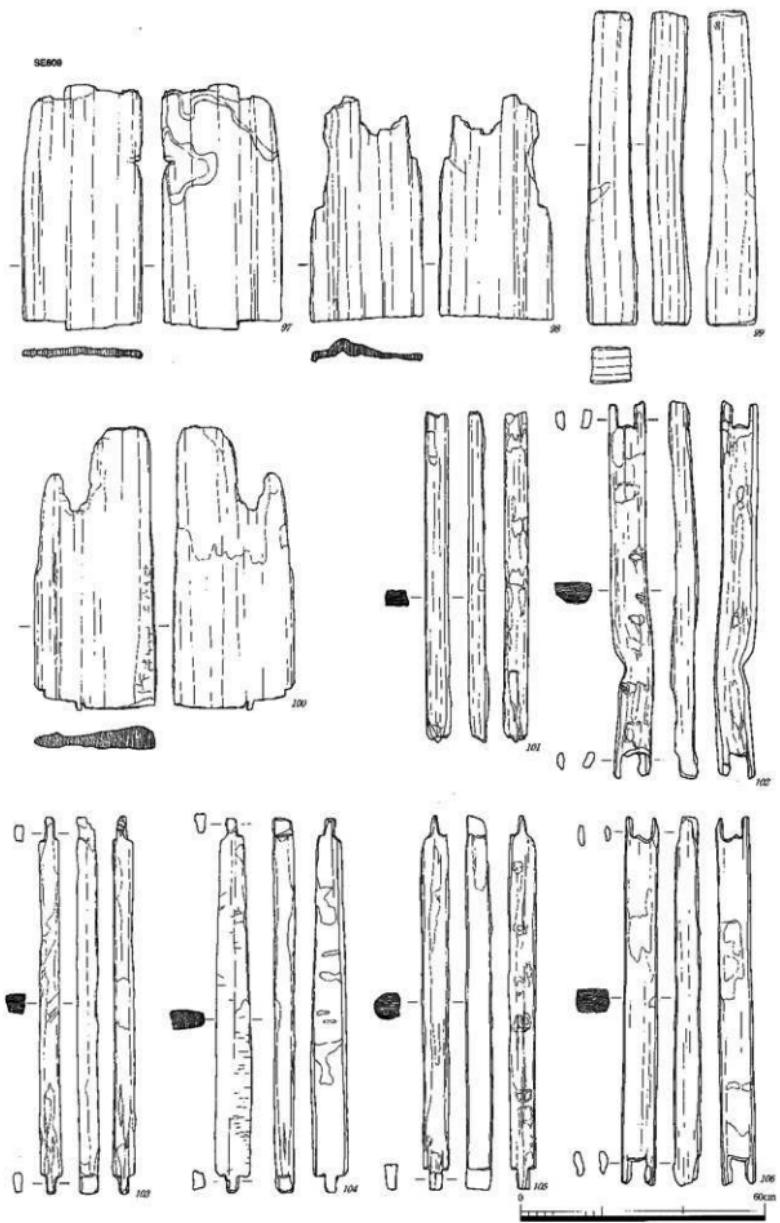
121・122は金属製品である。121は釘、122は刀子状金属製品。火打ち金の可能性も考えられる。

910号井戸 (S E 910、第216図)

123・124共に石製品。123は井戸の石組に使われていた礫。煤の付着が見られ、側面が砥石として使用されたように滑らかであった。124は井戸の覆土中から出土した切石。両面に煤が付着する。

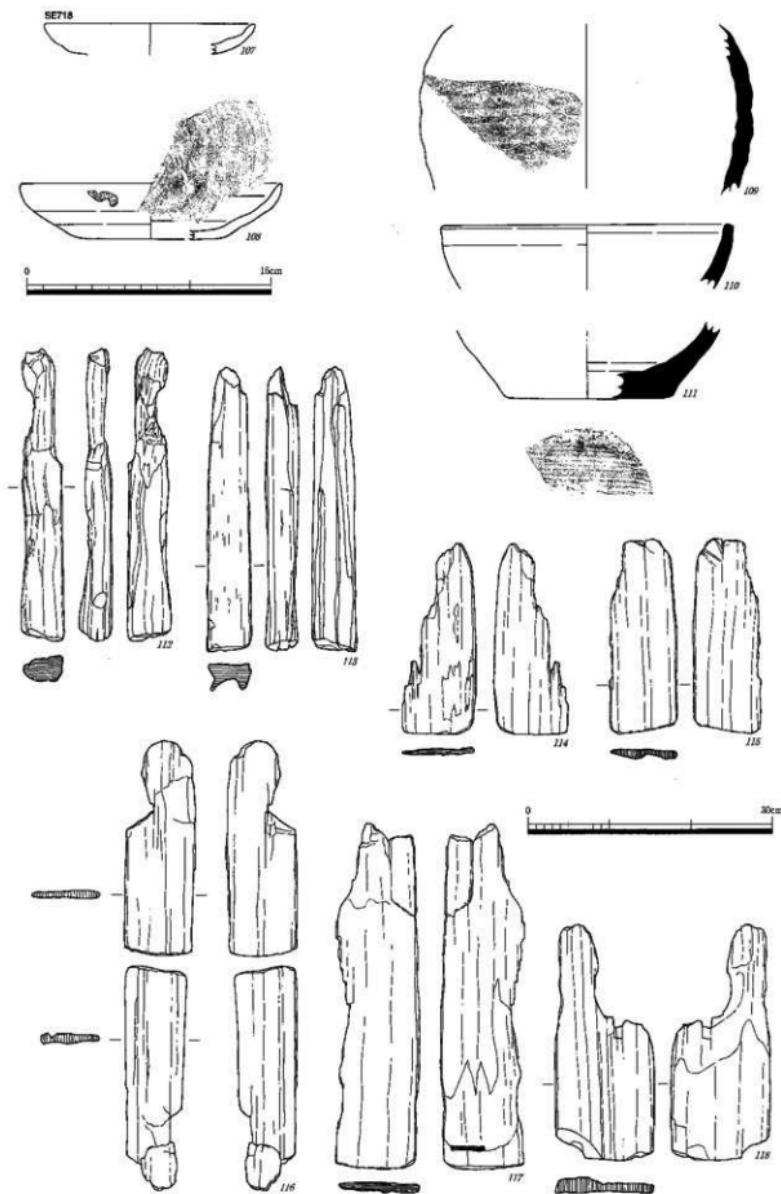


第213図 遺物実測図（中世後期）(81~87・90~96 1/3, 88・89 1/6)
SE609

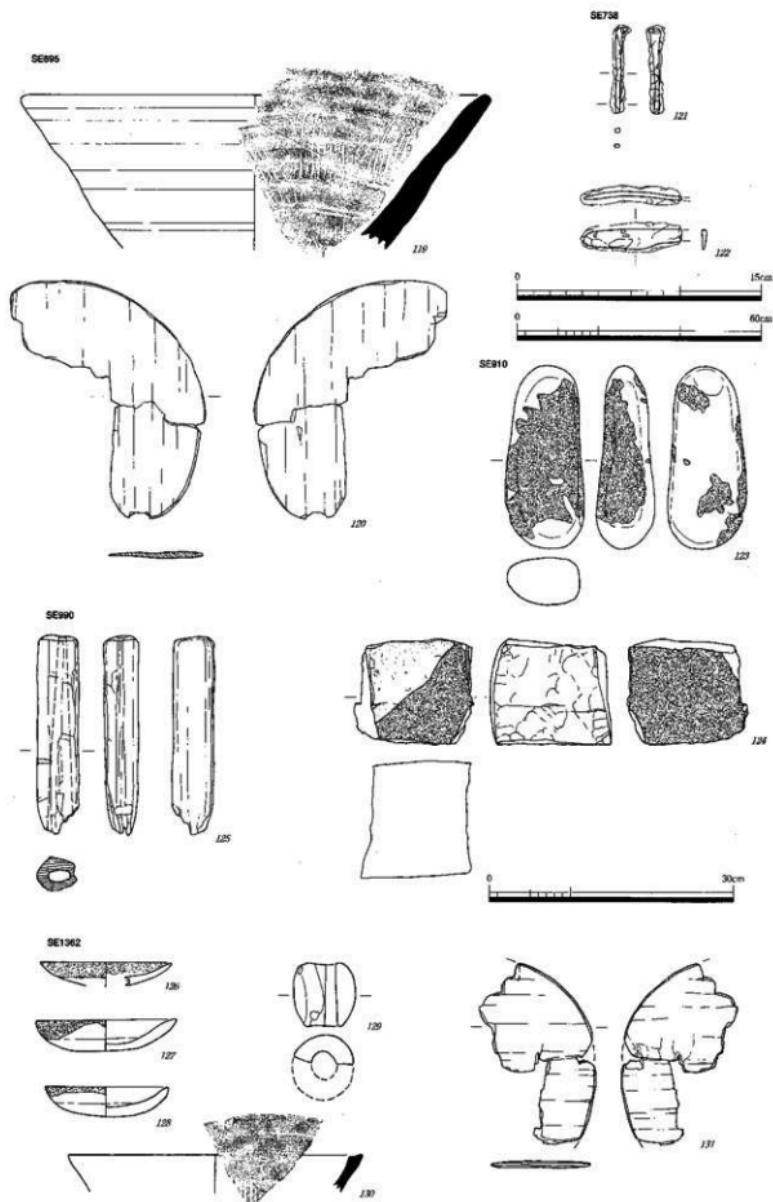


第214図 遺物実測図（中世後期）(97~100 1/3, 101~106 1/12)

SE609



第215図 遺物実測図（中世後期）(107~111 1/3, 112~118 1/6)
SE718



第216図 遺物実測図（中世後期）(119~122・125~129・131 1/3, 124・130 1/6, 123 1/12)
SE895 (119・120) SE738 (121・122) SE910 (123・124) SE990 (125) SE1362 (126~131)

990号井戸 (S E990、第216図、図版103)

125は木製品。中心に穴が開いており、柄の様にして使われたのではないかと思われる。

1362号井戸 (S E1362、第216図、図版94・103)

126～128は中世土師器。126はH類。127・128はI類。3点とも、口縁に煤や炭化物が付着している。129は土錘。130は珠洲の鉢。IV～V期にあたる。131は、曲物の底板である。

土坑

307号土坑 (S K307、第217図)

132はB類の中世土師器。

332号土坑 (S K332、第217図)

133は中世土師器。ロクロ土師器でRA類のもの。

334号土坑 (S K334、第217図、図版99)

134は中世土師器。浅いコースター状を呈すD類。135は龍泉窯系青磁の碗。SK607から出土した遺物と接合した。高台裏は露胎。見込みと内面にヘラ描文が施される。釉薬の色調は暗い。

365号土坑 (S K365、第217図)

136～138は中世土師器の皿。136・137はB類。138はF類。

384号土坑 (S K384、第217図)

139は中世土師器の皿。D類。

419号土坑 (S K419、第217図)

140は中世土師器。B II類。

420号土坑 (S K420、第217図)

141はE類の中世土師器。

450号土坑 (S K450、第217図)

142は珠洲の鉢。I～II期に相当する。143は八尾の鉢。体部外面は削られる。土師器の壺が出土しており、SB08の柱穴SP349出土の遺物と接合した。

454号土坑 (S K454、第217図)

144～146は中世土師器。144はD類。145はI類と思われる。表面が被熱によって剥落している。146はB類。

459号土坑 (S K459、第217図、図版94)

147～150は中世土師器。147～149の3点はD類。150はB類。

462号土坑 (S K462、第217図)

151は中世土師器。ロクロ土師器で、浅いコースター状のRD類。

497号土坑 (S K497、第217図)

152は中世土師器の皿。H類。

465号土坑 (S K465、第217図)

153は中世土師器の皿。F類。

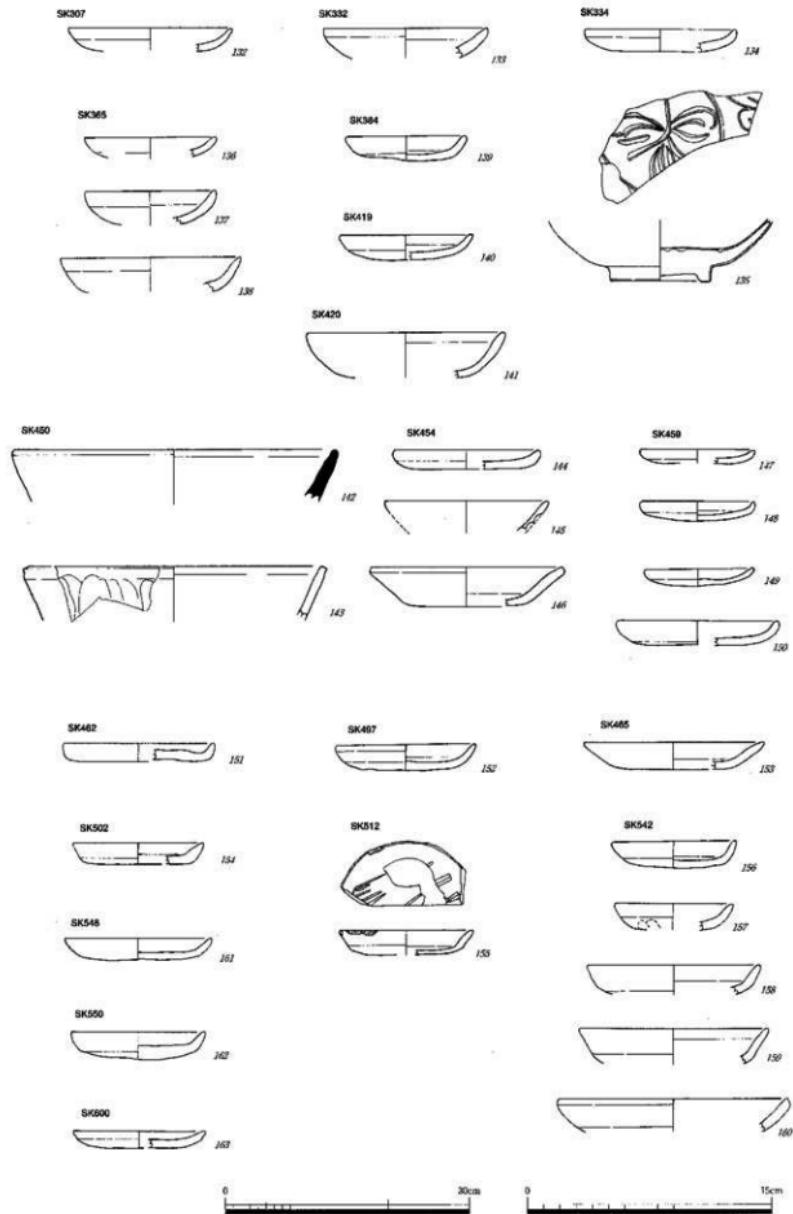
502号土坑 (S K502、第217図)

154はB類の中世土師器。

512号土坑 (S K512、第217図、図版93)

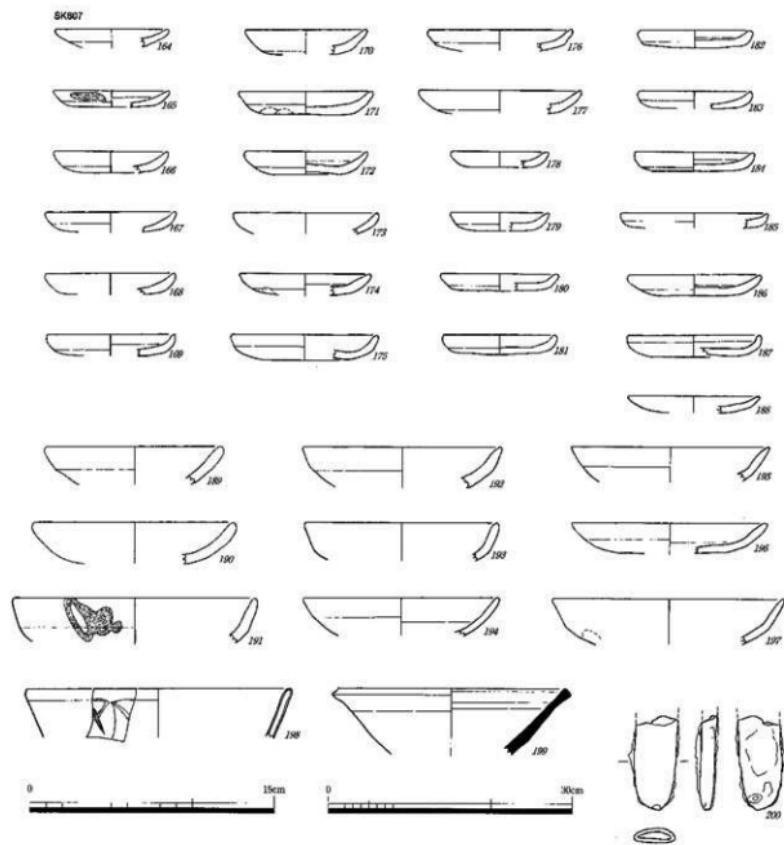
155は中世土師器。B類。口縁の一部に少量の煤が付着している。黒色の胎土を用い、内面にはミ

3 遺物



第217図 遺物実測図（中世後期）(132～142・144～163 1/3, 143 1/6)

SK307 (132) SK332 (133) SK334 (134・135) SK365 (136～138) SK384 (139) SK419 (140)
 SK420 (141) SK450 (142・143) SK454 (144～146) SK459 (147～150) SK462 (151) SK497 (152)
 352 SK465 (153) SK502 (154) SK512 (155) SK542 (156～160) SK548 (161) SK550 (162) SK600 (163)



第218図 遺物実測図（中世後期）(164~198・200 1/3, 199 1/6)

SK607

ガキの跡がある。

542号土坑 (S K542、第217図、図版94)

156~160は中世土師器。156はD類。157・158・160はB類。157の体部にはユビオサエの跡が残る。
159はF類。

548号土坑 (S K548、第217図)

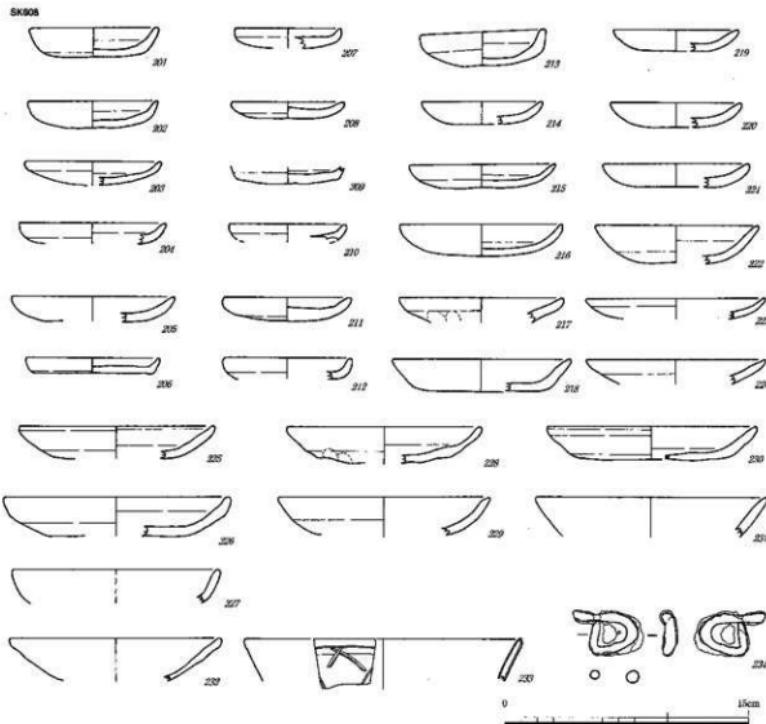
161はD類の中世土師器。

550号土坑 (S K550、第217図)

162はB類の中世土師器。

600号土坑 (S K600、第217図)

163はB類の中世土師器。



第219図 遺物実測図（中世後期）(1/3)

SK608

607号土坑 (S K 607、第218図、図版104)

164～197は中世土師器。164～177・189～191はB類。165・191の体部外面には煤が付着する。178～187はD類。192～197はF類。188はH類。198は青磁の碗。鎬進弁文が施される。199は珠洲の鉢。IV期にあたる。200は金属製品。板状を呈するが、内部にまで錆が浸透し、種類は不明である。

608号土坑 (S K 608、第219図、図版93・99・104)

201～230は中世土師器。225はA類。201～204・226はB類。206～212はD類。227～229はE類。213はG類。214～216・222～224・231はH類。217・218はF類。219～221はI類。232は土師器。233は青磁の碗。蓮弁が施される。234は金属製品。釘と思われる。

655号土坑 (S K 655、第220図)

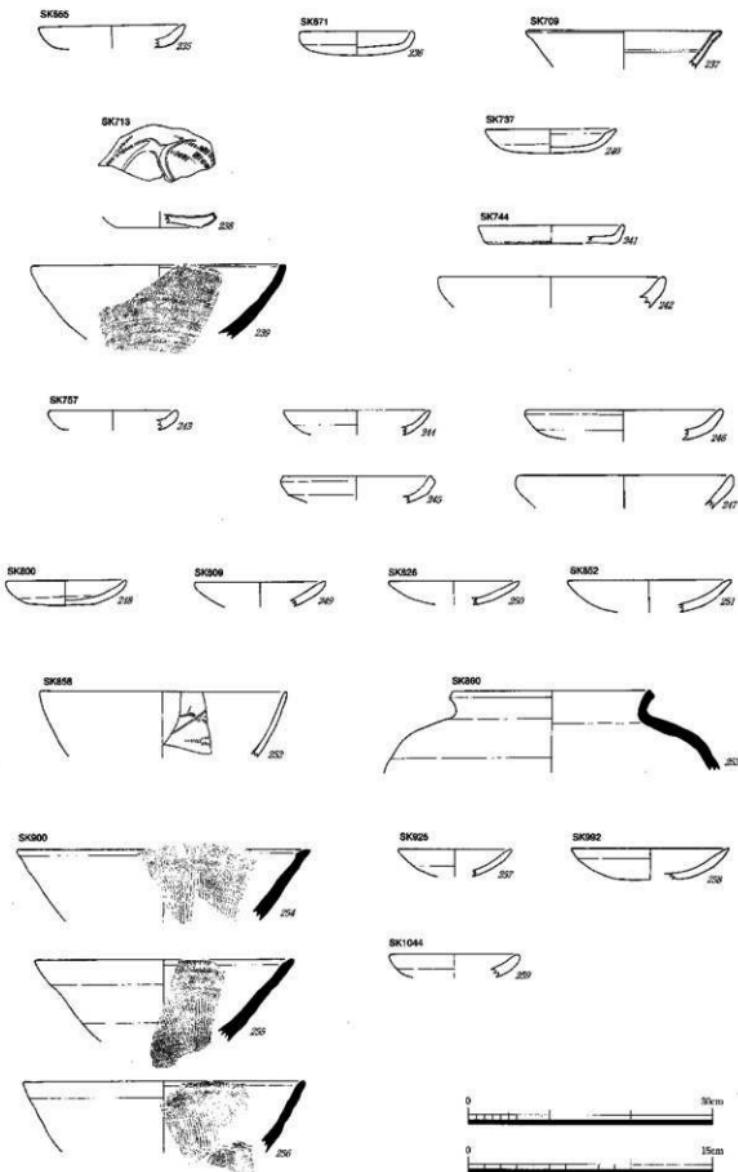
235は中世土師器。B類。

671号土坑 (S K 671、第220図)

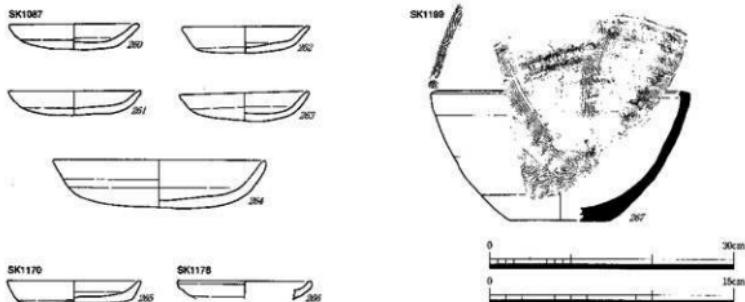
236は中世土師器。D類。

709号土坑 (S K 709、第220図)

237は白磁の皿。内面に沈線が廻る。



第220図 遺物実測図（中世後期）(235~238・240~252・257~259 1/3, 239・253~256 1/6)
 SK655 (235) SK671 (236) SK709 (237) SK713 (238~239) SK737 (240) SK744 (241~242)
 SK757 (243~247) SK800 (248) SK809 (249) SK826 (250) SK852 (251) SK858 (252)
 SK860 (253) SK900 (254~256) SK925 (257) SK992 (258) SK1044 (259)



第221図 遺物実測図（中世後期）(260~266 1/3, 267 1/6)
SK1087 (260~264) SK1170 (265) SK1178 (266) SK1199 (267)

713号土坑（S K713、第220図、図版96・99）

238は同安窯系青磁の皿。見込みにヘラ・櫛描による文様をもつ。太宰府分類のI類にあたり、12世紀中期～後期にかけてのものである。239は珠洲の鉢。II期に相当し、波状のおろし目が入れられている。

737号土坑（S K737、第220図）

240は中世土師器。J類。

744号土坑（S K744、第220図）

241・242は中世土師器。241はD類。242はB類。

757号土坑（S K757、第220図）

243～247は中世土師器。243はロクロ土師器。244・245はB類。246はE類。247はF類。

800号土坑（S K800、第220図）

248はH類の中世土師器。

809号土坑（S K809、第220図）

249はI類の中世土師器。

826号土坑（S K826、第220図）

250はH類の中世土師器。

852号土坑（S K852、第220図）

251はH類の中世土師器。

858号土坑（S K858、第220図、図版99）

252は同安窯系青磁の碗。内面に櫛描文をもつ。太宰府分類のI類2にあたり、12世紀中期～後期のものである。

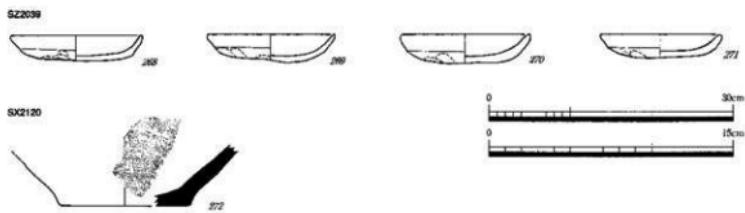
860号土坑（S K860、第220図、図版96）

253は珠洲のナデ壺。II期にあたる。

900号土坑（S K900、第220図、図版98）

254～256は珠洲の鉢。254は内傾する口縁端部に櫛描波状文をもつ。おろし目は密に入れられており、IV期に比定される。255・256はV期のものである。

925号土坑（S K925、第220図）



第222図 遺物実測図（中世後期）(268~271 1/3, 272 1/6)

S22039 (268~271) 2120 (272)

257はH類の中世土師器。

992号土坑 (SK925、第220図)

258はH類の中世土師器。

1044号土坑 (SK1044、第220図)

259はB類の中世土師器。

1087号土坑 (SK1087、第221図、図版95)

完形の中世土師器が5枚出土している。260~264は全てB類の中世土師器。

1170号土坑 (SK1170、第221図)

265は中世土師器。B類。

1178号土坑 (SK1178、第221図)

266は中世土師器。ロクロ成形のものである。

1199号土坑 (SK1199、第221図)

267は珠洲の鉢。放射線状におろし目があり、外傾する口縁端部に波状文が施される。Ⅲ期のもの。

墓壙

2039号土壙墓 (S22039、第222図、図版95)

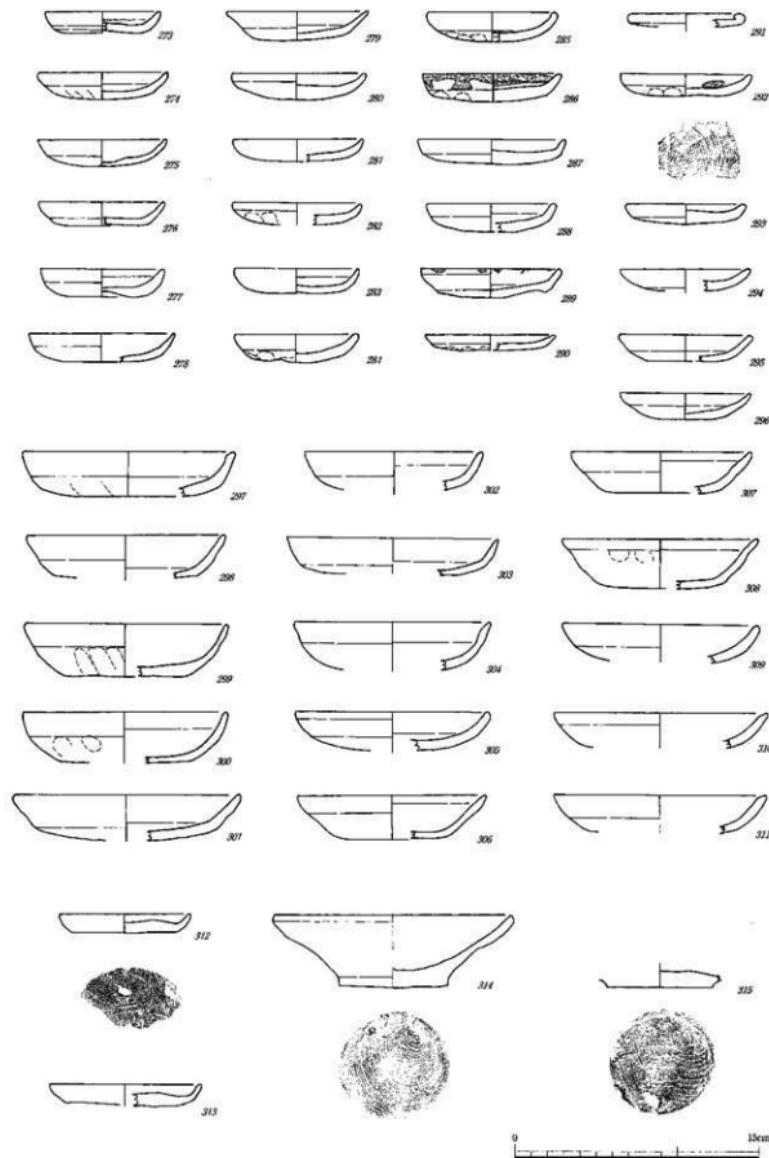
中世土師器が4枚完形で出土している。268~271は何れもBⅡ類で、14世紀以降の遺物である。

2120号集石墓 (SX2120、第222図)

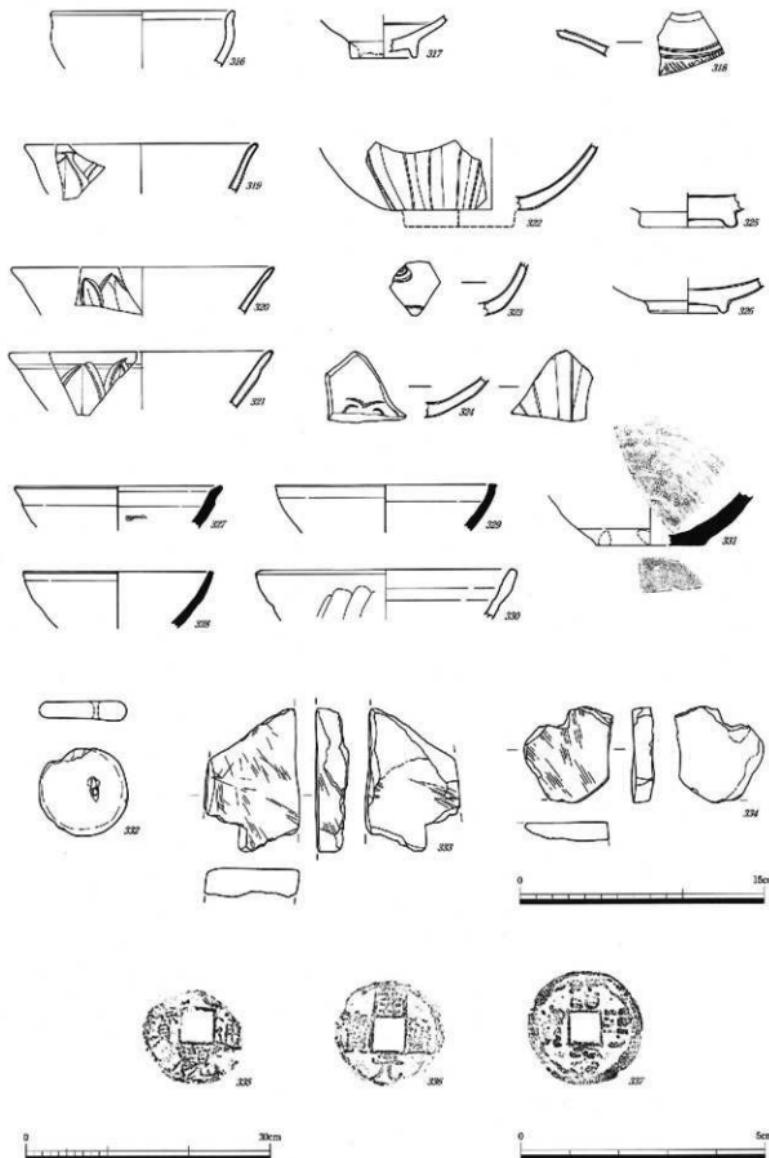
272は珠洲の鉢。おろし目が密に入る。Ⅳ期に相当する。

中世後期の包含層 (第223~225図、図版93・96・99)

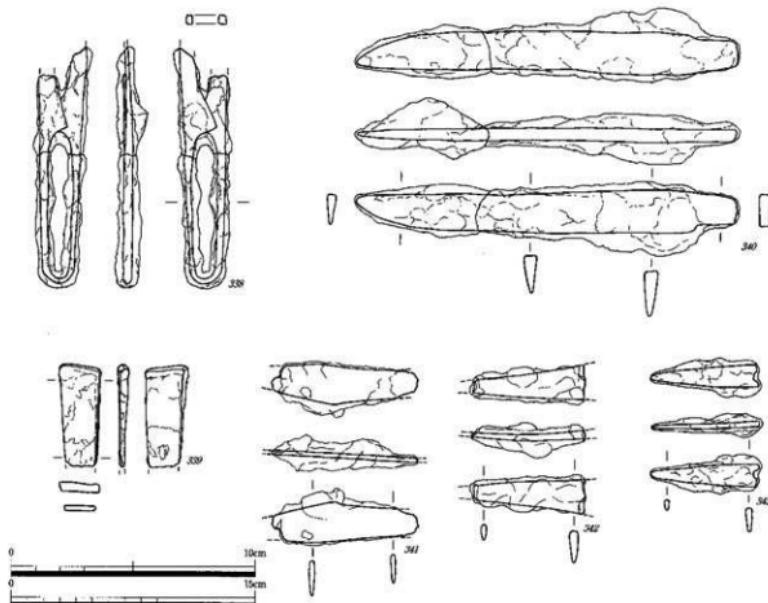
273~314は中世土師器。273~289・297・298はB類。277は底面中央部がへこみ、「へそ皿」に似る。286・289は、口縁部に煤が付着する。特に286では内面にまで及ぶ。290はH類。291~293はD類。292の内面には煤が付着する。293の内面はハケ状の工具でなでられている。294~296・309はI類。299~305はE類。306・307はF類。308・310・311はJ類。312~315はロクロ土師器。312・313はR D類。314はRA I類。底面は回転糸切り底である。315は、底面のみの出土である。316は越中瀬戸の天目茶碗。鉄釉が掛けられている。317は中国製白磁の碗。太宰府分類のV類4にあたる。12世紀中期~後期にかけてのものである。318は青白磁の梅瓶。肩部で、文様が施されている。319~326は青磁。319~321・324は鎌葉弁文の碗である。320は13世紀、321は14世紀に比定される龍泉窯系の碗。324の内面には草花文が施されている。325・326は青磁の碗の底部。327~329・331は珠洲の鉢。327はV期にあたる。口縁端部が内傾し、体部ではおろし目が入れられている。328はI~II期。331はII期で、波状のおろし目が入っている。底部は静止糸切り。330は八尾の鉢。332は用途不明の土製品。



第223図 遺物実測図（中世後期）(273~315 1/3)
包含図



第224図 遺物実測図（中世後期）(335~337 1/1, 316~326・332~334 1/3, 327~331 1/6)
包含層



第225図 遺物実測図（中世後期）(338 1/2, 339~343 1/3)
包含層

直径約5cmの円盤状で、中心から少し外れたところに穴が開けられている。333・334は砥石。335～343は金属製品。335～337は銅鏡。3枚が重なって出土した。335は「大觀通寶」(初鋸1107年)。336は「開元通寶」(初鋸621年)。337は「治平通寶」(初鋸1064年)。338は鉄。339は板状の金属片。片側がやや細くなっている、楔かと思われる。340は刀子。342・343も折れているが、刀子の一部と思われる。341は火打ち金。両端が折れている。

B 中世末期～近世

掘立柱建物

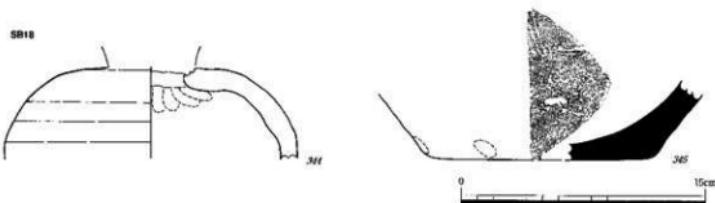
6号掘立柱建物 (S B06、第226図、図版100)

344はS K26から出土した瀬戸の瓶子。頸部は失われているが、内面に颈部を付けた際のナデ・ユビオサエの跡が残る。345はS K49出土の珠洲。鉢の底部で、内面にはおろし目が入れられているが、中央部では磨り減っている。外面に指の跡が残る。

溝

9号溝 (S D09、第227図、図版97・98)

346～349は中世土師器。346はB類。347～349はH類。350～358は珠洲。350～354は鉢。351はVI期。口縁端部が内傾し、波状文が施される。352はV期。353も口縁部に波状文が入るが、端部の面取りは緩やかである。355はII期の壺。S D90出土の遺物と接合した。356～358は壺。356はV期に相当し、



第226図 遺物実測図（中世末期～近世）(1/3)

SB18: SK26 (344) SK49 (345)

内面には当て具痕が残る。357はⅢ～Ⅳ期。358はⅣ期。

12号溝 (S D12、第227図)

359は珠洲の鉢。10条のおろし目をもつ。内傾する口縁端部が、明確な面を失う最終段階のもの。

14号溝 (S D14、第228図)

360～362は中世土師器。360・362はE類。362はロクロ土師器で、回転糸切り底をもつ。363は珠洲の鉢。I～II期にあたり、外傾する口縁端部に波状文をもつ。

90号溝 (S D90、第228図、図版100)

364・365は中世土師器の皿。363はB類、364はI類。366は瀬戸の瓶子。体部外面には灰釉が掛けられ、5条の沈線が残る。

221号溝 (S D221、第228図)

367は中世土師器。B類に分類される。368は珠洲。壺の底部で、底面は静止糸切り。

241号溝 (S D241、第228図)

369～375は中世土師器。369～372・374・375はB類。376はF類。373はロクロ土師器で、回転糸切り底をもつ。

256号溝 (S D256、第228図、図版96)

377は瓦質土器の火鉢。外面は黒色を呈し、磨かれている。378は珠洲。Ⅲ期の鉢で、放射線状におろし目が入れられている。

井戸

180号井戸 (S E180、第229図)

379は中世土師器。H類に分類される。380は漆器。高台部分のみの出土であるため、全体形は不明である。381は珠洲の鉢。9条のおろし目が入れられている。

213号井戸 (S E213、第229図)

382はH類の中世土師器。

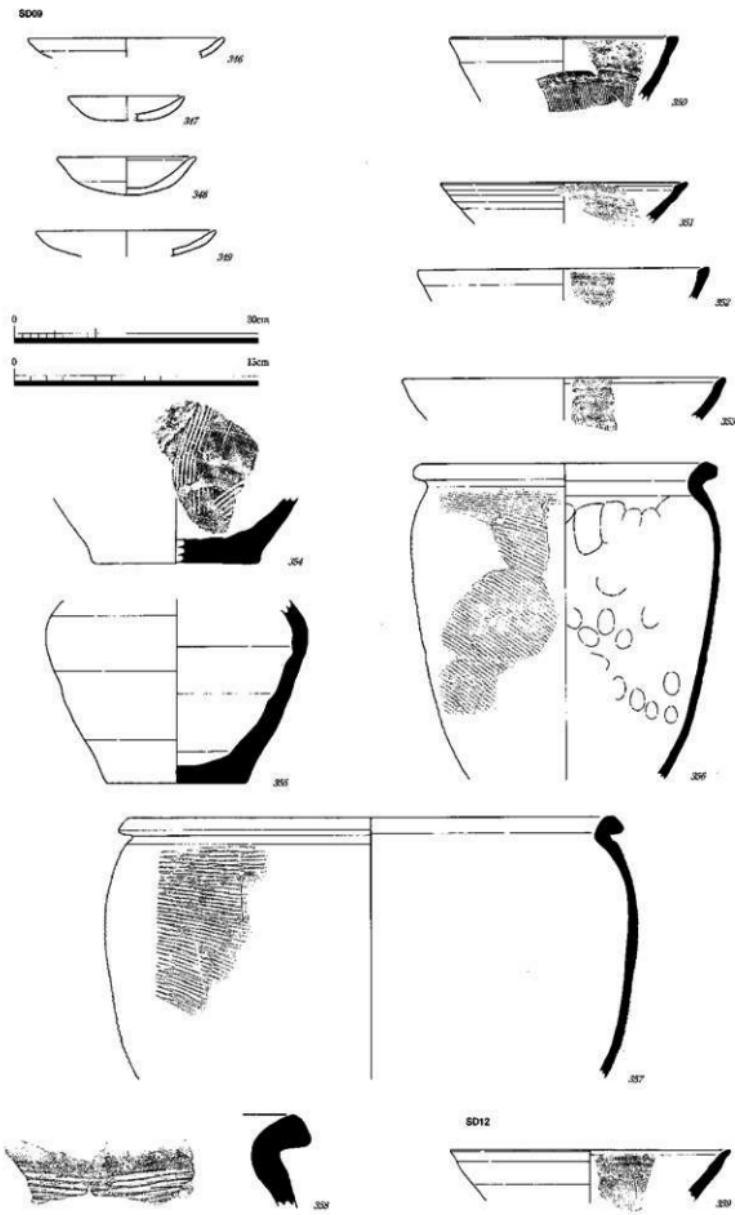
979号井戸 (S E979、第229図)

383は山物片。2箇所ある穴は、綴じ穴と思われる。裏面に刻み目は見られない。

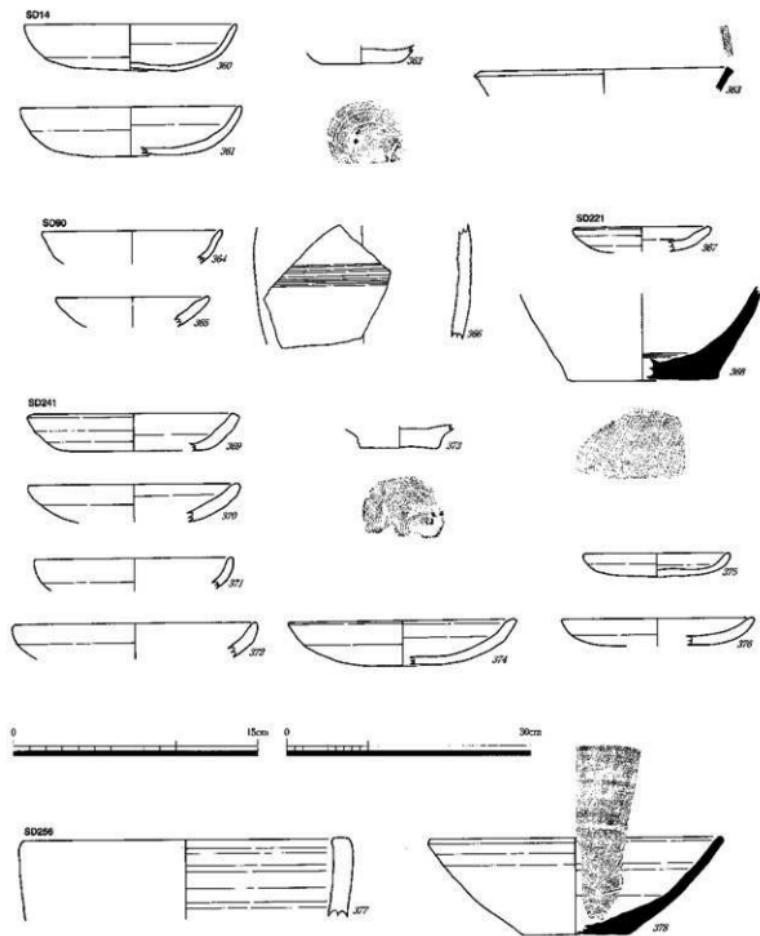
土坑

7号土坑 (S K07、第230図)

384～387は珠洲。384は壺の体部で、外面に櫛描波状文が2列付けられている。385・386は鉢。385の底面近くには、成形後持ち上げた際の指跡が残っている。386はV期にあたる。おろし目が密にいれられているが、見込みでは摩滅している。387はⅢ～Ⅳ期の壺。内面に当て具痕が残る。



第227図 遺物実測図(中世末期～近世)(346～349・354・355・358 1/3, 350～353・356・357・359 1/6)
SD09 (346～358) SD12 (359)



第228図 遺物実測図（中世末期～近世）(360～362・364～377 1/3, 363・378 1/6)
SD14 (360～363) SD90 (364～366) SD221 (367・368) SD241 (369～376) SD256 (377・378)

13号土坑（S K13、第230図）

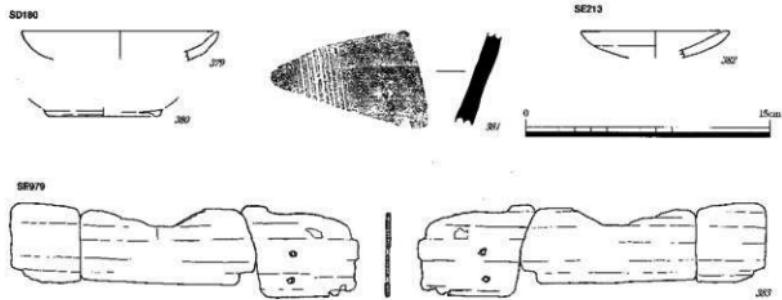
388はI類の中世土師器。

123号土坑（S K123、第230図）

389はH類の中世土師器。

125号土坑（S K125、第230図）

390はH類の中世土師器。口縁の一部に煤が付着する。



第229図 遺物実測図（中世末期～近世）（1/3）
SE180 (379～381) SE213 (382) SE979 (383)

128号土坑（S K 128、第230図）

391はJ類の中世土師器。15世紀末に比定される。

148号土坑（S K 148、第230図）

392はB類の中世土師器。

165号土坑（S K 165、第230図）

303はH類の中世土師器。

169号土坑（S K 169、第230図）

394はI類の中世土師器。

190号土坑（S K 190、第230図）

395はH類の中世土師器。

196号土坑（S K 196、第230図）

396はH類の中世土師器。16世紀に比定される。

200号土坑（S K 200、第230図）

397は珠洲の鉢。I～II期に相当する。内面にユビナデの跡が残る。S E718出土の珠洲と接合した。

215号土坑（S K 215、第230図）

398はH類の中世土師器。

237号土坑（S K 237、第230図）

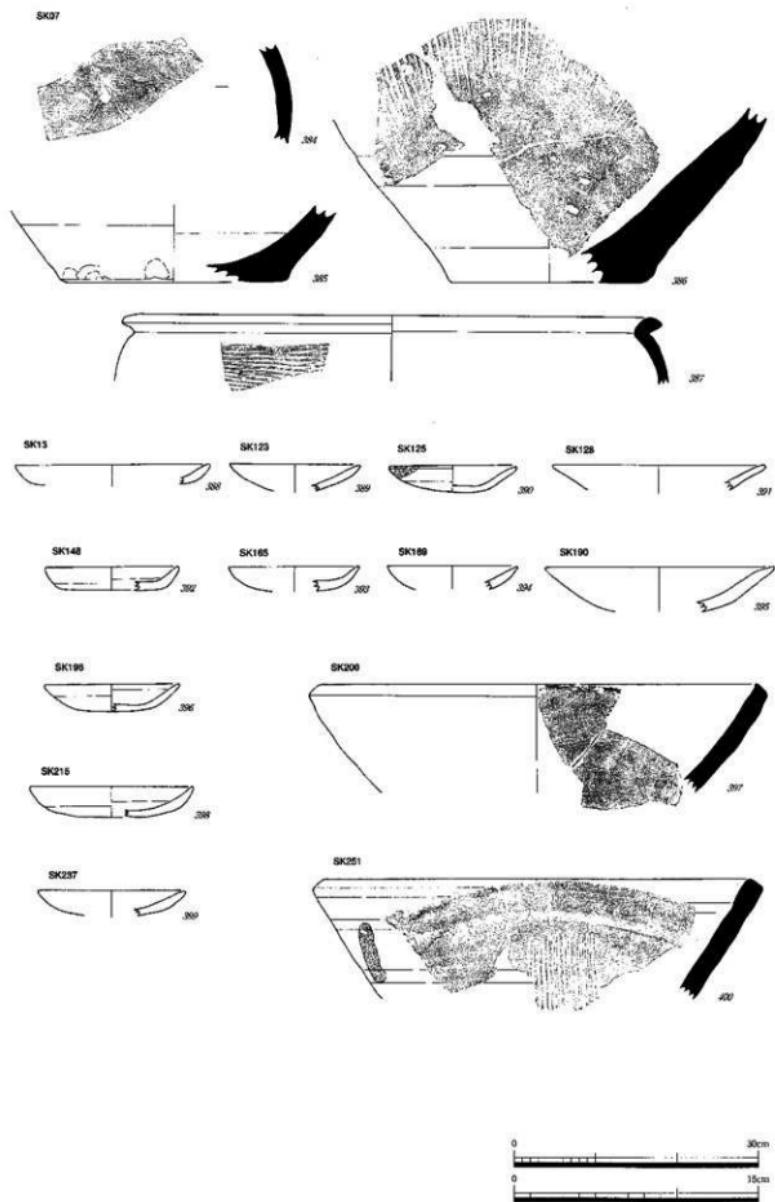
399はI類の中世土師器。

251号土坑（S K 251、第230図、図版96）

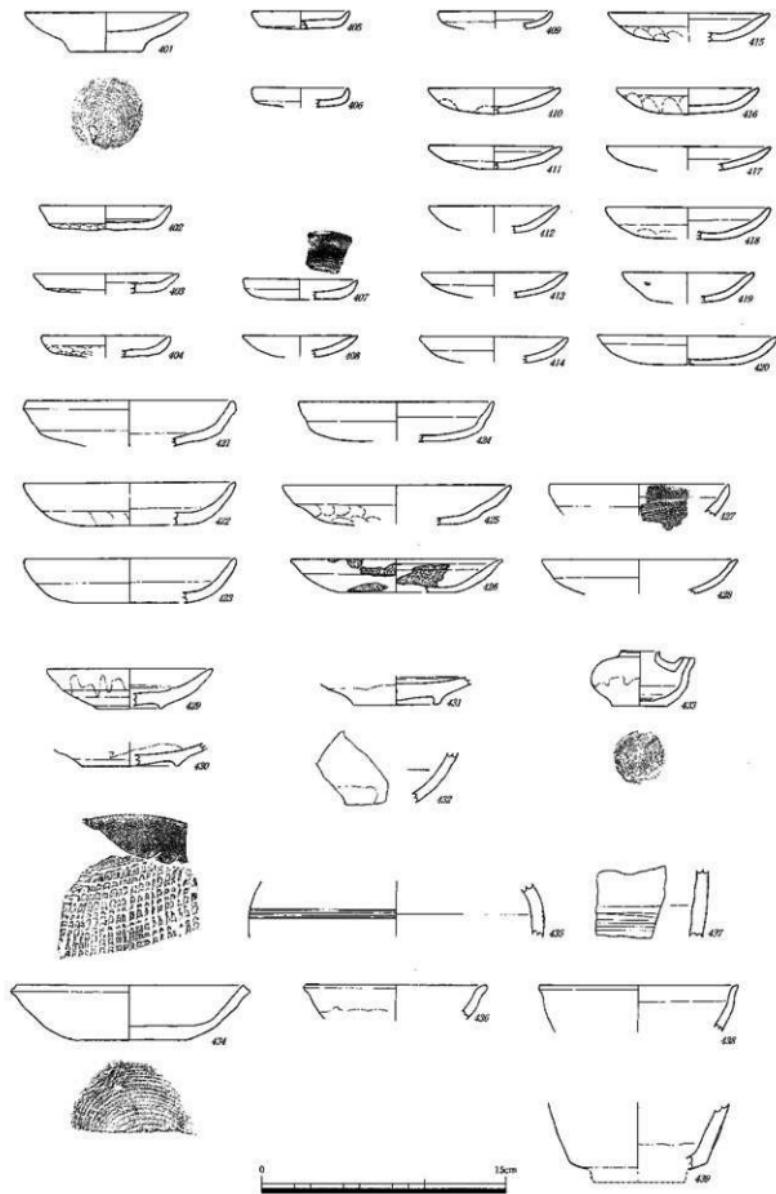
400は珠洲の鉢。III～IV期にあたる。体部外面の一部に煤が付着する。S K450出土遺物と接合した。

中世後期～近世の包含層（第231～235図、図版96～100）

401～428は中世土師器。401はロクロ土師器で、R A 3類。底面は回転糸切り。402・403・421はB類。404～407はD類。407は内面にハケ日が見られる。408～417・427・428はH類。413・414は15世紀以降の遺物である。427は、内面ハケナデ。418はI類で、15世紀以降のもの。419・420・426はJ類。426は内外面に煤が付着している。422・423はE類。424・425はF類。424は14世紀以降、425は16世紀代に比定される。429～433は越中瀬戸。429～431は皿。429・430の見込みには釉留めの段がある。432は天目茶碗の体部。鉄釉が掛けられており、漆繼ぎの跡がある。433は水滴。口縁から肩にかけて



第230図 遺物実測図（中世末期～近世）(384～386・388～400 1/3, 387 1/6)



第231図 遺物実測図（中世末期～近世）(1/3)
包含層